TOPPERS新世代カーネル統合仕様書

バージョン: Release 1.4.0
最終更新: 2012年5月16日

このドキュメントは，TOPPERS新世代カーネルに属する一連のリアルタイムカーネルの仕様を，統合的に記述するものである．現時点で，TOPPERS/ASPカーネル，TOPPERS/FMPカーネル，TOPPERS/HRP2カーネル，TOPPERS/SSPカーネルの仕様に関しては記述が完成しているが，未完成部分も残っている．特に動的生成対応カーネルについては，仕様検討が不十分なところが多い．なお，本文中から参照している図は，ファイルの最後にまとめて掲載してある．

なお，TOPPERS/SSPカーネルは，Release 1.1.0の時点では，この仕様に準拠していない．今後のリリースでは，この仕様に準拠するよう修正される予定である．

○目次

第１章　TOPPERS新世代カーネルの概要

TOPPERS新世代カーネルとは，TOPPERSプロジェクトにおいてITRON仕様をベースとして開発している一連のリアルタイムカーネルの総称である．この章では，TOPPERS新世代カーネル仕様の位置付けと設計方針，それに属する各カーネルの適用対象領域と設計方針について述べる．

1.1 TOPPERS新世代カーネル仕様の位置付け

TOPPERSプロジェクトでは，2000年に公開したTOPPERS/JSPカーネルを始めとして，μITRON4.0仕様およびその保護機能拡張（μITRON4.0/PX仕様）に準拠したリアルタイムカーネルを開発してきた．

μITRON4.0仕様は1999年に，μITRON4.0/PX仕様は2002年に公表されたが，それ以降現在までの間に，大きな仕様改訂は実施されていない．その間に，組込みシステムおよびソフトウェアのますますの大規模化・複雑化，これまで以上に

高い信頼性・安全性に対する要求，小さい消費エネルギー下での高い性能要求など，組込みシステム開発を取り巻く状況は刻々変化している．リアルタイムカーネルに対しても，マルチプロセッサへの対応，発展的な保護機能のサポート，機能安全対応，省エネルギー制御機能のサポートなど，新しい要求が生じている．

TOPPERSプロジェクトでは，リアルタイムカーネルに対するこのような新しい要求に対応するために，μITRON4.0仕様を発展させる形で，TOPPERS新世代カーネル仕様を策定することになった．

ただし，ITRON仕様が，各社が開発するリアルタイムカーネルを標準化することを目的に，リアルタイムカーネルの「標準仕様」を規定することを目指しているのに対して，TOPPERS新世代カーネル仕様は，TOPPERSプロジェクトにおいて開発している一連のリアルタイムカーネルの「実装仕様」を記述するものであり，ITRON仕様とは異なる目的・位置付けを持つものである．

1.2 TOPPERS新世代カーネル仕様の設計方針

TOPPERS新世代カーネル仕様を設計するにあたり，次の方針を設定する．

(1) μITRON4.0仕様をベースに拡張・改良を加える

TOPPERS新世代カーネル仕様は，多くの技術者の尽力により作成され，多くの実装・使用実績があるμITRON4.0仕様をベースとする．ただし，μITRON4.0仕様の策定時以降の状況の変化を考慮し，μITRON4.0仕様で不十分と考えられる点については積極的に拡張・改良する．μITRON4.0仕様への準拠性にはこだわらない．

(2) ソフトウェアの再利用性を重視する

μITRON4.0仕様の策定時点と比べると，組込みソフトウェアの大規模化が進展している一方で，ハードウェアの性能向上も著しい．そのため，ソフトウェアの再利用性を向上させるためには，少々のオーバヘッドは許容される状況にある．

そこで，TOPPERS新世代カーネル仕様では，μITRON4.0仕様においてオーバヘッド削減のために実装定義または実装依存としていたような項目についても，ターゲットシステムに依存する項目とするのではなく，強く規定する方針とする．

(3) 高信頼・安全なシステム構築を支援する

TOPPERS新世代カーネル仕様は，高信頼・安全な組込みシステム構築を支援するものとする．

安全性の面では，アプリケーションプログラムに問題がある場合でも，リーゾナブルなオーバヘッドでそれを救済できるなら，救済するような仕様とする．また，アプリケーションプログラムの誤動作を検出する機能や，システムの自己診断のための機能についても，順次取り込んでいく．

(4) アプリケーションシステム構築に必要な機能は積極的に取り込む

上記の方針を満たした上で，多くのアプリケーションシステムに共通に必要となる機能については，積極的にカーネルに取り込む．

カーネル単体の信頼性を向上させるためには，カーネルの機能は少なくした方が楽である．しかし，アプリケーションシステム構築に必要となる機能は，カーネルがサポートしていなければアプリケーションプログラムで実現しなければならず，システム全体の信頼性を考えると，多くのアプリケーションシステムに共通に必要となる機能については，カーネルに取り込んだ方が有利である．

1.3 TOPPERS/ASPカーネルの適用対象領域と仕様設計方針

TOPPERS/ASPカーネル（ASPは，Advanced Standard Profileの略．以下，ASPカーネル）は，TOPPERS新世代カーネルの出発点となるリアルタイムカーネルである．保護機能を持ったカーネルやマルチプロセッサ対応のカーネルは，ASPカーネルを拡張する形で開発する．

ASPカーネルは，20年以上に渡るITRON仕様の技術開発成果をベースとして，完成度の高いリアルタイムカーネルを実現するものである．完成度を高めるという観点から，カーネル本体の仕様については，枯れた技術で実装できる範囲に留める．

ASPカーネルの主な適用対象は，高い信頼性・安全性・リアルタイム性を要求される組込みシステムとする．ソフトウェア規模の面では，プログラムサイズ（バイナリコード）が数十KB〜1MB程度のシステムを主な適用対象とする．それより大規模なシステムには，保護機能を持ったリアルタイムカーネルを適用すべきと考えられる．

ASPカーネルの機能は，カーネル内で動的なメモリ管理が不要な範囲に留める．これは，高い信頼性・安全性・リアルタイム性を要求される組込みシステムでは，システム稼働中に発生するメモリ不足への対処が難しいためである．この方針から，カーネルオブジェクトは静的に生成することとし，動的なオブジェクト生成機能は設けない．ただし，アプリケーションプログラムが動的なメモリ管理をするためのカーネル機能である固定長メモリプール機能はサポートする．

1.4 TOPPERS/FMPカーネルの適用対象領域と仕様設計方針

TOPPERS/FMPカーネル（FMPは，Flexible Multiprocessor Profileの略．以下，FMPカーネル）は，ASPカーネルを，マルチプロセッサ対応に拡張したリアルタイムカーネルである．

FMPカーネルの適用対象となるターゲットハードウェアは，ホモジニアスなマルチプロセッサシステムである．各プロセッサが全く同一のものである必要はないが，すべてのプロセッサでバイナリコードを共有することから，同じバイナリコードを実行できることが必要である．

FMPカーネルでは，タスクを実行するプロセッサを静的に決定するのが基本であり，カーネルは自動的に負荷分散する機能を持たないが，タスクをマイグレーションさせるサービスコールを備えている．これを用いて，アプリケーション

で動的な負荷分散を実現することが可能である．

FMPカーネルの機能は，ASPカーネルと同様に，カーネル内で動的なメモリ管理が不要な範囲に留める．

1.5 TOPPERS/HRP2カーネルの適用対象領域と仕様設計方針

TOPPERS/HRP2カーネル（HRPは，High Reliable system Profileの略．2はバージョン番号を示す．以下，HRP2カーネル）は，さらに高い信頼性・安全性を要求される組込みシステムや，より大規模な組込みシステム向けに適用できるように，ASPカーネルを拡張したリアルタイムカーネルである．

HRP2カーネルの適用対象となるターゲットハードウェアは，特権モードと非特権モードを備え，メモリ保護のためにMMU（Memory Management Unit）またはMPU（Memory Protection Unit）を持つプロセッサを用いたシステムである．HRP2カーネルの主な適用対象は，ソフトウェア規模の面では，プログラムサイズ（バイナリコード）が数百KB以上のシステムである．

HRP2カーネルの機能は，ASPカーネルと同様に，カーネル内で動的なメモリ管理が不要な範囲に留める．具体的には，ASPカーネルに対して，メモリ保護機能とオブジェクトアクセス保護機能，拡張サービスコール機能，ミューテックス機能，オーバランハンドラ機能を追加し，メールボックス機能を削除している．

1.6 TOPPERS/SSPカーネルの適用対象領域と仕様設計方針

TOPPERS/SSPカーネル（SSPは，Smallest Set Profileの略．以下，SSPカーネル）は，小規模システムに用いるために，ASPカーネルをベースに可能な限り機能を絞り込んだリアルタイムカーネルである．

SSPカーネルの機能は，μITRON4.0仕様の「仕様準拠の最低条件」の考え方を踏襲し，メモリ使用量を最小化するように定めている．具体的には，SSPカーネルにおいては，タスクは待ち状態を持たない（言い換えると，制約タスクのみをサポートする）のが最大の特徴である．また，ASPカーネルに対して下位互換性を持つように配慮しているが，システム全体のメモリ使用量を最小化するために有用な機能は，ASPカーネルに対して追加している．

TOPPERS/SSPカーネルの主な適用対象は，プログラムサイズ（バイナリコード）が数KB〜数十KB程度の極めて小規模な組込みシステムである．

1.7 TOPPERS/ASP Safetyカーネルの適用対象領域と仕様設計方針

TOPPERS/ASP Safetyカーネル（以下，ASP Safetyカーネル）は，小規模な安全関連システムに用いるために，ASPカーネルの機能を徹底的な検証が可能な範囲にサブセット化したものである．メールボックスのように安全性の観点から問題のある機能や，タスク例外処理機能のように使用頻度に比べて検証にコストのかかる機能はサポートしない．

ASP Safetyカーネルの主な適用対象は，特に高い安全性を要求される組込みシステムとする．ソフトウェア規模の面では，プログラムサイズ（バイナリコード）が数十KB〜1MB程度のシステムを主な適用対象とする．それより大規模なシ

ステムには，保護機能を持ったカーネルを適用すべきと考えられる．

第２章　主要な概念と共通定義

2.1 仕様の位置付け

この仕様は，TOPPERS新世代カーネルに属する各カーネルの仕様を，統合的に記述することを目標としている．また，TOPPERS新世代カーネル上で動作する各種のシステムサービスに共通に適用される事項についても規定する．

2.1.1 カーネルの機能セット

TOPPERS新世代カーネルは，ASPカーネルをベースとして，保護機能，マルチプロセッサ，カーネルオブジェクトの動的生成，機能安全などに対応した一連のカーネルで構成される．

この仕様では，TOPPERS新世代カーネルを構成する一連のカーネルの仕様を統合的に記述するが，言うまでもなく，カーネルの種類によってサポートする機能は異なる．サポートする機能をカーネルの種類毎に記述する方法もあるが，カーネルの種類はユーザ要求に対応して増える可能性もあり，その度に仕様書を修正するのは得策ではない．

そこでこの仕様では，サポートする機能を，カーネルの種類毎ではなく，カーネルの対応する機能セット毎に記述する．具体的には，保護機能を持ったカーネルを保護機能対応カーネル，マルチプロセッサに対応したカーネルをマルチプロセッサ対応カーネル，カーネルオブジェクトの動的生成機能を持ったカーネルを動的生成対応カーネルと呼ぶことにする．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルは，保護機能対応カーネル，マルチプロセッサ対応カーネル，動的生成対応カーネルのいずれでもない．ただし，動的生成機能拡張パッケージを用いると，動的生成対応カーネルとなる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルは，マルチプロセッサ対応カーネルであり，保護機能対応カーネル，動的生成対応カーネルではない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルは，保護機能対応カーネルであり，マルチプロセッサ対応カーネル，動的生成対応カーネルではない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルは，保護機能対応カーネル，マルチプロセッサ対応カーネル，動的生成対応カーネルのいずれでもない．

【μITRON4.0仕様，μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0仕様は，カーネルオブジェクトの動的生成機能を持っているが，保護機能を持っておらず，マルチプロセッサにも対応していない．μITRON4.0/PX仕様は，μITRON4.0仕様に対して保護機能を追加するための仕様であり，カーネルオブジェクトの動的生成機能と保護機能を持っているが，マルチプロセッサには対応していない．

2.1.2 ターゲット非依存の規定とターゲット定義の規定

TOPPERS新世代カーネルは，アプリケーションプログラムの再利用性を向上させるために，ターゲットハードウェアや開発環境の違いをできる限り隠蔽することを目指している．ただし，ターゲットハードウェアや開発環境の制限によって実現できない機能が生じたり，逆にターゲットハードウェアの特徴を活かすためには機能拡張が不可欠になる場合がある．また，同一のターゲットハードウェアであっても，アプリケーションシステムによって使用方法が異なる場合があり，ターゲットシステム毎に仕様の細部に違いが生じることは避けられない．

そこで，TOPPERS新世代カーネルの仕様は，ターゲットシステムによらずに定めるターゲット非依存（target-independent）の規定と，ターゲットシステム毎に定めるターゲット定義（target-defined）の規定に分けて記述する．この仕様書は，ターゲット非依存の規定について記述するものであり，この仕様書で「ターゲット定義」とした事項は，ターゲットシステム毎に用意するドキュメントにおいて規定する．

また，この仕様書でターゲット非依存に規定した事項であっても，ターゲットハードウェアや開発環境の制限によって実現できない場合や，実現するためのオーバヘッドが大きくなる場合には，この仕様書の規定を逸脱する場合がある．このような場合には，ターゲットシステム毎に用意するドキュメントでその旨を明記する．

2.1.3 想定するソフトウェア構成

この仕様では，アプリケーションシステムを構成するソフトウェアを，アプリケーションプログラム（以下，単にアプリケーションと呼ぶ），システムサービス，カーネルの3階層に分けて考える（図2-1）．カーネルとシステムサービスをあわせて，ソフトウェアプラットフォームと呼ぶ．

カーネルは，コンピュータの持つ最も基本的なハードウェア資源であるプロセッサ，メモリ，タイマを抽象化し，上位階層のソフトウェア（アプリケーションおよびシステムサービス）に論理的なプログラム実行環境を提供するソフトウェアである．

システムサービスは，各種の周辺デバイスを抽象化するソフトウェアで，ファイルシステムやネットワークプロトコルスタック，各種のデバイスドライバなどが含まれる．

また，この仕様では，プロセッサと各種の周辺デバイスの接続方法を隠蔽するためのソフトウェア階層として，システムインタフェースレイヤ（SIL）を規定

する．

システムインタフェースレイヤ，カーネル，各種のシステムサービス（これらをモジュールと呼ぶ）を，上位階層のソフトウェアから使うためのインタフェースを，API（Application Programming Interface）と呼ぶ．

この仕様書では，第3章においてシステムインタフェースレイヤのAPI仕様を，第4章においてカーネルのAPI仕様を規定する．システムサービスのAPI仕様は，システムサービス毎の仕様書で規定される．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，カーネルとアプリケーションの中間にあるソフトウェアをソフトウェア部品と呼んでいたが，TOPPERS組込みコンポーネントシステム（TECS）においてはカーネルもソフトウェア部品の1つと捉えることから，この仕様ではシステムサービスと呼ぶことにした．

2.1.4 想定するハードウェア構成

この仕様では，カーネルがサポートするハードウェア構成として，以下のことを想定している．これらに合致しないターゲットハードウェアでカーネルを動作させることは可能であるが，合致しない部分への適応はアプリケーションの責任になる．

(a) メモリ番地は，常に同一のメモリを指すこと（オーバレイのように，異なるメモリを同一のメモリ番地でアクセスすることがないこと）．マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，同一のメモリに対しては，各プロセッサから同一の番地でアクセスできること．

(b) マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，各プロセッサが同一の機械語命令を実行できること．

2.1.5 想定するプログラミング言語

この仕様におけるAPI仕様は，ISO/IEC 9899:1990（以下，C90と呼ぶ）またはISO/IEC 9899:1999（以下，C99と呼ぶ）に準拠したC言語を，フリースタンディング環境で用いることを想定して規定している．

ただし，C90の規定に加えて，以下のことを仮定している．

- 16ビットおよび32ビットの整数型があること
- ポインタが格納できるサイズの整数型があること

2.2 APIの構成要素とコンベンション

2.2.1 APIの構成要素

(1) サービスコール

上位階層のソフトウェアから，下位階層のソフトウェアを呼び出すインタフェー

スをサービスコール（service call）と呼ぶ．カーネルのサービスコールを，システムコール（system call）と呼ぶ場合もある．

(2) コールバック

下位階層のソフトウェアから，上位階層のソフトウェアを呼び出すインタフェースをコールバック（callback）と呼ぶ．

(3) 静的API

オブジェクトの生成情報や初期状態などを定義するために，システムコンフィギュレーションファイル中に記述するインタフェースを，静的API（static API）と呼ぶ．

(4) 構成マクロ

下位階層のソフトウェアに関する各種の情報を取り出すために，上位階層のソフトウェアが用いるマクロを，構成マクロ（configuration macro）と呼ぶ．

2.2.2 パラメータとリターンパラメータ

サービスコールやコールバックに渡すデータをパラメータ（parameter），それらが返すデータをリターンパラメータ（return parameter）と呼ぶ．また，静的APIに渡すデータもパラメータと呼ぶ．

オブジェクトを生成するサービスコールなど，パラメータの数が多い場合やターゲット定義のパラメータを追加する可能性がある場合には，複数のパラメータを1つの構造体に入れ，その領域へのポインタをパラメータとして渡す．また，パラメータのサイズが大きい場合にも，パラメータを入れた領域へのポインタをパラメータとして渡す場合がある．

C言語APIでは，リターンパラメータは，関数の返値とするか，リターンパラメータを入れる領域へのポインタをパラメータとして渡すことで実現する．オブジェクトの状態を参照するサービスコールなど，リターンパラメータの数が多い場合やターゲット定義のリターンパラメータを追加する可能性がある場合には，複数のリターンパラメータを1つの構造体に入れて返すこととし，その領域へのポインタをパラメータとして渡す．

複数のパラメータまたはリターンパラメータを入れるための構造体を，パケット（packet）と呼ぶ．

サービスコールやコールバックに，パケットを置く領域へのポインタやリターンパラメータを入れる領域へのポインタを渡す場合，別に規定がない限りは，サービスコールやコールバックの処理が完了した後は，それらの領域が参照されることはなく，別の目的に使用できる．

2.2.3 返値とエラーコード

一部の例外を除いて，サービスコールおよびコールバックの返値は，処理が正常終了したかを表す符号付き整数とする．処理が正常終了した場合には，E_OK

（＝0）または正の値が返るものとし，値の意味はサービスコールまたはコールバック毎に定める．処理が正常終了しなかった場合には，その原因を表す負の値が返る．処理が正常終了しなかった原因を表す値を，エラーコード（error code）と呼ぶ．

エラーコードは，いずれも負の値のメインエラーコードとサブエラーコードで構成される．メインエラーコードとサブエラーコードからエラーコードを構成するマクロ（ERCD）と，エラーコードからメインエラーコードを取り出すマクロ（MERCD），サブエラーコードを取り出すマクロ（SERCD）が用意されている．

メインエラーコードの名称・意味・値は，カーネルとシステムサービスで共通に定める（「2.14.4 TOPPERS共通エラーコード」の節を参照）．サービスコールおよびコールバックの機能説明中の「E_XXXXXエラーとなる」または「E_XXXXXエラーが返る」という記述は，メインエラーコードとしてE_XXXXXが返ることを意味する．

サブエラーコードは，エラーの原因をより詳細に表すために用いる．カーネルはサブエラーコードを使用せず，サブエラーコードとして常に-1が返る．サブエラーコードの名称・意味・値は，サブエラーコードを使用するシステムサービスのAPI仕様において規定する．

サービスコールが負の値のエラーコード（警告を表すものを除く）を返した場合には，サービスコールによる副作用がないのが原則である．ただし，そのような実装ができない場合にはこの原則の例外とし，サービスコールの機能説明にその旨を記述する．

サービスコールが複数のエラーを検出するべき状況では，その内のいずれか1つのエラーを示すエラーコードが返る．

コールバックが複数のエラーを検出するべき状況では，その内のいずれか1つのエラーを示すエラーコードを返せばよい．

なお，静的APIは返値を持たない．静的APIの処理でエラーが検出された場合の扱いについては，「2.12.5 コンフィギュレータの処理モデル」の節および「2.12.6 静的APIのパラメータに関するエラー検出」の節を参照すること．

2.2.4 機能コード

ソフトウェア割込みによりサービスコールを呼び出す場合などに用いるためのサービスコールを識別するための番号を，機能コード（function code）と呼ぶ．機能コードは符号付きの整数値とし，カーネルのサービスコールには負の値を割り付け，拡張サービスコールには正の値を用いる．

2.2.5 ヘッダファイル

カーネルやシステムサービスを用いるために必要な定義を含むファイル．

ヘッダファイルは，原則として，複数回インクルードしてもエラーにならないように対処されている．具体的には，ヘッダファイルの先頭で特定の識別子（例えば，kernel.hなら"TOPPERS_KERNEL_H"）がマクロ定義され，ヘッダファ

イルの内容全体をその識別子が定義されていない場合のみ有効とする条件ディレクティブが付加されている．

2.3 主な概念

2.3.1 オブジェクトと処理単位

(1) オブジェクト

カーネルまたはシステムサービスが管理対象とするソフトウェア資源を，オブジェクト（object）と呼ぶ．特に，カーネルが管理対象とするソフトウェア資源を，カーネルオブジェクト（kernel object）と呼ぶ．

オブジェクトは，種類毎に，番号によって識別する．カーネルまたはシステムサービスで，オブジェクトに対して任意に識別番号を付与できる場合には，1から連続する正の整数値でオブジェクトを識別する．この場合に，オブジェクトの識別番号を，オブジェクトのID番号（ID number）と呼ぶ．そうでない場合，すなわちカーネルまたはシステムサービスの内部または外部からの条件によって識別番号が決まる場合には，オブジェクトの識別番号を，オブジェクト番号（object number）と呼ぶ．識別する必要のないオブジェクトには，識別番号を付与しない場合がある．

オブジェクト属性（object attribute）は，オブジェクトの動作モードや初期状態を定めるもので，オブジェクトの登録時に指定する．オブジェクト属性にTA_XXXXが指定されている場合，そのオブジェクトを，TA_XXXX属性のオブジェクトと呼ぶ．複数の属性を指定する場合には，オブジェクト属性を渡すパラメータに，指定する属性値のビット毎論理和（C言語の″|″）を渡す．また，指定すべきオブジェクト属性がない場合には，TA_NULLを指定する．

(2) 処理単位

オブジェクトの中には，プログラムが対応付けられるものがある．プログラムが対応付けられるオブジェクト（または，対応付けられるプログラム）を，処理単位（processing unit）と呼ぶ．処理単位に対応付けられるプログラムは，アプリケーションまたはシステムサービスで用意し，カーネルが実行制御する．

処理単位の実行を要求することを起動（activate），処理単位の実行を開始することを実行開始（start）と呼ぶ．

拡張情報（extended information）は，処理単位が呼び出される時にパラメータとして渡される情報で，処理単位の登録時に指定する．拡張情報は，カーネルやシステムサービスの動作には影響しない．

(3) タスク

カーネルが実行順序を制御するプログラムの並行実行の単位をタスク（task）と呼ぶ．タスクは，処理単位の1つである．

サービスコールの機能説明において，サービスコールを呼び出したタスクを，自タスク（invoking task）と呼ぶ．拡張サービスコールからサービスコールを

呼び出した場合には，拡張サービスコールを呼び出したタスクが自タスクである．

カーネルには，静的APIにより，少なくとも1つのタスクを登録しなければならない．タスクが登録されていない場合には，コンフィギュレータがエラーを報告する．

【補足説明】

タスクが呼び出した拡張サービスコールが実行されている間は，「サービスコールを呼び出した処理単位」は拡張サービスコールであり，「自タスク」とは一致しない．そのため，保護機能対応カーネルにおいて，「サービスコールを呼び出した処理単位の属する保護ドメイン」と「自タスクの属する保護ドメイン」は，異なるものを指す．

(4) ディスパッチとスケジューリング

プロセッサが実行するタスクを切り換えることを，タスクディスパッチまたは単にディスパッチ（dispatching）と呼ぶ．それに対して，次に実行すべきタスクを決定する処理を，タスクスケジューリングまたは単にスケジューリング（scheduling）と呼ぶ．

ディスパッチが起こるべき状態（すなわち，スケジューリングによって，現在実行しているタスクとは異なるタスクが，実行すべきタスクに決定されている状態）となっても，何らかの理由でディスパッチを行わないことを，ディスパッチの保留（pend dispatching）という．ディスパッチを行わない理由が解除された時点で，ディスパッチが起こる．

(5) 割込みとCPU例外

プロセッサが実行中の処理とは独立に発生するイベントによって起動される例外処理のことを，外部割込みまたは単に割込み（interrupt）と呼ぶ．それに対して，プロセッサが実行中の処理に依存して起動される例外処理を，CPU例外（CPU exception）と呼ぶ．

周辺デバイスからの割込み要求をプロセッサに伝える経路を遮断し，割込み要求が受け付けられるのを抑止することを，割込みのマスク（mask interrupt）または割込みの禁止（disable interrupt）という．マスクが解除された時点で，まだ割込み要求が保持されていれば，その時点で割込み要求を受け付ける．

マスクすることができない割込みを，NMI（non-maskable interrupt）と呼ぶ．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様において，未定義のまま使われていた割込みとCPU例外という用語を定義した．

(6) タイムイベントとタイムイベントハンドラ

時間の経過をきっかけに発生するイベントをタイムイベント（time event）と

呼ぶ．タイムイベントにより起動され，カーネルが実行制御する処理単位を，タイムイベントハンドラ（time event handler）と呼ぶ．

2.3.2 サービスコールとパラメータ

(1) 優先順位と優先度

優先順位（precedence）とは，処理単位の実行順序を説明するための仕様上の概念である．複数の処理単位が実行できる場合には，その中で最も優先順位の高い処理単位が実行される．

優先度（priority）は，タスクなどの処理単位の優先順位や，メッセージなどの配送順序を決定するために，アプリケーションが処理単位やメッセージなどに与える値である．優先度は，符号付きの整数型であるPRI型で表し，1から連続した正の値を用いるのを原則とする．優先度は，値が小さいほど優先度が高い（すなわち，先に実行または配送される）ものとする．

(2) システム時刻と相対時間

カーネルが管理する時刻を，システム時刻（system time）と呼ぶ．システム時刻は，符号無しの整数型であるSYSTIM型で表し，単位はミリ秒とする．システム時刻は，タイムティック（time tick）を通知するためのタイマ割込みが発生する毎に更新される．

イベントを発生させる時刻を指定する場合には，基準時刻（base time）からの相対時間（relative time）によって指定する．基準時刻は，別に規定がない限りは，相対時間を指定するサービスコールを呼び出した時刻となる．

相対時間は，符号無しの整数型であるRELTIM型で表し，単位はシステム時刻と同一，すなわちミリ秒とする．相対時間には，少なくとも，16ビットの符号無しの整数型（uint16_t型）に格納できる任意の値を指定することができるが，RELTIM型（uint_t型に定義される）に格納できる任意の値を指定できるとは限らない．相対時間に指定できる最大値は，構成マクロTMAX_RELTIMに定義されている．

イベントを発生させる時刻を相対時間で指定した場合，イベントの処理が行われるのは，基準時刻から相対時間によって指定した以上の時間が経過した後となる．ただし，基準時刻を定めるサービスコールを呼び出した時に，タイムティックを通知するためのタイマ割込みがマスクされている場合（タイマ割込みより優先して実行される割込み処理が実行されている場合を含む）は，相対時間によって指定した以上の時間が経過した後となることは保証されない．

イベントが発生する時刻を参照する場合には，基準時刻からの相対時間として返される．基準時刻は，相対時間を返すサービスコールを呼び出した時刻となる．

イベントが発生する時刻が相対時間で返された場合，イベントの処理が行われるのは，基準時刻から相対時間として返された以上の時間が経過した後となる．ただし，相対時間を返すサービスコールを呼び出した時に，タイムティックを通知するためのタイマ割込みがマスクされている場合（タイマ割込みより優先

して実行される割込み処理が実行されている場合を含む）は，相対時間として返された以上の時間が経過した後となることは保証されない．

【補足説明】

相対時間に0を指定した場合，基準時刻後の最初のタイムティックでイベントの処理が行われる．また，1を指定した場合，基準時刻後の2回目以降のタイムティックでイベントの処理が行われる．これは，基準時刻後の最初のタイムティックは，基準時刻の直後に発生する可能性があるため，ここでイベントの処理を行うと，基準時刻からの経過時間が1以上という仕様を満たせないためである．

同様に，相対時間として0が返された場合，基準時刻後の最初のタイムティックでイベントの処理が行われる．また，1が返された場合，基準時刻後の2回目以降のタイムティックでイベントの処理が行われる．

【μITRON4.0仕様との関係】

相対時間（RELTIM型）とシステム時刻（SYSTIM型）の時間単位は，μITRON4.0仕様では実装定義としていたが，この仕様ではミリ秒と規定した．また，相対時間の解釈について，より厳密に規定した．

TMAX_RELTIMは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

(3) タイムアウトとポーリング

サービスコールの中で待ち状態が指定した時間以上継続した場合に，サービスコールの処理を取りやめて，サービスコールからリターンすることを，タイムアウト（timeout）という．タイムアウトしたサービスコールからは，E_TMOUTエラーが返る．

タイムアウトを起こすまでの時間（タイムアウト時間）は，符号付きの整数型であるTMO型で表し，単位はシステム時刻と同一，すなわちミリ秒とする．タイムアウト時間に正の値を指定した場合には，タイムアウトを起こすまでの相対時間を表す．すなわち，タイムアウトの処理が行われるのは，サービスコールを呼び出してから指定した以上の時間が経過した後となる．

ポーリング（polling）を行うサービスコールとは，サービスコールの中で待ち状態に遷移すべき状況になった場合に，サービスコールの処理を取りやめてリターンするサービスコールのことをいう．ここで，サービスコールの処理を取りやめてリターンすることを，ポーリングに失敗したという．ポーリングに失敗したサービスコールからは，E_TMOUTエラーが返る．

ポーリングを行うサービスコールでは，待ち状態に遷移することはないのが原則である．そのため，ポーリングを行うサービスコールは，ディスパッチ保留状態であっても呼び出せる場合がある．ただし，サービスコールの中で待ち状態に遷移する状況が複数ある場合，ある状況でポーリング動作をしても，他の状況では待ち状態に遷移する場合がある．このような場合の振舞いは，該当するサービスコール毎に規定する．

タイムアウト付きのサービスコールは，別に規定がない限りは，タイムアウト時間にTMO_POL（＝0）を指定した場合にはポーリングを行い，TMO_FEVR（＝-1）を指定した場合にはタイムアウトを起こさないものとする．

【補足説明】

エラーコードに関する原則により，サービスコールがタイムアウトした場合やポーリングに失敗した場合には，サービスコールによる副作用がないのが原則である．ただし，そのような実装ができない場合にはこの原則の例外とし，どのような副作用があるかをサービスコール毎に規定する．

タイムアウト付きのサービスコールを，タイムアウト時間をTMO_POLとして呼び出した場合には，ディスパッチ保留状態で呼び出すとE_CTXエラーとなることを除いては，ポーリングを行うサービスコールと同じ振舞いをする．また，タイムアウト時間をTMO_FEVRとして呼び出した場合には，タイムアウトなしのサービスコールと全く同じ振舞いをする．

【μITRON4.0仕様との関係】

タイムアウト時間（TMO型）の時間単位は，μITRON4.0仕様では実装定義としていたが，この仕様ではミリ秒と規定した．

【仕様決定の理由】

ディスパッチ保留状態において，ポーリングを行うサービスコールを呼び出せる場合があるのに対して，タイムアウト付きのサービスコールをタイムアウト時間をTMO_POLとして呼び出すとエラーになるのは，ディスパッチ保留状態では，別に規定がない限り，自タスクを広義の待ち状態に遷移させる可能性のあるサービスコール（タイムアウト付きのサービスコールはこれに該当）を呼び出すことはできないと規定されているためである．

(4) ノンブロッキング

サービスコールの中で待ち状態に遷移すべき状況になった時，サービスコールの処理を継続したままサービスコールからリターンする場合，そのサービスコールをノンブロッキング（non-blocking）という．処理を継続したままリターンする場合，サービスコールからはE_WBLKエラーが返る．E_WBLKは警告を表すエラーコードであり，サービスコールによる副作用がないという原則は適用されない．

サービスコールからE_WBLKエラーが返った場合には，サービスコールの処理は継続しているため，サービスコールに渡したパラメータまたはリターンパラメータを入れる領域はまだ参照される可能性があり，別の目的に使用することはできない．継続している処理が完了した場合や，何らかの理由で処理が取りやめられた場合には，コールバックを呼び出すなどの方法で，サービスコールを呼び出したソフトウェアに通知するものとする．

ノンブロッキングの指定は，タイムアウト時間にTMO_NBLK（＝-2）を指定することによって行う．ノンブロッキングの指定を行えるサービスコールは，指定した場合の振舞いをサービスコール毎に規定する．

【補足説明】

ノンブロッキングは，システムサービスでサポートすることを想定した機能である．カーネルは，ノンブロッキングの指定を行えるサービスコールをサポートしていない．

2.3.3 保護機能

この節では，保護機能に関連する主な概念について説明する．この節の内容は，保護機能対応カーネルにのみ適用される．

(1) アクセス保護

保護機能対応カーネルは，処理単位が，許可されたカーネルオブジェクトに対して，許可された種別のアクセスを行うことのみを許し，それ以外のアクセスを防ぐアクセス保護機能を提供する．

アクセス制御の用語では，処理単位が主体（subject），カーネルオブジェクトが対象（object）ということになる．

(2) メモリオブジェクト

保護機能対応カーネルにおいては，メモリ領域をカーネルオブジェクトとして扱い，アクセス保護の対象とする．カーネルがアクセス保護の対象とする連続したメモリ領域を，メモリオブジェクト（memory object）と呼ぶ．メモリオブジェクトは，互いに重なりあうことはない．

メモリオブジェクトは，その先頭番地によって識別する．言い換えると，先頭番地がオブジェクト番号となる．

メモリオブジェクトの先頭番地とサイズには，ターゲットハードウェアでメモリ保護が実現できるように，ターゲット定義の制約が課せられる．

(3) 保護ドメイン

保護機能を提供するために用いるカーネルオブジェクトの集合を，保護ドメイン（protection domain）と呼ぶ．保護ドメインは，保護ドメインIDと呼ぶID番号によって識別する．

カーネルオブジェクトは，たかだか1つの保護ドメインに属する．処理単位は，いずれか1つの保護ドメインに属さなければならないのに対して，それ以外のカーネルオブジェクトは，いずれの保護ドメインにも属さないことができる．いずれの保護ドメインにも属さないカーネルオブジェクトを，無所属のカーネルオブジェクト（independent kernel object）と呼ぶ．

処理単位がカーネルオブジェクトにアクセスできるかどうかは，処理単位が属する保護ドメインにより決まるのが原則である．すなわち，カーネルオブジェクトに対するアクセス権は，処理単位ではなく，保護ドメイン単位で管理される．このことから，ある保護ドメインに属する処理単位がアクセスできること

を，単に，その保護ドメインからアクセスできるという．

ただし，タスクのユーザスタック領域は，ターゲット定義での変更がない限りは，そのタスク（とカーネルドメインに属する処理単位）のみがアクセスできる（「2.11.6 ユーザタスクのユーザスタック領域」の節を参照）．これは，「処理単位がカーネルオブジェクトにアクセスできるかどうかは，処理単位が属する保護ドメインにより決まる」という原則の例外となっている．

デフォルトでは，保護ドメインに属するカーネルオブジェクトは，同じ保護ドメイン（とカーネルドメイン）のみからアクセスできる．また，無所属のカーネルオブジェクトは，すべての保護ドメインからアクセスできる．

(4) カーネルドメインとユーザドメイン

システムには，カーネルドメイン（kernel domain）と呼ばれる保護ドメインが1つ存在する．カーネルドメインに属する処理単位は，プロセッサの特権モードで実行される．また，すべてのカーネルオブジェクトに対して，すべての種別のアクセスを行うことが許可される．この仕様で，「ある保護ドメイン（またはタスク）のみからアクセスできる」といった場合でも，カーネルドメインドメインからはアクセスすることができる．

カーネルドメイン以外の保護ドメインを，ユーザドメイン（user domain）と呼ぶ．ユーザドメインに属する処理単位は，プロセッサの非特権モードで実行される．また，どのカーネルオブジェクトに対してどの種別のアクセスを行えるかを制限することができる．

ユーザドメインには，1から連続する正の整数値の保護ドメインIDが付与される．カーネルドメインの保護ドメインIDは，TDOM_KERNEL（＝-1）である．

この仕様では，システムに登録できるユーザドメインの数は，32個以下に制限する．これを超える数のユーザドメインを登録した場合には，コンフィギュレータがエラーを報告する．

【補足説明】

ユーザドメインは，システムコンフィギュレーションファイル中にユーザドメインの囲みを記述することで，カーネルに登録する（「2.12.3 保護ドメインの指定」の節を参照）．ユーザドメインを動的に生成する機能は，現時点では用意していない．

保護機能対応でないカーネルは，カーネルドメインのみをサポートしているとみなすこともできる．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様のシステムドメイン（system domain）は，現時点ではサポートしない．システムドメインは，それに属する処理単位が，プロセッサの特権モードで実行され，カーネルオブジェクトに対するアクセスを制限することができる保護ドメインである．

(5) システムタスクとユーザタスク

カーネルドメインに属するタスクをシステムタスク（system task），ユーザドメインに属するタスクをユーザタスク（user task）と呼ぶ．

【補足説明】

特権モードで実行されるタスクをシステムタスク，非特権モードで実行されるタスクをユーザタスクと定義する方法もあるが，ユーザタスクであっても，サービスコールの実行中は特権モードで実行されるため，上記の定義とした．

μITRON4.0/PX仕様のシステムドメインに属するタスクは，システムタスクと呼ぶことになる．

(6) アクセス許可パターン

あるカーネルオブジェクトに対するある種別のアクセスが，どの保護ドメインに属する処理単位に許可されているかを表現するビットパターンを，アクセス許可パターン（access permission pattern）と呼ぶ．アクセス許可パターンの各ビットは，1つのユーザドメインに対応する．カーネルドメインには，すべてのアクセスが許可されているため，カーネルドメインに対応するビットは用意されていない．

アクセス許可パターンは，符号無し32ビット整数に定義されるデータ型（ACPTN）で保持し，値が1のビットに対応するユーザドメインにアクセスが許可されていることを表す．そのため，2つのアクセス許可パターンのビット毎論理和（C言語の"|"）を求めることで，アクセスを許可されているユーザドメインの和集合（union）を得ることができる．また，2つのアクセス許可パターンのビット毎論理積（C言語の"&"）を求めることで，アクセスを許可されているユーザドメインの積集合（intersection）を得ることができる．

アクセス許可パターンの指定に用いるために，指定したユーザドメインのみにアクセスを許可することを示すアクセス許可パターンを構成するマクロ（TACP）が用意されている．また，カーネルドメインのみにアクセスを許可することを示すアクセス許可パターンを表す定数（TACP_KERNEL）と，すべての保護ドメインにアクセスを許可することを示すアクセス許可パターンを表す定数（TACP_SHARED）が用意されている．

(7) アクセス許可ベクタ

カーネルオブジェクトに対するアクセスは，カーネルオブジェクトの種類毎に，通常操作1，通常操作2，管理操作，参照操作の4つの種別に分類されている．あるカーネルオブジェクトに対する4つの種別のアクセスに関するアクセス許可パターンをひとまとめにしたものを，アクセス許可ベクタ（access permission vector）と呼び，次のように定義されるデータ型（ACVCT）で保持する．

```
typedef struct acvct {
    ACPTN   acptn1;     /* 通常操作1のアクセス許可パターン */
    ACPTN   acptn2;     /* 通常操作2のアクセス許可パターン */
    ACPTN   acptn3;     /* 管理操作のアクセス許可パターン */
```

```
        ACPTN   acptn4;     /* 参照操作のアクセス許可パターン */
    } ACVCT;
```

【補足説明】

カーネルオブジェクトの種類毎のアクセスの種別の分類については，「5.8 カーネルオブジェクトに対するアクセスの種別」の節を参照すること．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様では，アクセス許可ベクタを，1つまたは2つのアクセス許可パターンで構成することも許しているが，この仕様では4つで構成するものと決めている．

(8) サービスコールの呼出し方法

保護機能対応カーネルでは，サービスコールは，ソフトウェア割込みによって呼び出すのが基本である．サービスコール呼出しを通常の方法で記述した場合，ソフトウェア割込みによって呼び出すコードが生成される．

一般に，ソフトウェア割込みによるサービスコール呼出しはオーバヘッドが大きい．そのため，カーネルドメインに属する処理単位からは，関数呼出しによってサービスコールを呼び出すことで，オーバヘッドを削減することができる．そこで，カーネルドメインに属する処理単位から関数呼出しによってサービスコールを呼び出せるように，以下の機能が用意されている．

カーネルドメインに属する処理単位が実行する関数のみを含んだソースファイルでは，カーネルヘッダファイル（kernel.h）をインクルードする前に，TOPPERS_SVC_CALLをマクロ定義することで，サービスコール呼出しを通常の方法で記述した場合に，関数呼出しによって呼び出すコードが生成される．

また，カーネルドメインに属する処理単位が実行する関数と，ユーザドメインに属する処理単位が実行する関数の両方を含んだソースファイルでは，関数呼出しによってサービスコールを呼び出すための名称を作るマクロ（SVC_CALL）を用いることで，関数呼出しによって呼び出すコードが生成される．例えば，act_tskを関数呼出しによって呼び出す場合には，次のように記述すればよい．

```
    ercd = SVC_CALL(act_tsk)(tskid);
```

【補足説明】

拡張サービスコールを，関数呼出しによって呼び出す方法は用意されていない．カーネルドメインに属する処理単位が，関数呼出しによって，拡張サービスコールとして登録した関数を呼び出すことはできるが，その場合には，処理単位が呼び出した通常の関数であるとみなされ，拡張サービスコールであるとは扱われない．

2.3.4 マルチプロセッサ対応

この節では，マルチプロセッサ対応に関連する主な概念について説明する．こ

の節の内容は，マルチプロセッサ対応カーネルにのみ適用される．

(1) クラス

マルチプロセッサに対応するために用いるカーネルオブジェクトの集合を，クラス（class）と呼ぶ．クラスは，クラスIDと呼ぶID番号によって識別する．

カーネルオブジェクトは，いずれか1つのクラスに属するのが原則である．カーネルオブジェクトが属するクラスは，オブジェクトの登録時に決定し，登録後に変更することはできない．

【補足説明】

処理単位を実行するプロセッサを静的に決定する機能分散型のマルチプロセッサシステムでは，プロセッサ毎にクラスを設ける方法が典型的である．それに対して，対称型のマルチプロセッサシステムで，処理単位のマイグレーションを許す場合には，プロセッサ毎のクラスに加えて，どのプロセッサでも実行できるクラスを（システム中に1つまたは初期割付けプロセッサ毎に）設ける方法が典型的である．

カーネルオブジェクトはいずれか1つのクラスに属するという原則に関わらず，以下のオブジェクトはいずれのクラスにも属さない．

- オーバランハンドラ
- 拡張サービスコール
- グローバル初期化ルーチン
- グローバル終了処理ルーチン

マルチプロセッサ対応でないカーネルは，カーネルによって規定された1つのクラスのみをサポートしているとみなすこともできる．

(2) プロセッサ

たかだか1つの処理単位のみを同時に実行できるハードウェアの単位を，プロセッサ（processor）と呼ぶ．プロセッサは，プロセッサIDと呼ぶID番号によって識別する．

複数のプロセッサを持つシステム構成をマルチプロセッサ（multiprocessor）と呼び，同時に複数の処理単位を実行することができる．

システムの初期化時と終了時に特別な役割を果たすプロセッサを，マスタプロセッサ（master processor）と呼び，システムに1つ存在する．どのプロセッサをマスタプロセッサとするかは，ターゲット定義である．マスタプロセッサ以外のプロセッサを，スレーブプロセッサ（slave processor）と呼ぶ．なお，カーネル動作状態では，マスタプロセッサとスレーブプロセッサの振舞いに違いはない．

(3) 処理単位の割付けとマイグレーション

処理単位は，後述のマイグレーションが発生しない限りは，いずれか1つのプロ

セッサに割り付けられて実行される．処理単位を実行するプロセッサを，割付けプロセッサと呼ぶ．また，処理単位が登録時に割り付けられるプロセッサを，初期割付けプロセッサと呼ぶ．

処理単位によっては，処理単位の登録後に，割付けプロセッサを変更することが可能である．処理単位の登録後に割付けプロセッサを変更することを，処理単位のマイグレーション（migration）と呼ぶ．

割付けプロセッサを変更できる処理単位に対しては，処理単位を割り付けることができるプロセッサ（これを，割付け可能プロセッサと呼ぶ）を制限することができる．

(4) クラスの持つ属性とカーネルオブジェクト

タスクの初期割付けプロセッサや割付け可能プロセッサなど，カーネルオブジェクトをマルチプロセッサ上で実現する際に設定すべき属性は，そのカーネルオブジェクトが属するクラスによって定まる．

各クラスが持ち，それに属するカーネルオブジェクトに適用される属性は，次の通りである．

- 初期割付けプロセッサ
- 割付け可能プロセッサ（複数のプロセッサを指定可能，初期割付けプロセッサを含む）
- ATT_MOD／ATA_MODにおいて，オブジェクトモジュール中に含まれる標準のセクションが配置されるメモリリージョン
- オブジェクト生成に必要なメモリ領域（オブジェクトの管理ブロック，タスクのスタック領域やデータキューのデータキュー管理領域など）の配置場所
- その他の管理情報（ロック単位など）

使用できるクラスのID番号とその属性は，ターゲット定義である．

【仕様決定の理由】

クラスを導入することで，カーネルオブジェクト毎に上記の属性を設定できるようにしなかったのは，これらの属性をアプリケーション設計者が個別に設定するよりも，ターゲット依存部の実装者が有益な組み合わせをあらかじめ用意しておく方が良いと考えたためである．

(5) ローカルタイマ方式とグローバルタイマ方式

システム時刻の管理方式として，プロセッサ毎にシステム時刻を持つローカルタイマ方式と，システム全体で1つのシステム時刻を持つグローバルタイマ方式の2つの方式がある．どちらの方式を用いることができるかは，ターゲット定義である．

ローカルタイマ方式では，プロセッサ毎のシステム時刻は，それぞれのプロセッサが更新する．異なるプロセッサのシステム時刻を同期させる機能は，カーネルでは用意しない．

グローバルタイマ方式では，システム中の1つのプロセッサがシステム時刻を更新する．これを，システム時刻管理プロセッサと呼ぶ．どのプロセッサをシステム時刻管理プロセッサとするかは，ターゲット定義である．

【補足説明】

システム時刻管理プロセッサが，マスタプロセッサと一致している必要はない．

【未決定事項】

ローカルタイマ方式の場合に，プロセッサ毎に異なるタイムティックの周期を設定したい場合が考えられるが，現時点の実装ではサポートしておらず，TIC_NUMEとTIC_DENOの扱いも未決定であるため，今後の課題とする．

2.3.5 その他

(1) オブジェクトモジュール

プログラムのオブジェクトコードとデータを含むファイルを，オブジェクトモジュール（object module）と呼ぶ．オブジェクトファイルとライブラリは，オブジェクトモジュールである．

(2) メモリリージョン

オブジェクトモジュールに含まれるセクションの配置対象となる同じ性質を持った連続したメモリ領域をメモリリージョン（memory region）と呼ぶ．

メモリリージョンは，文字列によって識別する．メモリリージョンを識別する文字列を，メモリリージョン名と呼ぶ．

【補足説明】

この仕様では，メモリ領域（memory area）という用語は，連続したメモリの範囲という一般的な意味で使っている．

(3) 標準のセクション

コンパイラに特別な指定をしない場合に出力するセクションを，標準のセクション（standard sections）と呼ぶ．また，ターゲット定義で，コンパイラが出力しないセクションを，標準のセクションと扱う場合もある．

(4) 保護ドメイン毎の標準セクション

保護機能対応カーネルにおいては，保護ドメイン毎に，標準のセクションを配置するためのセクションが登録される．また，無所属の標準のセクションを配置するためのセクションが登録される．これらのセクションを，保護ドメイン毎の標準セクションと呼ぶ（standard sections for each protection domain）．保護ドメイン毎の標準セクションのセクション名は，ターゲット定義で別に規定がない限りは，標準のセクション名と保護ドメイン名（カーネルドメインの

場合は"kernel"，無所属の場合は"shared"）を"_"でつないだものとする．例えば，カーネルドメインの".text"セクションのセクション名は，".text_kernel"とする．

2.4 処理単位の種類と実行順序

2.4.1 処理単位の種類

カーネルが実行を制御する処理単位の種類は次の通りである．

(a) タスク
　(a.1) タスク例外処理ルーチン
(b) 割込みハンドラ
　(b.1) 割込みサービスルーチン
　(b.2) タイムイベントハンドラ
(c) CPU例外ハンドラ
(d) 拡張サービスコール
(e) 初期化ルーチン
(f) 終了処理ルーチン

ここで，タイムイベントハンドラとは，時間の経過をきっかけに起動される処理単位である周期ハンドラ，アラームハンドラ，オーバランハンドラの総称である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，オーバランハンドラと拡張サービスコールをサポートしていない．ただし，オーバランハンドラ機能拡張パッケージを用いると，オーバランハンドラ機能を追加することができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，オーバランハンドラと拡張サービスコールをサポートしていない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスク例外処理ルーチン，タイムイベントハンドラ，拡張サービスコールをサポートしていない．

2.4.2 処理単位の実行順序

処理単位の実行順序を規定するために，ここでは，処理単位の優先順位を規定する．また，ディスパッチが起こるタイミングを規定するために，ディスパッチを行うカーネル内の処理であるディスパッチャの優先順位についても規定する．

タスクの優先順位は，ディスパッチャの優先順位よりも低い．タスク間では，高い優先度を持つ方が優先順位が高く，同じ優先度を持つタスク間では，先に実行できる状態となった方が優先順位が高い．詳しくは，「2.6.3 タスクのス

ケジューリング規則」の節を参照すること．

タスク例外処理ルーチンの優先順位は，例外が要求されたタスクと同じであるが，タスクよりも先に実行される．

割込みハンドラの優先順位は，ディスパッチャの優先順位よりも高い．割込みハンドラ間では，高い割込み優先度を持つ方が優先順位が高く，同じ割込み優先度を持つ割込みハンドラ間では，先に実行開始された方が優先順位が高い．同じ割込み優先度を持つ割込みハンドラ間での実行開始順序は，この仕様では規定しない．詳しくは，「2.7.2 割込み優先度」の節を参照すること．

割込みサービスルーチンとタイムイベントハンドラの優先順位は，それを呼び出す割込みハンドラと同じである．

CPU例外ハンドラの優先順位は，CPU例外がタスクまたはタスク例外処理ルーチンで発生した場合には，ディスパッチャの優先順位と同じであるが，ディスパッチャよりも先に実行される．CPU例外がその他の処理単位で発生した場合には，CPU例外ハンドラの優先順位は，その処理単位の優先順位と同じであるが，その処理単位よりも先に実行される．

拡張サービスコールの優先順位は，それを呼び出した処理単位と同じであるが，それを呼び出した処理単位よりも先に実行される．

初期化ルーチンは，カーネルの動作開始前に，システムコンフィギュレーションファイル中に初期化ルーチンを登録する静的APIを記述したのと同じ順序で実行される．終了処理ルーチンは，カーネルの動作終了後に，終了処理ルーチンを登録する静的APIを記述したのと逆の順序で実行される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，初期化ルーチンには，クラスに属さないグローバル初期化ルーチンと，クラスに属するローカル初期化ルーチンがある．グローバル初期化ルーチンがマスタプロセッサで実行された後に，各プロセッサでローカル初期化ルーチンが実行される．また，終了処理ルーチンには，クラスに属さないグローバル終了処理ルーチンと，クラスに属するローカル終了処理ルーチンがある．ローカル終了処理ルーチンが各プロセッサで実行された後に，マスタプロセッサでグローバル終了処理ルーチンが実行される．

【仕様決定の理由】

終了処理ルーチンを，登録する静的APIを記述したのと逆順で実行するのは，終了処理は初期化の逆の順序で行うのがよいためである（システムコンフィギュレーションファイルを分割すると，終了処理ルーチンを登録する静的APIだけ逆順に記述するのは難しい）．

2.4.3 カーネル処理の不可分性

カーネルのサービスコール処理やディスパッチャ，割込みハンドラとCPU例外ハンドラの入口処理と出口処理などのカーネル処理は不可分に実行されるのが基本である．実際には，カーネル処理の途中でアプリケーションが実行される場合はあるが，アプリケーションがサービスコールを用いて観測できる範囲で，カーネル処理が不可分に実行された場合と同様に振る舞うのが原則である．こ

れを，カーネル処理の不可分性という．

ただし，マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，カーネル処理が実行されているプロセッサ以外のプロセッサから，カーネル処理の途中の状態が観測できる場合がある．具体的には，1つのサービスコールにより複数のオブジェクトの状態が変化する場合に，一部のオブジェクトの状態のみが変化し，残りのオブジェクトの状態が変化していない過渡的な状態が観測できる場合がある．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応でないカーネルでは，1つのサービスコールにより複数のタスクが実行できる状態になる場合，新しく実行状態となるべきタスクへのディスパッチは，すべてのタスクの状態遷移が完了した後に行われる．例えば，低優先度のタスクAが発行したサービスコールにより，中優先度のタスクBと高優先度のタスクCがこの順で待ち解除される場合，タスクBとタスクCが待ち解除された後に，タスクCへのディスパッチが行われる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，上のことは，1つのプロセッサ内では成り立つが，他のプロセッサに割り付けられたタスクに対しては成り立たない．例えば，プロセッサ1で低優先度のタスクAが実行されている時に，他のプロセッサ2で実行されているタスクが発行したサービスコールにより，プロセッサ1に割り付けられた中優先度のタスクBと高優先度のタスクCがこの順で待ち解除される場合，タスクCが待ち解除される前に，タスクBへディスパッチされる場合がある．

2.4.4 処理単位を実行するプロセッサ

マルチプロセッサ対応カーネルでは，処理単位を実行するプロセッサ（割付けプロセッサ）は，その処理単位が属するクラスの初期割付けプロセッサと割付け可能プロセッサから，次のように決まる．

タスク，周期ハンドラ，アラームハンドラは，登録時に，属するクラスの初期割付けプロセッサに割り付けられる．また，割付けプロセッサを変更するサービスコール（mact_tsk／imact_tsk，mig_tsk，msta_cyc，msta_alm／imsta_alm）によって，割付けプロセッサを，クラスの割付け可能プロセッサのいずれかに変更することができる．

割込みハンドラ，CPU例外ハンドラ，ローカル初期化ルーチン，ローカル終了処理ルーチンは，属するクラスの初期割付けプロセッサで実行される．クラスの割付け可能プロセッサの情報は用いられない．

割込みサービスルーチンは，属するクラスの割付け可能プロセッサのいずれか（オプション設定によりすべて）で実行される．クラスの初期割付けプロセッサの情報は用いられない．

以上を整理すると，次の表の通りとなる．この表の中で，「○」はその情報が使用されることを，「—」はその情報が使用されないことを示す．

	初期割付けプロセッサ	割付け可能プロセッサ

タスク（タスク例外処理ルーチンを含む）	○	○
割込みハンドラ	○	—
割込みサービスルーチン	—	○
周期ハンドラ	○	○
アラームハンドラ	○	○
CPU例外ハンドラ	○	—
ローカル初期化ルーチン	○	—
ローカル終了処理ルーチン	○	—

オーバランハンドラ，拡張サービスコール，グローバル初期化ルーチン，グローバル終了処理ルーチンは，いずれのクラスにも属さない．オーバランハンドラは，オーバランを起こしたタスクの割付けプロセッサによって実行される．拡張サービスコールは，それを呼び出した処理単位の割付けプロセッサによって実行される．グローバル初期化ルーチンとグローバル終了処理ルーチンは，マスタプロセッサによって実行される．

2.5 システム状態とコンテキスト

2.5.1 カーネル動作状態と非動作状態

カーネルの初期化が完了した後，カーネルの終了処理が開始されるまでの間を，カーネル動作状態と呼ぶ．それ以外の状態，すなわちカーネルの初期化完了前（初期化ルーチンの実行中を含む）と終了処理開始後（終了処理ルーチンの実行中を含む）を，カーネル非動作状態と呼ぶ．プロセッサは，カーネル動作状態かカーネル非動作状態のいずれかの状態を取る．

カーネル非動作状態では，原則として，NMIを除くすべての割込みがマスクされる．

カーネル非動作状態では，システムインタフェースレイヤのAPIとカーネル非動作状態を参照するサービスコール（sns_ker）のみを呼び出すことができる．カーネル非動作状態で，その他のサービスコールを呼び出した場合の動作は，保証されない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，カーネル動作状態かカーネル非動作状態のいずれかの状態を取る．

2.5.2 タスクコンテキストと非タスクコンテキスト

処理単位が実行される環境（用いるスタック領域やプロセッサの動作モードなど）をコンテキストと呼ぶ．

カーネル動作状態において，処理単位が実行されるコンテキストは，タスクコンテキストと非タスクコンテキストに分類される．

タスク（タスク例外処理ルーチンを含む）が実行されるコンテキストは，タスクコンテキストに分類される．また，タスクコンテキストから呼び出した拡張サービスコールが実行されるコンテキストは，タスクコンテキストに分類される．

割込みハンドラ（割込みサービスルーチンおよびタイムイベントハンドラを含む）とCPU例外ハンドラが実行されるコンテキストは，非タスクコンテキストに分類される．また，非タスクコンテキストから呼び出した拡張サービスコールが実行されるコンテキストは，非タスクコンテキストに分類される．

タスクコンテキストで実行される処理単位は，別に規定がない限り，タスクのスタック領域を用いて実行される．非タスクコンテキストで実行される処理単位は，別に規定がない限り，非タスクコンテキスト用スタック領域を用いて実行される．

タスクコンテキストからは，非タスクコンテキスト専用のサービスコールを呼び出すことはできない．逆に，非タスクコンテキストからは，タスクコンテキスト専用のサービスコールを呼び出すことはできない．いずれも，呼び出した場合にはE_CTXエラーとなる．

2.5.3 カーネルの振舞いに影響を与える状態

カーネル動作状態において，プロセッサは，カーネルの振舞いに影響を与える状態として，次の状態を持つ．

- 全割込みロックフラグ（全割込みロック状態と全割込みロック解除状態）
- CPUロックフラグ（CPUロック状態とCPUロック解除状態）
- 割込み優先度マスク（割込み優先度マスク全解除状態と全解除でない状態）
- ディスパッチ禁止フラグ（ディスパッチ禁止状態とディスパッチ許可状態）

これらの状態は，それぞれ独立な状態である．すなわち，プロセッサは上記の状態の任意の組合せを取ることができ，それぞれの状態を独立に変化させることができる．

2.5.4 全割込みロック状態と全割込みロック解除状態

プロセッサは，NMIを除くすべての割込みをマスクするための全割込みロックフラグを持つ．全割込みロックフラグがセットされた状態を全割込みロック状態，クリアされた状態を全割込みロック解除状態と呼ぶ．すなわち，全割込みロック状態では，NMIを除くすべての割込みがマスクされる．

全割込みロック状態では，システムインタフェースレイヤのAPIとカーネル非動作状態を参照するサービスコール（sns_ker），カーネルを終了するサービスコール（ext_ker）のみを呼び出すことができ，その他のサービスコールを呼び出すことはできない．全割込みロック状態で，その他のサービスコールを呼び出した場合の動作は，保証されない．また，全割込みロック状態では，実行中の処理単位からリターンしてはならない．リターンした場合の動作は保証されない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，全割込みロックフラグを持つ．すなわち，プロセッサ毎に，全割込みロック状態か全割込みロック解

除状態のいずれかの状態を取る．

2.5.5 CPUロック状態とCPUロック解除状態

プロセッサは，カーネル管理の割込み（「2.7.7 カーネル管理外の割込み」の節を参照）をすべてマスクするためのCPUロックフラグを持つ．CPUロックフラグがセットされた状態をCPUロック状態，クリアされた状態をCPUロック解除状態と呼ぶ．すなわち，CPUロック状態では，すべてのカーネル管理の割込みがマスクされ，ディスパッチが保留される．

NMI以外にカーネル管理外の割込みを設けない場合には，全割込みロックフラグとCPUロックフラグの機能は同一となるが，両フラグは独立に存在する．

CPUロック状態で呼び出すことができるサービスコールは次の通り．

- システムインタフェースレイヤのAPI
- loc_cpu／iloc_cpu，unl_cpu／iunl_cpu
- unl_spn／iunl_spn（マルチプロセッサ対応カーネルのみ）
- dis_int，ena_int
- sns_yyy，xsns_yyy（CPU例外ハンドラからのみ）
- get_utm
- ext_tsk，ext_ker
- cal_svc（保護機能対応カーネルのみ）

CPUロック状態で，その他のサービスコールを呼び出した場合には，E_CTXエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，CPUロックフラグを持つ．すなわち，プロセッサ毎に，CPUロック状態かCPUロック解除状態のいずれかの状態を取る．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，あるプロセッサがCPUロック状態にある間は，そのプロセッサにおいてのみ，すべてのカーネル管理の割込みがマスクされ，ディスパッチが保留される．それに対して他のプロセッサにおいては，割込みはマスクされず，ディスパッチも起こるため，CPUロック状態を使って他のプロセッサで実行される処理単位との排他制御を実現することはできない．

2.5.6 割込み優先度マスク

プロセッサは，割込み優先度を基準に割込みをマスクするための割込み優先度マスクを持つ．割込み優先度マスクがTIPM_ENAALL（＝0）の時は，いずれの割込み要求もマスクされない．この状態を割込み優先度マスク全解除状態と呼ぶ．割込み優先度マスクがTIPM_ENAALL（＝0）以外の時は，割込み優先度マスクと同じかそれより低い割込み優先度を持つ割込みはマスクされ，ディスパッチは保留される．この状態を割込み優先度マスクが全解除でない状態と呼ぶ．

割込み優先度マスクが全解除でない状態では，別に規定がない限りは，自タスクを広義の待ち状態に遷移させる可能性のあるサービスコールを呼び出すこと

はできない．呼び出した場合には，E_CTXエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，割込み優先度マスクを持つ．

2.5.7 ディスパッチ禁止状態とディスパッチ許可状態

プロセッサは，ディスパッチを保留するためのディスパッチ禁止フラグを持つ．ディスパッチ禁止フラグがセットされた状態をディスパッチ禁止状態，クリアされた状態をディスパッチ許可状態と呼ぶ．すなわち，ディスパッチ禁止状態では，ディスパッチは保留される．

ディスパッチ禁止状態では，別に規定がない限りは，自タスクを広義の待ち状態に遷移させる可能性のあるサービスコールを呼び出すことはできない．呼び出した場合には，E_CTXエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，ディスパッチ禁止フラグを持つ．すなわち，プロセッサ毎に，ディスパッチ禁止状態かディスパッチ許可状態のいずれかの状態を取る．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，あるプロセッサがディスパッチ禁止状態にある間は，そのプロセッサにおいてのみ，ディスパッチが保留される．それに対して他のプロセッサにおいては，ディスパッチが起こるため，ディスパッチ禁止状態を使って他のプロセッサで実行されるタスクとの排他制御を実現することはできない．

2.5.8 ディスパッチ保留状態

非タスクコンテキストの実行中，CPUロック状態，割込み優先度マスクが全解除でない状態，ディスパッチ禁止状態では，ディスパッチが保留される．これらの状態を総称して，ディスパッチ保留状態と呼ぶ．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，ディスパッチ保留状態かそうでない状態のいずれかの状態を取る．

【補足説明】

全割込みロック状態はカーネルが管理しておらず，ディスパッチが保留されることをカーネルが保証できないため，ディスパッチ保留状態に含めていない．

2.5.9 カーネル管理外の状態

全割込みロック状態，カーネル管理外の割込みハンドラ実行中（「2.7.7 カーネル管理外の割込み」の節を参照），カーネル管理外のCPU例外ハンドラ実行中（「2.8.4 カーネル管理外のCPU例外」の節を参照）を総称して，カーネル管理外の状態と呼ぶ．

それぞれの節で規定する通り，カーネル管理外の状態では，システムインタ

フェースレイヤのAPIとsns_ker，ext_kerのみ（カーネル管理外のCPU例外ハンドラからは，それに加えてxsns_dpnとxsns_xpn）を呼び出すことができ，その他のサービスコールを呼び出すことはできない．カーネル管理外の状態から，その他のサービスコールを呼び出した場合の動作は，保証されない．

カーネル管理外の状態では，少なくとも，カーネル管理の割込みはマスクされている．カーネル管理外の割込み（の一部）もマスクされている場合もある．保護機能対応カーネルでは，カーネル管理外の状態になるのは，特権モードで実行している間に限られる．

2.5.10 処理単位の開始・終了とシステム状態

各処理単位が実行開始されるシステム状態の条件（実行開始条件），各処理単位の実行開始時にカーネルによって行われるシステム状態の変更処理（実行開始時処理），各処理単位からのリターン前（または終了前）にアプリケーションが設定しておくべきシステム状態（リターン前または終了前），各処理単位からのリターン時（または終了時）にカーネルによって行われるシステム状態の変更処理（リターン時処理または終了時処理）は，次の表の通りである．

	CPUロック フラグ	割込み優先度 マスク	ディスパッチ 禁止フラグ
【タスク】			
実行開始条件	解除	全解除	許可
実行開始時処理	そのまま	そのまま	そのまま
終了前	原則解除(*1)	原則全解除(*1)	原則許可(*1)
終了時処理	解除する	全解除する	許可する
【タスク例外処理ルーチン】			
実行開始条件	解除	全解除	任意
実行開始時処理	そのまま	そのまま	そのまま
リターン前	原則解除(*1)	原則全解除(*1)	元に戻す
リターン時処理	解除する	全解除する	元に戻す(*4)
【カーネル管理の割込みハンドラ】 【割込みサービスルーチン】 【タイムイベントハンドラ】			
実行開始条件	解除	自優先度より低い	任意
実行開始時処理	そのまま	自優先度に(*2)	そのまま
リターン前	原則解除(*1)	変更不可(*3)	変更不可(*3)
リターン時処理	解除する	元に戻す(*5)	そのまま
【CPU例外ハンドラ】			
実行開始条件	任意	任意	任意
実行開始時処理	そのまま(*6)	そのまま	そのまま
リターン前	原則元に(*1)	変更不可(*3)	変更不可(*3)
リターン時処理	元に戻す	元に戻す(*5)	そのまま
【拡張サービスコール】			
実行開始条件	任意	任意	任意

```
実行開始時処理  そのまま        そのまま        そのまま
リターン前      任意            任意            任意
リターン時処理  そのまま        そのまま        そのまま
-------------------------------------------------------------
```

この表の中で「原則(*1)」とは，処理単位からのリターン前（または終了前）に，アプリケーションが指定された状態に設定しておくことが原則であるが，この原則に従わなくても，リターン時（または終了時）にカーネルによって状態が設定されるため，支障がないことを意味する．

「自優先度に(*2)」 とは，割込みハンドラと割込みサービスルーチンの場合にはそれを要求した割込みの割込み優先度，周期ハンドラとアラームハンドラの場合にはタイマ割込みの割込み優先度，オーバランハンドラの場合にはオーバランタイマ割込みの割込み優先度に変更することを意味する．

「変更不可(*3)」 とは，その処理単位中で，そのシステム状態を変更するAPIが用意されていないことを示す．

保護機能対応カーネルでは，タスク例外処理ルーチンからのリターン時にディスパッチ禁止フラグを元に戻す処理(*4)は，タスクにディスパッチ禁止フラグの変更を許可している場合にのみ行われる．カーネルは，ディスパッチ禁止フラグの元の状態をユーザスタック上に保存する．アプリケーションがユーザスタック上に保存されたディスパッチ禁止フラグの状態を書き換えた場合，タスク例外処理ルーチンからのリターン時には，書き換えた後のディスパッチ禁止フラグの状態に変更される（すなわち，元に戻されるとは限らない）．

また，タスクにディスパッチ禁止フラグの変更を許可していない場合で，タスク例外処理ルーチン中で拡張サービスコールを用いてディスパッチ禁止フラグを変更した場合，カーネルは元の状態に戻さない．このことから，タスク例外処理ルーチンからの終了前に，ディスパッチ禁止フラグを元の状態に戻すのは，アプリケーションの責任とする．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，タスクがタスク例外処理ルーチンを実行中にマイグレーションされた場合，マイグレーション先のプロセッサにおいて，割込み優先度マスクとディスパッチ禁止フラグが元に戻される．

【仕様決定の理由】

保護機能対応カーネルにおいて，タスク例外処理ルーチンからのリターン時にディスパッチ禁止フラグを元に戻す処理(*4)が，タスクにディスパッチ禁止フラグの変更を許可している場合にのみ行われるのは，タスクがユーザスタック上の状態を書き換えることで，許可していない状態変更を起こせてしまうことを防止するためである．

割込みハンドラやCPU例外ハンドラで，その処理単位中で割込み優先度マスクを変更するAPIが用意されていないにもかかわらず，処理単位からのリターン時に元の状態に戻す(*5)のは，プロセッサによっては，割込み優先度マスクがステータスレジスタ等に含まれており，APIを用いずに変更できてしまう場合があるた

めである．

CPU例外ハンドラの実行開始時には，CPUロックフラグは変更されない(*6)ことから，CPUロック状態でCPU例外が発生した場合，CPU例外ハンドラの実行開始直後はCPUロック状態となっている．CPUロック状態でCPU例外が発生した場合，起動されるCPU例外ハンドラはカーネル管理外のCPU例外ハンドラであり（xsns_dpn, xsns_xpnともtrueを返す），CPU例外ハンドラ中でiunl_cpuを呼び出してCPUロック状態を解除しようとした場合の動作は保証されない．ただし，保証されないにも関わらずiunl_cpuを呼び出した場合も考えられるため，リターン時には元に戻すこととしている．

2.6 タスクの状態遷移とスケジューリング規則

2.6.1 基本的なタスク状態

カーネルに登録したタスクは，実行できる状態，休止状態，広義の待ち状態のいずれかの状態を取る．また，実行できる状態と広義の待ち状態を総称して，起動された状態と呼ぶ．さらに，タスクをカーネルに登録していない仮想的な状態を，未登録状態と呼ぶ．

(a) 実行できる状態（runnable）

タスクを実行できる条件が，プロセッサが使用できるかどうかを除いて，揃っている状態．実行できる状態は，さらに，実行状態と実行可能状態に分類される．

(a.1) 実行状態（running）

タスクが実行されている状態．または，そのタスクの実行中に，割込みまたはCPU例外により非タスクコンテキストの実行が開始され，かつ，タスクコンテキストに戻った後に，そのタスクの実行を再開するという状態．

(a.2) 実行可能状態（ready）

タスク自身は実行できる状態にあるが，それよりも優先順位の高いタスクが実行状態にあるために，そのタスクが実行されない状態．

(b) 休止状態（dormant）

タスクが実行すべき処理がない状態．タスクの実行を終了した後，次に起動するまでの間は，タスクは休止状態となっている．タスクが休止状態にある時には，タスクの実行を再開するための情報（実行再開番地やレジスタの内容など）は保存されていない．

(c) 広義の待ち状態（blocked）

タスクが，処理の途中で実行を止められている状態．タスクが広義の待ち状態にある時には，タスクの実行を再開するための情報（実行再開番地やレジスタの内容など）は保存されており，タスクが実行を再開する時には，広義の待ち状態に遷移する前の状態に戻される．広義の待ち状態は，さらに，（狭義の）

待ち状態，強制待ち状態，二重待ち状態に分類される．

(c.1) （狭義の）待ち状態（waiting）

タスクが何らかの条件が揃うのを待つために，自ら実行を止めている状態．

(c.2) 強制待ち状態（suspended）

他のタスクによって，強制的に実行を止められている状態．ただし，自タスクを強制待ち状態にすることも可能である．

(c.3) 二重待ち状態（waiting-suspended）

待ち状態と強制待ち状態が重なった状態．すなわち，タスクが何らかの条件が揃うのを待つために自ら実行を止めている時に，他のタスクによって強制的に実行を止められている状態．

単にタスクが「待ち状態である」といった場合には，二重待ち状態である場合を含み，「待ち状態でない」といった場合には，二重待ち状態でもないことを意味する．また，単にタスクが「強制待ち状態である」といった場合には，二重待ち状態である場合を含み，「強制待ち状態でない」といった場合には，二重待ち状態でもないことを意味する．

(d) 未登録状態（non-existent）

タスクをカーネルに登録していない仮想的な状態．タスクの生成前と削除後は，タスクは未登録状態にあるとみなす．

カーネルによっては，これらのタスク状態以外に，過渡的な状態が存在する場合がある．過渡的な状態については，「2.6.6 ディスパッチ保留状態で実行中のタスクに対する強制待ち」の節を参照すること．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，タスクが未登録状態になることはない．また，上記のタスク状態以外の過渡的な状態になることもない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，タスクが未登録状態になる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，タスクが未登録状態になることはない．上記のタスク状態以外の過渡的な状態として，タスクが強制待ち状態［実行継続中］になることがある．詳しくは，「2.6.6 ディスパッチ保留状態で実行中のタスクに対する強制待ち」の節を参照すること．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，タスクが未登録状態になることはない．また，上記のタスク状態以外の過渡的な状態になることもない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスクが広義の待ち状態と未登録状態になることはない．また，上記のタスク状態以外の過渡的な状態になることもない．

2.6.2 タスクの状態遷移

タスクの状態遷移を図2-2に示す．

未登録状態のタスクをカーネルに登録することを，タスクを生成する（create）という．生成されたタスクは，休止状態に遷移する．また，タスク生成時の属性指定により，生成と同時にタスクを起動し，実行できる状態にすることもできる．逆に，登録されたタスクを未登録状態に遷移させることを，タスクを削除する（delete）という．

休止状態のタスクを，実行できる状態にすることを，タスクを起動する（activate）という．起動されたタスクは，実行できる状態になる．逆に，起動された状態のタスクを，休止状態（または未登録状態）に遷移させることを，タスクを終了する（terminate）という．

実行できる状態になったタスクは，まずは実行可能状態に遷移するが，そのタスクの優先順位が実行状態のタスクよりも高い場合には，ディスパッチ保留状態でない限りはただちにディスパッチが起こり，実行状態へ遷移する．この時，それまで実行状態であったタスクは実行可能状態に遷移する．この時，実行状態に遷移したタスクは，実行可能状態に遷移したタスクをプリエンプトしたという．逆に，実行可能状態に遷移したタスクは，プリエンプトされたという．

タスクを待ち解除するとは，タスクが待ち状態（二重待ち状態を除く）であれば実行できる状態に，二重待ち状態であれば強制待ち状態に遷移させることをいう．また，タスクを強制待ちから再開するとは，タスクが強制待ち状態（二重待ち状態を除く）であれば実行できる状態に，二重待ち状態であれば待ち状態に遷移させることをいう．

【補足説明】

タスクの実行開始とは，タスクが起動された後に最初に実行される（実行状態に遷移する）時のことをいう．

2.6.3 タスクのスケジューリング規則

実行できるタスクは，優先順位の高いものから順に実行される．すなわち，ディスパッチ保留状態でない限りは，実行できるタスクの中で最も高い優先順位を持つタスクが実行状態となり，他は実行可能状態となる．

タスクの優先順位は，タスクの優先度とタスクが実行できる状態になった順序から，次のように定まる．優先度の異なるタスクの間では，優先度の高いタスクが高い優先順位を持つ．優先度が同一のタスクの間では，先に実行できる状態になったタスクが高い優先順位を持つ．すなわち，同じ優先度を持つタスクは，FCFS（First Come First Served）方式でスケジューリングされる．ただし，サービスコールの呼出しにより，同じ優先度を持つタスク間の優先順位を変更

することも可能である．

最も高い優先順位を持つタスクが変化した場合には，ディスパッチ保留状態でない限りはただちにディスパッチが起こり，最も高い優先順位を持つタスクが実行状態となる．ディスパッチ保留状態においては，実行状態のタスクは切り換わらず，最も高い優先順位を持つタスクは実行可能状態にとどまる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサ毎に，上記のスケジューリング規則を適用して，タスクスケジューリングを行う．すなわち，プロセッサがディスパッチ保留状態でない限りは，そのプロセッサに割り付けられた実行できるタスクの中で最も高い優先順位を持つタスクが実行状態となり，他は実行可能状態となる．そのため，実行状態のタスクは，プロセッサ毎に存在する．

2.6.4 待ち行列と待ち解除の順序

タスクが待ち解除される順序の管理のために，待ち状態のタスクがつながれているキューを，待ち行列と呼ぶ．また，タスクが同期・通信オブジェクトの待ち行列につながれている場合に，そのオブジェクトを，タスクの待ちオブジェクトと呼ぶ．

待ち行列にタスクをつなぐ順序には，FIFO順とタスクの優先度順がある．どちらの順序でつなぐかは，待ち行列毎に規定される．多くの待ち行列において，どちらの順序でつなぐかを，オブジェクト属性により指定できる．

FIFO順の待ち行列においては，新たに待ち状態に遷移したタスクは待ち行列の最後につながれる．それに対してタスクの優先度順の待ち行列においては，新たに待ち状態に遷移したタスクは，優先度の高い順に待ち行列につながれる．同じ優先度のタスクが待ち行列につながれている場合には，新たに待ち状態に遷移したタスクが，同じ優先度のタスクの中で最後につながれる．

待ち解除の条件がタスクによって異なる場合には，待ち行列の先頭のタスクは待ち解除の条件を満たさないが，後方のタスクが待ち解除の条件を満たす場合がある．このような場合の振舞いとして，次の2つのケースがある．どちらの振舞いをするかは，待ち行列毎に規定される．

(a) 待ち解除の条件を満たしたタスクの中で，待ち行列の前方につながれたものから順に待ち解除される．すなわち，待ち行列の前方に待ち解除の条件を満たさないタスクがあっても，後方のタスクが待ち解除の条件を満たしていれば，先に待ち解除される．

(b) タスクの待ち解除は，待ち行列につながれている順序で行われる．すなわち，待ち行列の前方に待ち解除の条件を満たさないタスクがあると，後方のタスクが待ち解除の条件を満たしても，待ち解除されない．

ここで，(b)の振舞いをする待ち行列においては，待ち行列につながれたタスクの強制終了，タスク優先度の変更（待ち行列がタスクの優先度順の場合のみ），待ち状態の強制解除が行われた場合に，タスクの待ち解除が起こることがある．具体的には，これらの操作により新たに待ち行列の先頭になったタスクが，待ち解除の条件を満たしていれば，ただちに待ち解除される．さらに，この待ち解除により新たに待ち行列の先頭になったタスクに対しても，同じ処理が繰り

返される．

2.6.5 タスク例外処理マスク状態と待ち禁止状態

保護機能対応カーネルにおいて，ユーザタスクについては特権モードで実行している間（特権モードを実行している間に，実行可能状態や広義の待ち状態になっている場合を含む．また，サービスコールを呼び出して，実行可能状態や広義の待ち状態になっている場合も含む．タスクの実行開始前は含まない），システムタスクについては拡張サービスコールを実行している間（拡張サービスコールを実行している間に，実行可能状態や広義の待ち状態になっている場合を含む）は，タスク例外処理ルーチンの実行は開始されない．これらの状態を，タスク例外処理マスク状態と呼ぶ．

タスクは，タスク例外処理マスク状態である時に，基本的なタスク状態と重複して，待ち禁止状態になることができる．

待ち禁止状態とは，タスクが待ち状態に入ることが一時的に禁止された状態である．待ち禁止状態にあるタスクが，サービスコールを呼び出して待ち状態に遷移しようとした場合，サービスコールはE_RLWAIエラーとなる．

タスクを待ち禁止状態に遷移させるサービスコールは，対象タスクがタスク例外処理マスク状態である場合に，対象タスクを待ち禁止状態に遷移させる．その後，タスクがタスク例外処理マスク状態でなくなる時点（ユーザタスクについては特権モードから戻る時点，システムタスクについて拡張サービスコールからリターンする時点）で，待ち禁止状態が解除される．また，タスクの待ち禁止状態を解除するサービスコールによっても，待ち禁止状態を解除することができる．

【仕様決定の理由】

タスク例外処理ルーチンでは，タスクの本体のための例外処理（例えば，タスクに対して終了要求があった時の処理）を行うことを想定しており，タスクから呼び出した拡張サービスコールのための例外処理を行うことは想定していない．そのため，拡張サービスコールを実行している間にタスク例外処理が要求された場合に，すぐにタスク例外処理ルーチンを実行すると，拡張サービスコールのための例外処理が行われないことになる．

また，ユーザタスクの場合には，特権モードを実行中にタスク例外処理ルーチンを実行すると，システムスタックに情報を残したまま非特権モードに戻ることになる．この状態で，タスク例外処理ルーチンから大域脱出すると，システムスタック上に不要な情報が残ってしまう．

これらの理由から，タスクが拡張サービスコールを実行している間は，タスク例外処理マスク状態とし，タスク例外処理ルーチンの実行を開始しないこととする．さらに，ユーザタスクについては，特権モードを実行している間（拡張サービスコールを実行している間を含む）を，タスク例外処理マスク状態とする．

対象タスクに，タスク例外処理ルーチンをすみやかに実行させたい場合には，タスク例外処理の要求に加えて，待ち状態の強制解除を行う（必要に応じて，

強制待ち状態からの再開も行う）．保護機能対応でないカーネルにおいては，この方法により，対象タスクが正常に待ち解除されるのを待たずに，タスク例外処理ルーチンを実行させることができる．

それに対して，保護機能対応カーネルにおいては，対象タスクがタスク例外処理マスク状態で実行している間は，タスク例外処理ルーチンの実行が開始されない．そのため，対象タスクに対して待ち状態の強制解除を行っても，その後に対象タスクが待ち状態に入ると，タスク例外処理ルーチンがすみやかに実行されないことになる．

待ち禁止状態は，この問題を解決するために導入したものである．タスク例外処理の要求（ras_tex／iras_tex）に加えて，待ち禁止状態への遷移（dis_wai／idis_wai）と待ち状態の強制解除（rel_wai／irel_wai）をこの順序で行うことで，対象タスクが正常に待ち解除されるのを待たずに，タスク例外処理ルーチンを実行させることができる．

タスク例外処理マスク状態を，ユーザタスクについても拡張サービスコールを実行している間とせず，特権モードで実行している間とした理由は，拡張サービスコールを実行している間とした場合に次のような問題があるためである．

ユーザタスクが，ソフトウェア割込みにより自タスクを待ち状態に遷移させるサービスコールを呼び出した直後に割込みが発生し，その割込みハンドラの中でiras_tex，idis_wai，irel_waiが呼び出されると，この時点では待ち解除もされず待ち禁止状態にもならないために，割込みハンドラからのリターン後に待ち状態に入ってしまう．ソフトウェア割込みによりすべての割込みが禁止されないターゲットプロセッサでは，ソフトウェア割込みの発生とサービスコールの実行を不可分にできないため，このような状況を防ぐことができない．

なお，拡張サービスコールは，待ち状態に入るサービスコールからE_RLWAIが返された場合には，実行中の処理を取りやめて，E_RLWAIを返値としてリターンするように実装すべきである．

【μITRON4.0仕様，μITRON4.0/PX仕様との関係】

待ち禁止状態は，μITRON4.0仕様にはない概念であり，μITRON4.0/PX仕様で導入された．ただし，μITRON4.0/PX仕様では，タスクの待ち状態を強制解除するサービスコールが，タスクを待ち禁止状態へ遷移させる機能も持つこととしている．その結果μITRON4.0/PX仕様は，待ち状態を強制解除するサービスコールの仕様において，μITRON4.0仕様との互換性がなくなっている．

この仕様では，待ち状態の強制解除と待ち禁止状態への遷移を別々のサービスコールで行うこととした．これにより，待ち状態を強制解除するサービスコールの仕様が，μITRON4.0仕様と互換になっている．一方，μITRON4.0/PX仕様とは互換性がない．

2.6.6 ディスパッチ保留状態で実行中のタスクに対する強制待ち

ディスパッチ保留状態において，実行状態のタスクを強制待ち状態へ遷移させるサービスコールを呼び出した場合，実行状態のタスクの切換えは，ディスパッチ保留状態が解除されるまで保留される．

この間，それまで実行状態であったタスクは，実行状態と強制待ち状態の間の過渡的な状態にあると考える．この状態を，強制待ち状態［実行継続中］と呼ぶ．一方，ディスパッチ保留状態が解除された後に実行すべきタスクは，実行可能状態にとどまる．

タスクが強制待ち状態［実行継続中］にある時に，ディスパッチ保留状態が解除されると，ただちにディスパッチが起こり，タスクは強制待ち状態に遷移する．

過渡的な状態も含めたタスクの状態遷移を図2-3に示す．

タスクが強制待ち状態［実行継続中］である時の扱いは次の通りである．

(a) プロセッサを占有して実行を継続する．

強制待ち状態［実行継続中］のタスクは，プロセッサを占有して，そのまま継続して実行される．

(b) 実行状態のタスクに関する情報を参照するサービスコールでは，実行状態であるものと扱う．

実行状態のタスクに関する情報を参照するサービスコール（get_tid／iget_tid，get_did，sns_tex）では，強制待ち状態［実行継続中］のタスクが，それを実行するプロセッサにおいて実行状態のタスクであるものと扱う．具体的には，強制待ち状態［実行継続中］のタスクが実行されている時にget_tid／iget_tidを発行すると，そのタスクのID番号を参照する．また，get_didを発行するとそのタスクが属する保護ドメインのID番号を，sns_texを発行するとそのタスクのタスク例外処理禁止フラグを参照する．

(c) その他のサービスコールでは，強制待ち状態であるものと扱う．

その他のサービスコールでは，強制待ち状態［実行継続中］のタスクは，強制待ち状態であるものと扱う．

なお，TOPPERS新世代カーネルでは，ディスパッチ保留状態において，実行状態のタスクを強制終了させるサービスコールはサポートしていない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ディスパッチ保留状態において実行状態のタスクを強制待ち状態へ遷移させるサービスコールはサポートしていないため，タスクが強制待ち状態［実行継続中］になることはない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ディスパッチ保留状態において実行状態のタスクを強制待ち状態へ遷移させるサービスコールを，他のプロセッサから呼び出すことができるため，タスクが強制待ち状態［実行継続中］になる場合がある．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ディスパッチ保留状態において実行状態のタスクを強制待ち状態へ遷移させるサービスコールはサポートしていないため，タスクが強制待ち状態［実行継続中］になることはない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスクが広義の待ち状態になることはないため，タスクが強制待ち状態［実行継続中］になることもない．

2.6.7 制約タスク

制約タスク（restricted task）は，複数のタスクでスタック領域を共有することによるメモリ使用量の削減を目的に，通常のタスクに対して，広義の待ち状態を持たないなどの機能制限を加えたものである．具体的には，制約タスクには以下の機能制限がある．

(a) 広義の待ち状態に入ることができない．

(b) サービスコールにより優先度を変更することができない．

(c) 対象優先度の中の先頭のタスクが制約タスクである場合には，タスクの優先順位の回転（rot_rdq／irot_rdq）を行うことができない．

(d) マルチプロセッサ対応カーネルでは，割付けプロセッサを変更することができない．

制約タスクに対して，機能制限により使用できなくなったサービスコールを呼び出した場合には，E_NOSPTエラーとなる．E_NOSPTエラーが返ることに依存している場合を除いては，制約タスクを通常のタスクに置き換えることができる．

【未決定事項】

現状では，制約タスクの優先度を変更するサービスコールは設けていないが，制約タスクが，自タスクの優先度を，起動時優先度（SSPカーネルにおいては，実行時優先度）と同じかそれよりも高い値に変更することは許してもよい．ただし，優先度の変更後は，同じ優先度内で最高優先順位としなければならないため，chg_priとは振舞いが異なることになる．自タスクの優先度を起動時優先度と同じかそれよりも高い値に変更するサービスコールを設けるかどうかは，今後の課題である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，制約タスクをサポートしていない．ただし，制約タスク拡張パッケージを用いると，制約タスクの機能を追加することができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，制約タスクをサポートしていない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，制約タスクをサポートしていない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，制約タスクのみをサポートする．そのため，すべてのタスクと非タスクコンテキストがスタック領域を共有することができ，すべての処理単位で同一のスタック領域を使用している．このスタック領域を，共有スタック領域と呼ぶ．

【μITRON4.0仕様との関係】

制約タスクは，μITRON4.0仕様の自動車制御プロファイルで導入された機能である．この仕様における制約タスクは，μITRON4.0仕様の制約タスクよりも機能制限が少なくなっている．

2.7 割込み処理モデル

TOPPERS新世代カーネルにおける割込み処理のモデルは，TOPPERS標準割込み処理モデルに準拠している．

TOPPERS標準割込み処理モデルの概念図を図2-4に示す．この図は，割込み処理モデルの持つすべての機能が，ハードウェア（プロセッサおよび割込みコントローラ）で実現されているとして描いた概念図である．実際のハードウェアで不足している機能については，カーネル内の割込み処理のソフトウェアで実現される．

【μITRON4.0仕様との関係】

割込み処理モデルは，μITRON4.0仕様から大幅に拡張している．

2.7.1 割込み処理の流れ

周辺デバイス（以下，デバイスと呼ぶ）からの割込み要求は，割込みコントローラ（IRC）を経由して，プロセッサに伝えられる．デバイスから割込みコントローラに割込み要求を伝えるための信号線を，割込み要求ラインと呼ぶ．一般には，1つの割込み要求ラインに，複数のデバイスからの割込み要求が接続される．

プロセッサは，デバイスからの割込み要求を受け付ける条件が満たされた場合，割込み要求を受け付ける．受け付けた割込み要求が，カーネル管理の割込みである場合には，カーネル内の割込みハンドラの入口処理（割込み入口処理）を経由して，カーネル内の割込みハンドラを実行する．

カーネル内の割込みハンドラは，アプリケーションが割込み要求ラインに対して登録した割込みサービスルーチン（ISR）を呼び出す．割込みサービスルーチンは，プロセッサの割込みアーキテクチャや割込みコントローラに依存せず，割込みを要求したデバイスのみに依存して記述するのが原則である．1つの割込み要求ラインに対して複数のデバイスが接続されることから，1つの割込み要求

ラインに対して複数の割込みサービスルーチンを登録することができる．

ただし，カーネルが標準的に用意している割込みハンドラで対応できない特殊なケースも考えられる．このような場合に対応するために，アプリケーションが用意した割込みハンドラをカーネルに登録することもできる．

カーネルが用いるタイマデバイスからの割込み要求の場合，カーネル内の割込みハンドラにより，タイムイベントの処理が行われる．具体的には，タイムアウト処理等が行われることに加えて，アプリケーションが登録したタイムイベントハンドラが呼び出される．

なお，受け付けた割込み要求に対して，割込みサービスルーチンも割込みハンドラも登録していない場合の振舞いは，ターゲット定義である．

2.7.2 割込み優先度

割込み要求は，割込み処理の優先順位を指定するための割込み優先度を持つ．プロセッサは，割込み優先度マスクの現在値よりも高い割込み優先度を持つ割込み要求のみを受け付ける．逆に言うと，割込み優先度マスクの現在値と同じか，それより低い割込み優先度を持つ割込みは，マスクされる．

プロセッサは，割込み要求を受け付けると，割込み優先度マスクを，受け付けた割込み要求の割込み優先度に設定する（ただし，受け付けた割込みがNMIである場合には例外とする）．また，割込み処理からのリターンにより，割込み優先度マスクを，割込み要求を受け付ける前の値に戻す．

これらのことから，他の方法で割込みをマスクしていない限り，ある割込み要求の処理中は，それと同じかそれより低い割込み優先度を持つ割込み要求は受け付けられず，それより高い割込み優先度を持つ割込み要求は受け付けられることになる．つまり，割込み優先度は，多重割込みを制御するためのものと位置付けることができる．それに対して，同時に発生している割込み要求の中で，割込み優先度の高い割込み要求が先に受け付けられるとは限らない．

割込み優先度は，PRI型で表現し，値が小さいほど優先度が高いものとするが，優先度に関する原則には従わず，-1から連続した負の値を用いる．

割込み優先度の段階数は，ターゲット定義である．プロセッサが割込み優先度マスクを実現するための機能を持たないか，実現するために大きいオーバヘッドを生じる場合には，ターゲット定義で，割込み優先度の段階数を1にする（すなわち，多重割込みを許さない）場合がある．

【仕様決定の理由】

割込み優先度に-1から連続した負の値を用いるのは，割込み優先度とタスク優先度を比較できるようになることと，いずれの割込みもマスクしない割込み優先度マスクの値を0にできるためである．

2.7.3 割込み要求ラインの属性

各割込み要求ラインは，以下の属性を持つ．なお，1つの割込み要求ラインに複

数のデバイスからの割込み要求が接続されている場合，それらの割込み要求は同一の属性を持つ．それらの割込み要求に別々の属性を設定することはできない．

(1) 割込み要求禁止フラグ

割込み要求ライン毎に，割込みをマスクするための割込み要求禁止フラグを持つ．割込み要求禁止フラグをセットすると，その割込み要求ラインによって伝えられる割込み要求はマスクされる．

プロセッサが割込み要求禁止フラグを実現するための機能を持たないか，実現するために大きいオーバヘッドを生じる場合には，ターゲット定義で，割込み要求禁止フラグをサポートしない場合がある．また，プロセッサの持つ割込み要求禁止フラグの機能がこの仕様に合致しない場合には，ターゲット定義で，割込み要求禁止フラグをサポートしないか，振舞いが異なるものとする場合がある．

アプリケーションが，割込み要求禁止フラグを動的にセット／クリアする機能を用いると，次の理由でソフトウェアの再利用性が下がる可能性があるため，注意が必要である．プロセッサによっては，この割込み処理モデルに合致した割込み要求禁止フラグの機能を実現できない場合がある．また，割込み要求禁止フラグをセットすることで，複数のデバイスからの割込みがマスクされる場合がある．ソフトウェアの再利用性を上げるためには，あるデバイスからの割込みのみをマスクしたい場合には，そのデバイス自身の機能を使ってマスクを実現すべきである．

(2) 割込み優先度

割込み要求ライン毎に，割込み優先度を設定することができる．割込み要求の割込み優先度とは，その割込み要求を伝える割込み要求ラインに対して設定された割込み優先度のことである．

(3) トリガモード

割込み要求ラインに対する割込み要求が，レベルトリガであるかエッジトリガであるかを設定することができる．エッジトリガの場合には，さらに，ポジティブエッジトリガかネガティブエッジトリガか両エッジトリガかを設定できる場合もある．また，レベルトリガの場合には，ローレベルトリガかハイレベルトリガかを設定できる場合もある．

プロセッサがトリガモードを設定するための機能を持たないか，設定するために大きいオーバヘッドを生じる場合には，ターゲット定義で，トリガモードの設定をサポートしない場合がある．

属性が設定されていない割込み要求ラインに対しては，割込み要求禁止フラグがセットされ，割込み要求はマスクされる．また，割込み要求禁止フラグをクリアすることもできない．

2.7.4 割込みを受け付ける条件

NMI以外の割込み要求は，次の4つの条件が揃った場合に受け付けられる．

(a) 割込み要求ラインに対する割込み要求禁止フラグがクリアされていること

(b) 割込み要求ラインに設定された割込み優先度が，割込み優先度マスクの現在値よりも高い（優先度の値としては小さい）こと

(c) 全割込みロックフラグがクリアされていること

(d) 割込み要求がカーネル管理の割込みである場合には，CPUロックフラグがクリアされていること

これらの条件が揃った割込み要求が複数ある場合に，どの割込み要求が最初に受け付けられるかは，この仕様では規定しない．すなわち，割込み優先度の高い割込み要求が先に受け付けられるとは限らない．

2.7.5 割込み番号と割込みハンドラ番号

割込み要求ラインを識別するための番号を，割込み番号と呼ぶ．割込み番号は，符号無しの整数型であるINTNO型で表し，ターゲットハードウェアの仕様から決まる自然な番号付けを基本として，ターゲット定義で付与される．そのため，1から連続した正の値であるとは限らない．

それに対して，アプリケーションが用意した割込みハンドラをカーネルに登録する場合に，割込みハンドラの登録対象となる割込みを識別するための番号を，割込みハンドラ番号と呼ぶ．割込みハンドラ番号は，符号無しの整数型であるINHNO型で表し，ターゲットハードウェアの仕様から決まる自然な番号付けを基本として，ターゲット定義で付与される．そのため，1から連続した正の値であるとは限らない．

割込みハンドラ番号は，割込み番号と1対1に対応するのが基本である（両者が一致する場合が多い）．

ただし，割込みを要求したデバイスが割込みベクタを生成してプロセッサに渡すアーキテクチャなどでは，割込み番号と割込みハンドラ番号の対応を，カーネルが管理していない場合がある．そこで，ターゲット定義で，割込み番号に対応しない割込みハンドラ番号や，割込みハンドラ番号に対応しない割込み番号を設ける場合もある．ただし，割込みサービスルーチンの登録対象にできる割込み番号は，割込みハンドラ番号との1対1の対応関係をカーネルが管理しているもののみである．

2.7.6 マルチプロセッサにおける割込み処理

この節では，マルチプロセッサにおける割込み処理について説明する．この節の内容は，マルチプロセッサ対応カーネルにのみ適用される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，TOPPERS標準割込み処理モデルの構成要素の中で，図2-4の破線に囲まれた部分はプロセッサ毎に持ち，それ以外の部分はシステム全体で1つのみ持つ．すなわち，全割込みロックフラグ，CPUロックフラグ，割込み優先度マスクはプロセッサ毎に持つのに対して，割込み要求ライ

ンおよびその属性（割込み要求禁止フラグ，割込み優先度，トリガモード）はシステム全体で共通に持つ．

割込み番号は，割込み要求ラインを識別するための番号であることから，割込み要求ラインが複数のプロセッサに接続されている場合でも，1つの割込み要求ラインには1つの割込み番号を付与する．逆に，複数のプロセッサが同じ種類のデバイスを持っている場合でも，別のデバイスからの割込み要求ラインには異なる割込み番号を付与する（図2-5）．図2-5において，ローカルIRCは個々のプロセッサに対する割込みを制御するための回路であり，グローバルIRCはデバイスからの割込みをプロセッサに分配するための回路である．グローバルIRCは，必ず備わっているとは限らない．

割込み要求禁止フラグは，この仕様上はシステム全体で共通に持つこととしているが，実際のターゲットハードウェア（特に，グローバルIRCを備えていないもの）では，プロセッサ毎に持っている場合がある．そのため，ターゲット定義で，あるプロセッサで割込み要求禁止フラグを動的にセット／クリアしても，他のプロセッサに対しては割込みがマスク／マスク解除されない場合があるものとする．

複数のプロセッサに接続された割込み要求ラインに対して登録された割込みサービスルーチンは，それらのプロセッサのいずれによっても実行することができる．ただし，その内のどのプロセッサで割込みサービスルーチンを実行するかは，割込みサービスルーチンが属するクラスの割付け可能プロセッサにより決定される（「2.4.4 処理単位を実行するプロセッサ」の節を参照）．

割込みサービスルーチンが属するクラスの割付け可能プロセッサは，登録対象の割込み要求ラインが接続されたプロセッサの集合に含まれていなければならない．また，同一の割込み要求ラインに対して登録する割込みサービスルーチンは，同一のクラスに属していなければならない．

それに対して，割込みハンドラはプロセッサ毎に登録する．そのため，同じ割込み要求に対応する割込みハンドラであっても，プロセッサ毎に異なる割込みハンドラ番号を付与する（図2-5）．割込みハンドラが属するクラスの初期割付けプロセッサは，割込みが要求されるプロセッサと一致していなければならない．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルにおける割込み番号の付与方法は，複数のプロセッサに接続された割込み要求ラインに対しては，割込み番号の上位ビットを0とし，1つのプロセッサのみに接続された割込み要求ラインに対しては，割込み番号の上位ビットに，接続されたプロセッサのID番号を含める方法を基本とする．また，割込みハンドラ番号の付与方法は，割込みハンドラ番号の上位ビットに，その割込みハンドラを実行するプロセッサのID番号を含める方法を基本とする（図2-5）．

1つのプロセッサのみに接続された割込み要求ラインに対して登録された割込みサービスルーチンは，そのプロセッサのみを割付け可能プロセッサとするクラスに属していなければならない．

【使用上の注意】

複数のプロセッサで実行することができる割込みサービスルーチンは，それらのプロセッサのいずれかで実行されるものと設定した場合でも，複数回の割込み要求により，異なるプロセッサで同時に実行される可能性がある．

2.7.7 カーネル管理外の割込み

高い割込み応答性を求められるアプリケーションでは，カーネル内で割込みをマスクすることにより，割込み応答性の要求を満たせなくなる場合がある．このような要求に対応するために，カーネル内では，ある割込み優先度（これを，TMIN_INTPRIと書く）よりも高い割込み優先度を持つ割込みをマスクしないこととしている．TMIN_INTPRIを固定するか設定できるようにするか，設定できるようにする場合の設定方法は，ターゲット定義である．

TMIN_INTPRIよりも高い割込み優先度を持ち，カーネル内でマスクしない割込みを，カーネル管理外の割込みと呼ぶ．また，カーネル管理外の割込みによって起動される割込みハンドラを，カーネル管理外の割込みハンドラと呼ぶ．NMIは，カーネル管理外の割込みとして扱う．NMI以外にカーネル管理外の割込みを設けるか（設けられるようにするか）どうかは，ターゲット定義である．

それに対して，TMIN_INTPRIと同じかそれよりも低い割込み優先度を持つ割込みをカーネル管理の割込み，カーネル管理の割込みによって起動される割込みハンドラをカーネル管理の割込みハンドラと呼ぶ．

カーネル管理外の割込みハンドラは，カーネル内の割込み入口処理を経由せずに実行するのが基本である．ただし，すべての割込みで同じ番地に分岐するプロセッサでは，カーネル内の割込み入口処理を全く経由せずにカーネル管理外の割込みハンドラを実行することができず，入口処理の一部分を経由してカーネル管理外の割込みハンドラが実行されることになる．

カーネル管理外の割込みハンドラが実行開始される時のシステム状態とコンテキスト，割込みハンドラの終了時に行われる処理，割込みハンドラの記述方法は，ターゲット定義である．カーネル管理外の割込みハンドラからは，システムインタフェースレイヤのAPIとsns_ker，ext_kerのみを呼び出すことができ，その他のサービスコールを呼び出すことはできない．カーネル管理外の割込みハンドラから，その他のサービスコールを呼び出した場合の動作は，保証されない．

2.7.8 カーネル管理外の割込みの設定方法

カーネル管理外の割込みの設定方法は，ターゲット定義で，次の3つの方法のいずれかが採用される．

(a-1) NMI以外にカーネル管理外の割込みを設けない
(a-2) カーネル構築時に特定の割込みをカーネル管理外にすると決める

これら場合には，カーネル管理外とする割込みはカーネル構築時（ターゲット依存部の実装時やカーネルのコンパイル時）に決まるため，カーネル管理外とする割込みをアプリケーション側で設定する必要はない．ここで，カーネル管

理外とされた割込みに対して，カーネルのAPIにより割込みハンドラを登録できるかと，割込み要求ラインの属性を設定できるかは，ターゲット定義である．割込みハンドラを登録できる場合には，それを定義するAPIにおいて，カーネル管理外であることを示す割込みハンドラ属性（TA_NONKERNEL）を指定する．また，割込み要求ラインの属性を設定できる場合には，設定する割込み優先度をTMIN_INTPRIよりも高い値とする．

(b) カーネル管理外とする割込みをアプリケーションで設定できるようにする

この場合には，カーネル管理外とする割込みの設定は，次の方法で行う．まず，カーネル管理外とする割込みハンドラを定義するAPIにおいて，カーネル管理外であることを示す割込みハンドラ属性（TA_NONKERNEL）を指定する．また，カーネル管理外とする割込みの割込み要求ラインに対して設定する割込み優先度を，TMIN_INTPRIよりも高い値とする．

いずれの場合にも，カーネル管理の割込みの割込み要求ラインに対して設定する割込み優先度は，TMIN_INTPRIより高い値であってはならない．また，カーネル管理外の割込みに対して，割込みサービスルーチンを登録することはできない．

2.8 CPU例外処理モデル

プロセッサが検出するCPU例外の種類や，CPU例外検出時のプロセッサの振舞いは，プロセッサによって大きく異なる．そのため，CPU例外ハンドラをターゲットハードウェアに依存せずに記述することは，少なくとも現時点では困難である．そこでこの仕様では，CPU例外の処理モデルを厳密に標準化するのではなく，ターゲットハードウェアに依存せずに決められる範囲で規定する．

2.8.1 CPU例外処理の流れ

アプリケーションは，プロセッサが検出するCPU例外の種類毎に，CPU例外ハンドラを登録することができる．プロセッサがCPU例外の発生を検出すると，カーネル内のCPU例外ハンドラの入口処理（CPU例外入口処理）を経由して，発生したCPU例外に対して登録したCPU例外ハンドラが呼び出される．

CPU例外ハンドラの登録対象となるCPU例外を識別するための番号を，CPU例外ハンドラ番号と呼ぶ．CPU例外ハンドラ番号は，符号無しの整数型であるEXCNO型で表し，ターゲットハードウェアの仕様から決まる自然な番号付けを基本として，ターゲット定義で付与される．そのため，1から連続した正の値であるとは限らない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，異なるプロセッサで発生するCPU例外は，異なるCPU例外であると扱う．すなわち，同じ種類のCPU例外であっても，異なるプロセッサのCPU例外には異なるCPU例外ハンドラ番号を付与し，プロセッサ毎にCPU例外ハンドラを登録する．CPU例外ハンドラが属するクラスの初期割付けプロセッサは，CPU例外が発生するプロセッサと一致していなければならない．

CPU例外ハンドラにおいては，CPU例外が発生した状態からのリカバリ処理を行う．どのようなリカバリ処理を行うかは，一般にはCPU例外の種類やそれが発生したコンテキストおよび状態に依存するが，大きく次の4つの方法が考えられる．

(a) カーネルに依存しない形でCPU例外の原因を取り除き，実行を継続する．

(b) CPU例外を起こしたタスクよりも優先度の高いタスクを起動または待ち解除し，そのタスクでリカバリ処理を行う（例えば，CPU例外を起こしたタスクを強制終了し，再度起動する）．ただし，CPU例外を起こしたタスクが最高優先度の場合には，この方法でリカバリ処理を行うことはできない（リカバリ処理を行うタスクを最高優先度とし，タスクの起動または待ち解除後に優先順位を回転させることで，リカバリ処理を行える可能性があるが，CPU例外を起こしたタスクが制約タスクの場合には適用できないなど，推奨できる方法ではない）．

(c) CPU例外を起こしたタスクにタスク例外処理を要求し，タスク例外処理ルーチンでリカバリ処理を行う（例えば，CPU例外を起こしたタスクを終了する）．

(d) システム全体に対してリカバリ処理を行う（例えば，システムを再起動する）．

この中で(a)と(d)の方法は，カーネルの機能を必要としないため，CPU例外が発生したコンテキストおよび状態に依存せずに常に行える．それに対して(b)と(c)の方法は，CPU例外ハンドラからそのためのサービスコールを呼び出せることが必要であり，それが行えるかどうかは，CPU例外が発生したコンテキストおよび状態に依存する．

なお，発生したCPU例外に対して，CPU例外ハンドラを登録していない場合の振舞いは，ターゲット定義である．

【使用上の注意】

CPU例外入口処理でCPU例外が発生し，それを処理するためのCPU例外ハンドラの入口処理で同じ原因でCPU例外が発生すると，CPU例外が繰り返し発生し，アプリケーションが登録したCPU例外ハンドラまで処理が到達しない状況が考えられる．このような状況が発生するかどうかはターゲットによるが，これが許容できない場合には，CPU例外入口処理を経由せずに，アプリケーションが用意したCPU例外ハンドラを直接実行するようにしなければならない．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルにおけるCPU例外ハンドラ番号の付与方法は，CPU例外ハンドラ番号の上位ビットに，そのCPU例外が発生するプロセッサのID番号を含める方法を基本とする．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，CPU例外からのリカバリ処理の方法については，記述されていない．

2.8.2 CPU例外ハンドラから呼び出せるサービスコール

CPU例外ハンドラからは，CPU例外発生時のディスパッチ保留状態を参照するサービスコール（xsns_dpn）と，CPU例外発生時にタスク例外処理ルーチンを実行開

始できない状態であったかを参照するサービスコール（xsns_xpn）を呼び出すことができる．

xsns_dpnは，CPU例外がタスクコンテキストで発生し，そのタスクがディスパッチできる状態であった場合にfalseを返す．xsns_dpnがfalseを返した場合，そのCPU例外ハンドラから，非タスクコンテキストから呼び出せるすべてのサービスコールを呼び出すことができ，(b)の方法によるリカバリ処理が可能である．ただし，CPU例外を起こしたタスクが最高優先度の場合には，この方法でリカバリ処理を行うことはできない．

xsns_xpnは，CPU例外がタスクコンテキストで発生し，そのタスクがタスク例外処理ルーチンを実行できる状態であった場合にfalseを返す．xsns_xpnがfalseを返した場合，そのCPU例外ハンドラから，非タスクコンテキストから呼び出せるすべてのサービスコールを呼び出すことができ，(c)の方法によるリカバリ処理が可能である．

xsns_dpnとxsns_xpnのいずれのサービスコールもtrueを返した場合，そのCPU例外ハンドラからは，xsns_dpnとxsns_xpnに加えて，システムインタフェースレイヤのAPIとsns_ker，ext_kerのみを呼び出すことができ，その他のサービスコールを呼び出すことはできない．いずれのサービスコールもtrueを返したにもかかわらず，その他のサービスコールを呼び出した場合の動作は，保証されない．この場合には，(b)と(c)の方法によるリカバリ処理は行うことはできず，(a)または(d)の方法によるリカバリ処理を行うしかないことになる．

【μITRON4.0仕様との関係】

CPU例外ハンドラで行える操作に関しては，μITRON4.0仕様を見直し，全面的に修正した．

2.8.3 エミュレートされたCPU例外ハンドラ

エラーコードによってアプリケーションに通知できないエラーをカーネルが検出した場合に，アプリケーションが登録したエラー処理を，カーネルが呼び出す場合がある．この場合に，カーネルが検出するエラーをCPU例外と同等に扱うものとし，エミュレートされたCPU例外と呼ぶ．また，エラー処理のためのプログラムをCPU例外ハンドラと同等に扱うものとし，エミュレートされたCPU例外ハンドラと呼ぶ．

具体的には，エミュレートされたCPU例外ハンドラに対してもCPU例外ハンドラ番号が付与され，CPU例外ハンドラと同じ方法で登録できる．また，エミュレートされたCPU例外ハンドラからも，CPU例外ハンドラから呼び出せるサービスコールを呼び出すことができ，CPU例外ハンドラと同様のリカバリ処理を行うことができる．

【μITRON4.0仕様との関係】

エミュレートされたCPU例外およびCPU例外ハンドラは，μITRON4.0仕様に定義されていない概念である．

2.8.4 カーネル管理外のCPU例外

カーネル内のクリティカルセクションの実行中（これを，カーネル実行中と呼ぶ），全割込みロック状態，CPUロック状態，カーネル管理外の割込みハンドラ実行中のいずれかで発生したCPU例外を，カーネル管理外のCPU例外と呼ぶ．また，それによって起動されるCPU例外ハンドラを，カーネル管理外のCPU例外ハンドラと呼ぶ．さらに，カーネル管理外のCPU例外ハンドラ実行中に発生したCPU例外も，カーネル管理外のCPU例外とする．

それに対して，カーネル管理外のCPU例外以外のCPU例外をカーネル管理のCPU例外，カーネル管理のCPU例外によって起動されるCPU例外ハンドラをカーネル管理のCPU例外ハンドラと呼ぶ．

カーネル管理外のCPU例外ハンドラからは，システムインタフェースレイヤのAPIとsns_ker，ext_ker，xsns_dpn，xsns_xpnのみを呼び出すことができ，その他のサービスコールを呼び出すことはできない．カーネル管理外のCPU例外ハンドラから，その他のサービスコールを呼び出した場合の動作は，保証されない．

カーネル管理外のCPU例外ハンドラにおいては，xsns_dpnとxsns_xpnのいずれのサービスコールもtrueを返す．そのため，カーネル管理外のCPU例外からは，(a)または(d)の方法によるリカバリ処理しか行えない．

【補足説明】

カーネル管理外のCPU例外は，カーネル管理外の割込みと異なり，特定のCPU例外をカーネル外とするわけではない．同じCPU例外であっても，CPU例外が起こる状況によって，カーネル管理となる場合とカーネル管理外となる場合がある．

2.9 システムの初期化と終了

2.9.1 システム初期化手順

システムのリセット後，最初に実行するプログラムを，スタートアップモジュールと呼ぶ．スタートアップモジュールはカーネルの管理外であり，アプリケーションで用意するのが基本であるが，スタートアップモジュールで行うべき処理を明確にするために，カーネルの配布パッケージの中に，標準のスタートアップモジュールが用意されている．

標準のスタートアップモジュールは，プロセッサのモードとスタックポインタ等の初期化，NMIを除くすべての割込みのマスク（全割込みロック状態と同等の状態にする），ターゲットシステム依存の初期化フックの呼出し，非初期化データセクション（bssセクション）のクリア，初期化データセクション（dataセクション）の初期化，ソフトウェア環境（ライブラリなど）依存の初期化フックの呼出しを行った後，カーネルの初期化処理へ分岐する．ここで呼び出すターゲットシステム依存の初期化フックでは，リセット後に速やかに行うべき初期化処理を行うことが想定されている．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，すべてのプロセッサがスタートアップモジュールを実行し，カーネルの初期化処理へ分岐する．ただし，共有リソースの初期化処理（非初期化データセクションのクリア，初期化データセクションの初期化，ソフトウェア環境依存の初期化フックの呼出しなど）は，マスタプ

ロセッサのみで実行する．各プロセッサがカーネルの初期化処理へ分岐するのは，共有リソースの初期化処理が完了した後でなければならないため，スレーブプロセッサは，カーネルの初期化処理へ分岐する前に，マスタプロセッサによる共有リソースの初期化処理の完了を待ち合わせる必要がある．

カーネルの初期化処理においては，まず，カーネル自身の初期化処理（カーネル内のデータ構造の初期化，カーネルが用いるデバイスの初期化など）と静的APIの処理（オブジェクトの登録など）が行われる．静的APIのパラメータに関するエラーは，コンフィギュレータによって検出されるのが原則であるが，コンフィギュレータで検出できないエラーが，この処理中に検出される場合もある．

静的APIの処理順序によりシステムの規定された振舞いが変化する場合には，システムコンフィギュレーションファイルにおける静的APIの記述順と同じ順序で静的APIが処理された場合と，同じ振舞いとなる．例えば，静的APIによって同じ優先度のタスクを複数生成・起動した場合，静的APIの記述順が先のタスクが高い優先順位を持つ．それに対して，周期ハンドラの動作開始順序は，同じタイムティックで行うべき処理が複数ある場合の処理順序が規定されないことから（「4.6.1 システム時刻管理」の節を参照），静的APIの記述順となるとは限らない．

次に，静的API（ATT_INI）により登録した初期化ルーチンが，システムコンフィギュレーションファイルにおける静的APIの記述順と同じ順序で実行される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，すべてのプロセッサがカーネル自身の初期化処理と静的APIの処理を完了した後に，マスタプロセッサがグローバル初期化ルーチンを実行する．グローバル初期化ルーチンの実行が完了した後に，各プロセッサは，自プロセッサに割り付けられたローカル初期化ルーチンを実行する．すなわち，ローカル初期化ルーチンは，初期割付けプロセッサにより実行される．

以上が終了すると，カーネル非動作状態から動作状態に遷移し（「2.5.1 カーネル動作状態と非動作状態」の節を参照），カーネルの動作が開始される．具体的には，システム状態が，全割込みロック解除状態・CPUロック解除状態・割込み優先度マスク全解除状態・ディスパッチ許可状態に設定され（すなわち，割込みがマスク解除され），タスクの実行が開始される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，すべてのプロセッサがローカル初期化ルーチンの実行を完了した後に，カーネル非動作状態から動作状態に遷移し，カーネルの動作が開始される．マルチプロセッサ対応カーネルにおけるシステム初期化の流れと，各プロセッサが同期を取るタイミングを，図2-6に示す．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様においては，初期化ルーチンの実行は静的APIの処理に含まれるものとしていたが，この仕様では，初期化ルーチンを登録する静的APIの処理は，初期化ルーチンを登録することのみを意味し，初期化ルーチンの実行は含まないものとした．

2.9.2 システム終了手順

カーネルを終了させるサービスコール（ext_ker）を呼び出すと，カーネル動作状態から非動作状態に遷移する（「2.5.1 カーネル動作状態と非動作状態」の節を参照）．具体的には，NMIを除くすべての割込みがマスクされ，タスクの実行が停止される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，カーネルを終了させるサービスコール（ext_ker）は，どのプロセッサからでも呼び出すことができる．1つのプロセッサでカーネルを終了させるサービスコールを呼び出すと，そのプロセッサがカーネル動作状態から非動作状態に遷移した後，他のプロセッサに対してカーネル終了処理の開始を要求する．複数のプロセッサから，カーネルを終了させるサービスコール（ext_ker）を呼び出してもよい．

次に，静的API（ATT_TER）により登録した終了処理ルーチンが，システムコンフィギュレーションファイルにおける静的APIの記述順と逆の順序で実行される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，すべてのプロセッサがカーネル非動作状態に遷移した後に，各プロセッサが，自プロセッサに割り付けられたローカル終了処理ルーチンを実行する．すなわち，ローカル終了処理ルーチンは，初期割付けプロセッサにより実行される．すべてのプロセッサでローカル処理ルーチンの実行が完了した後に，マスタプロセッサがグローバル終了処理ルーチンを実行する．

以上が終了すると，ターゲットシステム依存の終了処理が呼び出される．ターゲットシステム依存の終了処理は，カーネルの管理外であり，アプリケーションで用意するのが基本であるが，カーネルの配布パッケージの中に，ターゲットシステム毎に標準的なルーチンが用意されている．標準のターゲットシステム依存の終了処理では，ソフトウェア環境（ライブラリなど）依存の終了処理フックを呼び出す．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，すべてのプロセッサで，ターゲットシステム依存の終了処理が呼び出される．マルチプロセッサ対応カーネルにおけるシステム終了処理の流れと，各プロセッサが同期を取るタイミングを，図2-7に示す．

【使用上の注意】

マルチプロセッサ対応カーネルで，あるプロセッサからカーネルを終了させるサービスコール（ext_ker）を呼び出しても，他のプロセッサがカーネル動作状態で割込みをマスクしたまま実行し続けると，カーネルが終了しない．

プロセッサが割込みをマスクしたまま実行し続けないようにするのは，アプリケーションの責任である．例えば，ある時間を超えて割込みをマスクしたまま実行し続けていないかを，ウォッチドッグタイマを用いて監視する方法が考えられる．割込みをマスクしたまま実行し続けていた場合には，そのプロセッサからもカーネルを終了させるサービスコール（ext_ker）を呼び出すことで，カーネルを終了させることができる．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様には，システム終了に関する規定はない．

2.10 オブジェクトの登録とその解除

2.10.1 ID番号で識別するオブジェクト

ID番号で識別するオブジェクトは，オブジェクトを生成する静的API（CRE_YYY），サービスコール（acre_yyy），またはオブジェクトを追加する静的API（ATT_YYY，ATA_YYY）によってカーネルに登録する．オブジェクトを追加する静的APIによって登録されたオブジェクトはID番号を持たないため，ID番号を指定して操作することができない．

オブジェクトを生成する静的API（CRE_YYY）は，生成するオブジェクトにID番号を割り付け，ID番号を指定するパラメータとして記述した識別名を，割り付けたID番号にマクロ定義する．同じ識別名のオブジェクトが生成済みの場合には，E_OBJエラーとなる．

オブジェクトを生成するサービスコール（acre_yyy）は，割付け可能なID番号の数を指定する静的API（AID_YYY）によって確保されたID番号の中から，使用されていないID番号を1つ選び，生成するオブジェクトに割り付ける．割り付けたID番号は，サービスコールの返値としてアプリケーションに通知する．使用されていないID番号が残っていない場合には，E_NOIDエラーとなる．

割付け可能なID番号の数を指定する静的API（AID_YYY）は，システムコンフィギュレーションファイル中に複数記述することができる．その場合，各静的APIで指定した数の合計の数のID番号が確保される．

オブジェクトを生成するサービスコール（acre_yyy）によって登録したオブジェクトは，オブジェクトを削除するサービスコール（del_yyy）によって登録を解除することができる．登録解除したオブジェクトのID番号は，未使用の状態に戻され，そのID番号を用いて新しいオブジェクトを登録することができる．この場合に，登録解除前のオブジェクトに対して行うつもりの操作が，新たに登録したオブジェクトに対して行われないように，注意が必要である．

オブジェクトを生成または追加する静的APIによって登録したオブジェクトは，登録を解除することができない．登録を解除しようとした場合には，E_OBJエラーとなる．

タスク以外の処理単位は，その処理単位が実行されている間でも，登録解除することができる．この場合，登録解除された処理単位に実行が強制的に終了させられることはなく，処理単位が自ら実行を終了するまで，処理単位の実行は継続される．

同期・通信オブジェクトを削除した時に，そのオブジェクトを待っているタスクがあった場合，それらのタスクは待ち解除され，待ち状態に遷移させたサービスコールはE_DLTエラーとなる．複数のタスクが待ち解除される場合には，待ち行列につながれていた順序で待ち解除される．削除した同期・通信オブジェクトが複数の待ち行列を持つ場合には，別の待ち行列で待っていたタスクの間の待ち解除の順序は，該当するサービスコール毎に規定する．

オブジェクトを再初期化するサービスコール（ini_yyy）は，指定したオブジェクトを削除した後に，同じパラメータで再度生成したのと等価の振舞いをする．ただし，オブジェクトを生成または追加する静的APIによって登録したオブジェクトも，再初期化することができる．

なお，動的生成対応カーネル以外では，オブジェクトを生成するサービスコール（acre_yyy），割付け可能なID番号の数を指定する静的API（AID_YYY），オブジェクトを削除するサービスコール（del_yyy）は，サポートされない．

【μITRON4.0仕様との関係】

ID番号を指定してオブジェクトを生成するサービスコール（cre_yyy）を廃止した．また，オブジェクトを生成または追加する静的APIによって登録したオブジェクトは，登録解除できないこととした．

μITRON4.0仕様では，割付け可能なID番号の数を指定する静的API（AID_YYY）は規定されていない．

複数の待ち行列を持つ同期・通信オブジェクトを削除した時に，別の待ち行列で待っていたタスクの間の待ち解除の順序は，μITRON4.0仕様では実装依存とされている．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

アクセス許可ベクタを指定してオブジェクトを生成する静的API（CRA_YYY）は廃止し，オブジェクトの登録後にアクセス許可ベクタを設定する静的API（SAC_YYY）をサポートすることとした．これにあわせて，アクセス許可ベクタを指定してオブジェクトを登録するサービスコール（cra_yyy，acra_yyy，ata_yyy）も廃止した．

【仕様決定の理由】

ID番号を指定してオブジェクトを生成するサービスコール（cre_yyy）とアクセス許可ベクタを指定してオブジェクトを登録するサービスコール（cra_yyy，acra_yyy，ata_yyy）を廃止したのは，必要性が低いと考えたためである．
静的APIについても，サービスコールに整合するよう変更した．

2.10.2 オブジェクト番号で識別するオブジェクト

オブジェクト番号で識別するオブジェクトは，オブジェクトを定義する静的API（DEF_YYY）またはサービスコール（def_yyy）によってカーネルに登録する．

オブジェクトを定義するサービスコール（def_yyy）によって登録したオブジェクトは，同じサービスコールを，オブジェクトの定義情報を入れたパケットへのポインタをNULLとして呼び出すことによって，登録を解除することができる．登録解除したオブジェクト番号は，オブジェクト登録前の状態に戻され，同じオブジェクト番号に対して新たにオブジェクトを定義することができる．登録解除されていないオブジェクト番号に対して再度オブジェクトを登録しようとした場合には，E_OBJエラーとなる．

オブジェクトを定義する静的APIによって登録したオブジェクトは，登録を解除することができない．登録を解除しようとした場合には，E_OBJエラーとなる．

なお，動的生成対応カーネル以外では，オブジェクトを定義するサービスコール（def_yyy）はサポートされない．

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，オブジェクトの定義を変更したい場合には，一度登録解除した後に，新たにオブジェクトを定義する必要がある．また，オブジェクトを定義する静的APIによって登録したオブジェクトは，この仕様では，登録解除できないこととした．

2.10.3 識別番号を持たないオブジェクト

識別する必要がないために，識別番号を持たないオブジェクトは，オブジェクトを追加する静的API（ATT_YYY）によってカーネルに登録する．

2.10.4 オブジェクト生成に必要なメモリ領域

カーネルオブジェクトを生成する際に，サイズが一定でないメモリ領域を必要とする場合には，カーネルオブジェクトを生成する静的APIおよびサービスコールに，使用するメモリ領域の先頭番地を渡すパラメータを設けている．このパラメータをNULLとした場合，必要なメモリ領域は，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保される．

オブジェクト生成に必要なメモリ領域の中で，カーネルの内部で用いるものを，カーネルの用いるオブジェクト管理領域と呼ぶ．この仕様では，以下のメモリ領域が，カーネルの用いるオブジェクト管理領域に該当する．

- データキュー管理領域
- 優先度データキュー管理領域
- 優先度別のメッセージキューヘッダ領域
- 固定長メモリプール管理領域

【補足説明】

カーネルオブジェクトを生成する際には，管理ブロックなどを置くためのメモリ領域も必要になるが，サイズが一定のメモリ領域はコンフィギュレータにより確保されるため，カーネルオブジェクトを生成する静的APIおよびサービスコールにそれらのメモリ領域の先頭番地を渡すパラメータを設けていない．

2.10.5 オブジェクトが属する保護ドメインの設定

保護機能対応カーネルにおいて，カーネルオブジェクトが属する保護ドメインは，オブジェクトの登録時に決定し，登録後に変更することはできない．

カーネルオブジェクトを静的APIによって登録する場合には，オブジェクトを登録する静的APIを，そのオブジェクトを属させる保護ドメインの囲みの中に記述する．無所属のオブジェクトを登録する静的APIは，保護ドメインの囲みの外に

記述する（「2.12.3 保護ドメインの指定」の節を参照）．

カーネルオブジェクトをサービスコールによって登録する場合には，オブジェクト属性にTA_DOM(domid)を指定することにより，オブジェクトを属させる保護ドメインを設定する．ここでdomidは，そのオブジェクトを属させる保護ドメインのID番号であり，TDOM_KERNEL（＝-1）を指定することでカーネルドメインに属させることができる．また，domidにTDOM_SELF（＝0）を指定するか，オブジェクト属性にTA_DOM(domid)を指定しないことで，自タスクが属する保護ドメインに属させることができる．さらに，無所属のオブジェクトを登録する場合には，domidにTDOM_NONE（＝-2）を指定する．

ただし，特定の保護ドメインのみに属することができるカーネルオブジェクトを登録するサービスコールの中には，オブジェクトを属させる保護ドメインをオブジェクト属性で設定する必要がないものもある．

割付け可能なID番号の数を指定する静的API（AID_YYY）で確保したID番号は，どの保護ドメインに属するオブジェクトにも（また，無所属のオブジェクトにも）割り付けられる．これらの静的APIは，保護ドメインの囲みの外に記述しなければならない．保護ドメインの囲みの中に記述した場合には，E_RSATRエラーとなる．

【補足説明】

この仕様では，カーネルオブジェクトの属する保護ドメインを参照する機能は用意していない．

【仕様決定の理由】

カーネルオブジェクトをサービスコールによって登録する場合に，オブジェクトを属させる保護ドメインをオブジェクト属性で指定することにしたのは，保護機能対応でないカーネルとの互換性のためには，サービスコールのパラメータを増やさない方が望ましいためである．

2.10.6 オブジェクトが属するクラスの設定

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，カーネルオブジェクトが属するクラスは，オブジェクトの登録時に決定し，登録後に変更することはできない．

カーネルオブジェクトを静的APIによって登録する場合には，オブジェクトを登録する静的APIを，そのオブジェクトを属させるクラスの囲みの中に記述する．クラスに属さないオブジェクトを登録する静的APIは，クラスの囲みの外に記述する（「2.12.4 クラスの指定」の節を参照）．

カーネルオブジェクトをサービスコールによって登録する場合には，オブジェクト属性にTA_CLS(clsid)を指定することにより，オブジェクトを属させるクラスを設定する．ここでclsidは，そのオブジェクトを属させるクラスのID番号であり，clsidにTCLS_SELF（＝0）を指定するか，オブジェクト属性にTA_CLS(clsid)を指定しないことで，自タスクが属するクラスに属させることができる．

割付け可能なID番号の数を指定する静的API（AID_YYY）で確保したID番号は，静的APIを囲むクラスに属するオブジェクトにのみ割り付けられる．これらの静的APIは，確保したID番号を割り付けるオブジェクトの属すべきクラスの囲みの中に記述しなければならない．クラスの囲みの外に記述した場合には，E_RSATRエラーとなる．

【補足説明】

この仕様では，カーネルオブジェクトの属するクラスを参照する機能は用意していない．

【仕様決定の理由】

カーネルオブジェクトをサービスコールによって登録する場合に，オブジェクトを属させるクラスをオブジェクト属性で指定することにしたのは，マルチプロセッサ対応でないカーネルとの互換性のためには，サービスコールのパラメータを増やさない方が望ましいためである．

2.10.7 オブジェクトの状態参照

ID番号で識別するオブジェクトのすべてと，オブジェクト番号で識別するオブジェクトの一部に対して，オブジェクトの状態を参照するサービスコール（ref_yyy，get_yyy）を用意する．

オブジェクトの状態を参照するサービスコールでは，オブジェクトの登録時に指定し，その後に変化しない情報（例えば，タスクのタスク属性や初期優先度）を参照するための機能は用意しないことを原則とする．自タスクの拡張情報の参照するサービスコール（get_inf）は，この原則に対する例外である．

2.11 オブジェクトのアクセス保護

この節では，カーネルオブジェクトのアクセス保護について述べる．この節の内容は，保護機能対応カーネルにのみ適用される．

2.11.1 オブジェクトのアクセス保護とアクセス違反の通知

カーネルオブジェクトに対するアクセスは，そのオブジェクトに対して設定されたアクセス許可ベクタによって保護される．ただし，アクセス許可ベクタを持たないオブジェクトに対するアクセスは，システム状態に対するアクセス許可ベクタによって保護される．また，オブジェクトを登録するサービスコールと，特定のオブジェクトに関連しないシステムの状態に対するアクセスについては，システム状態のアクセス許可ベクタによって保護される．

アクセス許可ベクタによって許可されていないアクセス（アクセス違反）は，カーネルによって検出され，以下の方法によって通知される．

サービスコールにより，メモリオブジェクト以外のカーネルオブジェクトに対して，許可されていないアクセスを行おうとした場合，サービスコールからE_OACVエラーが返る．また，メモリオブジェクトに対して，許可されていない管理操作または参照操作を行おうとした場合も，サービスコールからE_OACVエ

ラーが返る．

メモリオブジェクトに対して，通常のメモリアクセスにより，許可されていない書込みアクセスまたは読出しアクセス（実行アクセスを含む）を行おうとした場合，CPU例外ハンドラが起動される．どのCPU例外ハンドラが起動されるかは，ターゲット定義である．ターゲットによっては，エミュレートされたCPU例外ハンドラの場合もある．また，ターゲット定義で，アクセス違反の状況に応じて異なるCPU例外ハンドラが起動される場合もある．この（これらの）CPU例外ハンドラを，メモリアクセス違反ハンドラと呼ぶ．

メモリオブジェクトに対して，サービスコールを通じて，許可されていない書込みアクセスまたは読出しアクセスを行おうとした場合，サービスコールからE_MACVエラーが返るか，メモリアクセス違反ハンドラが起動される．E_MACVエラーが返るかメモリアクセス違反ハンドラされるかは，ターゲット定義である．

メモリアクセス違反ハンドラでは，アクセス違反を発生させたアクセスに関する情報（アクセスした番地，アクセスの種別，アクセスした命令の番地など）を参照する方法を，ターゲット定義で用意する．

メモリオブジェクトとしてカーネルに登録されていないメモリ領域に対して，カーネルドメイン以外の保護ドメインから，書込みアクセスまたは読出しアクセス（実行アクセスを含む）を行おうとした場合には，メモリオブジェクトに対するアクセスが許可されていない場合と同様に扱われる．

【未決定事項】

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，システム状態のアクセス許可ベクタをシステム全体で1つ持つかプロセッサ毎に持つかは，今後の課題である．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様では，アクセス保護の実装定義の制限について規定しているが，この仕様では，メモリオブジェクトに対するアクセス許可ベクタのターゲット定義の制限以外については規定していない．

【仕様決定の理由】

オブジェクトを登録するサービスコールを，そのオブジェクトのアクセス許可ベクタによって保護しないのは，オブジェクトを登録する前には，アクセス許可ベクタが設定されていないためである．

2.11.2 メモリオブジェクトに対するアクセス許可ベクタの制限

メモリオブジェクトの書込みアクセスと読出しアクセス（実行アクセスを含む）に対して設定できるアクセス許可パターンは，ターゲット定義で制限される場合がある．

ただし，少なくとも，次の5つの組み合わせの設定は，行うことができる．

(a) メモリオブジェクトが属する保護ドメインのみに，読出しアクセス（実行

アクセスを含む）のみを許可する．これを，専有リードオンリー（private read only）と呼ぶ．

(b) メモリオブジェクトが属する保護ドメインのみに，書込みアクセスと読出しアクセス（実行アクセスを含む）を許可する．これを，専有リードライト（private read/write）と呼ぶ．

(c) すべての保護ドメインに，読出しアクセス（実行アクセスを含む）のみを許可する．これを，共有リードオンリー（shared read only）と呼ぶ．

(d) すべての保護ドメインに，書込みアクセスと読出しアクセス（実行アクセスを含む）を許可する．これを，共有リードライト（shared read/write）と呼ぶ．

(e) メモリオブジェクトが属する保護ドメインに，書込みアクセスと読出しアクセス（実行アクセスを含む）を許可し，他の保護ドメインには，読出しアクセス（実行アクセスを含む）のみを許可する．これを，共有リード専有ライト（shared read private write）と呼ぶ．

また，ターゲット定義で，1つの保護ドメインに登録できるメモリオブジェクトの数が制限される場合がある．

2.11.3 デフォルトのアクセス許可ベクタ

静的APIによりカーネルオブジェクトを登録した直後は，次に規定されるデフォルトのアクセス許可ベクタが設定される．

保護ドメインに属するカーネルオブジェクトに対しては，4つの種別のアクセスがいずれも，その保護ドメインのみに許可される．すなわち，カーネルドメインに属するオブジェクトに対しては，4つのアクセス許可パターンがいずれもTACP_KERNELに，ユーザドメインに属するオブジェクトに対しては，4つのアクセス許可パターンがいずれもTACP(domid)（domidはオブジェクトが属する保護ドメインのID番号）に設定される．

無所属のカーネルオブジェクトに対しては，4つの種別のアクセスがいずれも，すべての保護ドメインに許可される．すなわち，4つのアクセス許可パターンがいずれも，TACP_SHAREDに設定される．

システム状態のアクセス許可ベクタは，4つの種別のアクセスがいずれも，カーネルドメインのみに許可される．すなわち，4つのアクセス許可パターンがいずれも，TACP_KERNELに設定される．

【未決定事項】

サービスコールによりカーネルオブジェクトを登録した直後のアクセス許可ベクタについては，今後の課題である．

2.11.4 アクセス許可ベクタの設定

アクセス許可ベクタをデフォルト以外の値に設定するために，カーネルオブジェ

クトのアクセス許可ベクタを設定する静的API（SAC_YYY）とサービスコール（sac_yyy）が用意されている．また，システム状態のアクセス許可ベクタを設定する静的API（SAC_SYS）とサービスコール（sac_sys）が用意されている．

ただし，静的APIによって登録したオブジェクトは，サービスコール（sac_yyy）によってアクセス許可ベクタを設定することができない．アクセス許可ベクタを設定しようとした場合には，E_OBJエラーとなる．

メモリオブジェクトに対しては，アクセス許可ベクタを設定する静的APIは用意されておらず，オブジェクトの登録と同時にアクセス許可ベクタを設定する静的API（ATA_YYY）が用意されている．

オブジェクトに対するアクセスが許可されているかは，そのオブジェクトにアクセスするサービスコールを呼び出した時点でチェックされる．そのため，アクセス許可ベクタを変更しても，変更以前に呼び出されたサービスコールの振舞いには影響しない．例えば，待ち行列を持つ同期・通信オブジェクトのアクセス許可ベクタを変更しても，呼び出した時点ですでに待ち行列につながれているタスクには影響しない．また，ミューテックスのアクセス許可ベクタを変更しても，呼び出した時点ですでにミューテックをロックしていたタスクには影響しない．

なお，動的生成対応カーネル以外では，アクセス許可ベクタを設定するサービスコール（sac_yyy）はサポートされない．

この仕様では，カーネルオブジェクトに設定されたアクセス許可ベクタを参照する機能は用意していない．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

アクセス許可ベクタを指定してオブジェクトを生成する静的API（CRA_YYY）は廃止し，オブジェクトの登録後にアクセス許可ベクタを設定する静的API（SAC_YYY）をサポートすることとした．

静的APIによって登録したオブジェクトは，サービスコール（sac_yyy）によってアクセス許可ベクタを設定することができないこととした．

オブジェクトの状態参照するサービスコール（ref_yyy）により，オブジェクトに設定されたアクセス許可ベクタを参照する機能サポートしないこととした．これは，オブジェクトの登録時に指定し，その後に変化しない情報を参照するための機能は用意しないという原則に合わせるための修正である．

2.11.5 カーネルの管理領域のアクセス保護

カーネルが動作するために，カーネルの内部で用いるメモリ領域を，カーネルの管理領域と呼ぶ．ユーザタスクからカーネルを保護するためには，カーネルの管理領域にアクセスできるのは，カーネルドメインのみでなければならない．そのため，カーネルの管理領域は，4つの種別のアクセスがカーネルドメインのみに許可されたメモリオブジェクト（これを，カーネル専用のメモリオブジェクトと呼ぶ）の中に置かれる．

カーネルの用いるオブジェクト管理領域（カーネルの管理領域に該当する．「2.10.4 オブジェクト生成に必要なメモリ領域」の節を参照）として，カーネル専用のメモリオブジェクトに含まれないメモリ領域を指定した場合，E_OBJエラーとなる．また，カーネルの用いるオブジェクト管理領域の先頭番地にNULLを指定した場合，必要なメモリ領域が，カーネル専用のメモリオブジェクトの中に確保される．

システムタスクのスタック領域，ユーザタスクのシステムスタック領域，非タスクコンテキスト用のスタック領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域には該当しないが，カーネルドメインの実行中にのみアクセスされるため，カーネルの用いるオブジェクト管理領域と同様の扱いとなる．一方，ユーザタスクのユーザスタック領域と固定長メモリプール領域は，ユーザドメインの実行中にもアクセスされるため，カーネルの用いるオブジェクト管理領域とは異なる扱いとなる．

2.11.6 ユーザタスクのユーザスタック領域

ユーザタスクが非特権モードで実行する間に用いるスタック領域を，システムスタック領域（「4.1 タスク管理機能」の節を参照）と対比させて，ユーザスタック領域と呼ぶ．ユーザスタック領域は，そのタスクと同じ保護ドメインに属する1つのメモリオブジェクトとしてカーネルに登録されるが，他のメモリオブジェクトとは異なり，次のように扱われる．

タスクのユーザスタック領域に対しては，そのタスクのみが書込みアクセスおよび読出しアクセスを行うことができる．そのため，書込みアクセスと読出しアクセス（実行アクセスを含む）に対するアクセス許可パターンは意味を持たない．ユーザスタック領域に対して実行アクセスを行えるかどうかは，ターゲット定義である．

ただし，上記の仕様を実現するために大きいオーバヘッドを生じる場合には，ターゲット定義で，タスクのユーザスタック領域を，そのタスクが属する保護ドメインのみからアクセスできるものとする場合がある．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

この仕様では，タスクのユーザスタック領域は，そのタスクのみがアクセスできるものとした．

2.12 システムコンフィギュレーション手順

2.12.1 システムコンフィギュレーションファイル

カーネルやシステムサービスが管理するオブジェクトの生成情報や初期状態などを記述するファイルを，システムコンフィギュレーションファイル（system configuration file）と呼ぶ．また，システムコンフィギュレーションファイルを解釈して，カーネルやシステムサービスの構成・初期化情報を含むファイルなどを生成するツールを，コンフィギュレータ（configurator）と呼ぶ．

システムコンフィギュレーションファイルには，カーネルの静的API，システムサービスの静的API，保護ドメインの囲み，クラスの囲み，コンフィギュレータ

に対するINCLUDEディレクティブ，C言語プリプロセッサのインクルードディレクティブ（#include）と条件ディレクティブ（#if，#ifdefなど）のみを記述することができる．

コンフィギュレータに対するINCLUDEディレクティブは，システムコンフィギュレーションファイルを複数のファイルに分割して記述するために用いるもので，その文法は次のいずれかである（両者の違いは，指定されたファイルを探すディレクトリの違いのみ）．

```
INCLUDE("ファイル名");
INCLUDE(<ファイル名>);
```

コンフィギュレータは，INCLUDEディレクティブによって指定されたファイル中の記述を，システムコンフィギュレーションファイルの一部分として解釈する．すなわち，INCLUDEディレクティブによって指定されたファイル中には，カーネルの静的API，システムサービスの静的API，コンフィギュレータに対するINCLUDEディレクティブ，C言語プリプロセッサのインクルードディレクティブと条件ディレクティブのみを記述することができる．

C言語プリプロセッサのインクルードディレクティブは，静的APIのパラメータを解釈するために必要なC言語のヘッダファイルを指定するために用いる．また，条件ディレクティブは，有効とする静的APIを選択するために用いることができる．ただし，インクルードディレクティブは，コンフィギュレータが生成するファイルでは先頭に集められる．そのため，条件ディレクティブの中にインクルードディレクティブを記述しても，インクルードディレクティブは常に有効となる．また，1つの静的APIの記述の途中に，条件ディレクティブを記述することはできない．

コンフィギュレータは，システムコンフィギュレーションファイル中の静的APIを，その記述順に解釈する．そのため例えば，タスクを生成する静的APIの前に，そのタスクにタスク例外処理ルーチンを定義する静的APIが記述されていた場合，タスク例外処理ルーチンを定義する静的APIがE_NOEXSエラーとなる．

【μITRON4.0仕様との関係】

システムコンフィギュレーションファイルにおけるC言語プリプロセッサのディレクティブの扱いを全面的に見直し，コンフィギュレータに対するINCLUDEディレクティブを設けた．また，共通静的APIを廃止した．μITRON4.0仕様における#includeディレクティブの役割は，この仕様ではINCLUDEディレクティブに置き換わる．逆に，μITRON4.0仕様におけるINCLUDE静的APIの役割は，この仕様では#includeディレクティブに置き換わる．

2.12.2 静的APIの文法とパラメータ

静的APIは，次に述べる例外を除いては，C言語の関数呼出しと同様の文法で記述する．すなわち，静的APIの名称に続けて，静的APIの各パラメータを","で区切って列挙したものを"("と")"で囲んで記述し，最後に";"を記述する．ただし，静的APIのパラメータに構造体（または構造体へのポインタ）を記述する場合には，構造体の各フィールドを","で区切って列挙したものを"{"と"}"で囲んだ形で記述する．

サービスコールに対応する静的APIの場合，静的APIのパラメータは，対応するサービスコールのパラメータと同一とすることを原則とする．

静的APIのパラメータは，次の4種類に分類される．

(a) オブジェクト識別名

オブジェクトのID番号を指定するパラメータ．オブジェクトの名称を表す単一の識別名のみを記述することができる．

コンフィギュレータは，オブジェクト生成のための静的API（CRE_YYY）を処理する際に，オブジェクトにID番号を割り付け，構成・初期化ヘッダファイルに，指定された識別名を割り付けたID番号にマクロ定義するC言語プリプロセッサのディレクティブ（#define）を生成する．

オブジェクト生成以外の静的APIが，オブジェクトのID番号をパラメータに取る場合（カーネルの静的APIでは，SAC_TSKやDEF_TEXのtskidパラメータ等がこれに該当する）には，パラメータとして記述する識別名は，生成済みのオブジェクトの名称を表す識別名でなければならない．そうでない場合には，コンフィギュレータがエラーを報告する．

静的APIの整数定数式パラメータの記述に，オブジェクト識別名を使用することはできない．

(b) 整数定数式パラメータ

オブジェクト番号や機能コード，オブジェクト属性，サイズや数，優先度など，整数値を指定するパラメータ．プログラムが配置される番地に依存せずに値の決まる整数定数式を記述することができる．

整数定数式の解釈に必要な定義や宣言等は，システムコンフィギュレーションファイルからC言語プリプロセッサのインクルードディレクティブによってインクルードするファイルに含まれていなければならない．

(c) 一般定数式パラメータ

処理単位のエントリ番地，メモリ領域の先頭番地，拡張情報など，番地を指定する可能性のあるパラメータ．任意の定数式を記述することができる．

定数式の解釈に必要な定義や宣言等は，システムコンフィギュレーションファイルからC言語プリプロセッサのインクルードディレクティブによってインクルードするファイルに含まれていなければならない．

(d) 文字列パラメータ

オブジェクトモジュール名やセクション名など，文字列を指定するパラメータ．任意の文字列を，C言語の文字列の記法で記述することができる．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様においては，静的APIのパラメータを次の4種類に分類していたが，コンフィギュレータの仕組みを見直したことに伴い全面的に見直した．

(A) 自動割付け対応整数値パラメータ
(B) 自動割付け非対応整数値パラメータ
(C) プリプロセッサ定数式パラメータ
(D) 一般定数式パラメータ

この仕様の(a)が，おおよそμITRON4.0仕様の(A)に相当するが，(a)には整数値を記述できない点が異なる．(b)～(c)と(B)～(D)の間には単純な対応関係がないが，記述できる定数式の範囲には，(B)⊂(C)⊂(b)⊂(c)＝(D)の関係がある．

μITRON4.0仕様では，静的APIのパラメータは基本的には(D)とし，コンフィギュレータが値を知る必要があるパラメータを(B)，構成・初期化ファイルに生成するC言語プリプロセッサの条件ディレクティブ（#if）中に含めたい可能性のあるパラメータを(C)としていた．

それに対して，この仕様におけるコンフィギュレータの処理モデル（「2.12.5 コンフィギュレータの処理モデル」の節を参照）では，コンフィギュレータのパス2において定数式パラメータの値を知ることができるため，(B)～(D)の区別をする必要がない．そのため，静的APIのパラメータは基本的には(b)とし，パス2で値を知ることのできない定数式パラメータのみを(c)としている．

2.12.3 保護ドメインの指定

保護機能対応カーネルでは，オブジェクトを登録する静的API等を，そのオブジェクトが属する保護ドメインの囲みの中に記述する．無所属のオブジェクトを登録する静的APIは，保護ドメインの囲みの外に記述する．保護ドメインに属すべきオブジェクトを登録する静的API等を，保護ドメインの囲みの外に記述した場合には，コンフィギュレータがE_RSATRエラーを報告する．

ユーザドメインの囲みの文法は次の通り．

```
DOMAIN(保護ドメイン名) {
    ユーザドメインに属するオブジェクトを登録する静的API等
}
```

保護ドメイン名には，ユーザドメインの名称を表す単一の識別名のみを記述することができる．

コンフィギュレータは，ユーザドメインの囲みを処理する際に，ユーザドメインに保護ドメインIDを割り付け，構成・初期化ヘッダファイルに，指定された保護ドメイン名を割り付けた保護ドメインIDにマクロ定義するC言語プリプロセッサのディレクティブ（#define）を生成する．また，ユーザドメインの囲みの中およびそれ以降に記述する静的APIの整数定数式パラメータの記述に保護ドメイン名を記述すると，割り付けた保護ドメインIDの値に評価される．

ユーザドメインの囲みの中を空にすることで，ユーザドメインへの保護ドメインIDの割付けのみを行うことができる．

カーネルドメインの囲みの文法は次の通り.

```
KERNEL_DOMAIN {
    カーネルドメインに属するオブジェクトを登録する静的API等
}
```

同じ保護ドメイン名を指定したユーザドメインの囲みや，カーネルドメインの囲みを，複数回記述してもよい．保護機能対応でないカーネルで保護ドメインの囲みを記述した場合や，保護ドメインの囲みの中に保護ドメインの囲みを記述した場合には，コンフィギュレータがエラーを報告する．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

ユーザドメインの囲みの文法を変更した．

【仕様決定の理由】

保護ドメインに属すべきオブジェクトを登録する静的API等を保護ドメインの囲みの外に記述した場合のエラーコードをE_RSATRとしたのは，オブジェクトを動的に登録するAPIにおいては，オブジェクトの属する保護ドメインを，オブジェクト属性によって指定するためである．

2.12.4 クラスの指定

マルチプロセッサ対応カーネルでは，オブジェクトを登録する静的API等を，そのオブジェクトが属するクラスの囲みの中に記述する．クラスに属すべきオブジェクトを登録する静的API等を，クラスの囲みの外に記述した場合には，コンフィギュレータがE_RSATRエラーを報告する．

クラスの囲みの文法は次の通り.

```
CLASS(クラスID) {
    クラスに属するオブジェクトを登録する静的API等
}
```

クラスIDには，静的APIの整数定数式パラメータと同等の定数式を記述することができる．使用できないクラスIDを指定した場合には，コンフィギュレータがE_IDエラーを報告する．

同じクラスIDを指定したクラスの囲みを複数回記述してもよい．マルチプロセッサ対応でないカーネルでクラスの囲みを記述した場合や，クラスの囲みの中にクラスの囲みを記述した場合には，コンフィギュレータがエラーを報告する．

なお，保護機能とマルチプロセッサの両方に対応するカーネルでは，保護ドメインの囲みとクラスの囲みはどちらが外側になっていてもよい．

【仕様決定の理由】

クラスに属すべきオブジェクトを登録する静的API等をクラスの囲みの外に記述

した場合のエラーコードをE_RSATRとしたのは，オブジェクトを動的に登録するAPIにおいては，オブジェクトの属するクラスを，オブジェクト属性によって指定するためである．

2.12.5 コンフィギュレータの処理モデル

コンフィギュレータは，次の3つないしは4つのパスにより，システムコンフィギュレーションファイルを解釈し，構成・初期化情報を含むファイルなどを生成する（図2-8）．

最初のパス1では，システムコンフィギュレーションファイルを解釈し，そこに含まれる静的APIの整数定数式パラメータの値をCコンパイラを用いて求めるために，パラメータ計算用C言語ファイル（cfg1_out.c）を生成する．この時，システムコンフィギュレーションファイルに含まれるC言語プリプロセッサのインクルードディレクティブは，パラメータ計算用C言語ファイルの先頭に集めて生成する．また，条件ディレクティブは，順序も含めて，そのままの形でパラメータ計算用C言語ファイルに出力する．システムコンフィギュレーションファイルに文法エラーや未サポートの記述があった場合には，この段階で検出される．

次に，Cコンパイラおよび関連ツールを用いて，パラメータ計算用C言語ファイルをコンパイルし，ロードモジュールを生成する．また，それをSレコードフォーマットの形（cfg1_out.srec）に変換し，ロードモジュール中の各シンボルとアドレスの対応表を含むシンボルファイル（cfg1_out.syms）を生成する．静的APIのパラメータに解釈できない式が記述された場合には，この段階でエラーが検出される．

コンフィギュレータのパス2では，パス1で生成されたオブジェクトファイルをSレコードフォーマットの形に変換したものとシンボルファイルから，C言語プリプロセッサの条件ディレクティブによりどの静的APIが有効となったかと，それらの静的APIの整数定数式パラメータの値を取り出し，カーネルおよびシステムサービスの構成・初期化ファイル（kernel_cfg.cなど）と構成・初期化ヘッダファイル（kernel_cfg.hなど）を生成する．構成・初期化ヘッダファイルには，登録できるオブジェクトの数（動的生成対応カーネル以外では，静的APIによって登録されたオブジェクトの数に一致）やオブジェクトのID番号などの定義を出力する．静的APIの整数定数式パラメータに不正がある場合には，この段階でエラーが検出される．

パス2で生成されたこれらのファイルを，他のソースファイルとあわせてコンパイルし，アプリケーションのロードモジュールを生成する．また，それをSレコードフォーマットの形（system.srec）に変換し，ロードモジュール中の各シンボルと番地の対応表を含むシンボルファイル（system.syms）を生成する．

コンフィギュレータのパス3では，パス1で生成されたロードモジュールをSレコードフォーマットの形に変換したものとシンボルファイル，パス2で生成されたロードモジュールをSレコードフォーマットの形に変換したものとシンボルファイルから，静的APIパラメータの値などを取り出し，妥当性のチェックを行う．静的APIの一般定数式パラメータに不正がある場合には，この段階でエラーが検出される．

保護機能対応カーネルにおいては，メモリ保護のための設定情報を生成するた

めに，パス3ではじめて得られる情報が必要となる．そこで，そのようなメモリ保護のための設定情報は，パス3においてメモリ構成・初期化ファイル（kernel_mem.c）に生成する．生成したメモリ構成・初期化ファイルは，他のソースファイルとあわせてコンパイルし，アプリケーションの最終的なロードモジュールを生成する．

そのため，パス2で生成されたファイルから生成したロードモジュールは，仮のロードモジュールという位置付けになる．ここで，仮のロードモジュールと最終的なロードモジュールでサイズが変化してはならないため，パス3でメモリ構成・初期化ファイルに生成するのと同じサイズのデータ構造を，パス2において仮のメモリ構成・初期化ファイル（kernel_mem2.c）に生成し，これも含めて仮のロードモジュールを生成しておく．また，仮のロードモジュールをSレコードフォーマットの形に変換したもの（cfg2_out.srec），仮のロードモジュール中の各シンボルと番地の対応表を含むシンボルファイル（cfg2_out.syms）も，混乱を避けるためにファイル名を変更しておく（図2-9）．

パス3でメモリ保護のための設定情報を生成した場合には，パス4を実行する．コンフィギュレータのパス4では，パス1で生成されたロードモジュールをSレコードフォーマットの形に変換したものとシンボルファイル，パス3で生成されたロードモジュールをSレコードフォーマットの形に変換したものとシンボルファイルから，生成したロードモジュールの妥当性のチェックを行う．この段階で検出されるエラーは，コンフィギュレーション処理の不具合を示すものである．

【μITRON4.0仕様との関係】

コンフィギュレータの処理モデルは全面的に変更した．

2.12.6 静的APIのパラメータに関するエラー検出

静的APIのパラメータに関するエラー検出は，同じものがサービスコールとして呼ばれた場合と同等とすることを原則とする．言い換えると，サービスコールによっても検出できないエラーは，静的APIにおいても検出しない．静的APIの機能説明中の「E_XXXXXエラーとなる」または「E_XXXXXエラーが返る」という記述は，コンフィギュレータがそのエラーを検出することを意味する．

ただし，エラーの種類によっては，サービスコールと同等のエラー検出を行うことが難しいため，そのようなものについては例外とする．例えば，メモリ不足をコンフィギュレータによって検出するのは容易ではない．

逆に，オブジェクト属性については，サービスコールより強力なエラーチェックを行える可能性がある．例えば，タスク属性にTA_STAと記述されている場合，サービスコールではエラーを検出できないが，コンフィギュレータでは検出できる可能性がある．ただし，このようなエラー検出を完全に行おうとするとコンフィギュレータが複雑になるため，このようなエラーを検出することは必須とせず，検出できた場合には警告として報告する．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，静的APIのパラメータに関するエラー検出について規定されていない．

2.12.7 オブジェクトのID番号の指定

コンフィギュレータのオプション機能として，アプリケーション設計者がオブジェクトのID番号を指定するための次の機能を用意する．

コンフィギュレータのオプション指定により，オブジェクト識別名とID番号の対応表を含むファイルを渡すと，コンフィギュレータはそれに従ってオブジェクトにID番号を割り付ける．それに従ったID番号割付けができない場合（ID番号に抜けができる場合など）には，コンフィギュレータはエラーを報告する．

またコンフィギュレータは，オプション指定により，オブジェクト識別名とコンフィギュレータが割り付けたID番号の対応表を含むファイルを，コンフィギュレータに渡すファイルと同じフォーマットで生成する．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，オブジェクト生成のための静的APIのID番号を指定するパラメータに整数値を記述できるため，このような機能は用意されていない．

2.13 TOPPERSネーミングコンベンション

この節では，TOPPERSソフトウェアのAPIの構成要素の名称に関するネーミングコンベンションについて述べる．このネーミングコンベンションは，モジュール間のインタフェースに関わる名称に適用することを想定しているが，モジュール内部の名称に適用してもよい．

2.13.1 モジュール識別名

異なるモジュールのAPIの構成要素の名称が衝突することを避けるために，各モジュールに対して，それを識別するためのモジュール識別名を定める．モジュール識別名は，英文字と数字で構成し，2〜8文字程度の長さとする．

カーネルのモジュール識別名は"kernel"，システムインタフェースレイヤのモジュール識別名は"sil"とする．

APIの構成要素の名称には，モジュール識別名を含めることを原則とするが，カーネルのAPIなど，頻繁に使用されて衝突のおそれが少ない場合には，モジュール識別名を含めない名称を使用する．

以下では，モジュール識別名の英文字を英小文字としたものをwww，英大文字としたものをWWWと表記する．

2.13.2 データ型名

各サイズの整数型など，データの意味を定めない基本データ型の名称は，英小文字，数字，"_"で構成する．データ型であることを明示するために，末尾が"_t"である名称とする．

複合データ型やデータの意味を定めるデータ型の名称は，英大文字，数字，

"_"で構成する．データ型であることを明示するために，先頭が"T_"または末尾が"_T"である名称とする場合もある．

データ型の種類毎に，次のネーミングコンベンションを定める．

(A) パケットのデータ型

T_CYYY	acre_yyyに渡すパケットのデータ型
T_DYYY	def_yyyに渡すパケットのデータ型
T_RYYY	ref_yyyに渡すパケットのデータ型
T_WWW_CYYY	www_acre_yyyに渡すパケットのデータ型
T_WWW_DYYY	www_def_yyyに渡すパケットのデータ型
T_WWW_RYYY	www_ref_yyyに渡すパケットのデータ型

2.13.3 関数名

関数の名称は，英小文字，数字，"_"で構成する．

関数の種類毎に，次のネーミングコンベンションを定める．

(A) サービスコール

サービスコールは，xxx_yyyまたはwww_xxx_yyyの名称とする．ここで，xxxは操作の方法，yyyは操作の対象を表す．xxx_yyyまたはwww_xxx_yyyから派生したサービスコールは，それぞれzxxx_yyyまたはwww_zxxx_yyyの名称とする．ここでzは，派生したことを表す文字である．派生したことを表す文字を2つ付加する場合には，zzxxx_yyyまたはwww_zzxxx_yyyの名称となる．

非タスクコンテキスト専用のサービスコールの名称は，派生したことを表す文字として"i"を付加し，ixxx_yyy，izxxx_yyy，www_ixxx_yyy，www_izxxx_yyyといった名称とする．

【補足説明】

サービスコールの名称を構成する省略名（xxx，yyy，z）の元になった英語については，「5.9 省略名の元になった英語」の節を参照すること．

(B) コールバック

コールバックの名称は，サービスコールのネーミングコンベンションに従う．

2.13.4 変数名

変数（const修飾子のついたものを含む）の名称は，英小文字，数字，"_"で構成する．データ型が異なる変数には，異なる名称を付けることを原則とする．

変数の名称に関して，次のガイドラインを設ける．

～id	～ID（オブジェクトのID番号，ID型）
～no	～番号（オブジェクト番号）

～atr	～属性（オブジェクト属性，ATR型）
～stat	～状態（オブジェクト状態，STAT型）
～mode	～モード（サービスコールの動作モード，MODE型）
～pri	～優先度（優先度，PRI型）
～sz	～サイズ（単位はバイト数，SIZE型またはuint_t型）
～cnt	～の個数（単位は個数，uint_t型）
～ptn	～パターン
～tim	～時刻，～時間
～cd	～コード
i～	～の初期値
max～	～の最大値
min～	～の最小値
left～	～の残り

また，ポインタ変数（関数ポインタを除く）の名称に関して，次のガイドラインを設ける．

p_～	ポインタ
pp_～	ポインタを入れる領域へのポインタ
pk_～	パケットへのポインタ
ppk_～	パケットへのポインタを入れる領域へのポインタ

変数の種類毎に，次のネーミングコンベンションを定める．

(A) パケットへのポインタ

pk_cyyy	acre_yyyに渡すパケットへのポインタ
pk_dyyy	def_yyyに渡すパケットへのポインタ
pk_ryyy	ref_yyyに渡すパケットへのポインタ
pk_www_cyyy	www_acre_yyyに渡すパケットへのポインタ
pk_www_dyyy	www_def_yyyに渡すパケットへのポインタ
pk_www_ryyy	www_ref_yyyに渡すパケットへのポインタ

2.13.5 定数名

定数（C言語プリプロセッサのマクロ定義によるもの）の名称は，英大文字，数字，"_"で構成する．

定数の種類毎に，次のネーミングコンベンションを定める．

(A) メインエラーコード

メインエラーコードは，先頭が"E_"である名称とする．

(B) 機能コード

TFN_XXX_YYY	xxx_yyyの機能コード
TFN_WWW_XXX_YYY	www_xxx_yyyの機能コード

(C) その他の定数

その他の定数は，先頭がTUU_またはTUU_WWW_である名称とする．ここでUUは，定数の種類またはデータ型を表す．同じパラメータまたはリターンパラメータに用いられる定数の名称については，UUを同一にすることを原則とする．

また，定数の名称に関して，次のガイドラインを設ける．

TA_～	オブジェクトの属性値
TSZ_～	～のサイズ
TBIT_～	～のビット数
TMAX_～	～の最大値
TMIN_～	～の最小値

2.13.6 マクロ名

マクロ（C言語プリプロセッサのマクロ定義によるもの）の名称は，それが表す構成要素のネーミングコンベンションに従う．すなわち，関数を表すマクロは関数のネーミングコンベンションに，定数を表すマクロは定数のネーミングコンベンションに従う．ただし，簡単な関数を表すマクロや，副作用があるなどの理由でマクロであることを明示したい場合には，英大文字，数字，″_″で構成する場合もある．

マクロの種類毎に，次のネーミングコンベンションを定める．

(A) 構成マクロ

構成マクロの名称は，英大文字，数字，″_″で構成し，次のガイドラインを設ける．

TSZ_～	～のサイズ
TBIT_～	～のビット数
TMAX_～	～の最大値
TMIN_～	～の最小値

2.13.7 静的API名

静的APIの名称は，英大文字，数字，″_″で構成し，対応するサービスコールの名称中の英小文字を英大文字で置き換えたものとする．対応するサービスコールがない場合には，サービスコールのネーミングコンベンションに従って定めた名称中の英小文字を英大文字で置き換えたものとする．

2.13.8 ファイル名

ファイルの名称は，英小文字，数字，″_″，″.″で構成する．英大文字と英小文字を区別しないファイルシステムに対応するために，英大文字は使用しない．また，″-″も使用しない．

ファイルの種類毎に，次のネーミングコンベンションを定める．

(A) ヘッダファイル

モジュールを用いるために必要な定義を含むヘッダファイルは，そのモジュールのモジュール識別名の末尾に".h"を付加した名前（すなわち，www.h）とする．

2.13.9 モジュール内部の名称の衝突回避

モジュール内部の名称が，他のモジュール内部の名称と衝突することを避けるために，次のガイドラインを設ける．

モジュール内部に閉じて使われる関数や変数などの名称で，オブジェクトファイルのシンボル表に登録されて外部から参照できる名称は，C言語レベルで，先頭が_www_または_WWW_である名称とする．例えば，カーネルの内部シンボルは，C言語レベルで，先頭が"_kernel_"または"_KERNEL_"である名称とする．

また，モジュールを用いるために必要な定義を含むヘッダファイル中に用いる名称で，それをインクルードする他のモジュールで使用する名称と衝突する可能性のある名称は，"TOPPERS_"で始まる名称とする．

2.14 TOPPERS共通定義

TOPPERSソフトウェアに共通に用いる定義を，TOPPERS共通定義と呼ぶ．

2.14.1 TOPPERS共通ヘッダファイル

TOPPERS共通定義（共通データ型，共通定数，共通マクロ）は，TOPPERS共通ヘッダファイル（t_stddef.h）およびそこからインクルードされるファイルに含まれている．TOPPERS共通定義を用いる場合には，TOPPERS共通ヘッダファイルをインクルードする．

TOPPERS共通ヘッダファイルは，カーネルヘッダファイル（kernel.h）やシステムインタフェースレイヤヘッダファイル（sil.h）からインクルードされるため，これらのファイルをインクルードする場合には，TOPPERS共通ヘッダファイルを直接インクルードする必要はない．

2.14.2 TOPPERS共通データ型

C90に規定されているデータ型以外で，TOPPERSソフトウェアで共通に用いるデータ型は次の通りである．

int8_t	符号付き8ビット整数（オプション，C99準拠）
uint8_t	符号無し8ビット整数（オプション，C99準拠）
int16_t	符号付き16ビット整数（C99準拠）
uint16_t	符号無し16ビット整数（C99準拠）
int32_t	符号付き32ビット整数（C99準拠）
uint32_t	符号無し32ビット整数（C99準拠）
int64_t	符号付き64ビット整数（オプション，C99準拠）
uint64_t	符号無し64ビット整数（オプション，C99準拠）
int128_t	符号付き128ビット整数（オプション，C99準拠）
uint128_t	符号無し128ビット整数（オプション，C99準拠）

int_least8_t	8ビット以上の符号付き整数（C99準拠）
uint_least8_t	int_least8_t型と同じサイズの符号無し整数（C99準拠）
float32_t	IEEE754準拠の32ビット単精度浮動小数点数（オプション）
double64_t	IEEE754準拠の64ビット倍精度浮動小数点数（オプション）
bool_t	真偽値（trueまたはfalse）
int_t	16ビット以上の符号付き整数
uint_t	int_t型と同じサイズの符号無し整数
long_t	32ビット以上かつint_t型以上のサイズの符号付き整数
ulong_t	long_t型と同じサイズの符号無し整数
intptr_t	ポインタを格納できるサイズの符号付き整数（C99準拠）
uintptr_t	intptr_t型と同じサイズの符号無し整数（C99準拠）
FN	機能コード（符号付き整数，int_tに定義）
ER	正常終了（E_OK）またはエラーコード（符号付き整数，int_tに定義）
ID	オブジェクトのID番号（符号付き整数，int_tに定義）
ATR	オブジェクト属性（符号無し整数，uint_tに定義）
STAT	オブジェクトの状態（符号無し整数，uint_tに定義）
MODE	サービスコールの動作モード（符号無し整数，uint_tに定義）
PRI	優先度（符号付き整数，int_tに定義）
SIZE	メモリ領域のサイズ（符号無し整数，ポインタを格納できるサイズの符号無し整数型に定義）
TMO	タイムアウト指定（符号付き整数，単位はミリ秒，int_tに定義）
RELTIM	相対時間（符号無し整数，単位はミリ秒，uint_tに定義）
SYSTIM	システム時刻（符号無し整数，単位はミリ秒，ulong_tに定義）
SYSUTM	性能評価用システム時刻（符号無し整数，単位はマイクロ秒，ulong_tに定義）
FP	プログラムの起動番地（型の定まらない関数ポインタ）
ER_BOOL	エラーコードまたは真偽値（符号付き整数，int_tに定義）
ER_ID	エラーコードまたはID番号（符号付き整数，int_tに定義，負のID番号は格納できない）
ER_UINT	エラーコードまたは符号無し整数（符号付き整数，int_tに定義，符号無し整数を格納する場合の有効ビット数はuint_tより1ビット短い）
MB_T	オブジェクト管理領域を確保するためのデータ型
ACPTN	アクセス許可パターン（符号無し32ビット整数，uint32_tに定義）
ACVCT	アクセス許可ベクタ

ここで，データ型が「AまたはB」とは，AかBのいずれかの値を取ることを示す．
例えばER_BOOLは，エラーコードまたは真偽値のいずれかの値を取る．

int8_t，uint8_t，int64_t，uint64_t，int128_t，uint128_t，float32_t，double64_tが使用できるかどうかは，ターゲットシステムに依存する．これらが使用できるかどうかは，それぞれ，INT8_MAX，UINT8_MAX，INT64_MAX，UINT64_MAX，INT128_MAX，UINT128_MAX，FLOAT32_MAX，DOUBLE64_MAXがマクロ定義されているかどうかで判別することができる．IEEE754準拠の浮動小数点数がサポートされていないターゲットシステムでは，float32_tとdouble64_tは使用できないものとする．

【μITRON4.0仕様との関係】

B，UB，H，UH，W，UW，D，UD，VP_INTに代えて，C99準拠のint8_t，uint8_t，int16_t，uint16_t，int32_t，uint32_t，int64_t，uint64_t，intptr_tを用いることにした．また，uintptr_t，int128_t，uint128_tを用意することにした．

VPは，void *と等価であるため，用意しないことにした．また，ターゲットシステムにより振舞いが一定しないことから，VB，VH，VW，VDに代わるデータ型は用意しないことにした．

INT，UINTに代えて，C99の型名と相性が良いint_t，uint_tを用いることにした．また，32ビット以上かつint_t型（またはuint_t型）以上のサイズが保証される整数型として，long_t，ulong_tを用意し，8ビット以上のサイズで必ず存在する整数型として，C99準拠のint_least8_t，uint_least8_tを導入することにした．int_least16_t，uint_least16_t，int_least32_t，uint_least32_tを導入しなかったのは，16ビットおよび32ビットの整数型があることを仮定しており，それぞれint16_t，uint16_t，int32_t，uint32_tで代用できるためである．

TECSとの整合性を取るために，BOOLに代えて，bool_tを用いることにした．また，IEEE754準拠の単精度浮動小数点数を表す型としてfloat32_t，IEEE754準拠の64ビットを表す型としてdouble64_tを導入した．

性能評価用システム時刻のためのデータ型としてSYSUTMを，オブジェクト管理領域を確保するためのデータ型としてMB_Tを用意することにした

2.14.3 TOPPERS共通定数

C90に規定されている定数以外で，TOPPERSソフトウェアで共通に用いる定数は次の通りである（一部，C90に規定されているものも含む）．

(1) 一般定数

NULL		無効ポインタ
true	1	真
false	0	偽
E_OK	0	正常終了

【μITRON4.0仕様との関係】

BOOLをbool_tに代えたことから，TRUEおよびFALSEに代えて，trueおよびfalse

を用いることにした.

(2) 整数型に格納できる最大値と最小値

INT8_MAX	int8_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT8_MIN	int8_tに格納できる最小値（オプション，C99準拠）
UINT8_MAX	uint8_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT16_MAX	int16_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT16_MIN	int16_tに格納できる最小値（C99準拠）
UINT16_MAX	uint16_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT32_MAX	int32_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT32_MIN	int32_tに格納できる最小値（C99準拠）
UINT32_MAX	uint32_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT64_MAX	int64_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT64_MIN	int64_tに格納できる最小値（オプション，C99準拠）
UINT64_MAX	uint64_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT128_MAX	int128_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT128_MIN	int128_tに格納できる最小値（オプション，C99準拠）
UINT128_MAX	uint128_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT_LEAST8_MAX	int_least8_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT_LEAST8_MIN	int_least8_tに格納できる最小値（C99準拠）
UINT_LEAST8_MAX	uint_least8_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT_MAX	int_tに格納できる最大値（C90準拠）
INT_MIN	int_tに格納できる最小値（C90準拠）
UINT_MAX	uint_tに格納できる最大値（C90準拠）
LONG_MAX	long_tに格納できる最大値（C90準拠）
LONG_MIN	long_tに格納できる最小値（C90準拠）
ULONG_MAX	ulong_tに格納できる最大値（C90準拠）
FLOAT32_MIN	float32_tに格納できる最小の正規化された正の浮動小数点数（オプション）
FLOAT32_MAX	float32_tに格納できる表現可能な最大の有限浮動小数点数（オプション）
DOUBLE64_MIN	double64_tに格納できる最小の正規化された正の浮動小数点数（オプション）
DOUBLE64_MAX	double64_tに格納できる表現可能な最大の有限浮動小数点数（オプション）

(3) 整数型のビット数

CHAR_BIT	char型のビット数（C90準拠）

(4) オブジェクト属性

TA_NULL	0U	オブジェクト属性を指定しない

(5) タイムアウト指定

TMO_POL	0	ポーリング

TMO_FEVR	-1	永久待ち
TMO_NBLK	-2	ノンブロッキング

(6) アクセス許可パターン

TACP_KERNEL	0U	カーネルドメインのみにアクセスを許可
TACP_SHARED	~0U	すべての保護ドメインにアクセスを許可

2.14.4 TOPPERS共通エラーコード

TOPPERSソフトウェアで共通に用いるメインエラーコードは次の通りである.

(A) 内部エラークラス (EC_SYS, -5～-8)

E_SYS	-5	システムエラー

(B) 未サポートエラークラス (EC_NOSPT, -9～-16)

E_NOSPT	-9	未サポート機能
E_RSFN	-10	予約機能コード
E_RSATR	-11	予約属性

(C) パラメータエラークラス (EC_PAR, -17～-24)

E_PAR	-17	パラメータエラー
E_ID	-18	不正ID番号

(D) 呼出しコンテキストエラークラス (EC_CTX, -25～-32)

E_CTX	-25	コンテキストエラー
E_MACV	-26	メモリアクセス違反
E_OACV	-27	オブジェクトアクセス違反
E_ILUSE	-28	サービスコール不正使用

(E) 資源不足エラークラス (EC_NOMEM, -33～-40)

E_NOMEM	-33	メモリ不足
E_NOID	-34	ID番号不足
E_NORES	-35	資源不足

(F) オブジェクト状態エラークラス (EC_OBJ, -41～-48)

E_OBJ	-41	オブジェクト状態エラー
E_NOEXS	-42	オブジェクト未登録
E_QOVR	-43	キューイングオーバフロー

(G) 待ち解除エラークラス (EC_RLWAI, -49～-56)

E_RLWAI	-49	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除
E_TMOUT	-50	ポーリング失敗またはタイムアウト

E_DLT	-51	待ちオブジェクトの削除または再初期化
E_CLS	-52	待ちオブジェクトの状態変化

(H) 警告クラス (EC_WARN, -57〜-64)

E_WBLK	-57	ノンブロッキング受付け
E_BOVR	-58	バッファオーバフロー

このエラークラスに属するエラーコードは，警告を表すエラーコードであり，サービスコールがエラーコードを返した場合には副作用がないという原則の例外となる．

【μITRON4.0仕様との関係】

E_NORESは，μITRON4.0仕様に規定されていないエラーコードである．

2.14.5 TOPPERS共通マクロ

(1) 整数定数を作るマクロ

INT8_C(val)	int_least8_t型の定数を作るマクロ (C99準拠)
UINT8_C(val)	uint_least8_t型の定数を作るマクロ (C99準拠)
INT16_C(val)	int16_t型の定数を作るマクロ (C99準拠)
UINT16_C(val)	uint16_t型の定数を作るマクロ (C99準拠)
INT32_C(val)	int32_t型の定数を作るマクロ (C99準拠)
UINT32_C(val)	uint32_t型の定数を作るマクロ (C99準拠)
INT64_C(val)	int64_t型の定数を作るマクロ (オプション，C99準拠)
UINT64_C(val)	uint64_t型の定数を作るマクロ (オプション，C99準拠)
INT128_C(val)	int128_t型の定数を作るマクロ (オプション，C99準拠)
UINT128_C(val)	uint128_t型の定数を作るマクロ (オプション，C99準拠)
UINT_C(val)	uint_t型の定数を作るマクロ
ULONG_C(val)	ulong_t型の定数を作るマクロ

【仕様決定の理由】

C99に用意されていないUINT_CとULONG_Cを導入したのは，アセンブリ言語からも参照する定数を記述するためである．C言語のみで用いる定数をこれらのマクロを使って記述する必要はない．

(2) 型に関する情報を取り出すためのマクロ

offsetof(structure, field)	構造体structure中のフィールドfieldのバイト位置を返すマクロ (C90準拠)
alignof(type)	型typeのアラインメント単位を返すマクロ
ALIGN_TYPE(addr, type)	番地addrが型typeに対してアラインしているかどうかを返すマクロ

(3) assertマクロ

assert(exp)	expが成立しているかを検査するマクロ（C90準拠）

(4) コンパイラの拡張機能のためのマクロ

inline	インライン関数
Inline	ファイルローカルなインライン関数
asm	インラインアセンブラ
Asm	インラインアセンブラ（最適化抑止）
throw()	例外を発生しない関数
NoReturn	リターンしない関数

(5) エラーコード構成・分解マクロ

ERCD(mercd, sercd)	メインエラーコードmercdとサブエラーコードsercdから，エラーコードを構成するためのマクロ
MERCD(ercd)	エラーコードercdからメインエラーコードを抽出するためのマクロ
SERCD(ercd)	エラーコードercdからサブエラーコードを抽出するためのマクロ

(6) アクセス許可パターン構成マクロ

TACP(domid)	domidで指定されるユーザドメインのみにアクセスを許可するアクセス許可パターンを構成するためのマクロ

ここで，TACPのパラメータ（domid）には，ユーザドメインのID番号のみを指定することができる．TDOM_SELF，TDOM_KERNEL，TDOM_NONEを指定した場合の動作は，保証されない．

2.14.6 TOPPERS共通構成マクロ

(1) 相対時間の範囲

TMAX_RELTIM	相対時間に指定できる最大値

2.15 カーネル共通定義

カーネルの複数の機能で共通に用いる定義を，カーネル共通定義と呼ぶ．

2.15.1 カーネルヘッダファイル

カーネルを用いるために必要な定義は，カーネルヘッダファイル（kernel.h）およびそこからインクルードされるファイルに含まれている．カーネルを用いる場合には，カーネルヘッダファイルをインクルードする．

ただし，カーネルを用いるために必要な定義の中で，コンフィギュレータによっ

て生成されるものは，カーネル構成・初期化ヘッダファイル（kernel_cfg.h）に含まれる．具体的には，登録できるオブジェクトの数（TNUM_YYY）やオブジェクトのID番号などの定義が，これに該当する．これらの定義を用いる場合には，カーネル構成・初期化ヘッダファイルをインクルードする．

μITRON4.0仕様で規定されており，この仕様で廃止されたデータ型および定数を用いる場合には，ITRON仕様互換ヘッダファイル（itron.h）をインクルードする．

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，コンフィギュレータが生成するヘッダファイルに，オブジェクトのID番号の定義に加えて，登録できるオブジェクトの数（TNUM_YYY）の定義が含まれることとした．これに伴い，ヘッダファイルの名称を，μITRON4.0仕様の自動割付け結果ヘッダファイル（kernel_id.h）から，カーネル構成・初期化ヘッダファイル（kernel_cfg.h）に変更した．

2.15.2 カーネル共通定数

(1) オブジェクト属性

TA_TPRI	0x01U	タスクの待ち行列をタスクの優先度順に

【μITRON4.0仕様との関係】

値が0のオブジェクト属性（TA_HLNG，TA_TFIFO，TA_MFIFO，TA_WSGL）は，デフォルトの扱いにして廃止した．これは，「(tskatr & TA_HLNG) != 0U」のような間違いを防ぐためである．TA_ASMは，有効な使途がないために廃止した．
TA_MPRIは，メールボックス機能でのみ使用するため，カーネル共通定義から外した．

(2) 保護ドメインID

TDOM_SELF	0	自タスクの属する保護ドメイン
TDOM_KERNEL	-1	カーネルドメイン
TDOM_NONE	-2	無所属（保護ドメインに属さない）

(3) その他のカーネル共通定数

TCLS_SELF	0	自タスクの属するクラス
TPRC_NONE	0	割付けプロセッサの指定がない
TPRC_INI	0	初期割付けプロセッサ
TSK_SELF	0	自タスク指定
TSK_NONE	0	該当するタスクがない
TPRI_SELF	0	自タスクのベース優先度の指定
TPRI_INI	0	タスクの起動時優先度の指定

TIPM_ENAALL	0	割込み優先度マスク全解除

(4) カーネルで用いるメインエラーコード

「2.14.4 TOPPERS共通エラーコード」の節で定義したメインエラーコードの中で，E_CLS，E_WBLK，E_BOVRの3つは，カーネルでは使用しない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，サービスコールから，E_RSFN，E_RSATR，E_MACV，E_OACV，E_NOMEM，E_NOID，E_NORES，E_NOEXSが返る状況は起こらない．E_RSATRは，コンフィギュレータによって検出される．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，E_RSATR，E_NOMEM，E_NOID，E_NOEXSが返る状況が起こる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，サービスコールから，E_RSFN，E_RSATR，E_MACV，E_OACV，E_NOMEM，E_NOID，E_NORES，E_NOEXSが返る状況は起こらない．E_RSATRとE_NORESは，コンフィギュレータによって検出される．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，サービスコールから，E_RSATR，E_NOID，E_NORES，E_NOEXSが返る状況は起こらない．E_RSATRは，コンフィギュレータによって検出される．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，サービスコールから，E_RSFN，E_RSATR，E_MACV，E_OACV，E_ILUSE，E_NOMEM，E_NOID，E_NORES，E_NOEXS，E_RLWAI，E_TMOUT，E_DLTが返る状況は起こらない．E_RSATRは，コンフィギュレータによって検出される．

2.15.3 カーネル共通マクロ

(1) スタック領域をアプリケーションで確保するためのデータ型とマクロ

スタック領域をアプリケーションで確保するために，次のデータ型とマクロを用意している．

STK_T	スタック領域を確保するためのデータ型
COUNT_STK_T(sz)	サイズszのスタック領域を確保するために必要なSTK_T型の配列の要素数
ROUND_STK_T(sz)	要素数COUNT_STK_T(sz)のSTK_T型の配列のサイズ（szを，STK_T型のサイズの倍数になるように大きい方に丸めた値）

これらを用いてスタック領域を確保する方法は次の通り．

STK_T　<スタック領域の変数名>[COUNT_STK_T(<スタック領域のサイズ>)];

この方法で確保したスタック領域を，サービスコールまたは静的APIに渡す場合には，スタック領域の先頭番地に<スタック領域の変数名>を，スタック領域のサイズにROUND_STK_T(<スタック領域のサイズ>)を指定する．

ただし，保護機能対応カーネルにおいては，上の方法によりタスクのユーザスタック領域を確保することはできない．詳しくは，「4.1 タスク管理機能」の節のCRE_TSKの機能の項を参照すること．

(2) オブジェクト属性を作るマクロ

保護機能対応カーネルでは，オブジェクトが属する保護ドメインを指定するためのオブジェクト属性を作るマクロとして，次のマクロを用意している．

TA_DOM(domid)	domidで指定される保護ドメインに属する

マルチプロセッサ対応カーネルでは，オブジェクトが属するクラスを指定するためのオブジェクト属性を作るマクロとして，次のマクロを用意している．

TA_CLS(clsid)	clsidで指定されるクラスに属する

(3) サービスコールの呼出し方法を指定するマクロ

保護機能対応カーネルでは，サービスコールの呼出し方法を指定するためのマクロとして，次のマクロを用意している．

SVC_CALL(svc)	svcで指定されるサービスコールを関数呼出しによって呼び出すための名称

2.15.4 カーネル共通構成マクロ

(1) サポートする機能

TOPPERS_SUPPORT_PROTECT	保護機能対応のカーネル
TOPPERS_SUPPORT_MULTI_PRC	マルチプロセッサ対応のカーネル
TOPPERS_SUPPORT_DYNAMIC_CRE	動的生成対応のカーネル

【未決定事項】

マクロ名は，今後変更する可能性がある．

(2) 優先度の範囲

TMIN_TPRI	タスク優先度の最小値（＝1）
TMAX_TPRI	タスク優先度の最大値

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，タスク優先度の最大値（TMAX_TPRI）は16に固定されている．ただし，タスク優先度拡張パッケージを用いると，TMAX_TPRIを256に拡張する

ことができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，タスク優先度の最大値（TMAX_TPRI）は16に固定されている．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，タスク優先度の最大値（TMAX_TPRI）は16に固定されている．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスク優先度の最大値（TMAX_TPRI）は16に固定されている．

【μITRON4.0仕様との関係】

メッセージ優先度の最小値（TMIN_MPRI）と最大値（TMAX_MPRI）は，メールボックス機能でのみ使用するため，カーネル共通定義から外した．

(3) プロセッサの数

マルチプロセッサ対応カーネルでは，プロセッサの数を知るためのマクロとして，次の構成マクロを用意している．

TNUM_PRCID	プロセッサの数

(4) 特殊な役割を持ったプロセッサ

マルチプロセッサ対応カーネルでは，特殊な役割を持ったプロセッサを知るためのマクロとして，次の構成マクロを用意している．

TOPPERS_MASTER_PRCID	マスタプロセッサのID番号
TOPPERS_SYSTIM_PRCID	システム時刻管理プロセッサのID番号（グローバルタイマ方式の場合のみ）

(5) タイマ方式

マルチプロセッサ対応カーネルでは，システム時刻の方式を知るためのマクロとして，次の構成マクロを用意している．

TOPPERS_SYSTIM_LOCAL	ローカルタイマ方式の場合にマクロ定義
TOPPERS_SYSTIM_GLOBAL	グローバルタイマ方式の場合にマクロ定義

(6) バージョン情報

TKERNEL_MAKER	カーネルのメーカコード（＝0x0118）
TKERNEL_PRID	カーネルの識別番号
TKERNEL_SPVER	カーネル仕様のバージョン番号
TKERNEL_PRVER	カーネルのバージョン番号

カーネルのメーカコード（TKERNEL_MAKER）は，TOPPERSプロジェクトから配布するカーネルでは，TOPPERSプロジェクトを表す値（0x0118）に設定されている．

カーネルの識別番号（TKERNEL_PRID）は，TOPPERSカーネルの種類を表す．

0x0001	TOPPERS/JSPカーネル
0x0002	予約（IIMPカーネル）
0x0003	予約（IDLカーネル）
0x0004	TOPPERS/FI4カーネル
0x0005	TOPPERS/FDMPカーネル
0x0006	TOPPERS/HRPカーネル
0x0007	TOPPERS/ASPカーネル
0x0008	TOPPERS/FMPカーネル
0x0009	TOPPERS/SSPカーネル
0x000a	TOPPERS/ASP Safetyカーネル

カーネル仕様のバージョン番号（TKERNEL_SPVER）は，上位8ビット（0xf5）がTOPPERS新世代カーネル仕様であることを，中位4ビットがメジャーバージョン番号，下位4ビットがマイナーバージョン番号を表す．

カーネルのバージョン番号（TKERNEL_PRVER）は，上位4ビットがメジャーバージョン番号，中位8ビットがマイナーバージョン番号，下位4ビットがパッチレベルを表す．

第３章　システムインタフェースレイヤAPI仕様

3.1 システムインタフェースレイヤの概要

システムインタフェースレイヤ（この章では，SILと略記する）は，デバイスを直接操作するプログラムが用いるための機能である．ITRONデバイスドライバ設計ガイドラインの一部分として検討されたものをベースに，TOPPERSプロジェクトにおいて修正を加えて用いている．

SILの機能は，プロセッサの特権モードで実行されているプログラムが使用することを想定している．非特権モードで実行されているプログラムからSILの機能を呼び出した場合の動作は，次の例外を除いては保証されない．

・微少時間待ちの機能を呼び出すこと
・エンディアンの取得のためのマクロを参照すること
・メモリ空間アクセス関数により，アクセスを許可されたメモリ領域にアクセスすること
・I/O空間アクセス関数により，アクセスを許可されたI/O領域にアクセスすること

3.2 SILヘッダファイル

SILを用いるために必要な定義は，SILヘッダファイル（sil.h）およびそこからインクルードされるファイルに含まれている．SILを用いる場合には，SILヘッダファイルをインクルードする．

3.3 全割込みロック状態の制御

デバイスを扱うプログラムの中では，すべての割込み（NMIを除く，以下同じ）をマスクしたい場合がある．カーネルで制御できるCPUロック状態は，カーネル管理外の割込み（NMI以外にカーネル管理外の割込みがあるかはターゲット定義）をマスクしないため，このような場合に用いることはできない．

そこで，SILでは，すべての割込みをマスクする全割込みロック状態を制御するための以下の機能を用意している．

(1) SIL_PRE_LOC

全割込みロック状態の制御に必要な変数を宣言するマクロ．通常は，型と変数名を並べたもので，最後に"；"を含まない．

このマクロは，SIL_LOC_INT，SIL_UNL_INTを用いる関数またはブロックの先頭の変数宣言部に記述しなければならない．SIL_LOC_INT，SIL_UNL_INTを1つの関数内でネストして用いることは可能であるが，その場合には，ネストレベル毎にブロックを作り，そのブロックの先頭の変数宣言部にSIL_PRE_LOCを記述しなければならない．そのように記述しなかった場合の動作は保証されない．

(2) SIL_LOC_INT()

全割込みロックフラグをセットすることで，NMIを除くすべての割込みをマスクし，全割込みロック状態に遷移する．

(3) SIL_UNL_INT()

全割込みロックフラグを，対応するSIL_LOC_INTを実行する前の状態に戻す．SIL_LOC_INTを実行せずにSIL_UNL_INTを呼び出した場合の動作は保証されない．

なお，全割込みロック状態で呼び出せるサービスコールなどの制限事項については，「2.5.4 全割込みロック状態と全割込みロック解除状態」の節を参照すること．

【補足説明】

全割込みロック状態の制御機能の使用例は次の通り．

```
    {
        SIL_PRE_LOC;

        SIL_LOC_INT();
        // この間はNMIを除くすべての割込みがマスクされる．
        // この間にサービスコールを呼び出してはならない（一部例外あり）．
        SIL_UNL_INT();
    }
```

3.4 SILスピンロック

マルチプロセッサシステムにおいて，カーネルの機能を用いずに，他のプロセッサとの間でも排他制御を実現したい場合がある．そこでSILでは，割込みのマスクとプロセッサ間ロックの取得により排他制御を行うためのスピンロックの機能を用意している．これを，カーネルのスピンロック機能と区別するために，SILスピンロックと呼ぶ．

プロセッサ間ロックを取得している間は，全割込みロック状態にすることですべての割込み（NMIを除く）がマスクされる．ロックが他のプロセッサに取得されている場合には，ロックが取得できるまでループによって待つ．ロックの取得を待つ間は，割込みはマスクされない（ロックの取得を試みる前にマスクしていた割込みは，マスク解除されない）．プロセッサ間ロックを取得し割込みをマスクすることを，SILスピンロックを取得するという．また，プロセッサ間ロックを返却し割込みをマスク解除することを，SILスピンロックを返却するという．

SILで取得・返却するプロセッサ間ロックは，システムに唯一存在する．

(1) SIL_PRE_LOC

全割込みロック状態の制御に必要な変数を宣言するマクロであるが，SILスピンロックの取得・解放にも兼用する．

このマクロは，SIL_LOC_SPN，SIL_UNL_SPNを用いる関数またはブロックの先頭の変数宣言部に記述しなければならない．SIL_LOC_SPN，SIL_UNL_SPNを，同じ関数内のSIL_LOC_INT，SIL_UNL_INTとネストして用いることは可能であるが，その場合には，ネストレベル毎にブロックを作り，そのブロックの先頭の変数宣言部にSIL_PRE_LOCを記述しなければならない．そのように記述しなかった場合の動作は保証されない．

(2) SIL_LOC_SPN()

SILスピンロックが取得されていない状態である場合には，プロセッサ間ロックの取得を試みる．ロックが他のプロセッサに取得されている状態である場合や，他のプロセッサがロックの取得に成功した場合には，ロックが返却されるまでループによって待ち，返却されたらロックの取得を試みる．ロックの取得に成功した場合には，全割込みロックフラグをセットし，全割込みロック状態に遷移する．

(3) SIL_UNL_SPN()

プロセッサ間ロックを返却し，全割込みロックフラグを対応するSIL_LOC_SPNを実行する前の状態に戻す．

SILスピンロックを取得している状態でSIL_LOC_SPNを呼び出した場合の動作は保証されない．逆に，SILスピンロックを取得していない状態でSIL_UNL_SPNを呼び出した場合の動作も保証されない．

なお，SILスピンロック取得中は全割込みロック状態となっているため，SILスピンロック取得中に呼び出せるサービスコールなどについては，「2.5.4 全割

込みロック状態と全割込みロック解除状態」の節の制限事項が適用される．

なお，マルチプロセッサシステム以外では，SIL_LOC_SPNとSIL_UNL_SPNは用意されていない．

【使用上の注意】

全割込ロック状態やCPUロック状態でSIL_LOC_SPNを呼び出すことはできるが，割込みがマスクされている時間が長くなるために，そのような使い方は避けるべきである．

【補足説明】

SILスピンロック機能の使用例は次の通り．

```
{
    SIL_PRE_LOC;

    SIL_LOC_SPN();
    // この間はSILスピンロックを取得している．
    // この間はNMIを除くすべての割込みがマスクされる．
    // この間にサービスコールを呼び出してはならない（一部例外あり）．
    SIL_UNL_SPN();
}
```

3.5 微少時間待ち

デバイスをアクセスする際に，微少な時間待ちを入れなければならない場合がある．そのような場合に，NOP命令をいくつか入れるなどの方法で対応すると，ポータビリティを損なうことになる．そこで，SILでは，微少な時間待ちを行うための以下の機能を用意している．

(1) void sil_dly_nse(ulong_t dlytim)

dlytimで指定された以上の時間（単位はナノ秒），ループなどによって待つ．指定した値によっては，指定した時間よりもかなり長く待つ場合があるので注意すること．

3.6 エンディアンの取得

プロセッサのバイトエンディアンを取得するためのマクロとして，SILでは，以下のマクロを定義している．

(1) SIL_ENDIAN_BIG, SIL_ENDIAN_LITTLE

ビッグエンディアンプロセッサではSIL_ENDIAN_BIGを，リトルエンディアンプロセッサではSIL_ENDIAL_LITTLEを，マクロ定義している．

3.7 メモリ空間アクセス関数

メモリ空間にマッピングされたデバイスレジスタや，デバイスとの共有メモリをアクセスするために，SILでは，以下の関数を用意している．

(1) uint8_t sil_reb_mem(const uint8_t *mem)

memで指定されるアドレスから8ビット単位で読み出した値を返す．

(2) void sil_wrb_mem(uint8_t *mem, uint8_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を8ビット単位で書き込む．

(3) uint16_t sil_reh_mem(const uint16_t *mem)

memで指定されるアドレスから16ビット単位で読み出した値を返す．

(4) void sil_wrh_mem(uint16_t *mem, uint16_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を16ビット単位で書き込む．

(5) uint16_t sil_reh_lem(const uint16_t *mem)

memで指定されるアドレスから16ビット単位でリトルエンディアンで読み出した値を返す．リトルエンディアンプロセッサでは，sil_reh_memと一致する．ビッグエンディアンプロセッサでは，sil_reh_memが返す値を，エンディアン変換した値を返す．

(6) void sil_wrh_lem(uint16_t *mem, uint16_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を16ビット単位でリトルエンディアンで書き込む．リトルエンディアンプロセッサでは，sil_wrh_memと一致する．ビッグエンディアンプロセッサでは，dataをエンディアン変換した値を，sil_wrh_memで書き込むのと同じ結果となる．

(7) uint16_t sil_reh_bem(const uint16_t *mem)

memで指定されるアドレスから16ビット単位でビッグエンディアンで読み出した値を返す．ビッグエンディアンプロセッサでは，sil_reh_memと一致する．リトルエンディアンプロセッサでは，sil_reh_memが返す値を，エンディアン変換した値を返す．

(8) void sil_wrh_bem(uint16_t *mem, uint16_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を16ビット単位でビッグエンディアンで書き込む．ビッグエンディアンプロセッサでは，sil_wrh_memと一致する．リトルエンディアンプロセッサでは，dataをエンディアン変換した値を，sil_wrh_memで書き込むのと同じ結果となる．

(9) uint32_t sil_rew_mem(const uint32_t *mem)

memで指定されるアドレスから32ビット単位で読み出した値を返す．

(10) void sil_wrw_mem(uint32_t *mem, uint32_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を32ビット単位で書き込む.

(11) uint32_t sil_rew_lem(const uint32_t *mem)

memで指定されるアドレスから32ビット単位でリトルエンディアンで読み出した値を返す. リトルエンディアンプロセッサでは, sil_rew_memと一致する. ビッグエンディアンプロセッサでは, sil_rew_memが返す値を, エンディアン変換した値を返す.

(12) void sil_wrw_lem(uint32_t *mem, uint32_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を32ビット単位でリトルエンディアンで書き込む. リトルエンディアンプロセッサでは, sil_wrw_memと一致する. ビッグエンディアンプロセッサでは, dataをエンディアン変換した値を, sil_wrw_memで書き込むのと同じ結果となる.

(13) uint32_t sil_rew_bem(const uint32_t *mem)

memで指定されるアドレスから32ビット単位でビッグエンディアンで読み出した値を返す. ビッグエンディアンプロセッサでは, sil_rew_memと一致する. リトルエンディアンプロセッサでは, sil_rew_memが返す値を, エンディアン変換した値を返す.

(14) void sil_wrw_bem(uint32_t *mem, uint32_t data)

memで指定されるアドレスにdataで指定される値を32ビット単位でビッグエンディアンで書き込む. ビッグエンディアンプロセッサでは, sil_wrw_memと一致する. リトルエンディアンプロセッサでは, dataをエンディアン変換した値を, sil_wrw_memで書き込むのと同じ結果となる.

3.8 I/O空間アクセス関数

メモリ空間とは別にI/O空間を持つプロセッサでは, I/O空間にあるデバイスレジスタをアクセスするために, メモリ空間アクセス関数と同等の以下の関数を用意している.

(1) uint8_t sil_reb_iop(const uint8_t *iop)
(2) void sil_wrb_iop(uint8_t *iop, uint8_t data)
(3) uint16_t sil_reh_iop(const uint16_t *iop)
(4) void sil_wrh_iop(uint16_t *iop, uint16_t data)
(5) uint16_t sil_reh_lep(const uint16_t *iop)
(6) void sil_wrh_lep(uint16_t *iop, uint16_t data)
(7) uint16_t sil_reh_bep(const uint16_t *iop)
(8) void sil_wrh_bep(uint16_t *iop, uint16_t data)
(9) uint32_t sil_rew_iop(const uint32_t *iop)
(10) void sil_wrw_iop(uint32_t *iop, uint32_t data)
(11) uint32_t sil_rew_lep(const uint32_t *iop)

(12) void sil_wrw_lep(uint32_t *iop, uint32_t data)
(13) uint32_t sil_rew_bep(const uint32_t *iop)
(14) void sil_wrw_bep(uint32_t *iop, uint32_t data)

3.9 プロセッサIDの参照

マルチプロセッサシステムにおいては，プログラムがどのプロセッサで実行されているかを参照するために，以下の関数を用意している．

(1) void sil_get_pid(ID *p_prcid)

この関数を呼び出したプログラムを実行しているプロセッサのID番号を参照し，p_prcidで指定したメモリ領域に返す．

【使用上の注意】

タスクは，sil_get_pidを用いて，自タスクを実行しているプロセッサを正しく参照できるとは限らない．これは，sil_get_pidを呼び出し，自タスクを実行しているプロセッサのID番号を参照した直後に割込みが発生した場合，sil_get_pidから戻ってきた時には自タスクを実行しているプロセッサが変化している可能性があるためである．

第４章　カーネルAPI仕様

この章では，カーネルのAPI仕様について規定する．

カーネルのAPIの種別とAPIをサポートするカーネルの種類を表すために，次の記号を用いる．

〔T〕はタスクコンテキスト専用のサービスコールを示す．非タスクコンテキストから呼び出すと，E_CTXエラーとなる．

〔I〕は非タスクコンテキスト専用のサービスコールを示す．タスクコンテキストから呼び出すと，E_CTXエラーとなる．

〔TI〕はタスクコンテキストからも非タスクコンテキストからも呼び出すことのできるサービスコールを示す．

〔S〕は静的APIを示す．

〔P〕は保護機能対応カーネルのみでサポートされているAPIを示す．保護機能対応でないカーネルでは，このAPIはサポートされない．

〔p〕は保護機能対応でないカーネルのみでサポートされているAPIを示す．保護機能対応カーネルでは，このAPIはサポートされない．

〔M〕はマルチプロセッサ対応カーネルのみでサポートされているAPIを示す．マルチプロセッサ対応でないカーネルでは，このAPIはサポートされない．

〔D〕は動的生成対応カーネルのみでサポートされているAPIを示す．動的生成対応でないカーネルでは，このAPIはサポートされない．

また，エラーコードが返る条件を表すために，次の記号を用いる．

〔s〕はサービスコールのみで返るエラーコードを示す．静的APIでは，このエラーコードは返らない．

〔S〕は静的APIのみで返るエラーコードを示す．サービスコールでは，このエラーコードは返らない．

〔P〕は保護機能対応カーネルのみで返るエラーコードを示す．保護機能対応でないカーネルでは，このエラーコードは返らない．

〔D〕は動的生成対応カーネルのみで返るエラーコードを示す．動的生成対応でないカーネルでは，このエラーコードは返らない．

【μITRON4.0仕様との関係】

TOPPERS共通データ型に従い，パラメータのデータ型を次の通り変更した．これらの変更については，個別のAPI仕様では記述しない．

```
INT → int_t
UINT → uint_t
VP → void *
VP_INT → intptr_t
```

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

ID番号で識別するオブジェクトのアクセス許可ベクタをデフォルト以外に設定する場合には，オブジェクトを生成した後に設定することとし，アクセス許可ベクタを設定する静的API（SAC_YYY）を新設した．逆に，アクセス許可ベクタを指定してオブジェクトを生成する機能（CRA_YYY，cra_yyy，acra_yyy）は廃止した．これらの変更については，個別のAPI仕様では記述しない．

4.1 タスク管理機能

タスクは，プログラムの並行実行の単位で，カーネルが実行を制御する処理単位である．タスクは，タスクIDと呼ぶID番号によって識別する．

タスク管理機能に関連して，各タスクが持つ情報は次の通り．

- タスク属性
- タスク状態
- ベース優先度
- 現在優先度
- 起動要求キューイング数
- 割付けプロセッサ（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）
- 次回起動時の割付けプロセッサ（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）
- 拡張情報

・メインルーチンの先頭番地
・起動時優先度
・実行時優先度（TOPPERS/SSPカーネルの場合）
・スタック領域
・システムスタック領域（保護機能対応カーネルの場合）
・アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
・属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

タスクのベース優先度は，タスクの現在優先度を決定するために使われる優先度であり，タスクの起動時に起動時優先度に初期化される．

タスクの現在優先度は，タスクの実行順位を決定するために使われる優先度である．単にタスクの優先度と言った場合には，現在優先度のことを指す．タスクがミューテックスをロックしていない間は，タスクの現在優先度はベース優先度に一致する．ミューテックスをロックしている間のタスクの現在優先度については，「4.4.6 ミューテックス」の節を参照すること．

タスクの起動要求キューイング数は，処理されていないタスクの起動要求の数であり，タスクの生成時に0に初期化される．

割付けプロセッサは，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，タスクを実行するプロセッサで，タスクの生成時に，タスクが属するクラスによって定まる初期割付けプロセッサに初期化される．

次回起動時の割付けプロセッサは，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，タスクが次に起動される時に割り付けられるプロセッサで，タスクの生成時に未設定の状態に初期化される．タスクの起動時に，次回起動時の割付けプロセッサが設定されていれば，タスクの割付けプロセッサがそのプロセッサに変更され，次回起動時の割付けプロセッサは未設定の状態に戻される．次回起動時の割付けプロセッサが未設定の場合には，タスクの割付けプロセッサは変更されない（つまり，タスクが前に実行されていたのと同じプロセッサで実行される）．

保護機能対応カーネルにおいては，スタック領域の扱いは，ユーザタスクとシステムタスクで異なる．ユーザタスクのスタック領域は，ユーザタスクが非特権モードで実行する間に用いるスタック領域であり，ユーザスタック領域と呼ぶ．その扱いについては，「2.11.6 ユーザタスクのユーザスタック領域」の節を参照すること．システムタスクのスタック領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域と同様に扱われる．

システムスタック領域は，保護機能対応カーネルにおいて，ユーザタスクがサービスコール（拡張サービスコールを含む）を呼び出し，特権モードで実行する間に用いるスタック領域である．システムスタック領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域と同様に扱われる．

タスク属性には，次の属性を指定することができる．

TA_ACT	0x02U	タスクの生成時にタスクを起動する
TA_RSTR	0x04U	生成するタスクを制約タスクとする

TA_ACTを指定しない場合，タスクの生成直後には，タスクは休止状態となる．
また，ターゲットによっては，ターゲット定義のタスク属性を指定できる場合
がある．ターゲット定義のタスク属性として，次の属性を予約している．

TA_FPU	FPUレジスタをコンテキストに含める

C言語によるタスクの記述形式は次の通り．

```
void task(intptr_t exinf)
{
    タスク本体
    ext_tsk();
}
```

exinfには，タスクの拡張情報が渡される．ext_tskを呼び出さず，タスクのメ
インルーチンからリターンした場合，ext_tskを呼び出した場合と同じ動作をす
る．

タスク管理機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMAX_ACTCNT	タスクの起動要求キューイング数の最大値
TNUM_TSKID	登録できるタスクの数（動的生成対応でないカーネルで は，静的APIによって登録されたタスクの数に一致）

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，TMAX_ACTCNTは1に固定されている．また，制約タスクはサポー
トしていない．ただし，制約タスク拡張パッケージを用いると，制約タスクの
機能を追加することができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，TMAX_ACTCNTは1に固定されている．また，制約タスクはサポー
トしていない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，TMAX_ACTCNTは1に固定されている．また，制約タスクはサ
ポートしていない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスクの起動要求のキューイングはサポートしておらず，タ
スクに対して起動要求キューイング数の情報を持たない．また，TMAX_ACTCNTを
定義していない．

また，制約タスクのみをサポートすることから，すべてのタスクでスタック領
域を共有しており，タスク毎にスタック領域の情報を持たない．

SSPカーネルにおける追加機能として，タスクに対して，実行時優先度の情報を持つ．SSPカーネルにおいては，タスクが起動された後，最初に実行状態になる時に，タスクのベース優先度が，タスクの実行時優先度に設定される．実行時優先度の機能は，起動時優先度よりも高い優先度でタスクを実行することで，同時期に共有スタック領域を使用している状態になるタスクの組み合わせを限定し，スタック領域を節約するための機能である．

タスクの実行時優先度は，実行時優先度を定義する静的API（DEF_EPR）によって設定する．実行時優先度を定義しない場合，タスクの実行時優先度は，起動時優先度と同じ値に設定される．

〔実行時優先度によるスタック領域の節約〕

いずれのタスクにも実行時優先度が設定されていない場合には，すべてのタスクが同時期に共有スタック領域を使用している状態になる可能性があるため，すべてのタスクのスタック領域のサイズの和に，非タスクコンテキスト用のスタック領域のサイズを加えたものが，共有スタック領域に必要なサイズとなる．

タスクAに対して実行時優先度が設定されており，タスクAの起動時優先度よりも高く，タスクAの実行時優先度と同じかそれよりも低い起動時優先度を持つタスクBがある場合，タスクAとタスクBは同時期に共有スタック領域を使用している状態にならない．そのため，タスクAとタスクBの内，サイズが小さい方のスタック領域のサイズは，共有スタック領域のサイズに加える必要がなくなり，スタック領域を節約できることになる．

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，自タスクの拡張情報の参照するサービスコール（get_inf）をサポートし，起動コードを指定してタスクを起動するサービスコール（sta_tsk），タスクを終了と同時に削除するサービスコール（exd_tsk），タスクの状態を参照するサービスコールの簡易版（ref_tst）はサポートしないこととした．

TNUM_TSKIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_TSK　　タスクの生成〔S〕
acre_tsk　　タスクの生成〔TD〕

【静的API】

＊保護機能対応でないカーネルの場合

```
CRE_TSK(ID tskid, { ATR tskatr, intptr_t exinf, TASK task,
                                    PRI itskpri, SIZE stksz, STK_T *stk })
```

＊保護機能対応カーネルの場合

```
CRE_TSK(ID tskid, { ATR tskatr, intptr_t exinf, TASK task,
        PRI itskpri, SIZE stksz, STK_T *stk, SIZE sstksz, STK_T *sstk })
```

※ sstkszおよびsstkの記述は省略することができる．

【C言語API】

```
ER_ID tskid = acre_tsk(const T_CTSK *pk_ctsk)
```

【パラメータ】

ID	tskid	生成するタスクのID番号（CRE_TSKの場合）
T_CTSK *	pk_ctsk	タスクの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊タスクの生成情報（パケットの内容）

ATR	tskatr	タスク属性
intptr_t	exinf	タスクの拡張情報
TASK	task	タスクのメインルーチンの先頭番地
PRI	itskpri	タスクの起動時優先度
SIZE	stksz	タスクのスタック領域のサイズ（バイト数）
STK_T *	stk	タスクのスタック領域の先頭番地
SIZE	sstksz	タスクのシステムスタック領域のサイズ（バイト数，保護機能対応カーネルの場合，静的APIにおいては省略可）
STK_T *	sstk	タスクのシステムスタック領域の先頭番地（保護機能対応カーネルの場合，静的APIにおいては省略可）

【リターンパラメータ】

ER_ID	tskid	生成されたタスクのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（tskatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（task，itskpri，stksz，stk，sstksz，sstkが不正，その他の条件については機能の項を参照すること）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_ctskが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるタスクIDがない）
E_NOMEM	メモリ不足（スタック領域やシステムスタック領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（tskidで指定したタスクが登録済み：CRE_TSKの場合，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定したタスク生成情報に従って，タスクを生成する．具体的な振舞いは以下の通り．

まず，stkとstkszからタスクが用いるスタック領域が設定される．stkszに0を指定した時や，ターゲット定義の最小値よりも小さい値を指定した時には，

E_PARエラーとなる．また，保護機能対応カーネルで，生成するタスクがユーザタスクの場合には，sstkとsstkszからシステムスタック領域が設定される．この場合，sstkszに0を指定した時や，ターゲット定義の最小値よりも小さい値を指定した時には，E_PARエラーとなる．

次に，生成されたタスクに対してタスク生成時に行うべき初期化処理が行われ，生成されたタスクは休止状態になる．さらに，tskatrにTA_ACTを指定した場合には，タスク起動時に行うべき初期化処理が行われ，生成されたタスクは実行できる状態になる．

静的APIにおいては，tskidはオブジェクト識別名，tskatr，itskpri，stkszは整数定数式パラメータ，exinf，task，stkは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

itskpriは，TMIN_TPRI以上，TMAX_TPRI以下でなければならない．

〔stkにNULLを指定した場合〕

stkをNULLとした場合，stkszで指定したサイズのスタック領域が，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保される．stkszにターゲット定義の制約に合致しないサイズを指定した時には，ターゲット定義の制約に合致するように大きい方に丸めたサイズで確保される．

保護機能対応カーネルにおいて，生成するタスクがユーザタスクの場合，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保されるスタック領域（ユーザスタック領域）は，「2.11.6 ユーザタスクのユーザスタック領域」の節の規定に従って，メモリオブジェクトとしてカーネルに登録される．

静的APIにおいて，生成するタスクが制約タスクの場合（tskatrにTA_RSTRを指定した場合），コンフィギュレータは，生成する制約タスクの起動時優先度毎にスタック領域を確保し，同じ起動時優先度を持つ制約タスクにそのスタック領域を共有させる．確保するスタック領域のサイズは，コンフィギュレータがスタック領域を確保し（stkにNULLを指定して生成され），同じ起動時優先度を持つ制約タスクのスタック領域のサイズ（stksz）の最大値となる．マルチプロセッサ対応カーネルでは，以上のスタック領域の確保処理を，制約タスクの初期割付けプロセッサ毎に行う．

〔stkにNULL以外を指定した場合〕

stkにNULL以外を指定した場合，stkとstkszで指定したスタック領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．スタック領域をアプリケーションで確保する方法については，「2.15.3 カーネル共通マクロ」の節を参照すること．その方法に従わず，stkやstkszにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．

保護機能対応カーネルにおいて，生成するタスクがシステムタスクの場合に，stkとstkszで指定したスタック領域がカーネル専用のメモリオブジェクトに含まれない場合，E_OBJエラーとなる．

保護機能対応カーネルにおいて，生成するタスクがユーザタスクの場合，stkとstkszで指定したスタック領域（ユーザスタック領域）は，「2.11.6 ユーザタスクのユーザスタック領域」の節の規定に従って，メモリオブジェクトとしてカーネルに登録される．そのため，上の方法を用いてスタック領域を確保しても，ターゲット定義の制約に合致する先頭番地とサイズとなるとは限らず，スタック領域をアプリケーションで確保する方法は，ターゲット定義である．また，stkとstkszで指定したスタック領域が，登録済みのメモリオブジェクトとメモリ領域が重なる場合には，E_OBJエラーとなる．

〔sstkとsstkszの扱い〕

保護機能対応カーネルにおけるsstkとsstkszの扱いは，生成するタスクがユーザタスクの場合とシステムタスクの場合で異なる．

生成するタスクがユーザタスクの場合の扱いは次の通り．

sstkの記述を省略するか，sstkをNULLとした場合，sstkszで指定したサイズのシステムスタック領域が，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保される．sstkszにターゲット定義の制約に合致しないサイズを指定した時には，ターゲット定義の制約に合致するように大きい方に丸めたサイズで確保される．
sstkszの記述も省略した場合には，ターゲット定義のデフォルトのサイズで確保される．

sstkにNULL以外を指定した場合，sstkとsstkszで指定したスタック領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．スタック領域をアプリケーションで確保する方法については，「2.15.3 カーネル共通マクロ」の節を参照すること．その方法に従わず，sstkやsstkszにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．また，stkとstkszで指定したシステムスタック領域がカーネル専用のメモリオブジェクトに含まれない場合，E_OBJエラーとなる．

生成するタスクがシステムタスクの場合の扱いは次の通り．

sstkに指定することができるのは，NULLのみである．sstkにNULL以外を指定した場合には，E_PARエラーとなる．

sstkszに0以外の値を指定した場合で，stkがNULLの場合には，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保されるスタック領域のサイズに，sstkszが加えられる．stkszにsstkszを加えた値が，ターゲット定義の制約に合致しないサイズになる時には，ターゲット定義の制約に合致するように大きい方に丸めたサイズで確保される．

sstkszに0以外の値を指定した場合で，stkがNULLでない場合には，E_PARエラーとなる．

sstkszに0を指定した場合，これらの処理は行わず，E_PARエラーにもならない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_TSKのみをサポートする．ただし，動的生成機能拡張パッ

ケージでは，acre_tskもサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_TSKのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_TSKのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，CRE_TSKのみをサポートする．

SSPカーネルでは，複数のタスクに対して，同じ起動時優先度を設定することはできない．設定した場合には，コンフィギュレータがE_PARエラーを報告する．

SSPカーネルでは，制約タスクのみをサポートするため，タスク属性にTA_RSTRを指定しない場合でも，生成されるタスクは制約タスクとなる．

SSPカーネルでは，stkにはNULLを指定しなくてはならず，その場合でも，コンフィギュレータはタスクのスタック領域を確保しない．これは，SSPカーネルでは，すべての処理単位が共有スタック領域を使用し，タスク毎にスタック領域を持たないためである．stkにNULL以外を指定した場合には，E_PARエラーとなる．

共有スタック領域の設定方法については，DEF_STKの項を参照すること．

【μITRON4.0仕様との関係】

taskのデータ型をTASKに，stkのデータ型をSTK_T *に変更した．COUNT_STK_TとROUND_STK_Tを新設し，スタック領域をアプリケーションで確保する方法を規定した．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

sstkのデータ型をSTK_T *に変更した．システムスタック領域をアプリケーションで確保する方法を規定した．

【未決定事項】

サービスコール（acre_tsk）により，stkにNULLを指定して制約タスクを生成した場合のスタック領域の確保方法については，今後の課題である．

【仕様決定の理由】

保護機能対応カーネルにおいて，sstkszおよびsstkの記述は省略することができることとしたのは，保護機能対応でないカーネル用のシステムコンフィギュレーションファイルを，保護機能対応カーネルにも変更なしに使えるようにするためである．

AID_TSK　　割付け可能なタスクIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_TSK(uint_t notsk)
```

【パラメータ】

uint_t	notsk	割付け可能なタスクIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

notskで指定した数のタスクIDを，タスクを生成するサービスコールによって割付け可能なタスクIDとして確保する．

notskは整数定数式パラメータである．

SAC_TSK　　タスクのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_tsk　　タスクのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_TSK(ID tskid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_tsk(ID tskid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_TSKの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）

E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクは静的APIで生成された：sac_tskの場合，対象タスクに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_TSKの場合）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，tskidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_TSKは，対象タスクが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

sac_tskにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_TSK，sac_tskをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_TSK，sac_tskをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_TSKのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，SAC_TSK，sac_tskをサポートしない．

DEF_EPR　　タスクの実行時優先度の定義〔S〕

【静的API】

```
DEF_EPR(ID tskid, { PRI exepri })
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
PRI	exepri	タスクの実行時優先度

【エラーコード】

E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（exepriが不正）

E_ILUSE		サービスコール不正使用（exepriが，自タスクの起動時優先度よりも低い場合）
E_OBJ		オブジェクト状態エラー（対象タスクに対して実行優先度が設定済み）

【サポートするカーネル】

DEF_EPRは，TOPPERS/SSPカーネルのみがサポートする静的APIである．他のカーネルは，DEF_EPRをサポートしない．

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）の実行時優先度を，exepriで指定した優先度に設定する．

tskidはオブジェクト識別名，exepriは整数定数式パラメータである．

exepriは，TMIN_TPRI以上，TMAX_TPRI以下でなければならない．また，exepriは，対象タスクの起動時優先度と同じかそれよりも高くなければならない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていない静的APIである．

---

del_tsk　タスクの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_tsk(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態でない，対象タスクは静的APIで生成された）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが休止状態である場合には，対象タスクの登録が解除され，そのタスクIDが未使用の状態に戻される．また，タスクの生成時にタスクのスタック領域およびシステムスタック領域がカーネルによって確保された場合は，それらのメモリ領域が解放される．

対象タスクが休止状態でない場合には，E_OBJエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_tskをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_tskをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_tskをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_tskをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，del_tskをサポートしない．

---

act_tsk　　タスクの起動〔T〕
iact_tsk　　タスクの起動〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = act_tsk(ID tskid)
ER ercd = iact_tsk(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：act_tskの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iact_tskの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作1が許可されていない：act_tskの場合）
E_QOVR	キューイングオーバフロー（起動要求キューイング数がTMAX_ACTCNTに一致）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対して起動要求を行う．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが休止状態である場合には，対象タスクに対してタスク起動時に行うべき初期化処理が行われ，対象タスクは実行できる状態になる．

対象タスクが休止状態でない場合には，対象タスクの起動要求キューイング数に1が加えられる．起動要求キューイング数に1を加えるとTMAX_ACTCNTを超える場合には，E_QOVRエラーとなる．

act_tskにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，act_tsk／iact_tskは，対象タスクの次回起動時の割付けプロセッサを変更しない．

---

mact_tsk　割付けプロセッサ指定でのタスクの起動〔TM〕
imact_tsk　割付けプロセッサ指定でのタスクの起動〔IM〕

【C言語API】

```
ER ercd = mact_tsk(ID tskid, ID prcid)
ER ercd = imact_tsk(ID tskid, ID prcid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
ID	prcid	タスクの割付け対象のプロセッサのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：mact_tskの場合，タスクコンテキストからの呼出し：imact_tskの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskid，prcidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（対象タスクはprcidで指定したプロセッサに割り付けられない）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作1が許可されていない：mact_tskの場合）
E_QOVR	キューイングオーバフロー（起動要求キューイング数がTMAX_ACTCNTに一致）

【機能】

prcidで指定したプロセッサを割付けプロセッサとして，tskidで指定したタスク（対象タスク）に対して起動要求を行う．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが休止状態である場合には，対象タスクの割付けプロセッサがprcidで指定したプロセッサに変更された後，対象タスクに対してタスク起動時に行うべき初期化処理が行われ，対象タスクは実行できる状態になる．

対象タスクが休止状態でない場合には，対象タスクの起動要求キューイング数に1が加えられ，次回起動時の割付けプロセッサがprcidで指定したプロセッサに変更される．起動要求キューイング数に1を加えるとTMAX_ACTCNTを超える場合には，E_QOVRエラーとなる．

mact_tskにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

対象タスクの属するクラスの割付け可能プロセッサが，prcidで指定したプロセッサを含んでいない場合には，E_PARエラーとなる．

prcidにTPRC_INI（＝0）を指定すると，対象タスクの割付けプロセッサを，それが属するクラスの初期割付けプロセッサとする．

【補足説明】

TMAX_ACTCNTが2以上の場合でも，対象タスクが次に起動される時の割付けプロセッサは，キューイングされない．すなわち，プロセッサAに割り付けられた休止状態でないタスクを対象として，プロセッサBを割付けプロセッサとしてmact_tskを呼び出し，さらにプロセッサCを割付けプロセッサとしてmact_tskを呼び出すと，対象タスクの次回起動時の割付けプロセッサがプロセッサCに変更され，対象タスクがプロセッサBで実行されることはない．なお，TMAX_ACTCNTが1の場合には，プロセッサCを割付けプロセッサとした2回目のmact_tskがE_QOVRエラーとなるため，次回起動時の割付けプロセッサはプロセッサBのまま変更されない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，mact_tsk，imact_tskをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，mact_tsk，imact_tskをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，mact_tsk，imact_tskをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

can_act　　タスク起動要求のキャンセル〔T〕

【C言語API】

```
   ER_UINT actcnt = can_act(ID tskid)

【パラメータ】
   ID          tskid       対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】
   ER_UINT     actcnt      キューイングされていた起動要求の数（正の値
                           または0）またはエラーコード

【エラーコード】
   E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
                   し，CPUロック状態からの呼出し）
   E_ID            不正ID番号（tskidが不正）
   E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
   E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操
                   作1が許可されていない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対する処理されていない起動要求をす
べてキャンセルし，キャンセルした起動要求の数を返す．具体的な振舞いは以
下の通り．

対象タスクの起動要求キューイング数が0に設定され，0に設定する前の起動要
求キューイング数が，サービスコールの返値として返される．また，マルチプ
ロセッサ対応カーネルにおいては，対象タスクの次回起動時の割付けプロセッ
サが未設定状態に戻される．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，can_actをサポートしない．
------------------------------------------------------------------------
mig_tsk     タスクの割付けプロセッサの変更〔TM〕

【C言語API】
   ER ercd = mig_tsk(ID tskid, ID prcid)

【パラメータ】
   ID          tskid       対象タスクのID番号
   ID          prcid       タスクの割付けプロセッサのID番号

【リターンパラメータ】
   ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】
   E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
                   し，CPUロック状態からの呼出し，対象タスクが自タスク
                   でディスパッチ保留状態からの呼出し）
```

E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskid，prcidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（対象タスクはprcidで指定したプロセッサに割り付けられない）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作1が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが自タスクと異なるプロセッサに割り付けられている）

【機能】

tskidで指定したタスクの割付けプロセッサを，prcidで指定したプロセッサに変更する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが，自タスクが割り付けられたプロセッサに割り付けられている場合には，対象タスクをprcidで指定したプロセッサに割り付ける．対象タスクが実行できる状態の場合には，prcidで指定したプロセッサに割り付けられた同じ優先度のタスクの中で，最も優先順位が低い状態となる．

対象タスクが，自タスクが割付けられたプロセッサと異なるプロセッサに割り付けられている場合には，E_OBJエラーとなる．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

ディスパッチ保留状態で，対象タスクを自タスクとしてmig_tskを呼び出すと，E_CTXエラーとなる．

prcidにTPRC_INI（＝0）を指定すると，対象タスクの割付けプロセッサを，それが属するクラスの初期割付けプロセッサに変更する．

【補足説明】

この仕様では，タスクをマイグレーションさせることができるのは，そのタスクと同じプロセッサに割り付けられたタスクのみである．そのため，CPUロック状態やディスパッチ禁止状態を用いて，他のタスクへのディスパッチが起こらないようにすることで，自タスクが他のプロセッサへマイグレーションされるのを防ぐことができる．

対象タスクが，最初からprcidで指定したプロセッサに割り付けられている場合には，割付けプロセッサの変更は起こらないが，優先順位が同一優先度のタスクの中で最低となる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，mig_tskをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，mig_tskをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，mig_tskをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ext_tsk　　自タスクの終了〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ext_tsk()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】

ER	ercd	エラーコード

【エラーコード】

E_SYS	システムエラー（カーネルの誤動作）
E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し）

【機能】

自タスクを終了させる．具体的な振舞いは以下の通り．

自タスクに対してタスク終了時に行うべき処理が行われ，自タスクは休止状態になる．さらに，自タスクの起動要求キューイング数が0でない場合には，自タスクに対してタスク起動時に行うべき処理が行われ，自タスクは実行できる状態になる．またこの時，起動要求キューイング数から1が減ぜられる．

ext_tskは，CPUロック解除状態，割込み優先度マスク全解除状態，ディスパッチ許可状態で呼び出すのが原則であるが，そうでない状態で呼び出された場合には，CPUロック解除状態，割込み優先度マスク全解除状態，ディスパッチ許可状態に遷移させた後，自タスクを終了させる．

ext_tskが正常に処理された場合，ext_tskからはリターンしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ext_tskをサポートしない．自タスクを終了させる場合には，タスクのメインルーチンからリターンする．

【μITRON4.0仕様との関係】

ext_tskを非タスクコンテキストから呼び出した場合に，E_CTXエラーが返ることとした．μITRON4.0仕様においては，ext_tskからはリターンしないと規定さ

れている．

---

ter_tsk　　タスクの強制終了〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ter_tsk(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（対象タスクが自タスク）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態，対象タスクが自タスクと異なるプロセッサに割り付けられている）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を終了させる．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが休止状態でない場合には，対象タスクに対してタスク終了時に行うべき処理が行われ，対象タスクは休止状態になる．さらに，対象タスクの起動要求キューイング数が0でない場合には，対象タスクに対してタスク起動時に行うべき処理が行われ，対象タスクは実行できる状態になる．またこの時，起動要求キューイング数から1が減ぜられる．

対象タスクが休止状態である場合には，E_OBJエラーとなる．また，対象タスクが自タスクの場合には，E_ILUSEエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，対象タスクは，自タスクと同じプロセッサに割り付けられているタスクに限られる．対象タスクが自タスクと異なるプロセッサに割り付けられている場合には，E_OBJエラーとなる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける使用上の注意】

現時点のFMPカーネルの実装では，デッドロック回避のためのリトライ処理により，サービスコールの処理時間に上限がないため，注意が必要である（ロック方式にも依存する）．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ter_tskをサポートしない．

---

chg_pri　　タスクのベース優先度の変更〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = chg_pri(ID tskid, PRI tskpri)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
PRI	tskpri	ベース優先度

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tskpriが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（tskpriが，対象タスクがロックしているかロックを待っている優先度上限ミューテックスの上限優先度よりも高い場合）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）のベース優先度を，tskpriで指定した優先度に変更する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが休止状態でない場合には，対象タスクのベース優先度が，tskpriで指定した優先度に変更される．それに伴って，対象タスクの現在優先度も変更される．

対象タスクが，優先度上限ミューテックスをロックしていない場合には，次の処理が行われる．対象タスクが実行できる状態の場合には，同じ優先度のタスクの中で最低優先順位となる．対象タスクが待ち状態で，タスクの優先度順の待ち行列につながれている場合には，対象タスクの変更後の現在優先度に従って，その待ち行列中での順序が変更される．待ち行列中に同じ現在優先度のタスクがある場合には，対象タスクの順序はそれらの中で最後になる．

対象タスクが，優先度上限ミューテックスをロックしている場合には，対象タスクの現在優先度が変更されることはなく，優先順位も変更されない．

対象タスクが休止状態である場合には，E_OBJエラーとなる．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．また，tskpriにTPRI_INI（＝0）を指定すると，対象タスクのベース優先度が，起動時優先度に変更される．

tskpriは，TPRI_INIであるか，TMIN_TPRI以上，TMAX_TPRI以下でなければならない．また，対象タスクが優先度上限ミューテックスをロックしているかロックを待っている場合，tskpriは，それらのミューテックスの上限優先度と同じかそれより低くなければならない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，chg_priをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

対象タスクが，同じ優先度のタスクの中で最低の優先順位となる（対象タスクが待ち状態で，タスクの優先度順の待ち行列につながれている場合には，同じ優先度のタスクの中での順序が最後になる）条件を変更した．

---

get_pri　　タスク優先度の参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_pri(ID tskid, PRI *p_tskpri)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
PRI *	p_tskpri	現在優先度を入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
PRI	tskpri	現在優先度

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_tskpriが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）の現在優先度を参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが休止状態でない場合には，対象タスクの現在優先度が，p_tskpriで指定したメモリ領域に返される．対象タスクが休止状態である場合には，

E_OBJエラーとなる.

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる.

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，get_priをサポートしない.

---

get_inf　　自タスクの拡張情報の参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_inf(intptr_t *p_exinf)
```

【パラメータ】

intptr_t *	p_exinf	拡張情報を入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
intptr_t	exinf	拡張情報

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_exinfが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

自タスクの拡張情報を参照する．参照した拡張情報は，p_exinfで指定したメモリ領域に返される.

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，get_infをサポートしない.

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである.

---

ref_tsk　　タスクの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_tsk(ID tskid, T_RTSK *pk_rtsk)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
T_RTSK *	pk_rtsk	タスクの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊タスクの現在状態（パケットの内容）

STAT	tskstat	タスク状態
PRI	tskpri	タスクの現在優先度
PRI	tskbpri	タスクのベース優先度
STAT	tskwait	タスクの待ち要因
ID	wobjid	タスクの待ち対象のオブジェクトのID
TMO	lefttmo	タスクがタイムアウトするまでの時間
uint_t	actcnt	タスクの起動要求キューイング数
uint_t	wupcnt	タスクの起床要求キューイング数
bool_t	texmsk	タスクがタスク例外処理マスク状態か否か（保護機能対応カーネルの場合）
bool_t	waifbd	タスクが待ち禁止状態か否か（保護機能対応カーネルの場合）
uint_t	svclevel	タスクの拡張サービスコールのネストレベル（保護機能対応カーネルの場合）
ID	prcid	タスクの割付けプロセッサのID（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）
ID	actprc	タスクの次回起動時の割付けプロセッサのID（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rtskが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rtskで指定したメモリ領域に返される．

tskstatには，対象タスクの現在のタスク状態を表す次のいずれかの値が返される．

TTS_RUN	0x01U	実行状態
TTS_RDY	0x02U	実行可能状態
TTS_WAI	0x04U	待ち状態
TTS_SUS	0x08U	強制待ち状態
TTS_WAS	0x0cU	二重待ち状態
TTS_DMT	0x10U	休止状態

マルチプロセッサ対応カーネルでは，対象タスクが自タスクの場合にも，tskstatがTTS_SUSとなる場合がある．この状況は，自タスクに対してref_tskを発行するのと同じタイミングで，他のプロセッサで実行されているタスクから同じタスクに対してsus_tskが発行された場合に発生する可能性がある．

対象タスクが休止状態でない場合には，tskpriには対象タスクの現在優先度が，tskbpriには対象タスクのベース優先度が返される．対象タスクが休止状態である場合には，tskpriとtskbpriの値は保証されない．

対象タスクが待ち状態である場合には，tskwaitには，対象タスクが何を待っている状態であるかを表す次のいずれかの値が返される．

TTW_SLP	0x0001U	起床待ち
TTW_DLY	0x0002U	時間経過待ち
TTW_SEM	0x0004U	セマフォの資源獲得待ち
TTW_FLG	0x0008U	イベントフラグ待ち
TTW_SDTQ	0x0010U	データキューへの送信待ち
TTW_RDTQ	0x0020U	データキューからの受信待ち
TTW_SPDQ	0x0100U	優先度データキューへの送信待ち
TTW_RPDQ	0x0200U	優先度データキューからの受信待ち
TTW_MBX	0x0040U	メールボックスからの受信待ち
TTW_MTX	0x0080U	ミューテックスのロック待ち状態
TTW_MPF	0x2000U	固定長メモリブロックの獲得待ち

対象タスクが待ち状態でない場合には，tskwaitの値は保証されない．

対象タスクが起床待ち状態および時間経過待ち状態以外の待ち状態である場合には，wobjidに，対象タスクが待っているオブジェクトのID番号が返される．対象タスクが待ち状態でない場合や，起床待ち状態または時間経過待ち状態である場合には，wobjidの値は保証されない．

対象タスクが時間経過待ち状態以外の待ち状態である場合には，lefttmoに，タスクがタイムアウトを起こすまでの相対時間が返される．タスクがタイムアウトを起こさない場合には，TMO_FEVR（＝-1）が返される．

対象タスクが時間経過待ち状態である場合には，lefttmoに，タスクの遅延時間が経過して待ち解除されるまでの相対時間が返される．ただし，返されるべき相対時間がTMO型に格納することができない場合がありうる．この場合には，相対時間（RELTIM型，uint_t型に定義される）をTMO型（int_t型に定義される）に型キャストした値が返される．

対象タスクが待ち状態でない場合には，lefttmoの値は保証されない．

actcntには，対象タスクの起動要求キューイング数が返される．

対象タスクが休止状態でない場合には，wupcntに，タスクの起床要求キューイング数が返される．対象タスクが休止状態である場合には，wupcntの値は保証されない．

保護機能対応カーネルで，対象タスクが休止状態でない場合には，texmskに，対象タスクがタスク例外処理マスク状態の場合にtrue，そうでない場合にfalseが返される．waifbdには，対象タスクが待ち禁止状態の場合にtrue，そうでない場合にfalseが返される．またsvclevelには，対象タスクが拡張サービスコールを呼び出していない場合には0，呼び出している場合には，実行中の拡張

サービスコールがネスト段数が返される．対象タスクが休止状態である場合には，texmsk，waifbd，svclevelの値は保証されない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，prcidに，対象タスクの割付けプロセッサのID番号が返される．またactprcには，対象タスクの次回起動時の割付けプロセッサのID番号が返される．次回起動時の割付けプロセッサが未設定の場合には，actprcにTPRC_NONE（＝0）が返される．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【補足説明】

対象タスクが時間経過待ち状態である場合に，lefttmo（TMO型）に返される値をRELTIM型に型キャストすることで，タスクが待ち解除されるまでの相対時間を正しく得ることができる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，tskwaitにTTW_MTXが返ることはない．ただし，ミューテックス機能拡張パッケージを用いると，tskwaitにTTW_MTXが返る場合がある．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，tskwaitにTTW_MTXが返ることはない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，tskwaitにTTW_MBXが返ることはない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ref_tskをサポートしない．

【使用上の注意】

ref_tskはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_tskを呼び出し，対象タスクの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_tskから戻ってきた時には対象タスクの状態が変化している可能性があるためである．

【μITRON4.0仕様との関係】

対象タスクが時間経過待ち状態の時にlefttmoに返される値について規定した．また，参照できるタスクの状態から，強制待ち要求ネスト数（suscnt）を除外した．

マルチプロセッサ対応カーネルで参照できる情報として，割付けプロセッサのID（prcid）と次回起動時の割付けプロセッサのID（actprc）を追加した．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

保護機能対応カーネルで参照できる情報として，タスク例外処理マスク状態か否か（texmsk），待ち禁止状態か否か（waifbd），拡張サービスコールのネストレベル（svclevel）を追加した．

4.2 タスク付属同期機能

タスク付属同期機能は，タスクとタスクの間，または非タスクコンテキストの処理とタスクの間で同期を取るために，タスク単独で持っている機能である．

タスク付属同期機能に関連して，各タスクが持つ情報は次の通り．

・起床要求キューイング数

タスクの起床要求キューイング数は，処理されていないタスクの起床要求の数であり，タスクの起動時に0に初期化される．

タスク付属同期機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMAX_WUPCNT	タスクの起床要求キューイング数の最大値

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，TMAX_WUPCNTは1に固定されている．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，TMAX_WUPCNTは1に固定されている．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，TMAX_WUPCNTは1に固定されている．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスク付属同期機能をサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，強制待ち要求をネストする機能をサポートしないこととした．言い換えると，強制待ち要求ネスト数の最大値を1に固定する．これに伴い，強制待ち状態から強制再開するサービスコール（frsm_tsk）とタスクの強制待ち要求ネスト数の最大値を表すカーネル構成マクロ（TMAX_SUSCNT）は廃止した．また，ref_tskで参照できる情報（T_RTSKのフィールド）から，強制待ち要求ネスト数（suscnt）を除外した．
---

slp_tsk	起床待ち〔T〕
tslp_tsk	起床待ち（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】
```
ER ercd = slp_tsk()
ER ercd = tslp_tsk(TMO tmout)
```

【パラメータ】

TMO	tmout	タイムアウト時間（tslp_taskの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（ディスパッチ保留状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し）
E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：tslp_taskの場合）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（slp_taskを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除

【機能】

自タスクを起床待ちさせる．具体的な振舞いは以下の通り．

自タスクの起床要求キューイング数が0でない場合には，起床要求キューイング数から1が減ぜられる．起床要求キューイング数が0の場合には，自タスクは起床待ち状態となる．

【補足説明】

自タスクの起床要求キューイング数が0でない場合には，自タスクは実行できる状態を維持し，自タスクの優先順位は変化しない．

---

wup_tsk	タスクの起床〔T〕
iwup_tsk	タスクの起床〔I〕

【C言語API】
```
ER ercd = wup_tsk(ID tskid)
ER ercd = iwup_tsk(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：wup_taskの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iwup_taskの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）

E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作1が許可されていない：wup_tskの場合）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態）
E_QOVR	キューイングオーバフロー（起床要求キューイング数がTMAX_WUPCNTに一致）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を起床する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが起床待ち状態である場合には，対象タスクが待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象タスクが起床待ち状態でなく，休止状態でもない場合には，対象タスクの起床要求キューイング数に1が加えられる．起床要求キューイング数に1を加えるとTMAX_WUPCNTを超える場合には，E_QOVRエラーとなる．

対象タスクが休止状態である場合には，E_OBJエラーとなる．

wup_tskにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

---

can_wup　タスク起床要求のキャンセル〔T〕

【C言語API】

```
ER_UINT wupcnt = can_wup(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER_UINT	wupcnt	キューイングされていた起床要求の数（正の値または0）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作1が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対する処理されていない起床要求をすべてキャンセルし，キャンセルした起床要求の数を返す．具体的な振舞いは以

下の通り．

対象タスクが休止状態でない場合には，対象タスクの起床要求キューイング数が0に設定され，0に設定する前の起床要求キューイング数が，サービスコールの返値として返される．

対象タスクが休止状態である場合には，E_OBJエラーとなる．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

---

rel_wai　　強制的な待ち解除〔T〕
irel_wai　　強制的な待ち解除〔I〕

【C言語API】
　ER ercd = rel_wai(ID tskid)
　ER ercd = irel_wai(ID tskid)

【パラメータ】
　ID　　tskid　　対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】
　ER　　ercd　　正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】
　E_CTX　　コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：rel_waiの場合，タスクコンテキストからの呼出し：irel_waiの場合，CPUロック状態からの呼出し）
　E_NOSPT　　未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
　E_ID　　不正ID番号（tskidが不正）
　E_NOEXS〔D〕　　オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
　E_OACV〔P〕　　オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない：rel_waiの場合）
　E_OBJ　　オブジェクト状態エラー（対象タスクが待ち状態でない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を，強制的に待ち解除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが待ち状態である場合には，対象タスクが待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_RLWAIが返る．

対象タスクが待ち状態でない場合には，E_OBJエラーとなる．

---

sus_tsk　　強制待ち状態への遷移〔T〕

【C言語API】
　ER ercd = sus_tsk(ID tskid)

【パラメータ】

```
    ID          tskid       対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】
    ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】
    E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
                    し，CPUロック状態からの呼出し，対象タスクが自タスク
                    でディスパッチ保留状態からの呼出し）
    E_NOSPT         未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
    E_ID            不正ID番号（tskidが不正）
    E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
    E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操
                    作2が許可されていない）
    E_OBJ           オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態）
    E_QOVR          キューイングオーバフロー（対象タスクが強制待ち状態）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を強制待ちにする．具体的な振舞いは以
下の通り．

対象タスクが実行できる状態である場合には，対象タスクは強制待ち状態とな
る．また，待ち状態（二重待ち状態を除く）である場合には，二重待ち状態と
なる．

対象タスクが強制待ち状態または二重待ち状態である場合はE_QOVRエラー，休
止状態である場合にはE_OBJエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，対象タスクが自タスクの場合にも，
E_QOVRエラーとなる場合がある．この状況は，自タスクに対してsus_tskを発行
するのと同じタイミングで，他のプロセッサで実行されているタスクから同じ
タスクに対してsus_tskが発行された場合に発生する可能性がある．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

ディスパッチ保留状態で，対象タスクを自タスクとしてsus_tskを呼び出すと，
E_CTXエラーとなる．
------------------------------------------------------------------------
rsm_tsk     強制待ち状態からの再開〔T〕

【C言語API】
    ER ercd = rsm_tsk(ID tskid)

【パラメータ】
    ID          tskid       対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】
    ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
```

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが強制待ち状態でない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を，強制待ちから再開する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが強制待ち状態である場合には，対象タスクは強制待ちから再開される．強制待ち状態でない場合には，E_OBJエラーとなる．

---

dis_wai	待ち禁止状態への遷移〔TP〕
idis_wai	待ち禁止状態への遷移〔IP〕

【C言語API】

```
ER ercd = dis_wai(ID tskid)
ER ercd = idis_wai(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：dis_waiの場合，タスクコンテキストからの呼出し：idis_waiの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない：dis_waiの場合）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態，対象タスクがタスク例外処理マスク状態でない）
E_QOVR	キューイングオーバフロー（対象タスクが待ち禁止状態）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）を待ち禁止状態にする．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクがタスク例外処理マスク状態であり，待ち禁止状態でない場合には，対象タスクは待ち禁止状態になる．

対象タスクが休止状態である場合には，E_OBJエラーとなる．また，対象タスクがタスク例外処理マスク状態でない場合にはE_OBJエラー，待ち禁止状態の場合にはE_QOVRエラーとなる．

dis_waiにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，dis_waiをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，dis_waiをサポートしない．

【補足説明】

dis_waiは，対象タスクの待ち解除は行わない．対象タスクを待ち禁止状態にすることに加えて待ち解除したい場合には，dis_waiを呼び出した後に，rel_waiを呼び出せばよい．

【未決定事項】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，対象タスクを，自タスクと同じプロセッサに割り付けられているタスクに限るなどの制限を導入する可能性があるが，現時点では未決定である．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ena_wai	待ち禁止状態の解除〔TP〕
iena_wai	待ち禁止状態の解除〔IP〕

【C言語API】

```
ER ercd = ena_wai(ID tskid)
ER ercd = iena_wai(ID tskid)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：ena_waiの場合，タスクコンテキストからの呼出し：

		iena_waiの場合，CPUロック状態からの呼出し）
	E_NOSPT	未サポート機能（対象タスクが制約タスク）
	E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
	E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
	E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない：ena_waiの場合）
	E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態，対象タスクが待ち禁止状態でない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）の待ち禁止状態を解除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクが待ち禁止状態である場合には，待ち禁止状態は解除される．対象タスクが休止状態である場合や，待ち禁止状態でない場合には，E_OBJエラーとなる．

ena_waiにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ena_waiをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ena_waiをサポートしない．

【未決定事項】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，対象タスクを，自タスクと同じプロセッサに割り付けられているタスクに限るなどの制限を導入する可能性があるが，現時点では未決定である．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様に定義されていないサービスコールである．

---

dly_tsk　　自タスクの遅延〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = dly_tsk(RELTIM dlytim)
```

【パラメータ】

RELTIM	dlytim	遅延時間

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（ディスパッチ保留状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し）
E_PAR	パラメータエラー（dlytimが不正）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除

【機能】

dlytimで指定した時間，自タスクを遅延させる．具体的な振舞いは以下の通り．

自タスクは，dlytimで指定した時間が経過するまでの間，時間経過待ち状態となる．dly_tskを呼び出してからdlytimで指定した相対時間後に，自タスクは待ち解除され，dly_tskからE_OKが返る．

dlytimは，TMAX_RELTIM以下でなければならない．

4.3 タスク例外処理機能

タスク例外処理ルーチンは，カーネルが実行を制御する処理単位で，タスクと同一のコンテキスト内で実行される．タスク例外処理ルーチンは，各タスクに1つのみ登録できるため，タスクIDによって識別する．

タスク例外処理機能に関連して，各タスクが持つ情報は次の通り．

- タスク例外処理ルーチン属性
- タスク例外処理禁止フラグ
- 保留例外要因
- タスク例外処理ルーチンの先頭番地

タスク例外処理ルーチン属性に指定できる属性はない．そのため，タスク例外処理ルーチン属性には，TA_NULLを指定しなければならない．

タスクは，タスク例外処理ルーチンの実行を保留するためのタスク例外処理禁止フラグを持つ．タスク例外処理禁止フラグがセットされた状態をタスク例外処理禁止状態，クリアされた状態をタスク例外処理許可状態と呼ぶ．タスク例外処理禁止フラグは，タスクの起動時に，セットした状態に初期化される．

タスクの保留例外要因は，タスクに対して要求された例外要因を蓄積するためのビットマップであり，タスクの起動時に0に初期化される．

タスク例外処理ルーチンは，「タスク例外処理許可状態である」「保留例外要因が0でない」「タスクが実行状態である」「タスクコンテキストが実行されている」「割込み優先度マスク全解除状態である」「CPUロック状態でない」の6つの条件が揃った場合に実行が開始される．保護機能対応カーネルにおいては，さらに，「タスク例外処理マスク状態でない」という条件が追加される．タスク例外処理マスク状態については，「2.6.5 タスク例外処理マスク状態と待ち禁止状態」の節を参照すること．

タスク例外処理ルーチンの実行が開始される時，タスク例外処理禁止フラグはセットされ，保留例外要因は0にクリアされる．また，タスク例外処理ルーチンからのリターン時には，タスク例外処理禁止フラグはクリアされる．

保護機能対応カーネルでは，ユーザタスクのタスク例外処理ルーチンの実行開始時に，リターン先の番地やシステム状態等が，ユーザスタック上に保存される．ここで，ユーザスタック領域に十分な空きがない場合や，ユーザスタックポインタがユーザスタック領域以外を指している場合，カーネルは，エミュレートされたCPU例外を発生させる．これを，タスク例外実行開始時スタック不正例外と呼ぶ．

逆に，タスク例外処理ルーチンからのリターン時には，リターン先の番地やシステム状態等が，ユーザスタック上から取り出される．ここで，ユーザスタック領域に積まれている情報が足りない場合や，ユーザスタックポインタがユーザスタック領域以外を指している場合，カーネルは，エミュレートされたCPU例外を発生させる．これを，タスク例外リターン時スタック不正例外と呼ぶ．

タスク例外実行開始時スタック不正例外またはタスク例外リターン時スタック不正例外を起こしたタスクの実行を継続した場合の動作は保証されないため，アプリケーションは，これらのCPU例外を処理するCPU例外ハンドラで，「2.8.1 CPU例外処理の流れ」の節の(b)または(d)の方法でリカバリ処理を行う必要がある．

保護機能対応カーネルにおいて，タスク例外処理ルーチンは，タスクと同じ保護ドメインに属する．

タスク例外処理機能に用いるデータ型は次の通り．

TEXPTN	タスク例外要因のビットパターン（符号無し整数，uint_tに定義）

C言語によるタスク例外処理ルーチンの記述形式は次の通り．

```
void task_exception_routine(TEXPTN texptn, intptr_t exinf)
{
    タスク例外処理ルーチン本体
}
```

texptnにはタスク例外処理ルーチン起動時の保留例外要因が，exinfにはタスクの拡張情報が，それぞれ渡される．

タスク例外処理機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TBIT_TEXPTN	タスク例外要因のビット数（TEXPTNの有効ビット数）

【補足説明】

保護機能対応でないカーネルでは，タスク例外処理ルーチンの実行開始条件の内，「CPUロック状態でない」は省いても同じ結果になる．これは，CPUロック状態で他の条件が揃うことはないためである．一方，保護機能対応カーネルで

は，CPUロック状態で拡張サービスコールからリターンした場合（より厳密には，タスク例外処理マスク状態が解除された場合）に，CPUロック状態で他の条件が揃うことになる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，タスク例外要因のビット数（TBIT_TEXPTN）は16以上である．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，タスク例外要因のビット数（TBIT_TEXPTN）は16以上である．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，タスク例外要因のビット数（TBIT_TEXPTN）は16以上である．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，タスク例外処理機能をサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

割込み優先度マスク全解除状態でない場合には，タスク例外処理ルーチンの実行が開始されないという仕様に変更した．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

ユーザタスクのタスク例外処理ルーチンの実行開始時とリターン時にユーザスタックが不正となる問題に関して，μITRON4.0/PX仕様では考慮されていない．

【仕様変更の経緯】

この仕様のRelease 1.2以前では，タスク例外処理ルーチンの実行開始条件に「割込み優先度マスク全解除状態である」の条件がなかったが，Release1.3以降で追加した．これは，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，他プロセッサで実行中のタスクに対してタスク例外処理を要求した場合に，割込み優先度マスクが全解除でないと，タスク例外処理ルーチンをただちに実行開始することができないためである．なお，ASPカーネル Release 1.6以前と，FMPカーネルRelease 1.1.1以前のバージョンは，古い仕様に従って実装されている．

DEF_TEX　　タスク例外処理ルーチンの定義〔S〕
def_tex　　タスク例外処理ルーチンの定義〔TD〕

【静的API】

```
DEF_TEX(ID tskid, { ATR texatr, TEXRTN texrtn })
```

【C言語API】

```
ER ercd = def_tex(ID tskid, const T_DTEX *pk_dtex)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
T_DTEX *	pk_dtex	タスク例外処理ルーチンの定義情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊タスク例外処理ルーチンの定義情報（パケットの内容）

ATR	texatr	タスク例外処理ルーチン属性
TEXRTN	texrtn	タスク例外処理ルーチンの先頭番地

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_RSATR	予約属性（texatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_dtexが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_PAR	パラメータエラー（texrtnが不正）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（タスク例外処理ルーチンを定義済みのタスクに対する定義，タスク例外処理ルーチンを未定義のタスクに対する解除，対象タスクは静的APIで生成された：def_texの場合）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対して，各パラメータで指定したタスク例外処理ルーチン定義情報に従って，タスク例外処理ルーチンを定義する．

ただし，def_texにおいてpk_dtexをNULLにした場合には，対象タスクに対するタスク例外処理ルーチンの定義を解除する．また，対象タスクのタスク例外処理禁止フラグをセットし，保留例外要因を0に初期化する．

静的APIにおいては，tskidはオブジェクト識別名，texatrは整数定数式パラメータ，texrtnは一般定数式パラメータである．

静的APIによって生成したタスクに対しては，タスク例外処理ルーチンの登録はDEF_TEXによって行わねばならず，def_texによってタスク例外処理ルーチンを登録／登録解除することはできない．def_texにおいて，対象タスクが静的APIで生成したタスクである場合には，E_OBJエラーとなる．

タスク例外処理ルーチンを定義する場合（DEF_TEXの場合およびdef_texにおいてpk_dtexをNULL以外にした場合）で，対象タスクに対してすでにタスク例外処理ルーチンが定義されている場合には，E_OBJエラーとなる．

保護機能対応カーネルにおいて，DEF_TEXは，対象タスクが属する保護ドメイン

の囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，def_texでタスク例外処理ルーチンを定義する場合には，タスク例外処理ルーチンの属する保護ドメインを設定する必要はなく，タスク例外処理ルーチン属性にTA_DOM(domid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_DOM(TDOM_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

タスク例外処理ルーチンの定義を解除する場合（def_texにおいてpk_dtexをNULLにした場合）で，対象タスクに対してタスク例外処理ルーチンが定義されていない場合には，E_OBJエラーとなる．

def_texにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，DEF_TEXのみをサポートする．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，def_texもサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，DEF_TEXのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，DEF_TEXのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

texrtnのデータ型をTEXRTNに変更した．

def_texによって，定義済みのタスク例外処理ルーチンを再定義しようとした場合に，E_OBJエラーとすることにした．

---

ras_tex　　タスク例外処理の要求〔T〕
iras_tex　　タスク例外処理の要求〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = ras_tex(ID tskid, TEXPTN rasptn)
ER ercd = iras_tex(ID tskid, TEXPTN rasptn)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
TEXPTN	rasptn	要求するタスク例外処理のタスク例外要因

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出

し：ras_texの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iras_texの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID　不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕　オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕　オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない：ras_texの場合）
E_PAR　パラメータエラー（rasptnが不正）
E_OBJ　オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態，対象タスクに対してタスク例外処理ルーチンが定義されていない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対して，rasptnで指定したタスク例外要因のタスク例外処理を要求する．対象タスクの保留例外要因が，それまでの値とrasptnで指定した値のビット毎論理和（C言語の"|"）に更新される．

対象タスクが休止状態である場合と，対象タスクに対してタスク例外処理ルーチンが定義されていない場合には，E_OBJエラーとなる．

ras_texにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

rasptnが0の場合には，E_PARエラーとなる．

---

dis_tex　タスク例外処理の禁止〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = dis_tex()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】

ER　ercd　正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX　コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_OBJ　オブジェクト状態エラー（自タスクに対してタスク例外処理ルーチンが定義されていない）

【機能】

自タスクのタスク例外処理禁止フラグをセットする．すなわち，自タスクをタスク例外処理禁止状態に遷移させる．

---

ena_tex　タスク例外処理の許可〔T〕

【C言語API】

```
6451        ER ercd = ena_tex()
6452
6453    【パラメータ】
6454        なし
6455
6456    【リターンパラメータ】
6457        ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
6458
6459    【エラーコード】
6460        E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
6461                        し，CPUロック状態からの呼出し）
6462        E_OBJ           オブジェクト状態エラー（自タスクに対してタスク例外
6463                        処理ルーチンが定義されていない）
6464
6465    【機能】
6466
6467    自タスクのタスク例外処理禁止フラグをクリアする．すなわち，自タスクをタ
6468    スク例外処理許可状態に遷移させる．
6469
6470    【補足説明】
6471
6472    タスク例外処理ルーチン中でena_texを呼び出すことにより，タスク例外処理ルー
6473    チンの多重起動を行うことができる．ただし，多重起動の最大段数を制限する
6474    のは，アプリケーションの責任である．
6475    ----------------------------------------------------------------------
6476    sns_tex     タスク例外処理禁止状態の参照〔TI〕
6477
6478    【C言語API】
6479        bool_t state = sns_tex()
6480
6481    【パラメータ】
6482        なし
6483
6484    【リターンパラメータ】
6485        bool_t      state       タスク例外処理禁止状態
6486
6487    【機能】
6488
6489    実行状態のタスクのタスク例外処理禁止フラグを参照する．具体的な振舞いは
6490    以下の通り．
6491
6492    実行状態のタスクが，タスク例外処理禁止状態の場合にtrue，タスク例外処理
6493    許可状態の場合にfalseが返る．sns_texを非タスクコンテキストから呼び出し
6494    た場合で，実行状態のタスクがない場合には，trueが返る．
6495
6496    マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，サービスコールを呼び出した処理
6497    単位を実行しているプロセッサにおいて実行状態のタスクのタスク例外処理禁
6498    止フラグを参照する．
6499
6500    【補足説明】
```

sns_texをタスクコンテキストから呼び出した場合，実行状態のタスクは自タスクに一致する．

---

ref_tex　　タスク例外処理の状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_tex(ID tskid, T_RTEX *pk_rtex)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
T_RTEX *	pk_rtex	タスク例外処理の現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊タスク例外処理の現在状態（パケットの内容）

STAT	texstat	タスク例外処理の状態
TEXPTN	pndptn	タスクの保留例外要因

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rtexが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象タスクが休止状態，対象タスクに対してタスク例外処理ルーチンが定義されていない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）のタスク例外処理に関する現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rtexで指定したパケットに返される．

texstatには，対象タスクの現在のタスク例外処理禁止フラグを表す次のいずれかの値が返される．

TTEX_ENA	0x01U	タスク例外処理許可状態
TTEX_DIS	0x02U	タスク例外処理禁止状態

pndptnには，対象タスクの現在の保留例外要因が返される．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

4.4 同期・通信機能

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，同期・通信機能をサポートしない．.

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，ランデブ機能はサポートしていない．今後の検討により，ランデブ機能をサポートすることに変更する可能性もある．

4.4.1 セマフォ

セマフォは，資源の数を表す0以上の整数値を取るカウンタ（資源数）を介して，排他制御やイベント通知を行うための同期・通信オブジェクトである．セマフォの資源数から1を減ずることを資源の獲得，資源数に1を加えることを資源の返却と呼ぶ．セマフォは，セマフォIDと呼ぶID番号によって識別する．

各セマフォが持つ情報は次の通り．

- セマフォ属性
- 資源数（の現在値）
- 待ち行列（セマフォの資源獲得待ち状態のタスクのキュー）
- 初期資源数
- 最大資源数
- アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
- 属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
- 属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

待ち行列は，セマフォの資源が獲得できるまで待っている状態（セマフォの資源獲得待ち状態）のタスクが，資源を獲得できる順序でつながれているキューである．

セマフォの初期資源数は，セマフォを生成または再初期化した際の，資源数の初期値である．また，セマフォの最大資源数は，資源数が取りうる最大値である．資源数が最大資源数に一致している時に資源を返却しようとすると，E_QOVRエラーとなる．

セマフォ属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	待ち行列をタスクの優先度順にする

TA_TPRIを指定しない場合，待ち行列はFIFO順になる．

セマフォ機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMAX_MAXSEM	セマフォの最大資源数の最大値（＝UINT_MAX）
TNUM_SEMID	登録できるセマフォの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたセマフォの数に一致）

【μITRON4.0仕様との関係】

TNUM_SEMIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_SEM　　セマフォの生成〔S〕
acre_sem　　セマフォの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_SEM(ID semid, { ATR sematr, uint_t isemcnt, uint_t maxsem })
```

【C言語API】

```
ER_ID semid = acre_sem(const T_CSEM *pk_csem)
```

【パラメータ】

ID	semid	生成するセマフォのID番号（CRE_SEMの場合）
T_CSEM *	pk_csem	セマフォの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊セマフォの生成情報（パケットの内容）

ATR	sematr	セマフォ属性
uint_t	isemcnt	セマフォの初期資源数
uint_t	maxsem	セマフォの最大資源数

【リターンパラメータ】

ER_ID	semid	生成されたセマフォのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（sematrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（isemcnt，maxsemが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_csemが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるセマフォIDがない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（semidで指定したセマフォが登録済み：CRE_SEMの場合）

【機能】

各パラメータで指定したセマフォ生成情報に従って，セマフォを生成する．生成されたセマフォの資源数は初期資源数に，待ち行列は空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，semidはオブジェクト識別名，isemcntとmaxsemは整数定数式パラメータである．

6651
6652 isemcntは，0以上で，maxsem以下でなければならない．また，maxsemは，1以上
6653 で，TMAX_MAXSEM以下でなければならない．
6654
6655 【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】
6656
6657 ASPカーネルでは，CRE_SEMのみをサポートする．ただし，動的生成機能拡張パッ
6658 ケージでは，acre_semもサポートする．
6659
6660 【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】
6661
6662 FMPカーネルでは，CRE_SEMのみをサポートする．
6663
6664 【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】
6665
6666 HRP2カーネルでは，CRE_SEMのみをサポートする．
6667 --
6668 AID_SEM　　割付け可能なセマフォIDの数の指定〔SD〕
6669
6670 【静的API】
6671 　AID_SEM(uint_t nosem)
6672
6673 【パラメータ】
6674 　uint_t　　nosem　　割付け可能なセマフォIDの数
6675
6676 【エラーコード】
6677 　E_RSATR　　予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）
6678
6679 【機能】
6680
6681 nosemで指定した数のセマフォIDを，セマフォを生成するサービスコールによっ
6682 て割付け可能なセマフォIDとして確保する．
6683
6684 nosemは整数定数式パラメータである．
6685 --
6686 SAC_SEM　　セマフォのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
6687 sac_sem　　セマフォのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕
6688
6689 【静的API】
6690 　SAC_SEM(ID semid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
6691 　　ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
6692
6693 【C言語API】
6694 　ER ercd = sac_sem(ID semid, const ACVCT *p_acvct)
6695
6696 【パラメータ】
6697 　ID　　semid　　対象セマフォのID番号
6698 　ACVCT *　　p_acvct　　アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポ
6699 　　インタ（静的APIを除く）
6700

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（semidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_SEMの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象セマフォが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象セマフォに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象セマフォは静的APIで生成された：sac_semの場合，対象セマフォに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_SEMの場合）

【機能】

semidで指定したセマフォ（対象セマフォ）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，semidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_SEMは，対象セマフォが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_SEM，sac_semをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_SEM，sac_semをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_SEMのみをサポートする．

---

del_sem　　セマフォの削除〔TD〕

【C言語API】

```
6751        ER ercd = del_sem(ID semid)
6752
6753    【パラメータ】
6754        ID          semid       対象セマフォのID番号
6755
6756    【リターンパラメータ】
6757        ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
6758
6759    【エラーコード】
6760        E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
6761                        し，CPUロック状態からの呼出し）
6762        E_ID            不正ID番号（semidが不正）
6763        E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象セマフォが未登録）
6764        E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象セマフォに対する管理
6765                        操作が許可されていない）
6766        E_OBJ           オブジェクト状態エラー（対象セマフォは静的APIで生成
6767                        された）
6768
6769    【機能】
6770
6771    semidで指定したセマフォ（対象セマフォ）を削除する．具体的な振舞いは以下
6772    の通り．
6773
6774    対象セマフォの登録が解除され，そのセマフォIDが未使用の状態に戻される．
6775    また，対象セマフォの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタス
6776    クから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサー
6777    ビスコールからE_DLTエラーが返る．
6778
6779    【使用上の注意】
6780
6781    del_semにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間
6782    およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例し
6783    て長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込
6784    み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．
6785
6786    【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】
6787
6788    ASPカーネルでは，del_semをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッ
6789    ケージでは，del_semをサポートする．
6790
6791    【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】
6792
6793    FMPカーネルでは，del_semをサポートしない．
6794
6795    【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】
6796
6797    HRP2カーネルでは，del_semをサポートしない．
6798    ----------------------------------------------------------------------
6799    sig_sem     セマフォの資源の返却〔T〕
6800    isig_sem    セマフォの資源の返却〔I〕
```

【C言語API】
```
ER ercd = sig_sem(ID semid)
ER ercd = isig_sem(ID semid)
```

【パラメータ】

ID	semid	対象セマフォのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：sig_semの場合，タスクコンテキストからの呼出し：isig_semの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（semidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象セマフォが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象セマフォに対する通常操作1が許可されていない：sig_semの場合）
E_QOVR	キューイングオーバフロー（資源数が最大資源数に一致）

【機能】

semidで指定したセマフォ（対象セマフォ）に資源を返却する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象セマフォの待ち行列にタスクが存在する場合には，待ち行列の先頭のタスクが待ち解除される．この時，待ち解除されたタスクが資源を獲得したことになるため，対象セマフォの資源数は変化しない．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

待ち行列にタスクが存在しない場合には，対象セマフォの資源数に1が加えられる．資源数に1を加えるとそのセマフォの最大資源数を越える場合には，E_QOVRエラーとなる．

---

wai_sem	セマフォの資源の獲得〔T〕
pol_sem	セマフォの資源の獲得（ポーリング）〔T〕
twai_sem	セマフォの資源の獲得（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】
```
ER ercd = wai_sem(ID semid)
ER ercd = pol_sem(ID semid)
ER ercd = twai_sem(ID semid, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	semid	対象セマフォのID番号
TMO	tmout	タイムアウト時間（twai_semの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：pol_semを除く）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：pol_semを除く）
E_ID	不正ID番号（semidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：twai_semの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象セマフォが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象セマフォに対する通常操作2が許可されていない）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（wai_semを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（pol_semを除く）
E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（pol_semを除く）

【機能】

semidで指定したセマフォ（対象セマフォ）から資源を獲得する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象セマフォの資源数が1以上の場合には，資源数から1が減ぜられる．資源数が0の場合には，自タスクはセマフォの資源獲得待ち状態となり，対象セマフォの待ち行列につながれる．

---

ini_sem　セマフォの再初期化〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ini_sem(ID semid)
```

【パラメータ】

ID	semid	対象セマフォのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（semidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象セマフォが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象セマフォに対する管理操作が許可されていない）

【機能】

semidで指定したセマフォ（対象セマフォ）を再初期化する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象セマフォの資源数は，初期資源数に初期化される．また，対象セマフォの

待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

ini_semにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

セマフォを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，アプリケーションの責任である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ref_sem　　セマフォの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_sem(ID semid, T_RSEM *pk_rsem)
```

【パラメータ】

ID	semid	対象セマフォのID番号
T_RSEM *	pk_rsem	セマフォの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊セマフォの現在状態（パケットの内容）

ID	wtskid	セマフォの待ち行列の先頭のタスクのID番号
uint_t	semcnt	セマフォの資源数

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（semidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象セマフォが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象セマフォに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rsemが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

semidで指定したセマフォ（対象セマフォ）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rsemで指定したパケットに返される．

対象セマフォの待ち行列にタスクが存在しない場合，wtskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．

【使用上の注意】

ref_semはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_semを呼び出し，対象セマフォの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_semから戻ってきた時には対象セマフォの状態が変化している可能性があるためである．

4.4.2 イベントフラグ

イベントフラグは，イベントの発生の有無を表すビットの集合（ビットパターン）を介して，イベント通知を行うための同期・通信オブジェクトである．イベントが発生している状態を1，発生していない状態を0とし，ビットパターンにより複数のイベントの発生の有無を表す．イベントフラグは，イベントフラグIDと呼ぶID番号によって識別する．

1つまたは複数のビットをセットする1にする（セットする）ことを，イベントフラグをセットするといい，0にする（クリアする）ことを，イベントフラグをクリアするという．イベントフラグによりイベントを通知する側のタスクは，イベントフラグをセットまたはクリアすることで，イベントの発生を通知する．

イベントフラグによりイベントの通知を受ける側のタスクは，待ちビットパターンと待ちモードにより，どのビットがセットされるのを待つかを指定する．待ちモードにTWF_ORW（＝0x01U）を指定した場合，待ちビットパターンに含まれるいずれかのビットがセットされるのを待つ．待ちモードにTWF_ANDW（＝0x02U）を指定した場合，待ちビットパターンに含まれるすべてのビットがセットされるのを待つ．この条件を，イベントフラグの待ち解除の条件と呼ぶ．

各イベントフラグが持つ情報は次の通り．

- ・イベントフラグ属性
- ・ビットパターン（の現在値）
- ・待ち行列（イベントフラグ待ち状態のタスクのキュー）
- ・初期ビットパターン
- ・アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
- ・属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
- ・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

待ち行列は，イベントフラグが指定した待ち解除の条件を満たすまで待っている状態（イベントフラグ待ち状態）のタスクがつながれているキューである．待ち行列につながれたタスクの待ち解除は，待ち解除の条件を満たした中で，待ち行列の前方につながれたものから順に行われる（「2.6.4 待ち行列と待ち解除の順序」の節の(a)に該当）．

イベントフラグの初期ビットパターンは，イベントフラグを生成または再初期化した際の，ビットパターンの初期値である．

イベントフラグ属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	待ち行列をタスクの優先度順にする
TA_WMUL	0x02U	複数のタスクが待つのを許す
TA_CLR	0x04U	タスクの待ち解除時にイベントフラグをクリアする

TA_TPRIを指定しない場合，待ち行列はFIFO順になる．TA_WMULを指定しない場合，1つのイベントフラグに複数のタスクが待つことを禁止する．

TA_CLRを指定した場合，タスクの待ち解除時に，イベントフラグのビットパターンを0にクリアする．TA_CLRを指定しない場合，タスクの待ち解除時にイベントフラグをクリアしない．

イベントフラグ機能に用いるデータ型は次の通り．

FLGPTN	イベントフラグのビットパターン（符号無し整数，uint_tに定義）

イベントフラグ機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TBIT_FLGPTN	イベントフラグのビット数（FLGPTNの有効ビット数）
TNUM_FLGID	登録できるイベントフラグの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたイベントフラグの数に一致）

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，イベントフラグのビット数（TBIT_FLGPTN）は16以上である．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，イベントフラグのビット数（TBIT_FLGPTN）は16以上である．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，イベントフラグのビット数（TBIT_FLGPTN）は16以上である．

【μITRON4.0仕様との関係】

TNUM_FLGIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_FLG　　イベントフラグの生成〔S〕
acre_flg　　イベントフラグの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_FLG(ID flgid, { ATR flgatr, FLGPTN iflgptn })
```

【C言語API】

```
ER_ID flgid = acre_flg(const T_CFLG *pk_cflg)
```

【パラメータ】

ID	flgid	生成するイベントフラグのID番号（CRE_FLGの場合）
T_CFLG *	pk_cflg	イベントフラグの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊イベントフラグの生成情報（パケットの内容）

ATR	flgatr	イベントフラグ属性
FLGPTN	iflgptn	イベントフラグの初期ビットパターン

【リターンパラメータ】

ER_ID	flgid	生成されたイベントフラグのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（flgatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cflgが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるイベントフラグIDがない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（flgidで指定したイベントフラグが登録済み：CRE_FLGの場合）

【機能】

各パラメータで指定したイベントフラグ生成情報に従って，イベントフラグを生成する．生成されたイベントフラグのビットパターンは初期ビットパターンに，待ち行列は空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，flgidはオブジェクト識別名，iflgptnは整数定数式パラメータである．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_FLGのみをサポートする．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_flgもサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_FLGのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_FLGのみをサポートする．

AID_FLG　　割付け可能なイベントフラグIDの数の指定〔SD〕

【静的API】
　AID_FLG(uint_t noflg)

【パラメータ】
　uint_t　　noflg　　割付け可能なイベントフラグIDの数

【エラーコード】
　E_RSATR　　予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

noflgで指定した数のイベントフラグIDを，イベントフラグを生成するサービスコールによって割付け可能なイベントフラグIDとして確保する．

noflgは整数定数式パラメータである．

SAC_FLG　　イベントフラグのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_flg　　イベントフラグのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】
　SAC_FLG(ID flgid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
　　ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })

【C言語API】
　ER ercd = sac_flg(ID flgid, const ACVCT *p_acvct)

【パラメータ】

ID	flgid	対象イベントフラグのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（flgidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_FLGの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対す

る管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕　メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ　オブジェクト状態エラー（対象イベントフラグは静的APIで生成された：sac_flgの場合，対象イベントフラグに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_FLGの場合）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，flgidはオブジェクト識別名，acptn1〜acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_FLGは，対象イベントフラグが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_FLG，sac_flgをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_FLG，sac_flgをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_FLGのみをサポートする．

---

del_flg　イベントフラグの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_flg(ID flgid)
```

【パラメータ】

ID　flgid　対象イベントフラグのID番号

【リターンパラメータ】

ER　ercd　正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX　コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID　不正ID番号（flgidが不正）
E_NOEXS〔D〕　オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔P〕　オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ　オブジェクト状態エラー（対象イベントフラグは静的APIで生成された）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象イベントフラグの登録が解除され，そのイベントフラグIDが未使用の状態に戻される．また，対象イベントフラグの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

del_flgにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_flgをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_flgをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_flgをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_flgをサポートしない．

---

set_flg　　イベントフラグのセット〔T〕
iset_flg　　イベントフラグのセット〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = set_flg(ID flgid, FLGPTN setptn)
ER ercd = iset_flg(ID flgid, FLGPTN setptn)
```

【パラメータ】

ID	flgid	対象イベントフラグのID番号
FLGPTN	setptn	セットするビットパターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：set_flgの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iset_flgの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（flgidが不正）

E_NOEXS〔D〕		オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔P〕		オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対する通常操作1が許可されていない：set_flgの場合）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）のsetptnで指定したビットをセットする．具体的な振舞いは以下の通り．

対象イベントフラグのビットパターンは，それまでの値とsetptnで指定した値のビット毎論理和（C言語の"|"）に更新される．対象イベントフラグの待ち行列にタスクが存在する場合には，待ち解除の条件を満たしたタスクが，待ち行列の前方につながれたものから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

ただし，対象イベントフラグがTA_CLR属性である場合には，待ち解除の条件を満たしたタスクを1つ待ち解除した時点で，対象イベントフラグのビットパターンが0にクリアされるため，他のタスクが待ち解除されることはない．

【使用上の注意】

対象イベントフラグが，TA_WMUL属性であり，TA_CLR属性でない場合，set_flgまたはiset_flgにより複数のタスクが待ち解除される場合がある．この場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

---

clr_flg　　イベントフラグのクリア〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = clr_flg(ID flgid, FLGPTN clrptn)
```

【パラメータ】

ID	flgid	対象イベントフラグのID番号
FLGPTN	clrptn	クリアするビットパターン（クリアしないビットを1，クリアするビットを0とする）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（flgidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対する通常操作1が許可されていない：clr_flgの場合）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）のclrptnで指定したビットをクリアする．対象イベントフラグのビットパターンは，それまでの値とclrptnで指定した値のビット毎論理積（C言語の"&"）に更新される．

---

wai_flg　　イベントフラグ待ち〔T〕
pol_flg　　イベントフラグ待ち（ポーリング）〔T〕
twai_flg　　イベントフラグ待ち（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = wai_flg(ID flgid, FLGPTN waiptn, MODE wfmode, FLGPTN *p_flgptn)
ER ercd = pol_flg(ID flgid, FLGPTN waiptn, MODE wfmode, FLGPTN *p_flgptn)
ER ercd = twai_flg(ID flgid, FLGPTN waiptn,
                                MODE wfmode, FLGPTN *p_flgptn, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	flgid	対象イベントフラグのID番号
FLGPTN	waiptn	待ちビットパターン
MODE	wfmode	待ちモード
FLGPTN *	p_flgptn	待ち解除時のビットパターンを入れるメモリ領域へのポインタ
TMO	tmout	タイムアウト時間（twai_flgの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
FLGPTN	flgptn	待ち解除時のビットパターン

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：pol_flgを除く）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：pol_flgを除く）
E_ID	不正ID番号（flgidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（waiptn，wfmodeが不正，tmoutが不正：twai_flgの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対する通常操作2が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_flgptnが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（TA_WMUL属性でないイベントフラグで待ちタスクあり）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（wai_flgを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（pol_flgを除く）
E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（pol_flgを除く）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）が，waiptnとwfmodeで指定した待ち解除の条件を満たすのを待つ．具体的な振舞いは以下の通り．

対象イベントフラグが，waiptnとwfmodeで指定した待ち解除の条件を満たしている場合には，対象イベントフラグのビットパターンの現在値がflgptnに返される．対象イベントフラグがTA_CLR属性である場合には，対象イベントフラグのビットパターンが0にクリアされる．

待ち解除の条件を満たしていない場合には，自タスクはイベントフラグ待ち状態となり，対象イベントフラグの待ち行列につながれる．

---

ini_flg　　イベントフラグの再初期化〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ini_flg(ID flgid)
```

【パラメータ】

ID	flgid	対象イベントフラグのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（flgidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対する管理操作が許可されていない）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）を再初期化する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象イベントフラグのビットパターンは，初期ビットパターンに初期化される．また，対象イベントフラグの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

ini_flgにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

イベントフラグを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，アプリケーションの責任である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ref_flg　　イベントフラグの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_flg(ID flgid, T_RFLG *pk_rflg)
```

【パラメータ】

ID	flgid	対象イベントフラグのID番号
T_RFLG *	pk_rflg	イベントフラグの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊イベントフラグの現在状態（パケットの内容）

ID	wtskid	イベントフラグの待ち行列の先頭のタスクのID番号
uint_t	flgptn	イベントフラグのビットパターン

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（flgidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象イベントフラグが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象イベントフラグに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rflgが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

flgidで指定したイベントフラグ（対象イベントフラグ）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rflgで指定したパケットに返される．

対象イベントフラグの待ち行列にタスクが存在しない場合，wtskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．

【使用上の注意】

ref_flgはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_flgを呼び出し，対象イベントフラグの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_flgから戻ってきた時には対象イベントフラグの状態が変化している可能性があるためである．

4.4.3 データキュー

データキューは，1ワードのデータをメッセージとして，FIFO順で送受信するための同期・通信オブジェクトである．より大きいサイズのメッセージを送受信

したい場合には，メッセージを置いたメモリ領域へのポインタを1ワードのデータとして送受信する方法がある．データキューは，データキューIDと呼ぶID番号によって識別する．

各データキューが持つ情報は次の通り．

・データキュー属性
・データキュー管理領域
・送信待ち行列（データキューへの送信待ち状態のタスクのキュー）
・受信待ち行列（データキューからの受信待ち状態のタスクのキュー）
・アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
・属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

データキュー管理領域は，データキューに送信されたデータを，送信された順に格納しておくためのメモリ領域である．データキュー生成時に，データキュー管理領域に格納できるデータ数を0とすることで，データキュー管理領域のサイズを0とすることができる．

保護機能対応カーネルにおいて，データキュー管理領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域として扱われる．

送信待ち行列は，データキューに対してデータが送信できるまで待っている状態（データキューへの送信待ち状態）のタスクが，データを送信できる順序でつながれているキューである．また，受信待ち行列は，データキューからデータが受信できるまで待っている状態（データキューからの受信待ち状態）のタスクが，データを受信できる順序でつながれているキューである．

データキュー属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	送信待ち行列をタスクの優先度順にする

TA_TPRIを指定しない場合，送信待ち行列はFIFO順になる．受信待ち行列は，FIFO順に固定されている．

データキュー機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TNUM_DTQID	登録できるデータキューの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたデータキューの数に一致）

【μITRON4.0仕様との関係】

TNUM_DTQIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_DTQ　データキューの生成〔S〕
acre_dtq　データキューの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_DTQ(ID dtqid, { ATR dtqatr, uint_t dtqcnt, void *dtqmb })
```

【C言語API】

```
ER_ID dtqid = acre_dtq(const T_CDTQ *pk_cdtq)
```

【パラメータ】

ID	dtqid	生成するデータキューのID番号（CRE_DTQの場合）
T_CDTQ *	pk_cdtq	データキューの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊データキューの生成情報（パケットの内容）

ATR	dtqatr	データキュー属性
uint_t	dtqcnt	データキュー管理領域に格納できるデータ数
void *	dtqmb	データキュー管理領域の先頭番地

【リターンパラメータ】

ER_ID	dtqid	生成されたデータキューのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（dtqatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_NOSPT	未サポート機能（dtqmbがサポートされていない値）
E_PAR	パラメータエラー（dtqmbが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cdtqが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるデータキューIDがない）
E_NOMEM	メモリ不足（データキュー管理領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（dtqidで指定したデータキューが登録済み：CRE_DTQの場合，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定したデータキュー生成情報に従って，データキューを生成する．dtqcntとdtqmbからデータキュー管理領域が設定され，格納されているデータがない状態に初期化される．また，送信待ち行列と受信待ち行列は，空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，dtqidはオブジェクト識別名，dtqcntは整数定数式パラメータ，dtqmbは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

dtqmbをNULLとした場合，dtqcntで指定した数のデータを格納できるデータキュー管理領域を，コンフィギュレータまたはカーネルが確保する．

〔dtqmbにNULL以外を指定した場合〕

dtqmbにNULL以外を指定した場合，dtqmbを先頭番地とするデータキュー管理領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．データキュー管理領域をアプリケーションで確保するために，次のマクロを用意している．

TSZ_DTQMB(dtqcnt)	dtqcntで指定した数のデータを格納できるデータキュー管理領域のサイズ（バイト数）
TCNT_DTQMB(dtqcnt)	dtqcntで指定した数のデータを格納できるデータキュー管理領域を確保するために必要なMB_T型の配列の要素数

これらを用いてデータキュー管理領域を確保する方法は次の通り．

```
MB_T    〈データキュー管理領域の変数名〉[TCNT_DTQMB(dtqcnt)];
```

この時，dtqmbには〈データキュー管理領域の変数名〉を指定する．

この方法に従わず，dtqmbにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地を指定した時には，E_PARエラーとなる．また，保護機能対応カーネルにおいて，dtqmbで指定したデータキュー管理領域がカーネル専用のメモリオブジェクトに含まれない場合，E_OBJエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_DTQのみをサポートする．また，dtqmbにはNULLのみを指定することができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_dtqもサポートする．acre_dtqに対しては，dtqmbにNULL以外を指定できないという制限はない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_DTQのみをサポートする．また，dtqmbにはNULLのみを指定することができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_DTQのみをサポートする．また，dtqmbにはNULLのみを指定することができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様にあわせて，データキュー生成情報の最後のパラメータを，dtq（データキュー領域の先頭番地）から，dtqmb（データキュー管理領域の先頭番地）に改名した．また，TSZ_DTQをTSZ_DTQMBに改名した．

TCNT_DTQMBを新設し，データキュー管理領域をアプリケーションで確保する方法を規定した．

AID_DTQ　　割付け可能なデータキューIDの数の指定〔SD〕

【静的API】
AID_DTQ(uint_t nodtq)

【パラメータ】

uint_t	nodtq	割付け可能なデータキューIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nodtqで指定した数のデータキューIDを，データキューを生成するサービスコールによって割付け可能なデータキューIDとして確保する．

nodtqは整数定数式パラメータである．

SAC_DTQ	データキューのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_dtq	データキューのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】
SAC_DTQ(ID dtqid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })

【C言語API】
ER ercd = sac_dtq(ID dtqid, const ACVCT *p_acvct)

【パラメータ】

ID	dtqid	対象データキューのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（dtqidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_DTQの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出

```
                        しアクセスが許可されていない)
    E_OBJ               オブジェクト状態エラー（対象データキューは静的APIで
                        生成された：sac_dtqの場合，対象データキューに対して
                        アクセス許可ベクタが設定済み：SAC_DTQの場合）

【機能】

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）のアクセス許可ベクタ（4
つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，dtqidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数
式パラメータである．

SAC_DTQは，対象データキューが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなけれ
ばならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_DTQ，sac_dtqをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_DTQ，sac_dtqをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_DTQのみをサポートする．
------------------------------------------------------------------------
del_dtq     データキューの削除〔TD〕

【C言語API】
   ER ercd = del_dtq(ID dtqid)

【パラメータ】
   ID          dtqid       対象データキューのID番号

【リターンパラメータ】
   ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】
   E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
                   し，CPUロック状態からの呼出し）
   E_ID            不正ID番号（dtqidが不正）
   E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
   E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する
                   管理操作が許可されていない）
   E_OBJ           オブジェクト状態エラー（対象データキューは静的APIで
                   生成された）

【機能】
```

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象データキューの登録が解除され，そのデータキューIDが未使用の状態に戻される．また，対象データキューの送信待ち行列と受信待ち行列につながれたタスクは，それぞれの待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

データキューの生成時に，データキュー管理領域がカーネルによって確保された場合は，そのメモリ領域が解放される．

【補足説明】

送信待ち行列と受信待ち行列の両方にタスクがつながれていることはないため，別の待ち行列で待っていたタスクの間の待ち解除の順序は，規定する必要がない．

【使用上の注意】

del_dtqにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_dtqをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_dtqをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_dtqをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_dtqをサポートしない．

---

snd_dtq	データキューへの送信〔T〕
psnd_dtq	データキューへの送信（ポーリング）〔T〕
ipsnd_dtq	データキューへの送信（ポーリング）〔I〕
tsnd_dtq	データキューへの送信（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = snd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)
ER ercd = psnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)
ER ercd = ipsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)
ER ercd = tsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	dtqid	対象データキューのID番号
intptr_t	data	送信データ
TMO	tmout	タイムアウト時間（tsnd_dtqの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：ipsnd_dtqを除く，タスクコンテキストからの呼出し：ipsnd_dtqの場合，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：snd_dtqとtsnd_dtqの場合）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：snd_dtqとtsnd_dtqの場合）
E_ID	不正ID番号（dtqidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：tsnd_dtqの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する通常操作1が許可されていない：ipsnd_dtqを除く）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（snd_dtqを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（snd_dtqとtsnd_dtqの場合）
E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（snd_dtqとtsnd_dtqの場合）

【機能】

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）に，dataで指定したデータを送信する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象データキューの受信待ち行列にタスクが存在する場合には，受信待ち行列の先頭のタスクが，dataで指定したデータを受信し，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象データキューの受信待ち行列にタスクが存在せず，データキュー管理領域にデータを格納するスペースがある場合には，dataで指定したデータが，FIFO順でデータキュー管理領域に格納される．

対象データキューの受信待ち行列にタスクが存在せず，データキュー管理領域にデータを格納するスペースがない場合には，自タスクはデータキューへの送信待ち状態となり，対象データキューの送信待ち行列につながれる．

---

fsnd_dtq	データキューへの強制送信〔T〕
ifsnd_dtq	データキューへの強制送信〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = fsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)
ER ercd = ifsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)
```

【パラメータ】

ID	dtqid	対象データキューのID番号
intptr_t	data	送信データ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：fsnd_dtqの場合，タスクコンテキストからの呼出し：ifsnd_dtqの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（dtqidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する通常操作1が許可されていない：fsnd_dtqの場合）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（対象データキューのデータキュー管理領域のサイズが0）

【機能】

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）に，dataで指定したデータを強制送信する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象データキューの受信待ち行列にタスクが存在する場合には，受信待ち行列の先頭のタスクが，dataで指定したデータを受信し，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象データキューの受信待ち行列にタスクが存在せず，データキュー管理領域にデータを格納するスペースがある場合には，dataで指定したデータが，FIFO順でデータキュー管理領域に格納される．

対象データキューの受信待ち行列にタスクが存在せず，データキュー管理領域にデータを格納するスペースがない場合には，データキュー管理領域の先頭に格納されたデータを削除し，空いたスペースを用いて，dataで指定したデータが，FIFO順でデータキュー管理領域に格納される．

対象データキューのデータキュー管理領域のサイズが0の場合には，E_ILUSEエラーとなる．

---

rcv_dtq	データキューからの受信〔T〕
prcv_dtq	データキューからの受信（ポーリング）〔T〕
trcv_dtq	データキューからの受信（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = rcv_dtq(ID dtqid, intptr_t *p_data)
ER ercd = prcv_dtq(ID dtqid, intptr_t *p_data)
ER ercd = trcv_dtq(ID dtqid, intptr_t *p_data, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	dtqid	対象データキューのID番号

intptr_t *	p_data	受信データを入れるメモリ領域へのポインタ
TMO	tmout	タイムアウト時間（trcv_dtqの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
intptr_t	data	受信データ

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：prcv_dtqを除く）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：prcv_dtqを除く）
E_ID	不正ID番号（dtqidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：trcv_dtqの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する通常操作2が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_dataが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（rcv_dtqを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（prcv_dtqを除く）
E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（prcv_dtqを除く）

【機能】

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）からデータを受信する．受信したデータは，p_dataで指定したメモリ領域に返される．具体的な振舞いは以下の通り．

対象データキューのデータキュー管理領域にデータが格納されている場合には，データキュー管理領域の先頭に格納されたデータが取り出され，p_dataで指定したメモリ領域に返される．また，送信待ち行列にタスクが存在する場合には，送信待ち行列の先頭のタスクの送信データが，FIFO順でデータキュー管理領域に格納され，そのタスクは待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象データキューのデータキュー管理領域にデータが格納されておらず，送信待ち行列にタスクが存在する場合には，送信待ち行列の先頭のタスクの送信データが，p_dataで指定したメモリ領域に返される．送信待ち行列の先頭のタスクは，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象データキューのデータキュー管理領域にデータが格納されておらず，送信待ち行列にタスクが存在しない場合には，自タスクはデータキューからの受信待ち状態となり，対象データキューの受信待ち行列につながれる．

---

ini_dtq　　データキューの再初期化〔T〕

【C言語API】

```
   ER ercd = ini_dtq(ID dtqid)

【パラメータ】
   ID          dtqid       対象データキューのID番号

【リターンパラメータ】
   ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】
   E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
                   し，CPUロック状態からの呼出し）
   E_ID            不正ID番号（dtqidが不正）
   E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
   E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する
                   管理操作が許可されていない）

【機能】

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）を再初期化する．具体的な
振舞いは以下の通り．

対象データキューのデータキュー管理領域は，格納されているデータがない状
態に初期化される．また，対象データキューの送信待ち行列と受信待ち行列に
つながれたタスクは，それぞれの待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除さ
れる．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールから
E_DLTエラーが返る．

【補足説明】

送信待ち行列と受信待ち行列の両方にタスクがつながれていることはないため，
別の待ち行列で待っていたタスクの間の待ち解除の順序は，規定する必要がな
い．

【使用上の注意】

ini_dtqにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間
およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例し
て長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込
み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

データキューを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，
アプリケーションの責任である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．
------------------------------------------------------------------------
ref_dtq     データキューの状態参照〔T〕

【C言語API】
```

```
   ER ercd = ref_dtq(ID dtqid, T_RDTQ *pk_rdtq)

【パラメータ】
   ID          dtqid       対象データキューのID番号
   T_RDTQ *    pk_rdtq     データキューの現在状態を入れるパケットへの
                           ポインタ

【リターンパラメータ】
   ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード

 ＊データキューの現在状態（パケットの内容）
   ID          stskid      データキューの送信待ち行列の先頭のタスクの
                           ID番号
   ID          rtskid      データキューの受信待ち行列の先頭のタスクの
                           ID番号
   uint_t      sdtqcnt     データキュー管理領域に格納されているデータ
                           の数

【エラーコード】
   E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
                   し，CPUロック状態からの呼出し）
   E_ID            不正ID番号（dtqidが不正）
   E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象データキューが未登録）
   E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象データキューに対する
                   参照操作が許可されていない）
   E_MACV〔P〕      メモリアクセス違反（pk_rdtqが指すメモリ領域への書込
                   みアクセスが許可されていない）

【機能】

dtqidで指定したデータキュー（対象データキュー）の現在状態を参照する．参
照した現在状態は，pk_rdtqで指定したパケットに返される．

対象データキューの送信待ち行列にタスクが存在しない場合，stskidには
TSK_NONE（＝0）が返る．また，受信待ち行列にタスクが存在しない場合，
rtskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．

【使用上の注意】

ref_dtqはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨し
ない．これは，ref_dtqを呼び出し，対象データキューの現在状態を参照した直
後に割込みが発生した場合，ref_dtqから戻ってきた時には対象データキューの
状態が変化している可能性があるためである．
```

4.4.4 優先度データキュー

優先度データキューは，1ワードのデータをメッセージとして，データの優先度順で送受信するための同期・通信カーネルオブジェクトである．より大きいサイズのメッセージを送受信したい場合には，メッセージを置いたメモリ領域へ

のポインタを1ワードのデータとして送受信する方法がある．優先度データキューは，優先度データキューIDと呼ぶID番号によって識別する．

各優先度データキューが持つ情報は次の通り．

- 優先度データキュー属性
- 優先度データキュー管理領域
- 送信待ち行列（優先度データキューへの送信待ち状態のタスクのキュー）
- 受信待ち行列（優先度データキューからの受信待ち状態のタスクのキュー）
- 送信できるデータ優先度の最大値
- アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
- 属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
- 属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

優先度データキュー管理領域は，優先度データキューに送信されたデータを，データの優先度順に格納しておくためのメモリ領域である．優先度データキュー生成時に，優先度データキュー管理領域に格納できるデータ数を0とすることで，優先度データキュー管理領域のサイズを0とすることができる．

保護機能対応カーネルにおいて，優先度データキュー管理領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域として扱われる．

送信待ち行列は，優先度データキューに対してデータが送信できるまで待っている状態（優先度データキューへの送信待ち状態）のタスクが，データを送信できる順序でつながれているキューである．また，受信待ち行列は，優先度データキューからデータが受信できるまで待っている状態（優先度データキューからの受信待ち状態）のタスクが，データを受信できる順序でつながれているキューである．

優先度データキュー属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	送信待ち行列をタスクの優先度順にする

TA_TPRIを指定しない場合，送信待ち行列はFIFO順になる．受信待ち行列は，FIFO順に固定されている．

優先度データキュー機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMIN_DPRI	データ優先度の最小値（＝1）
TMAX_DPRI	データ優先度の最大値
TNUM_PDQID	登録できる優先度データキューの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された優先度データキューの数に一致）

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，データ優先度の最大値（TMAX_DPRI）は16に固定されている．ただし，タスク優先度拡張パッケージでは，TMAX_DPRIを256に拡張する．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，データ優先度の最大値（TMAX_DPRI）は16に固定されている．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，データ優先度の最大値（TMAX_DPRI）は16に固定されている．

【使用上の注意】

データの優先度が使われるのは，データが優先度データキュー管理領域に格納される場合のみであり，データを送信するタスクが送信待ち行列につながれている間には使われない．そのため，送信待ち行列につながれているタスクが，優先度データキュー管理領域に格納されているデータよりも高い優先度のデータを送信しようとしている場合でも，最初に送信されるのは，優先度データキュー管理領域に格納されているデータである．また，TA_TPRI属性の優先度データキューにおいても，送信待ち行列はタスクの優先度順となり，タスクが送信しようとしているデータの優先度順となるわけではない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に規定されていない機能である．

CRE_PDQ　　優先度データキューの生成〔S〕
acre_pdq　　優先度データキューの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_PDQ(ID pdqid, { ATR pdqatr, uint_t pdqcnt, PRI maxdpri, void *pdqmb })
```

【C言語API】

```
ER_ID pdqid = acre_pdq(const T_CPDQ *pk_cpdq)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	生成する優先度データキューのID番号（CRE_PDQの場合）
T_CPDQ *	pk_cpdq	優先度データキューの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊優先度データキューの生成情報（パケットの内容）

ATR	pdqatr	優先度データキュー属性
uint_t	pdqcnt	優先度データキュー管理領域に格納できるデータ数
PRI	maxdpri	優先度データキューに送信できるデータ優先度の最大値
void *	pdqmb	優先度データキュー管理領域の先頭番地

【リターンパラメータ】

ER_ID	pdqid	生成された優先度データキューのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（pdqatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_NOSPT	未サポート機能（pdqmbがサポートされていない値）
E_PAR	パラメータエラー（pdqmb，maxdpriが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cpdqが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられる優先度データキューIDがない）
E_NOMEM	メモリ不足（優先度データキュー管理領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（pdqidで指定した優先度データキューが登録済み：CRE_PDQの場合，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定した優先度データキュー生成情報に従って，優先度データキューを生成する．pdqcntとpdqmbから優先度データキュー管理領域が設定され，格納されているデータがない状態に初期化される．また，送信待ち行列と受信待ち行列は，空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，pdqidはオブジェクト識別名，pdqcntとmaxdpriは整数定数式パラメータ，pdqmbは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

pdqmbをNULLとした場合，pdqcntで指定した数のデータを格納できる優先度データキュー管理領域を，コンフィギュレータまたはカーネルが確保する．

maxdpriは，TMIN_DPRI以上，TMAX_DPRI以下でなければならない．

〔pdqmbにNULL以外を指定した場合〕

pdqmbにNULL以外を指定した場合，pdqmbを先頭番地とする優先度データキュー管理領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．優先度データキュー管理領域をアプリケーションで確保するために，次のマクロを用意している．

TSZ_PDQMB(pdqcnt)	pdqcntで指定した数のデータを格納できる優先度データキュー管理領域のサイズ（バイト数）
TCNT_PDQMB(pdqcnt)	pdqcntで指定した数のデータを格納できる優先度データキュー管理領域を確保するために必要なMB_T型の配列の要素数

これらを用いて優先度データキュー管理領域を確保する方法は次の通り．

```
MB_T    〈優先度データキュー管理領域の変数名〉[TCNT_PDQMB(pdqcnt)];
```

この時，pdqmbには〈優先度データキュー管理領域の変数名〉を指定する．

この方法に従わず，pdqmbにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地を指定した時には，E_PARエラーとなる．また，保護機能対応カーネルにおいて，pdqmbで指定した優先度データキュー管理領域がカーネル専用のメモリオブジェクトに含まれない場合，E_OBJエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_PDQのみをサポートする．また，pdqmbにはNULLのみを指定することができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_pdqもサポートする．acre_pdqに対しては，pdqmbにNULL以外を指定できないという制限はない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_PDQのみをサポートする．また，pdqmbにはNULLのみを渡すことができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_PDQのみをサポートする．また，pdqmbにはNULLのみを渡すことができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

AID_PDQ　　割付け可能な優先度データキューIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_PDQ(uint_t nopdq)
```

【パラメータ】

uint_t	nopdq	割付け可能な優先度データキューIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nopdqで指定した数の優先度データキューIDを，優先度データキューを生成するサービスコールによって割付け可能な優先度データキューIDとして確保する．

nopdqは整数定数式パラメータである．

SAC_PDQ　　優先度データキューのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_pdq　　優先度データキューのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_PDQ(ID pdqid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_pdq(ID pdqid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	対象優先度データキューのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（pdqidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_PDQの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象優先度データキューが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象優先度データキューに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象優先度データキューは静的APIで生成された：sac_pdqの場合，対象優先度データキューに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_PDQの場合）

【機能】

pdqidで指定した優先度データキュー（対象優先度データキュー）のアクセス許可ベクタ（4 つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，pdqidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_PDQは，対象優先度データキューが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_PDQ，sac_pdqをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_PDQ，sac_pdqをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_PDQのみをサポートする．

---

del_pdq　　優先度データキューの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_pdq(ID pdqid)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	対象優先度データキューのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（pdqidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象優先度データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象優先度データキューに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象優先度データキューは静的APIで生成された）

【機能】

pdqidで指定した優先度データキュー（対象優先度データキュー）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象優先度データキューの登録が解除され，その優先度データキューIDが未使用の状態に戻される．また，対象優先度データキューの送信待ち行列と受信待ち行列につながれたタスクは，それぞれの待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

優先度データキューの生成時に，優先度データキュー管理領域がカーネルによって確保された場合は，そのメモリ領域が解放される．

【補足説明】

送信待ち行列と受信待ち行列の両方にタスクがつながれていることはないため，別の待ち行列で待っていたタスクの間の待ち解除の順序は，規定する必要がない．

【使用上の注意】

del_pdqにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込

み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_pdqをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_pdqをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_pdqをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_pdqをサポートしない．

---

snd_pdq	優先度データキューへの送信〔T〕
psnd_pdq	優先度データキューへの送信（ポーリング）〔T〕
ipsnd_pdq	優先度データキューへの送信（ポーリング）〔I〕
tsnd_pdq	優先度データキューへの送信（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = snd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri)
ER ercd = psnd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri)
ER ercd = ipsnd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri)
ER ercd = tsnd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	対象優先度データキューのID番号
intptr_t	data	送信データ
PRI	datapri	送信データの優先度
TMO	tmout	タイムアウト時間（tsnd_pdqの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：ipsnd_pdqを除く，タスクコンテキストからの呼出し：ipsnd_pdqの場合，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：snd_pdqとtsnd_pdqの場合）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：snd_pdqとtsnd_pdqの場合）
E_ID	不正ID番号（pdqidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（datapriが不正，tmoutが不正：tsnd_pdqのみ）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象優先度データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象優先度データキューに対する通常操作1が許可されていない：ipsnd_pdqを除く）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（snd_pdqを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（snd_pdqと

		tsnd_pdqの場合）
	E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（snd_pdqとtsnd_pdqの場合）

【機能】

pdqidで指定した優先度データキュー（対象優先度データキュー）に，dataで指定したデータを，datapriで指定した優先度で送信する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象優先度データキューの受信待ち行列にタスクが存在する場合には，受信待ち行列の先頭のタスクが，dataで指定したデータを受信し，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象優先度データキューの受信待ち行列にタスクが存在せず，優先度データキュー管理領域にデータを格納するスペースがある場合には，dataで指定したデータが，datapriで指定したデータの優先度順で優先度データキュー管理領域に格納される．

対象優先度データキューの受信待ち行列にタスクが存在せず，優先度データキュー管理領域にデータを格納するスペースがない場合には，自タスクは優先度データキューへの送信待ち状態となり，対象優先度データキューの送信待ち行列につながれる．

datapriは，TMIN_DPRI以上で，対象データキューに送信できるデータ優先度の最大値以下でなければならない．

---

rcv_pdq	優先度データキューからの受信〔T〕
prcv_pdq	優先度データキューからの受信（ポーリング）〔T〕
trcv_pdq	優先度データキューからの受信（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = rcv_pdq(ID pdqid, intptr_t *p_data, PRI *p_datapri)
ER ercd = prcv_pdq(ID pdqid, intptr_t *p_data, PRI *p_datapri)
ER ercd = trcv_pdq(ID pdqid, intptr_t *p_data, PRI *p_datapri, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	対象優先度データキューのID番号
intptr_t *	p_data	受信データを入れるメモリ領域へのポインタ
PRI *	p_datapri	受信データの優先度を入れるメモリ領域へのポインタ
TMO	tmout	タイムアウト時間（trcv_pdqの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
intptr_t	data	受信データ
PRI	datapri	受信データの優先度

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出

		し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：prcv_pdqを除く）
	E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：prcv_pdqを除く）
	E_ID	不正ID番号（pdqidが不正）
	E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：trcv_pdqの場合）
	E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象優先度データキューが未登録）
	E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象優先度データキューに対する通常操作2が許可されていない）
	E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_dataまたはp_datapriが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）
	E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（rcv_pdqを除く）
	E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（prcv_pdqを除く）
	E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（prcv_pdqを除く）

【機能】

pdqidで指定した優先度データキュー（対象優先度データキュー）からデータを受信する．受信したデータはp_dataで指定したメモリ領域に，その優先度はp_datapriで指定したメモリ領域に返される．具体的な振舞いは以下の通り．

対象優先度データキューの優先度データキュー管理領域にデータが格納されている場合には，優先度データキュー管理領域の先頭に格納されたデータが取り出され，p_dataで指定したメモリ領域に返される．また，その優先度がp_datapriで指定したメモリ領域に返される．さらに，送信待ち行列にタスクが存在する場合には，送信待ち行列の先頭のタスクの送信データが，データの優先度順で優先度データキュー管理領域に格納され，そのタスクは待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象優先度データキューの優先度データキュー管理領域にデータが格納されておらず，送信待ち行列にタスクが存在する場合には，送信待ち行列の先頭のタスクの送信データが，p_dataで指定したメモリ領域に返される．また，その優先度がp_datapriで指定したメモリ領域に返される．送信待ち行列の先頭のタスクは，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象優先度データキューの優先度データキュー管理領域にデータが格納されておらず，送信待ち行列にタスクが存在しない場合には，自タスクは優先度データキューからの受信待ち状態となり，対象優先度データキューの受信待ち行列につながれる．

---

ini_pdq　　優先度データキューの再初期化〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ini_pdq(ID pdqid)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	対象優先度データキューのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（pdqidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象優先度データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象優先度データキューに対する管理操作が許可されていない）

【機能】

pdqidで指定した優先度データキュー（対象優先度データキュー）を再初期化する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象優先度データキューの優先度データキュー管理領域は，格納されているデータがない状態に初期化される．また，対象優先度データキューの送信待ち行列と受信待ち行列につながれたタスクは，それぞれの待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【補足説明】

送信待ち行列と受信待ち行列の両方にタスクがつながれていることはないため，別の待ち行列で待っていたタスクの間の待ち解除の順序は，規定する必要がない．

【使用上の注意】

ini_pdqにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

優先度データキューを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，アプリケーションの責任である．

---

ref_pdq　優先度データキューの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_pdq(ID pdqid, T_RPDQ *pk_rpdq)
```

【パラメータ】

ID	pdqid	対象優先度データキューのID番号
T_RPDQ *	pk_rpdq	優先度データキューの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊優先度データキューの現在状態（パケットの内容）

ID	stskid	優先度データキューの送信待ち行列の先頭のタスクのID番号
ID	rtskid	優先度データキューの受信待ち行列の先頭のタスクのID番号
uint_t	spdqcnt	優先度データキュー管理領域に格納されているデータの数

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（pdqidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象優先度データキューが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象優先度データキューに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rpdqが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

pdqidで指定した優先度データキュー（対象優先度データキュー）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rpdqで指定したパケットに返される．

対象優先度データキューの送信待ち行列にタスクが存在しない場合，stskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．また，受信待ち行列にタスクが存在しない場合，rtskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．

【使用上の注意】

ref_pdqはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_pdqを呼び出し，対象優先度データキューの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_pdqから戻ってきた時には対象優先度データキューの状態が変化している可能性があるためである．

4.4.5 メールボックス

メールボックスは，共有メモリ上に置いたメッセージを，FIFO順またはメッセージの優先度順で送受信するための同期・通信オブジェクトである．メールボックスは，メールボックスIDと呼ぶID番号によって識別する．

各メールボックスが持つ情報は次の通り．

- メールボックス属性
- メッセージキュー
- 待ち行列（メールボックスからの受信待ち状態のタスクのキュー）
- 送信できるメッセージ優先度の最大値
- 優先度別のメッセージキューヘッダ領域
- 属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

メッセージキューは，メールボックスに送信されたメッセージを，FIFO順またはメッセージの優先度順につないでおくためのキューである．

待ち行列は，メールボックスからメッセージが受信できるまで待っている状態（メールボックスからの受信待ち状態）のタスクが，メッセージを受信できる順序でつながれているキューである．

メールボックス属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	待ち行列をタスクの優先度順にする
TA_MPRI	0x02U	メッセージキューをメッセージの優先度順にする

TA_TPRIを指定しない場合，待ち行列はFIFO順になる．TA_MPRIを指定しない場合，メッセージキューはFIFO順になる．

優先度別のメッセージキューヘッダ領域は，TA_MPRI属性のメールボックスに対して，メッセージキューを優先度別に設ける場合に使用する領域である．

カーネルは，メールボックスに送信されたメッセージをメッセージキューにつなぐために，メッセージの先頭のメモリ領域を使用する．そのためアプリケーションは，メールボックスに送信するメッセージの先頭に，カーネルが利用するためのメッセージヘッダを置かなければならない．メッセージヘッダのデータ型として，メールボックス属性にTA_MPRIが指定されているか否かにより，以下のいずれかを用いる．

T_MSG	TA_MPRI属性でないメールボックス用のメッセージヘッダ
T_MSG_PRI	TA_MPRI属性のメールボックス用のメッセージヘッダ

メッセージヘッダの領域は，メッセージがメッセージキューにつながれている間（すなわち，メールボックスに送信してから受信するまでの間），カーネルによって使用される．そのため，メッセージキューにつながれているメッセージのメッセージヘッダの領域をアプリケーションが書き換えた場合や，メッセージキューにつながれているメッセージを再度メールボックスに送信した場合の動作は保証されない．

TA_MPRI属性のメールボックスにメッセージを送信する場合，アプリケーションは，メッセージの優先度を，T_MSG_PRI型のメッセージヘッダ中のmsgpriフィールドに設定する．

保護機能対応カーネルでは，メールボックス機能はサポートしない．

メールボックス機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMIN_MPRI	メッセージ優先度の最小値（＝1）
TMAX_MPRI	メッセージ優先度の最大値
TNUM_MBXID	登録できるメールボックスの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたメールボックスの数に一致）

【補足説明】

TOPPERS新世代カーネルの現時点の実装では，優先度別のメッセージキューヘッダ領域は用いていない．

【使用上の注意】

メールボックス機能は，μITRON4.0仕様との互換性のために残した機能であり，保護機能対応カーネルではサポートしないため，使用することは推奨しない．メールボックス機能は，ほとんどの場合に，データキュー機能または優先度データキュー機能を用いて，メッセージを置いたメモリ領域へのポインタを送受信する方法で置き換えることができる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，メールボックス機能をサポートする．メッセージ優先度の最大値（TMAX_MPRI）は16に固定されている．ただし，タスク優先度拡張パッケージでは，TMAX_MPRIを256に拡張する．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，メールボックス機能をサポートする．メッセージ優先度の最大値（TMAX_MPRI）は16に固定されている．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，メールボックス機能をサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

TNUM_MBXIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_MBX	メールボックスの生成〔Sp〕
acre_mbx	メールボックスの生成〔TpD〕

【静的API】

```
CRE_MBX(ID mbxid, { ATR mbxatr, PRI maxmpri, void *mprihd })
```

【C言語API】

```
ER_ID mbxid = acre_mbx(const T_CMBX *pk_cmbx)
```

【パラメータ】

ID	mbxid	生成するメールボックスのID番号（CRE_MBXの場合）
T_CMBX *	pk_cmbx	メールボックスの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊メールボックスの生成情報（パケットの内容）

ATR	mbxatr	メールボックス属性

	PRI	maxmpri	優先度メールボックスに送信できるメッセージ優先度の最大値
	void *	mprihd	優先度別のメッセージキューヘッダ領域の先頭番地

【リターンパラメータ】

ER_ID	mbxid	生成されたメールボックスのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（mbxatrが不正または使用できない，属するクラスが不正）
E_NOSPT	未サポート機能（mprihdがサポートされていない値）
E_PAR	パラメータエラー（mprihdが不正）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるメールボックスIDがない）
E_NOMEM	メモリ不足（優先度別のメッセージキューヘッダ領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（mbxidで指定したメールボックスが登録済み：CRE_MBXの場合）

【機能】

各パラメータで指定したメールボックス生成情報に従って，メールボックスを生成する．メッセージキューはつながれているメッセージがない状態に初期化され，mprihdとmaxmpriから優先度別のメッセージキューヘッダ領域が設定される．また，待ち行列は空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，mbxidはオブジェクト識別名，maxmpriは整数定数式パラメータ，mprihdは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

mprihdをNULLとした場合，maxmpriの指定に合致したサイズの優先度別のメッセージキューヘッダ領域を，コンフィギュレータまたはカーネルが確保する．

maxmpriは，TMIN_MPRI以上，TMAX_MPRI以下でなければならない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_MBXのみをサポートする．また，優先度別のメッセージキューヘッダ領域は使用しておらず，mprihdにはNULLのみを指定することができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_mbxもサポートする．acre_mbxに対しても，mprihdにはNULLのみを指定することができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_MBXのみをサポートする．また，優先度別のメッセージキューヘッダ領域は使用しておらず，mprihdにはNULLのみを渡すことができる．

NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

AID_MBX　　割付け可能なメールボックスIDの数の指定〔SpD〕

【静的API】

```
AID_MBX(uint_t nombx)
```

【パラメータ】

uint_t	nombx	割付け可能なメールボックスIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nombxで指定した数のメールボックスIDを，メールボックスを生成するサービスコールによって割付け可能なメールボックスIDとして確保する．

nombxは整数定数式パラメータである．

---

del_mbx　　メールボックスの削除〔TDp〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_mbx(ID mbxid)
```

【パラメータ】

ID	mbxid	対象メールボックスのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mbxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象メールボックスが未登録）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象メールボックスは静的APIで生成された）

【機能】

mbxidで指定したメールボックス（対象メールボックス）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象メールボックスの登録が解除され，そのメールボックスIDが未使用の状態に戻される．また，対象メールボックスの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

メールボックスの生成時に，優先度別のメッセージキューヘッダ領域がカーネ

ルによって確保された場合は，そのメモリ領域が解放される．

【使用上の注意】

del_mbxにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_mbxをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_mbxをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_mbxをサポートしない．

---

snd_mbx　　メールボックスへの送信〔Tp〕

【C言語API】

```
ER ercd = snd_mbx(ID mbxid, T_MSG *pk_msg)
```

【パラメータ】

ID	mbxid	対象メールボックスのID番号
T_MSG	*pk_msg	送信メッセージの先頭番地

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mbxidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（メッセージヘッダ中のmsgpriが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象メールボックスが未登録）

【機能】

mbxidで指定したメールボックス（対象メールボックス）に，pk_msgで指定したメッセージを送信する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象メールボックスの待ち行列にタスクが存在する場合には，待ち行列の先頭のタスクが，pk_msgで指定したメッセージを受信し，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

対象メールボックスの待ち行列にタスクが存在しない場合には，pk_msgで指定したメッセージが，メールボックス属性のTA_MPRI指定の有無によって指定される順序で，メッセージキューにつなぐ．

対象メールボックスがTA_MPRI属性である場合には，pk_msgで指定したメッセージの先頭のメッセージヘッダ中のmsgpriフィールドの値が，TMIN_MPRI以上で，対象メールボックスに送信できるメッセージ優先度の最大値以下でなければならない．

---

rcv_mbx　　メールボックスからの受信〔Tp〕
prcv_mbx　　メールボックスからの受信（ポーリング）〔Tp〕
trcv_mbx　　メールボックスからの受信（タイムアウト付き）〔Tp〕

【C言語API】

```
ER ercd = rcv_mbx(ID mbxid, T_MSG **ppk_msg)
ER ercd = prcv_mbx(ID mbxid, T_MSG **ppk_msg)
ER ercd = trcv_mbx(ID mbxid, T_MSG **ppk_msg, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	mbxid	対象メールボックスのID番号
T_MSG **	ppk_msg	受信メッセージの先頭番地を入れるメモリ領域へのポインタ
TMO	tmout	タイムアウト時間（trcv_mbxの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
T_MSG *	ppk_msg	受信メッセージの先頭番地

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：prcv_mbxを除く）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：prcv_mbxを除く）
E_ID	不正ID番号（mbxidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：trcv_mbxの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象メールボックスが未登録）
E_TMOUT	ポーリング失敗またはタイムアウト（rcv_mbxを除く）
E_RLWAI	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（prcv_mbxを除く）
E_DLT	待ちオブジェクトの削除または再初期化（prcv_mbxを除く）

【機能】

mbxidで指定したメールボックス（対象メールボックス）からメッセージを受信する．受信したメッセージの先頭番地は，ppk_msgで指定したメモリ領域に返される．具体的な振舞いは以下の通り．

対象メールボックスのメッセージキューにメッセージがつながれている場合には，メッセージキューの先頭につながれたメッセージが取り出され，ppk_msgで指定したメモリ領域に返される．

対象メールボックスのメッセージキューにメッセージがつながれていない場合には，自タスクはメールボックスからの受信待ち状態となり，対象メールボックスの待ち行列につながれる．

8851 ----------
8852 ini_mbx　　メールボックスの再初期化〔Tp〕
8853
8854 【C言語API】
8855 　ER ercd = ini_mbx(ID mbxid)
8856
8857 【パラメータ】
8858 　ID　　mbxid　　対象メールボックスのID番号
8859
8860 【リターンパラメータ】
8861 　ER　　ercd　　正常終了（E_OK）またはエラーコード
8862
8863 【エラーコード】
8864 　E_CTX　　コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
8865 　　し，CPUロック状態からの呼出し）
8866 　E_ID　　不正ID番号（mbxidが不正）
8867 　E_NOEXS〔D〕　　オブジェクト未登録（対象メールボックスが未登録）
8868
8869 【機能】
8870
8871 mbxidで指定したメールボックス（対象メールボックス）を再初期化する．具体
8872 的な振舞いは以下の通り．
8873
8874 対象メールボックスのメールボックス管理領域は，メッセージキューはつなが
8875 れているメッセージがない状態に初期化される．また，対象メールボックスの
8876 待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除さ
8877 れる．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールから
8878 E_DLTエラーが返る．
8879
8880 【使用上の注意】
8881
8882 ini_mbxにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間
8883 およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例し
8884 て長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込
8885 み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．
8886
8887 メールボックスを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，
8888 アプリケーションの責任である．
8889
8890 【μITRON4.0仕様との関係】
8891
8892 μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．
8893 ----------
8894 ref_mbx　　メールボックスの状態参照〔Tp〕
8895
8896 【C言語API】
8897 　ER ercd = ref_mbx(ID mbxid, T_RMBX *pk_rmbx)
8898
8899 【パラメータ】
8900 　ID　　mbxid　　対象メールボックスのID番号

T_RMBX *	pk_rmbx	メールボックスの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊メールボックスの現在状態（パケットの内容）

ID	wtskid	メールボックスの待ち行列の先頭のタスクのID番号
T_MSG *	pk_msg	メッセージキューの先頭につながれたメッセージの先頭番地

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mbxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象メールボックスが未登録）

【機能】

mbxidで指定したメールボックス（対象メールボックス）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rmbxで指定したパケットに返される．

対象メールボックスの待ち行列にタスクが存在しない場合，wtskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．また，メッセージキューにメッセージがつながれていない場合，pk_msgにはNULLが返る．

【使用上の注意】

ref_mbxはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_mbxを呼び出し，対象メールボックスの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_mbxから戻ってきた時には対象メールボックスの状態が変化している可能性があるためである．

4.4.6 ミューテックス

ミューテックスは，タスク間の排他制御を行うための同期・通信オブジェクトである．タスクは，排他制御区間に入る時にミューテックスをロックし，排他制御区間を出る時にロック解除する．ミューテックスは，ミューテックスIDと呼ぶID番号によって識別する．

ミューテックスは，排他制御に伴う優先度逆転の時間を最小限に抑えるための優先度上限プロトコル（priority ceiling protocol）をサポートする．ミューテックス属性により優先度上限ミューテックスであると指定することで，そのミューテックスの操作時に，優先度上限プロトコルに従った現在優先度の制御が行われる．

各ミューテックスが持つ情報は次の通り．

・ミューテックス属性
・ロック状態（ロックされている状態とロック解除されている状態）
・ミューテックスをロックしているタスク
・待ち行列（ミューテックスのロック待ち状態のタスクのキュー）
・上限優先度（優先度上限ミューテックスの場合）
・アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
・属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

待ち行列は，ミューテックスをロックできるまで待っている状態（ミューテックスのロック待ち状態）のタスクが，ミューテックスをロックできる順序でつながれているキューである．

上限優先度は，優先度上限ミューテックスに対してのみ有効で，ミューテックスの生成時に，そのミューテックスをロックする可能性のあるタスクのベース優先度の中で最も高い優先度（または，それより高い優先度）に設定する．

ミューテックス属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	待ち行列をタスクの優先度順にする
TA_CEILING	0x03U	優先度上限ミューテックスとする．待ち行列をタスクの優先度順にする

TA_TPRI，TA_CEILINGのいずれも指定しない場合，待ち行列はFIFO順になる．

ミューテックス機能に関連して，各タスクが持つ情報は次の通り．

・ロックしているミューテックスのリスト

ロックしているミューテックスのリストは，タスクの起動時に空に初期化される．

タスクの現在優先度は，そのタスクのベース優先度と，そのタスクがロックしている優先度上限ミューテックスの優先度上限の中で，最も高い優先度に設定される．

ミューテックス機能によりタスクの現在優先度が変化する場合には，次の処理が行われる．現在優先度を変化させるサービスコールの前後とも，当該タスクが実行できる状態である場合には，同じ優先度のタスクの中で最高優先順位となる．そのサービスコールにより，当該タスクが実行できる状態に遷移する場合には，同じ優先度のタスクの中で最低優先順位となる．そのサービスコールの後で，当該タスクが待ち状態で，タスクの優先度順の待ち行列につながれている場合には，当該タスクの変更後の現在優先度に従って，その待ち行列中での順序が変更される．待ち行列中に同じ現在優先度のタスクがある場合には，当該タスクの順序はそれらの中で最後になる．

ミューテックス機能に関連して，タスクの終了時に行うべき処理として，タスクがロックしているミューテックスのロック解除がある．タスクの終了時にロックしているミューテックスが残っている場合，それらのミューテックスは，ロックしたのと逆の順序でロック解除される．

ミューテックス機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TNUM_MTXID	登録できるミューテックスの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたミューテックスの数に一致）

【使用上の注意】

優先度上限プロトコルには，(a) 優先度の低いタスクの排他制御区間に最大1回しかブロックされない，(b) タスクの実行が開始された以降は優先度の低いタスクにブロックされないという利点があるが，これは，タスク間の同期に優先度上限ミューテックスのみを用い，他の方法でタスクのスケジューリングに関与しない場合に得られる利点である．

これらの利点を得るためには，タスクの優先順位の回転やディスパッチの禁止を行ってはならないことに加えて，優先度上限ミューテックスをロックしたタスクを待ち状態にしてはならない．特に，優先度上限ミューテックスに対して，タスクがロック待ち状態になる状況に注意が必要である（優先度上限プロトコルでは，タスクがミューテックスのロック待ち状態になることはない）．

例えば，着目するタスクAと，タスクAよりベース優先度の低いタスクBとタスクC，タスクAよりも高い上限優先度を持った優先度上限ミューテックスがある場合を考える．タスクAがミューテックスをロックし，タスクBとタスクCがミューテックスを待っている状況で，タスクAがミューテックスをロック解除すると，タスクBがミューテックスをロックして優先度が上がり，タスクBに切り換わる．さらにタスクBがミューテックスをロック解除すると，タスクCがミューテックスをロックして優先度が上がり，タスクCに切り換わる．タスクAが実行されるのは，タスクCがミューテックスをロック解除した後である．この例では，タスクAが実行開始後に，タスクBとタスクCの排他制御区間にブロックされることになる．

優先度上限ミューテックスに対してタスクがロック待ち状態になる状況を回避するためには，優先度上限ミューテックスをロックする場合に，待ち状態にならないploc_mtxを用いるのが安全である．

【補足説明】

この仕様で優先度上限プロトコルと呼んでいる方式は，オリジナルのpriority ceiling protocolとは異なるものである．この仕様の方式は，OSEK/VDX OS仕様でもpriority ceiling protocolと呼ばれているが，学術論文や他のOSでは，immediate ceiling priority protocol，priority protection protocol，priority ceiling emulation，highest locker protocolなどと呼ばれている．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ミューテックス機能をサポートしない．ただし，ミューテックス機能拡張パッケージを用いると，ミューテックス機能を追加することができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ミューテックス機能をサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ミューテックス機能をサポートする．

【未決定事項】

マルチプロセッサにおいては，タスク間の同期に優先度上限ミューテックスのみを用い，他の方法でタスクのスケジューリングに関与しない場合でも，優先度上限ミューテックスに対してタスクがロック待ち状態になる．マルチプロセッサ対応カーネルにおける優先度上限ミューテックスの扱いについては，今後の課題である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様の厳密な優先度制御規則を採用し，簡略化した優先度制御規則はサポートしていない．また，μITRON4.0仕様でサポートしている優先度継承プロトコル（priority inheritance protocol）は，現時点ではサポートしていない．

ミューテックス機能によりタスクの現在優先度が変化する場合の振舞いは，μITRON4.0仕様では実装依存となっているが，この仕様では規定している．

TNUM_MTXIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_MTX　　ミューテックスの生成〔S〕
acre_mtx　　ミューテックスの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_MTX(ID mtxid, { ATR mtxatr, PRI ceilpri })
```

【C言語API】

```
ER_ID mtxid = acre_mtx(const T_CMTX *pk_cmtx)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	生成するミューテックスのID番号（CRE_MTXの場合）
T_CMTX *	pk_cmtx	ミューテックスの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊ミューテックスの生成情報（パケットの内容）

ATR	mtxatr	ミューテックス属性
PRI	ceilpri	ミューテックスの上限優先度

【リターンパラメータ】

ER_ID	mtxid	生成されたミューテックスのID番号（正の値）

またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（mtxatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（ceilpriが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cmtxが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるミューテックスIDがない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（mtxidで指定したミューテックスが登録済み：CRE_MTXの場合）

【機能】

各パラメータで指定したミューテックス生成情報に従って，ミューテックスを生成する．生成されたミューテックスのロック状態はロックされていない状態に，待ち行列は空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，mtxidはオブジェクト識別名，ceilpriは整数定数式パラメータである．優先度上限ミューテックス以外の場合には，ceilpriの指定を省略することができる．

優先度上限ミューテックスを生成する場合，ceilpriは，TMIN_TPRI以上，TMAX_TPRI以下でなければならない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルのミューテックス機能拡張パッケージでは，CRE_MTXのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_MTXのみをサポートする．

AID_MTX　　割付け可能なミューテックスIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_MTX(uint_t nomtx)
```

【パラメータ】

uint_t	nomtx	割付け可能なミューテックスIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nomtxで指定した数のミューテックスIDを，ミューテックスを生成するサービスコールによって割付け可能なミューテックスIDとして確保する．

nomtxは整数定数式パラメータである．

SAC_MTX　　ミューテックスのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_mtx　　ミューテックスのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_MTX(ID mtxid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_mtx(ID mtxid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	対象ミューテックスのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_MTXの場合）
E_ID	不正ID番号（mtxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象ミューテックスが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象ミューテックスに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象ミューテックスは静的APIで生成された：sac_mtxの場合，対象ミューテックスに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_MTXの場合）

【機能】

mtxidで指定したミューテックス（対象ミューテックス）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，mtxidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_MTXは，対象ミューテックスが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルのミューテックス機能拡張パッケージでは，SAC_MTX，sac_mtxをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_MTXのみをサポートする．

---

del_mtx　　ミューテックスの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_mtx(ID mtxid)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	対象ミューテックスのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mtxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象ミューテックスが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象ミューテックスに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象ミューテックスは静的APIで生成された）

【機能】

mtxidで指定したミューテックス（対象ミューテックス）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象ミューテックスの登録が解除され，そのミューテックスIDが未使用の状態に戻される．対象ミューテックスをロックしているタスクがある場合には，そのタスクがロックしているミューテックスのリストから対象ミューテックスが削除され，必要な場合にはそのタスクの現在優先度が変更される．また，対象ミューテックスの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

対象ミューテックスをロックしているタスクには，ミューテックスが削除されたことが通知されず，そのミューテックスをロック解除する時点でエラーとなる．これが不都合な場合には，ミューテックスをロックした状態で，ミューテックスを削除すればよい．

del_mtxにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルのミューテックス機能拡張パッケージでは，del_mtxをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_mtxをサポートしない．

---

loc_mtx	ミューテックスのロック〔T〕
ploc_mtx	ミューテックスのロック（ポーリング）〔T〕
tloc_mtx	ミューテックスのロック（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = loc_mtx(ID mtxid)
ER ercd = ploc_mtx(ID mtxid)
ER ercd = tloc_mtx(ID mtxid, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	対象ミューテックスのID番号
TMO	tmout	タイムアウト時間（twai_mtxの場合）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：pol_mtxを除く）
E_NOSPT	未サポート機能（制約タスクからの呼出し：pol_mtxを除く）
E_ID	不正ID番号（mtxidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tmoutが不正：twai_mtxの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象ミューテックスが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象ミューテックスに対する通常操作1が許可されていない）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（対象ミューテックスを自タスクがロックしている，対象優先度上限ミューテックスの上限優先度より自タスクのベース優先度が高い）

E_TMOUT		ポーリング失敗またはタイムアウト（wai_mtxを除く）
E_RLWAI		待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（pol_mtxを除く）
E_DLT		待ちオブジェクトの削除または再初期化（pol_mtxを除く）

【機能】

mtxidで指定したミューテックス（対象ミューテックス）をロックする．具体的な振舞いは以下の通り．

対象ミューテックスがロックされていない場合には，自タスクによってロックされている状態になる．自タスクがロックしているミューテックスのリストに対象ミューテックスが追加され，必要な場合には自タスクの現在優先度が変更される．

対象ミューテックスが自タスク以外のタスクによってロックされている場合には，自タスクはミューテックスのロック待ち状態となり，対象ミューテックスの待ち行列につながれる．

対象ミューテックスが自タスクによってロックされている場合には，E_ILUSEエラーとなる．また，対象ミューテックスが優先度上限ミューテックスで，その上限優先度より自タスクのベース優先度が高い場合にも，E_ILUSEエラーとなる．

---

unl_mtx　ミューテックスのロック解除〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = unl_mtx(ID mtxid)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	対象ミューテックスのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mtxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象ミューテックスが未登録）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（対象ミューテックスを自タスクがロックしていない）

【機能】

mtxidで指定したミューテックス（対象ミューテックス）をロック解除する．具体的な振舞いは以下の通り．

まず，自タスクがロックしているミューテックスのリストから対象ミューテックスが削除され，必要な場合には自タスクの現在優先度が変更される．

対象ミューテックスの待ち行列にタスクが存在する場合には，待ち行列の先頭

のタスクが待ち解除される．対象ミューテックスは，待ち解除されたタスクによってロックされている状態になる．待ち解除されたタスクがロックしているミューテックスのリストに対象ミューテックスが追加され，必要な場合にはそのタスクの現在優先度が変更される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

待ち行列にタスクが存在しない場合には，対象ミューテックスはロックされていない状態になる．

対象ミューテックスが自タスクによってロックされていない場合には，
E_ILUSEエラーとなる．

---

ini_mtx　　ミューテックスの再初期化〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ini_mtx(ID mtxid)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	対象ミューテックスのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mtxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象ミューテックスが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象ミューテックスに対する管理操作が許可されていない）

【機能】

mtxidで指定したミューテックス（対象ミューテックス）を再初期化する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象ミューテックスのロック状態は，ロックされていない状態に初期化される．対象ミューテックスをロックしているタスクがある場合には，そのタスクがロックしているミューテックスのリストから対象ミューテックスが削除され，必要な場合にはそのタスクの現在優先度が変更される．また，対象ミューテックスの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

対象ミューテックスをロックしているタスクには，ミューテックスが再初期化されたことが通知されず，そのミューテックスをロック解除する時点でエラーとなる．これが不都合な場合には，ミューテックスをロックした状態で，ミューテックスを再初期化すればよい．

ini_mtxにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

ミューテックスを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，アプリケーションの責任である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ref_mtx　　ミューテックスの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_mtx(ID mtxid, T_RMTX *pk_rmtx)
```

【パラメータ】

ID	mtxid	対象ミューテックスのID番号
T_RMTX *	pk_rmtx	ミューテックスの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊ミューテックスの現在状態（パケットの内容）

ID	htskid	ミューテックスをロックしているタスクのID番号
ID	wtskid	ミューテックスの待ち行列の先頭のタスクのID番号

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mtxidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象ミューテックスが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象ミューテックスに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rmtxが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

mtxidで指定したミューテックス（対象ミューテックス）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rmtxで指定したパケットに返される．

対象ミューテックスがロックされていない場合，htskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．

対象ミューテックスの待ち行列にタスクが存在しない場合，wtskidには

TSK_NONE（＝0）が返る．

【使用上の注意】

ref_mtxはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_mtxを呼び出し，対象ミューテックスの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_mtxから戻ってきた時には対象ミューテックスの状態が変化している可能性があるためである．

4.4.7 メッセージバッファ

☆未完成

4.4.8 スピンロック

スピンロックは，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，割込みのマスクとプロセッサ間ロックの取得により，排他制御を行うための同期・通信オブジェクトである．スピンロックは，スピンロックIDと呼ぶID番号によって識別する．

プロセッサ間ロックを取得している間は，CPUロック状態にすることですべてのカーネル管理の割込みがマスクされ，ディスパッチが保留される．ロックが他のプロセッサに取得されている場合には，ロックが取得できるまでループによって待つ．ロックの取得を待つ間は，CPUロック解除状態であり，割込みはマスクされない．プロセッサ間ロックを取得し，CPUロック状態に遷移することを，スピンロックを取得するという．また，プロセッサ間ロックを返却し，CPUロック状態を解除することを，スピンロックを返却するという．

タスクが取得したスピンロックを返却せずに終了した場合や，タスク例外処理ルーチン，割込みハンドラ，割込みサービスルーチン，タイムイベントハンドラが取得したスピンロックを返却せずにリターンした場合には，カーネルによってスピンロックが返却される．また，スピンロックを取得していない状態で発生したCPU例外によって呼び出されたCPU例外ハンドラが，取得したスピンロックを返却せずにリターンした場合には，カーネルによってスピンロックが返却される．一方，拡張サービスコールからのリターンでは，スピンロックは返却されない．

各スピンロックが持つ情報は次の通り．

- スピンロック属性
- ロック状態（取得されている状態と取得されていない状態）
- アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
- 属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
- 属するクラス

スピンロック属性に指定できる属性はない．そのためスピンロック属性には，TA_NULLを指定しなければならない．

スピンロック機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TNUM_SPNID		登録できるスピンロックの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたスピンロックの数に一致）

【補足説明】

CPUロック状態では，スピンロックを取得するサービスコールを呼び出すことができないため，スピンロックを取得しているプロセッサが，さらにスピンロックを取得することはできない．そのため，1つの処理単位が，複数のスピンロックを取得した状態になることはできない．

スピンロックを取得した状態でCPU例外が発生した場合，起動されるCPU例外ハンドラはカーネル管理外のCPU例外ハンドラであり（xsns_dpn，xsns_xpnともtrueを返す），CPU例外ハンドラ中でiunl_spnを呼び出してスピンロックを返却しようとした場合の動作は保証されない．保証されないにも関わらずiunl_spnを呼び出した場合には，CPU例外ハンドラからのリターン時に元の状態に戻らない．これは，CPUロック状態の扱いと一貫していないため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，スピンロック機能をサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，スピンロック機能をサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，スピンロック機能をサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

スピンロック機能は，μITRON4.0仕様に定義されていない機能である．

CRE_SPN	スピンロックの生成〔SM〕
acre_spn	スピンロックの生成〔TMD〕

【静的API】

```
CRE_SPN(ID spnid, { ATR spnatr })
```

【C言語API】

```
ER_ID spnid = acre_spn(const T_CSPN *pk_cspn)
```

【パラメータ】

ID	spnid	生成するスピンロックのID番号（CRE_SPNの場合）
T_CSPN *	pk_cspn	スピンロックの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊スピンロックの生成情報（パケットの内容）

ATR	spnatr	スピンロック属性

【リターンパラメータ】

ER_ID	spnid	生成されたスピンロックのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（spnatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cspnが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるスピンロックIDがない）
E_NORES	資源不足（スピンロックを実現するためのハードウェア資源がない：CRE_SPNの場合）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（spnidで指定したスピンロックが登録済み：CRE_SPNの場合）

【機能】

各パラメータで指定したスピンロック生成情報に従って，スピンロックを生成する．生成されたスピンロックのロック状態は，取得されていない状態に初期化される．

静的APIにおいては，spnidはオブジェクト識別名である．

スピンロックをハードウェアによって実現している場合には，ターゲット定義で，生成できるスピンロックの数に上限がある．この上限を超えてスピンロックを生成しようとした場合には，E_NORESエラーとなる．

【補足説明】

スピンロックを動的に生成する場合に，生成できるスピンロックの数の上限はAID_SPNによってチェックされるため，acre_spnでE_NORESエラーが返ることはない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_SPNのみをサポートする．

AID_SPN　　割付け可能なスピンロックIDの数の指定〔SMD〕

【静的API】

```
AID_SPN(uint_t nospn)
```

【パラメータ】

uint_t	nospn	割付け可能なスピンロックIDの数

【エラーコード】
　E_RSATR　　予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nospnで指定した数のスピンロックIDを，スピンロックを生成するサービスコールによって割付け可能なスピンロックIDとして確保する．

nospnは整数定数式パラメータである．

SAC_SPN　　スピンロックのアクセス許可ベクタの設定〔SPM〕
sac_spn　　スピンロックのアクセス許可ベクタの設定〔TPMD〕

【静的API】
```
SAC_SPN(ID spnid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】
```
ER ercd = sac_spn(ID spnid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	spnid	対象スピンロックのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（spnidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_SPNの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象スピンロックが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象スピンロックに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象スピンロックは静的APIで生成された：sac_spnの場合，対象スピンロックに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_SPNの場合）

【機能】

spnidで指定したスピンロック（対象スピンロック）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，spnidはオブジェクト識別名，acptn1〜acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_SPNは，対象スピンロックが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_SPN，sac_spnをサポートしない．

---

del_spn　　スピンロックの削除〔TMD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_spn(ID spnid)
```

【パラメータ】

ID	spnid	対象スピンロックのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（spnidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象スピンロックが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象スピンロックに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象スピンロックは静的APIで生成された）

【機能】

spnidで指定したスピンロック（対象スピンロック）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象スピンロックの登録が解除され，そのスピンロックIDが未使用の状態に戻される．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_spnをサポートしない．

【未決定事項】

対象スピンロックが取得されている状態の場合の振舞いは，今後の課題である．

```
9701    ----------------------------------------------------------------------
9702    loc_spn     スピンロックの取得〔TM〕
9703    iloc_spn    スピンロックの取得〔IM〕
9704
9705    【C言語API】
9706       ER ercd = loc_spn(ID spnid)
9707       ER ercd = iloc_spn(ID spnid)
9708
9709    【パラメータ】
9710       ID          spnid       対象スピンロックのID番号
9711
9712    【リターンパラメータ】
9713       ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
9714
9715    【エラーコード】
9716       E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
9717                       し：loc_spnの場合，タスクコンテキストからの呼出し：
9718                       iloc_spnの場合，CPUロック状態からの呼出し）
9719       E_ID            不正ID番号（spnidが不正）
9720       E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象スピンロックが未登録）
9721       E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象スピンロックに対する
9722                       通常操作1が許可されていない：loc_spnの場合）
9723
9724    【機能】
9725
9726    spnidで指定したスピンロック（対象スピンロック）を取得する．具体的な振舞
9727    いは以下の通り．
9728
9729    対象スピンロックが取得されていない状態である場合には，プロセッサ間ロッ
9730    クの取得を試みる．ロックが他のプロセッサによって取得されている状態であ
9731    る場合や，他のプロセッサがロックの取得に成功した場合には，ロックが返却
9732    されるまでループによって待ち，返却されたらロックの取得を試みる．これを，
9733    ロックの取得に成功するまで繰り返す．
9734
9735    ロックの取得に成功した場合には，スピンロックは取得されている状態になる．
9736    また，CPUロックフラグをセットしてCPUロック状態へ遷移し，サービスコール
9737    からリターンする．
9738
9739    なお，複数のプロセッサがロックの取得を待っている時に，どのプロセッサが
9740    最初にロックを取得できるかは，現時点ではターゲット定義とする．
9741
9742    【補足説明】
9743
9744    対象スピンロックが，loc_spn／iloc_spnを呼び出したプロセッサによって取得
9745    されている状態である場合には，スピンロックの取得によりCPUロック状態になっ
9746    ているため，loc_spn／iloc_spnはE_CTXエラーとなる．
9747
9748    プロセッサがロックを取得できる順序を，現時点ではターゲット定義としたが，
9749    リアルタイム性保証のためには，（ロックの取得待ちの間に割込みが発生しな
9750    い限りは）loc_spn／iloc_spnを呼び出した順序でロックを取得できるとするの
```

が望ましい．ただし，ターゲットハードウェアの制限で，そのような実装ができるとは限らないため，現時点ではターゲット定義としている．

---

try_spn　　スピンロックの取得（ポーリング）〔TM〕
itry_spn　　スピンロックの取得（ポーリング）〔IM〕

【C言語API】

```
ER ercd = try_spn(ID spnid)
ER ercd = itry_spn(ID spnid)
```

【パラメータ】

ID	spnid	対象スピンロックのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：try_spnの場合，タスクコンテキストからの呼出し：itry_spnの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（spnidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象スピンロックが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象スピンロックに対する通常操作1が許可されていない：try_spnの場合）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象スピンロックが取得されている状態）

【機能】

spnidで指定したスピンロック（対象スピンロック）の取得を試みる．具体的な振舞いは以下の通り．

対象スピンロックが取得されていない状態である場合には，プロセッサ間ロックの取得を試みる．ロックの取得に成功した場合には，スピンロックは取得されている状態になる．また，CPUロックフラグをセットしてCPUロック状態へ遷移し，サービスコールからリターンする．

対象スピンロックが他のプロセッサによって取得されている状態である場合や，ロックの取得に失敗した場合（他のプロセッサがロックの取得に成功した場合）には，E_OBJエラーとする．

---

unl_spn　　スピンロックの返却〔TM〕
iunl_spn　　スピンロックの返却〔IM〕

【C言語API】

```
ER ercd = unl_spn(ID spnid)
ER ercd = iunl_spn(ID spnid)
```

【パラメータ】

ID	spnid	対象スピンロックのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：unl_spnの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iunl_spnの場合）
E_ID	不正ID番号（spnidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象スピンロックが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象スピンロックに対する通常操作1が許可されていない：unl_spnの場合）
E_ILUSE	サービスコール不正使用（対象スピンロックをロックしていない）

【機能】

spnidで指定したスピンロック（対象スピンロック）を返却する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象スピンロックが，unl_spn／iunl_spnを呼び出したプロセッサによって取得されている状態である場合には，ロックを返却し，スピンロックを取得されていない状態とする．また，CPUロックフラグをクリアし，CPUロック解除状態へ遷移する．

対象スピンロックが，取得されていない状態である場合や，他のプロセッサによって取得されている状態である場合には，E_ILUSEエラーとなる．

---

ref_spn　スピンロックの状態参照〔TM〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_spn(ID spnid, T_RSPN *pk_rspn)
```

【パラメータ】

ID	spnid	対象スピンロックのID番号
T_RSPN *	pk_rspn	スピンロックの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊スピンロックの現在状態（パケットの内容）

STAT	spnstat	ロック状態

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（spnidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象スピンロックが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象スピンロックに対する

		参照操作が許可されていない)
	E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rspnが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない)

【機能】

spnidで指定したスピンロック（対象スピンロック）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rspnで指定したパケットに返される．

spnstatには，対象スピンロックの現在のロック状態を表す次のいずれかの値が返される．

TSPN_UNL	0x01U	取得されていない状態
TSPN_LOC	0x02U	取得されている状態

【使用上の注意】

ref_spnはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_spnを呼び出し，対象スピンロックの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_spnから戻ってきた時には対象スピンロックの状態が変化している可能性があるためである．

4.5 メモリプール管理機能

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，メモリプール管理機能をサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，可変長メモリプール機能はサポートしないこととした．

【仕様決定の理由】

可変長メモリプール機能をサポートしないこととしたのは，メモリ割付けの処理時間とフラグメンテーションの発生を考えると，最適なメモリ管理アルゴリズムはアプリケーション依存となるため，カーネル内で実現するより，ライブラリとして実現する方が適切と考えたためである．

4.5.1 固定長メモリプール

固定長メモリプールは，生成時に決めたサイズのメモリブロック（固定長メモリブロック）を動的に獲得・返却するための同期・通信オブジェクトである．固定長メモリプールは，固定長メモリプールIDと呼ぶID番号で識別する．

各固定長メモリプールが持つ情報は次の通り．

- 固定長メモリプール属性
- 待ち行列（固定長メモリブロックの獲得待ち状態のタスクのキュー）

・固定長メモリプール領域
・固定長メモリプール管理領域
・アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
・属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

待ち行列は，固定長メモリブロックが獲得できるまで待っている状態（固定長メモリブロックの獲得待ち状態）のタスクが，固定長メモリブロックを獲得できる順序でつながれているキューである．

固定長メモリプール領域は，その中から固定長メモリブロックを割り付けるためのメモリ領域である．

固定長メモリプール管理領域は，固定長メモリプール領域中の割当て済みの固定長メモリブロックと未割当てのメモリ領域に関する情報を格納しておくためのメモリ領域である．

保護機能対応カーネルにおいて，固定長メモリプール管理領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域として扱われる．

固定長メモリプール属性には，次の属性を指定することができる．

TA_TPRI	0x01U	待ち行列をタスクの優先度順にする

TA_TPRIを指定しない場合，待ち行列はFIFO順になる．

固定長メモリプール機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TNUM_MPFID	登録できる固定長メモリプールの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された固定長メモリプールの数に一致）

【μITRON4.0仕様との関係】

固定長メモリプール領域として確保すべき領域のサイズを返すカーネル構成マクロ（TSZ_MPF）は廃止した．これは，固定長メモリプール領域をアプリケーションで確保する方法を定めた結果，そのサイズは(blkcnt * ROUND_MPF_T(blksz))で求めることができるようになったためである．

TNUM_MPFIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_MPF　固定長メモリプールの生成〔S〕
acre_mpf　固定長メモリプールの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_MPF(ID mpfid, { ATR mpfatr, uint_t blkcnt, uint_t blksz,
                                    MPF_T *mpf, void *mpfmb })
```

【C言語API】

```
ER_ID mpfid = acre_mpf(const T_CMPF *pk_cmpf)
```

【パラメータ】

ID	mpfid	生成する固定長メモリプールのID番号（CRE_MPFの場合）
T_CMPF *	pk_cmpf	固定長メモリプールの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊固定長メモリプールの生成情報（パケットの内容）

ATR	mpfatr	固定長メモリプール属性
uint_t	blkcnt	獲得できる固定長メモリブロックの数
uint_t	blksz	固定長メモリブロックのサイズ（バイト数）
MPF_T *	mpf	固定長メモリプール領域の先頭番地
void *	mpfmb	固定長メモリプール管理領域の先頭番地

【リターンパラメータ】

ER_ID	mpfid	生成された固定長メモリプールのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（mpfatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_NOSPT	未サポート機能（mpfmbがサポートされていない値）
E_PAR	パラメータエラー（blkcnt，blksz，mpf，mpfmbが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cmpfが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられる固定長メモリプールIDがない）
E_NOMEM	メモリ不足（固定長メモリプール領域や固定長メモリプール管理領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（mpfidで指定した固定長メモリプールが登録済み：CRE_MPFの場合，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定した固定長メモリプール生成情報に従って，固定長メモリプールを生成する．mpf，blkcnt，blkszから固定長メモリプール領域が，mpfmbとblkcntから固定長メモリプール管理領域がそれぞれ設定され，メモリプール領域全体が未割当ての状態に初期化される．また，待ち行列は空の状態に初期化される．

静的APIにおいては，mpfidはオブジェクト識別名，blkcntとblkszは整数定数式パラメータ，mpfとmpfmbは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

mpfをNULLとした場合，blkcntとblkszから決まるサイズの固定長メモリプール

領域が，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保される．

保護機能対応カーネルでは，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保される固定長メモリプール領域は，固定長メモリプールと同じ保護ドメインに属し，固定長メモリプールと同じアクセス許可ベクタを持ったメモリオブジェクト中に確保される．

mpfmbをNULLとした場合，blkcntから決まるサイズの固定長メモリプール管理領域が，コンフィギュレータまたはカーネルにより確保される．

blkcntとblkszは，0より大きい値でなければならない．

〔mpfにNULL以外を指定した場合〕

mpfにNULL以外を指定した場合，mpfを先頭番地とする固定長メモリプール領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．固定長メモリプール領域をアプリケーションで確保するために，次のデータ型とマクロを用意している．

MPF_T	固定長メモリプール領域を確保するためのデータ型
COUNT_MPF_T(blksz)	固定長メモリブロックのサイズがblkszの固定長メモリプール領域を確保するために，固定長メモリブロック1つあたりに必要なMPF_T型の配列の要素数
ROUND_MPF_T(blksz)	要素数COUNT_MPF_T(blksz)のMPF_T型の配列のサイズ（blkszを，MPF_T型のサイズの倍数になるように大きい方に丸めた値）

これらを用いて固定長メモリプール領域を確保する方法は次の通り．

```
MPF_T   <固定長メモリプール領域の変数名>[(blkcnt) * COUNT_MPF_T(blksz)];
```

この時，mpfには<固定長メモリプール領域の変数名>を指定する．

これ以外の方法で固定長メモリプール領域を確保する場合には，先頭番地がターゲット定義の制約に合致しており，上記の配列と同じサイズのメモリ領域を確保しなければならない．mpfにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地を指定した時には，E_PARエラーとなる．

保護機能対応カーネルでは，アプリケーションで確保する固定長メモリプール領域は，カーネルに登録されたメモリオブジェクトに含まれていなければならない．指定した固定長メモリプール領域が，カーネルに登録されたメモリオブジェクトに含まれていない場合，E_OBJエラーとなる．

〔mpfmbにNULL以外を指定した場合〕

mpfmbにNULL以外を指定した場合，mpfmbを先頭番地とする固定長メモリプール管理領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．固定長メモリプール管理領域をアプリケーションで確保するために，次のマクロを用意している．

TSZ_MPFMB(blkcnt)	blkcntで指定した数の固定長メモリブロックを管理

	することができる固定長メモリプール管理領域のサイズ（バイト数）
TCNT_MPFMB(blkcnt)	blkcntで指定した数の固定長メモリブロックを管理することができる固定長メモリプール管理領域を確保するために必要なMB_T型の配列の要素数

これらを用いて固定長メモリプール管理領域を確保する方法は次の通り．

```
MB_T    <固定長メモリプール管理領域の変数名>[TCNT_MPFMB(blkcnt)];
```

この時，mpfmbには<固定長メモリプール管理領域の変数名>を指定する．

この方法に従わず，mpfmbにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地を指定した時には，E_PARエラーとなる．また，保護機能対応カーネルにおいて，mpfmbで指定した固定長メモリプール管理領域がカーネル専用のメモリオブジェクトに含まれない場合，E_OBJエラーとなる．

【補足説明】

保護機能対応カーネルにおいて，固定長メモリプール領域をアプリケーションで確保する場合には，固定長メモリプール領域が属する保護ドメインとアクセス権の設定は変更されない．これらを適切に設定することは，アプリケーションの責任である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_MPFのみをサポートする．また，mpfmbにはNULLのみを指定することができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_mpfもサポートする．acre_mpfに対しては，mpfmbにNULL以外を指定できないという制限はない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_MPFのみをサポートする．また，mpfmbにはNULLのみを渡すことができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_MPFのみをサポートする．また，mpfmbにはNULLのみを渡すことができる．NULL以外を指定した場合には，E_NOSPTエラーとなる．

【μITRON4.0仕様との関係】

mpfのデータ型をMPF_T *に変更した．COUNT_MPF_TとROUND_MPF_Tを新設し，固定長メモリプール領域をアプリケーションで確保する方法を規定した．また，μITRON4.0/PX仕様にあわせて，固定長メモリプール生成情報に，mpfmb を追加した．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

TCNT_MPFMBを新設し，固定長メモリプール管理領域をアプリケーションで確保する方法を規定した．

AID_MPF　　割付け可能な固定長メモリプールIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_MPF(uint_t nompf)
```

【パラメータ】

uint_t	nompf	割付け可能な固定長メモリプールIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nompfで指定した数の固定長メモリプールIDを，固定長メモリプールを生成するサービスコールによって割付け可能な固定長メモリプールIDとして確保する．

nompfは整数定数式パラメータである．

SAC_MPF　　固定長メモリプールのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_mpf　　固定長メモリプールのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_MPF(ID mpfid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_mpf(ID mpfid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	mpfid	対象固定長メモリプールのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mpfidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_MPF

の場合）
E_NOEXS〔D〕　オブジェクト未登録（対象固定長メモリプールが未登録）
E_OACV〔sP〕　オブジェクトアクセス違反（対象固定長メモリプールに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕　メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ　オブジェクト状態エラー（対象固定長メモリプールは静的APIで生成された：sac_mpfの場合，対象固定長メモリプールに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_MPFの場合）

【機能】

mpfidで指定した固定長メモリプール（対象固定長メモリプール）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．対象固定長メモリプールの固定長メモリプール領域がコンフィギュレータまたはカーネルにより確保されたものである場合には，固定長メモリプール領域のアクセス許可ベクタも，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，mpfidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_MPFは，対象固定長メモリプールが属する保護ドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_MPF，sac_mpfをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_MPF，sac_mpfをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_MPFのみをサポートする．

---

del_mpf　固定長メモリプールの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_mpf(ID mpfid)
```

【パラメータ】

ID　mpfid　対象固定長メモリプールのID番号

【リターンパラメータ】

ER　ercd　正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX　コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出

し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID 不正ID番号（mpfidが不正）
E_NOEXS〔D〕 オブジェクト未登録（対象固定長メモリプールが未登録）
E_OACV〔P〕 オブジェクトアクセス違反（対象固定長メモリプールに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ オブジェクト状態エラー（対象固定長メモリプールは静的APIで生成された）

【機能】

mpfidで指定した固定長メモリプール（対象固定長メモリプール）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象固定長メモリプールの登録が解除され，その固定長メモリプールIDが未使用の状態に戻される．また，対象固定長メモリプールの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

del_mpfにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_mpfをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_mpfをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_mpfをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_mpfをサポートしない．

---

get_mpf 固定長メモリブロックの獲得〔T〕
pget_mpf 固定長メモリブロックの獲得（ポーリング）〔T〕
tget_mpf 固定長メモリブロックの獲得（タイムアウト付き）〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_mpf(ID mpfid, void **p_blk)
ER ercd = pget_mpf(ID mpfid, void **p_blk)
ER ercd = tget_mpf(ID mpfid, void **p_blk, TMO tmout)
```

【パラメータ】

ID mpfid 対象固定長メモリプールのID番号
void ** p_blk 獲得した固定長メモリブロックの先頭番地を入

れるメモリ領域へのポインタ
TMO tmout タイムアウト時間（twai_mpfの場合）

【リターンパラメータ】
ER ercd 正常終了（E_OK）またはエラーコード
void * blk 獲得した固定長メモリブロックの先頭番地

【エラーコード】
E_CTX コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し，ディスパッチ保留状態からの呼出し：pget_mpfを除く）
E_NOSPT 未サポート機能（制約タスクからの呼出し：pget_mpfを除く）
E_ID 不正ID番号（mpfidが不正）
E_PAR パラメータエラー（tmoutが不正：tget_mpfの場合）
E_NOEXS〔D〕 オブジェクト未登録（対象固定長メモリプールが未登録）
E_OACV〔P〕 オブジェクトアクセス違反（対象固定長メモリプールに対する通常操作2が許可されていない）
E_MACV〔P〕 メモリアクセス違反（p_blkが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_TMOUT ポーリング失敗またはタイムアウト（get_mpfを除く）
E_RLWAI 待ち禁止状態または待ち状態の強制解除（pget_mpfを除く）
E_DLT 待ちオブジェクトの削除または再初期化（pget_mpfを除く）

【機能】

mpfidで指定した固定長メモリプール（対象固定長メモリプール）から固定長メモリブロックを獲得し，その先頭番地をblkに返す．具体的な振舞いは以下の通り．

対象固定長メモリプールの固定長メモリプール領域の中に，固定長メモリブロックを割り付けることのできる未割当てのメモリ領域がある場合には，固定長メモリブロックが1つ割り付けられ，その先頭番地がblkに返される．

未割当てのメモリ領域がない場合には，自タスクは固定長メモリプールの獲得待ち状態となり，対象固定長メモリプールの待ち行列につながれる．

---

rel_mpf 固定長メモリブロックの返却〔T〕

【C言語API】
```
ER ercd = rel_mpf(ID mpfid, void *blk)
```

【パラメータ】
ID mpfid 対象固定長メモリプールのID番号
void * blk 返却する固定長メモリブロックの先頭番地

【リターンパラメータ】
ER ercd 正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mpfidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（blkが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象固定長メモリプールが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象固定長メモリプールに対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

mpfidで指定した固定長メモリプール（対象固定長メモリプール）に，blkで指定した固定長メモリブロックを返却する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象固定長メモリプールの待ち行列にタスクが存在する場合には，待ち行列の先頭のタスクが，blkで指定した固定長メモリブロックを獲得し，待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_OKが返る．

待ち行列にタスクが存在しない場合には，blkで指定した固定長メモリブロックは，対象固定長メモリプールのメモリプール領域に返却される．

blkが，対象固定長メモリプールから獲得した固定長メモリブロックの先頭番地でない場合には，E_PARエラーとなる．

---

ini_mpf　固定長メモリプールの再初期化〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ini_mpf(ID mpfid)
```

【パラメータ】

ID	mpfid	対象固定長メモリプールのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mpfidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象固定長メモリプールが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象固定長メモリプールに対する管理操作が許可されていない）

【機能】

mpfidで指定した固定長メモリプール（対象固定長メモリプール）を再初期化する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象固定長メモリプールのメモリプール領域全体が未割当ての状態に初期化される．また，対象固定長メモリプールの待ち行列につながれたタスクは，待ち行列の先頭のタスクから順に待ち解除される．待ち解除されたタスクには，待ち状態となったサービスコールからE_DLTエラーが返る．

【使用上の注意】

ini_mpfにより複数のタスクが待ち解除される場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，待ち解除されるタスクの数に比例して長くなる．特に，多くのタスクが待ち解除される場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

固定長メモリプールを再初期化した場合に，アプリケーションとの整合性を保つのは，アプリケーションの責任である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ref_mpf　　固定長メモリプールの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_mpf(ID mpfid, T_RMPF *pk_rmpf)
```

【パラメータ】

ID	mpfid	対象固定長メモリプールのID番号
T_RMPF *	pk_rmpf	固定長メモリプールの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊固定長メモリプールの現在状態（パケットの内容）

ID	wtskid	固定長メモリプールの待ち行列の先頭のタスクのID番号
uint_t	fblkcnt	固定長メモリプール領域の空きメモリ領域に割り付けることができる固定長メモリブロックの数

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（mpfidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象固定長メモリプールが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象固定長メモリプールに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rmpfが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

mpfidで指定した固定長メモリプール（対象固定長メモリプール）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rmpfで指定したパケットに返される．

対象固定長メモリプールの待ち行列にタスクが存在しない場合，wtskidにはTSK_NONE（＝0）が返る．

【使用上の注意】

ref_mpfはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_mpfを呼び出し，対象固定長メモリプールの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_mpfから戻ってきた時には対象固定長メモリプールの状態が変化している可能性があるためである．

4.6 時間管理機能

4.6.1 システム時刻管理

システム時刻は，カーネルによって管理され，タイムアウト処理，タスクの遅延，周期ハンドラの起動，アラームハンドラの起動に使用される時刻を管理するカーネルオブジェクトである．システム時刻は，符号無しの整数型であるSYSTIM型で表され，単位はミリ秒である．

システム時刻は，カーネルの初期化時に0に初期化される．タイムティックを通知するためのタイマ割込みが発生する毎にカーネルによって更新され，SYSTIM型で表せる最大値（ULONG_MAX）を超えると0に戻される．タイムティックの周期は，ターゲット定義である．また，システム時刻の精度はターゲットに依存する．

マルチプロセッサ対応でないカーネルと，マルチプロセッサ対応カーネルでグローバルタイマ方式を用いている場合には，システム時刻は，システムに1つのみ存在する．マルチプロセッサ対応カーネルでローカルタイマ方式を用いている場合には，システム時刻は，プロセッサ毎に存在する．ローカルタイマ方式とグローバルタイマ方式については，「2.3.4 マルチプロセッサ対応」の節を参照すること．

マルチプロセッサ対応カーネルでローカルタイマ方式を用いている場合には，タイムアウト処理とタスクの遅延処理には，待ち解除されるタスクが割り付けられているプロセッサのシステム時刻が用いられる．また，周期ハンドラとアラームハンドラの起動には，それが割り付けられているプロセッサのシステム時刻が用いられる．これらの処理単位がマイグレーションする場合には，用いられるシステム時刻も変更される．この場合にも，イベントの処理が行われるのは，基準時刻から相対時間によって指定した以上の時間が経過した後となるという原則は維持される．

1回のタイムティックの発生により，複数のイベントの処理を行うべき状況になった場合，それらの処理の間の処理順序は規定されない．

性能評価用システム時刻は，性能評価に使用することを目的とした，システム

時刻よりも精度の高い時刻である．性能評価用システム時刻は，符号無しの整数型であるSYSUTM型で表され，単位はマイクロ秒である．ただし，実際の精度はターゲットに依存する．

マルチプロセッサ対応カーネルにおける性能評価用システム時刻の扱いは，ターゲット定義とする．

システム時刻管理機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

```
    TIC_NUME     タイムティックの周期（単位はミリ秒）の分子
    TIC_DENO     タイムティックの周期（単位はミリ秒）の分母

    TOPPERS_SUPPORT_GET_UTM      get_utmがサポートされている
```

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，時間管理機能をサポートしない．

【使用上の注意】

タイムティックを通知するためのタイマ割込みが長時間マスクされた場合（タイマ割込みより優先して実行される割込み処理が長時間続けて実行された場合を含む）や，シミュレーション環境においてシミュレータのプロセスが長時間スケジュールされなかった場合には，システム時刻が正しく更新されない可能性があるため，注意が必要である．

【μITRON4.0仕様との関係】

システム時刻を設定するサービスコール（set_tim）を廃止した．また，タイムティックを供給する機能は，カーネル内に実現することとし，そのためのサービスコール（isig_tim）は廃止した．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

システム時刻のアクセス許可ベクタは廃止し，システム状態のアクセス許可ベクタで代替することとした．そのため，システム時刻のアクセス許可ベクタを設定する静的API（SAC_TIM）は廃止した．

---

get_tim　　システム時刻の参照〔T〕

【C言語API】

```
   ER ercd = get_tim(SYSTIM *p_systim)
```

【パラメータ】

```
   SYSTIM *    p_systim     システム時刻を入れるメモリ領域へのポインタ
```

【リターンパラメータ】

```
   ER          ercd         正常終了（E_OK）またはエラーコード
   SYSTIM      systim       システム時刻の現在値
```

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_systimが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

システム時刻の現在値を参照する．参照したシステム時刻は，p_systimで指定したメモリ領域に返される．

マルチプロセッサ対応カーネルでローカルタイマ方式を用いている場合には，自タスクが割り付けられているプロセッサのシステム時刻の現在値を参照する．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルでローカルタイマ方式を用いている場合に，他のプロセッサのシステム時刻の現在値を参照する機能は用意していない．

---

get_utm　性能評価用システム時刻の参照〔TI〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_utm(SYSUTM *p_sysutm)
```

【パラメータ】

SYSUTM *	p_sysutm	性能評価用システム時刻を入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
SYSUTM	sysutm	性能評価用システム時刻の現在値

【エラーコード】

E_NOSPT	未サポート機能（get_utmがサポートされていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_sysutmが指すメモリ領域へ書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

性能評価用システム時刻の現在値を参照する．参照した性能評価用システム時刻は，p_sysutmで指定したメモリ領域に返される．

get_utmは，任意の状態から呼び出すことができる．タスクコンテキストからも非タスクコンテキストからも呼び出すことができるし，CPUロック状態であっても呼び出すことができる．

ターゲット定義で，get_utmがサポートされていない場合がある．get_utmがサポートされている場合には，TOPPERS_SUPPORT_GET_UTMがマクロ定義される．サ

ポートされていない場合にget_utmを呼び出すと，E_NOSPTエラーが返るか，リンク時にエラーとなる．

【使用方法】

get_utmを使用してプログラムの処理時間を計測する場合には，次の手順を取る．処理時間を計測したいプログラムの実行直前と実行直後に，get_utmを用いて性能評価用システム時刻を読み出す．その差を求めることで，対象プログラムの処理時間に，get_utm自身の処理時間を加えたものが得られる．

マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，異なるプロセッサで読み出した性能評価用システム時刻の差を求めることで，処理時間が正しく計測できるとは限らない．

【使用上の注意】

get_utmは性能評価のための機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．

get_utmは，任意の状態から呼び出すことができるように，全割込みロック状態を用いて実装されている．そのため，get_utmを用いると，カーネル管理外の割込みの応答性が低下する．

システム時刻が正しく更新されない状況では，get_utmは誤った性能評価用システム時刻を返す可能性がある．システム時刻の更新が確実に行われることを保証できない場合には，get_utmが誤った性能評価用システム時刻を返す可能性を考慮に入れて使用しなければならない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

4.6.2 周期ハンドラ

周期ハンドラは，指定した周期で起動されるタイムイベントハンドラである．周期ハンドラは，周期ハンドラIDと呼ぶID番号によって識別する．

各周期ハンドラが持つ情報は次の通り．

- 周期ハンドラ属性
- 周期ハンドラの動作状態
- 次に周期ハンドラを起動する時刻
- 拡張情報
- 周期ハンドラの先頭番地
- 起動周期
- 起動位相
- アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
- 属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
- 属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

周期ハンドラの起動時刻は，後述する基準時刻から，以下の式で求められる相対時間後である．

起動位相＋起動周期×(n―1)　　n＝1,2,...

周期ハンドラの動作状態は，動作している状態と動作していない状態のいずれかをとる．周期ハンドラを動作している状態にすることを動作開始，動作していない状態にすることを動作停止という．

周期ハンドラが動作している状態の場合には，周期ハンドラを起動する時刻になると，周期ハンドラの起動処理が行われる．具体的には，拡張情報をパラメータとして，周期ハンドラが呼び出される．

保護機能対応カーネルにおいて，周期ハンドラが属することのできる保護ドメインは，カーネルドメインに限られる．

周期ハンドラ属性には，次の属性を指定することができる．

TA_STA	0x02U	周期ハンドラの生成時に周期ハンドラを動作開始する
TA_PHS	0x04U	周期ハンドラを生成した時刻を基準時刻とする

TA_STAを指定しない場合，周期ハンドラの生成直後には，周期ハンドラは動作していない状態となる．

TA_PHSを指定しない場合には，周期ハンドラを動作開始した時刻が，周期ハンドラを起動する時刻の基準時刻となる．TA_PHSを指定した場合には，周期ハンドラを生成した時刻（静的APIで生成した場合にはカーネルの起動時刻）が，基準時刻となる．

次に周期ハンドラを起動する時刻は，周期ハンドラが動作している状態でのみ有効で，必要に応じて，カーネルの起動時，周期ハンドラの動作開始時，周期ハンドラの起動処理時に設定される．

マルチプロセッサ対応カーネルでグローバルタイマ方式を用いている場合には，周期ハンドラは，システム時刻管理プロセッサのみが割付け可能プロセッサであるクラスにのみ属することができる．すなわち，周期ハンドラは，システム時刻管理プロセッサによって実行される．

C言語による周期ハンドラの記述形式は次の通り．

```
void cyclic_handler(intptr_t exinf)
{
    周期ハンドラ本体
}
```

exinfには，周期ハンドラの拡張情報が渡される．

周期ハンドラ機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TNUM_CYCID		登録できる周期ハンドラの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された周期ハンドラの数に一致）

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，TA_PHS属性の周期ハンドラをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，TA_PHS属性の周期ハンドラをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，TA_PHS属性の周期ハンドラをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

TNUM_CYCIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_CYC　周期ハンドラの生成〔S〕
acre_cyc　周期ハンドラの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_CYC(ID cycid, { ATR cycatr, intptr_t exinf, CYCHDR cychdr,
                                    RELTIM cyctim, RELTIM cycphs })
```

【C言語API】

```
ER_ID cycid = acre_cyc(const T_CCYC *pk_ccyc)
```

【パラメータ】

ID	cycid	生成する周期ハンドラのID番号（CRE_CYCの場合）
T_CCYC *	pk_ccyc	周期ハンドラの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊周期ハンドラの生成情報（パケットの内容）

ATR	cycatr	周期ハンドラ属性
intptr_t	exinf	周期ハンドラの拡張情報
CYCHDR	cychdr	周期ハンドラの先頭番地
RELTIM	cyctim	周期ハンドラの起動周期
RELTIM	cycphs	周期ハンドラの起動位相

【リターンパラメータ】

ER_ID	cycid	生成された周期ハンドラのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（cycatrが不正または使用できない，属する保

		護ドメインかクラスが不正）
	E_PAR	パラメータエラー（cychdr，cyctim，cycphsが不正）
	E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
	E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_ccycが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
	E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられる周期ハンドラIDがない）
	E_OBJ	オブジェクト状態エラー（cycidで指定した周期ハンドラが登録済み：CRE_CYCの場合）

【機能】

各パラメータで指定した周期ハンドラ生成情報に従って，周期ハンドラを生成する．具体的な振舞いは以下の通り．

cycatrにTA_STAを指定した場合，対象周期ハンドラは動作している状態となる．次に周期ハンドラを起動する時刻は，サービスコールを呼び出した時刻（静的APIの場合はカーネルの起動時刻）から，cycphsで指定した相対時間後に設定される．

cycatrにTA_STAを指定しない場合，対象周期ハンドラは動作していない状態に初期化される．

静的APIにおいては，cycidはオブジェクト識別名，cycatr，cyctim，cycphsは整数定数式パラメータ，exinfとcychdrは一般定数式パラメータである．

保護機能対応カーネルにおいて，CRE_CYCは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，acre_cycで，生成する周期ハンドラが属する保護ドメインとしてカーネルドメイン以外を指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

cyctimは，0より大きく，TMAX_RELTIM以下の値でなければならない．また，cycphsは，TMAX_RELTIM以下でなければならない．cycphsにcyctimより大きい値を指定してもよい．

マルチプロセッサ対応カーネルでグローバルタイマ方式を用いている場合で，生成する周期ハンドラの属するクラスの割付け可能プロセッサが，システム時刻管理プロセッサのみでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【補足説明】

静的APIにおいて，cycatrにTA_STAを，cycphsに0を指定した場合，周期ハンドラが最初に呼び出されるのは，カーネル起動後最初のタイムティックになる．cycphsに1を指定した場合も同じ振舞いとなるため，静的APIでcycatrにTA_STAが指定されている場合には，cycphsに0を指定することは推奨されず，コンフィギュレータが警告メッセージを出力する．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_CYCのみをサポートする．ただし，TA_PHS属性の周期ハ

ンドラはサポートしない．動的生成機能拡張パッケージでは，acre_cycもサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_CYCのみをサポートする．ただし，TA_PHS属性の周期ハンドラはサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_CYCのみをサポートする．ただし，TA_PHS属性の周期ハンドラはサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

cychdrのデータ型をCYCHDRに変更した．また，cycphsにcyctimより大きい値を指定した場合の振舞いと，静的APIでcycphsに0を指定した場合の振舞いを規定した．

AID_CYC　　割付け可能な周期ハンドラIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_CYC(uint_t nocyc)
```

【パラメータ】

uint_t	nocyc	割付け可能な周期ハンドラIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

nocycで指定した数の周期ハンドラIDを，周期ハンドラを生成するサービスコールによって割付け可能な周期ハンドラIDとして確保する．

nocycは整数定数式パラメータである．

SAC_CYC　　周期ハンドラのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_cyc　　周期ハンドラのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_CYC(ID cycid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_cyc(ID cycid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	cycid	対象周期ハンドラのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポ

インタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（cycidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_CYCの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象周期ハンドラが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象周期ハンドラに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象周期ハンドラは静的APIで生成された：sac_cycの場合，対象周期ハンドラに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_CYCの場合）

【機能】

cycidで指定した周期ハンドラ（対象周期ハンドラ）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，cycidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_CYCは，対象周期ハンドラが属する保護ドメイン（この仕様ではカーネルドメインに限られる）の囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_CYC，sac_cycをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_CYC，sac_cycをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_CYCのみをサポートする．

---

del_cyc　　周期ハンドラの削除〔TD〕

【C言語API】
　ER ercd = del_cyc(ID cycid)

【パラメータ】

ID	cycid	対象周期ハンドラのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（cycidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象周期ハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象周期ハンドラに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象周期ハンドラは静的APIで生成された）

【機能】

cycidで指定した周期ハンドラ（対象周期ハンドラ）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象周期ハンドラの登録が解除され，その周期ハンドラIDが未使用の状態に戻される．対象周期ハンドラが動作している状態であった場合には，動作していない状態にされた後に，登録が解除される．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_cycをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_cycをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_cycをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_cycをサポートしない．

---

sta_cyc　　周期ハンドラの動作開始〔T〕

【C言語API】
　ER ercd = sta_cyc(ID cycid)

【パラメータ】

ID	cycid	対象周期ハンドラのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（cycidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象周期ハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象周期ハンドラに対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

cycidで指定した周期ハンドラ（対象周期ハンドラ）を動作開始する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象周期ハンドラが動作していない状態であれば，対象周期ハンドラは動作している状態となる．次に周期ハンドラを起動する時刻は，sta_cycを呼び出して以降の最初の起動時刻に設定される．

対象周期ハンドラが動作している状態であれば，次に周期ハンドラを起動する時刻の再設定のみが行われる．

【補足説明】

TA_PHS属性でない周期ハンドラの場合，次に周期ハンドラを起動する時刻は，sta_cycを呼び出してから，対象周期ハンドラの起動位相で指定した相対時間後に設定される．

対象周期ハンドラがTA_PHS属性で，動作している状態であれば，次に周期ハンドラを起動する時刻は変化しない．

【μITRON4.0仕様との関係】

TA_PHS属性でない周期ハンドラにおいて，sta_cycを呼び出した後，最初に周期ハンドラが起動される時刻を変更した．μITRON4.0仕様では，sta_cycを呼び出してから周期ハンドラの起動周期で指定した相対時間後となっているが，この仕様では，起動位相で指定した相対時間後とした．

---

msta_cyc　割付けプロセッサ指定での周期ハンドラの動作開始〔TM〕

【C言語API】

```
ER ercd = msta_cyc(ID cycid, ID prcid)
```

【パラメータ】

ID	cycid	対象周期ハンドラのID番号
ID	prcid	周期ハンドラの割付け対象のプロセッサのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（グローバルタイマ方式を用いている場合）
E_ID	不正ID番号（cycid，prcidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（対象周期ハンドラはprcidで指定したプロセッサに割り付けられない）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象周期ハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象周期ハンドラに対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

prcidで指定したプロセッサを割付けプロセッサとして，cycidで指定した周期ハンドラ（対象周期ハンドラ）を動作開始する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象周期ハンドラが動作していない状態であれば，対象周期ハンドラの割付けプロセッサがprcidで指定したプロセッサに変更された後，対象周期ハンドラは動作している状態となる．次に周期ハンドラを起動する時刻は，msta_cycを呼び出して以降の最初の起動時刻に設定される．

対象周期ハンドラが動作している状態であれば，対象周期ハンドラの割付けプロセッサがprcidで指定したプロセッサに変更された後，次に周期ハンドラを起動する時刻の再設定が行われる．

対象周期ハンドラが実行中である場合には，割付けプロセッサを変更しても，実行中の周期ハンドラを実行するプロセッサは変更されない．対象周期ハンドラが変更後の割付けプロセッサで実行されるのは，次に起動される時からである．

対象周期ハンドラの属するクラスの割付け可能プロセッサが，prcidで指定したプロセッサを含んでいない場合には，E_PARエラーとなる．

prcidにTPRC_INI（＝0）を指定すると，対象周期ハンドラの割付けプロセッサを，それが属するクラスの初期割付けプロセッサとする．

グローバルタイマ方式を用いている場合，msta_cycはE_NOSPTを返す．

【補足説明】

TA_PHS属性でない周期ハンドラの場合，次に周期ハンドラを起動する時刻は，msta_cycを呼び出してから，対象周期ハンドラの起動位相で指定した相対時間後に設定される．

【使用上の注意】

msta_cycで実行中の周期ハンドラの割付けプロセッサを変更した場合，同じ周

期ハンドラが異なるプロセッサで同時に実行される可能性がある．特に，対象周期ハンドラの起動位相が0の場合に，注意が必要である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

stp_cyc　　周期ハンドラの動作停止〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = stp_cyc(ID cycid)
```

【パラメータ】

ID	cycid	対象周期ハンドラのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（cycidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象周期ハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象周期ハンドラに対する通常操作2が許可されていない）

【機能】

cycidで指定した周期ハンドラ（対象周期ハンドラ）を動作停止する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象周期ハンドラが動作している状態であれば，動作していない状態になる．
対象周期ハンドラが動作していない状態であれば，何も行われずに正常終了する．

---

ref_cyc　　周期ハンドラの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_cyc(ID cycid, T_RCYC *pk_rcyc)
```

【パラメータ】

ID	cycid	対象周期ハンドラのID番号
T_RCYC *	pk_rcyc	周期ハンドラの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊周期ハンドラの現在状態（パケットの内容）

STAT	cycstat	周期ハンドラの動作状態

RELTIM	lefttim	次に周期ハンドラを起動する時刻までの相対時間
ID	prcid	周期ハンドラの割付けプロセッサのID（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（cycidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象周期ハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象周期ハンドラに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_rcycが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

cycidで指定した周期ハンドラ（対象周期ハンドラ）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rcycで指定したパケットに返される．

cycstatには，対象周期ハンドラの現在の動作状態を表す次のいずれかの値が返される．

TCYC_STP	0x01U	周期ハンドラが動作していない状態
TCYC_STA	0x02U	周期ハンドラが動作している状態

対象周期ハンドラが動作している状態である場合には，lefttimに，次に周期ハンドラ起動する時刻までの相対時間が返される．対象周期ハンドラが動作していない状態である場合には，lefttimの値は保証されない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，prcidに，対象周期ハンドラの割付けプロセッサのID番号が返される．

【使用上の注意】

ref_cycはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_cycを呼び出し，対象周期ハンドラの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_cycから戻ってきた時には対象周期ハンドラの状態が変化している可能性があるためである．

【μITRON4.0仕様との関係】

TCYC_STPとTCYC_STAを値を変更した．

4.6.3 アラームハンドラ

アラームハンドラは，指定した相対時間後に起動されるタイムイベントハンドラである．アラームハンドラは，アラームハンドラIDと呼ぶID番号によって識別する．

各アラームハンドラが持つ情報は次の通り．

・アラームハンドラ属性
・アラームハンドラの動作状態
・アラームハンドラを起動する時刻
・拡張情報
・アラームハンドラの先頭番地
・アクセス許可ベクタ（保護機能対応カーネルの場合）
・属する保護ドメイン（保護機能対応カーネルの場合）
・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

アラームハンドラの動作状態は，動作している状態と動作していない状態のいずれかをとる．アラームハンドラを動作している状態にすることを動作開始，動作していない状態にすることを動作停止という．

アラームハンドラを起動する時刻は，アラームハンドラを動作開始する時に設定される．

アラームハンドラが動作している状態の場合には，アラームハンドラを起動する時刻になると，アラームハンドラの起動処理が行われる．具体的には，まず，アラームハンドラが動作していない状態にされる．その後に，拡張情報をパラメータとして，アラームハンドラが呼び出される．

保護機能対応カーネルにおいて，アラームハンドラが属することのできる保護ドメインは，カーネルドメインに限られる．

マルチプロセッサ対応カーネルでグローバルタイマ方式を用いている場合には，アラームハンドラは，割付け可能プロセッサがシステム時刻管理プロセッサのみであるクラスにのみ属することができる．すなわち，アラームハンドラは，システム時刻管理プロセッサによって実行される．

C言語によるアラームハンドラの記述形式は次の通り．

```
void alarm_handler(intptr_t exinf)
{
    アラームハンドラ本体
}
```

exinfには，アラームハンドラの拡張情報が渡される．

アラームハンドラ機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TNUM_ALMID	登録できるアラームハンドラの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたアラームハンドラの数に一致）

【μITRON4.0仕様との関係】

TNUM_ALMIDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

CRE_ALM　　アラームハンドラの生成〔S〕
acre_alm　　アラームハンドラの生成〔TD〕

【静的API】
```
CRE_ALM(ID almid, { ATR almatr, intptr_t exinf, ALMHDR almhdr })
```

【C言語API】
```
ER_ID almid = acre_alm(const T_CALM *pk_calm)
```

【パラメータ】

ID	almid	生成するアラームハンドラのID番号（CRE_ALMの場合）
T_CALM *	pk_calm	アラームハンドラの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アラームハンドラの生成情報（パケットの内容）

ATR	almatr	アラームハンドラ属性
intptr_t	exinf	アラームハンドラの拡張情報
ALMHDR	almhdr	アラームハンドラの先頭番地

【リターンパラメータ】

ER_ID	almid	生成されたアラームハンドラのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（almatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（almhdrが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_calmが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられるアラームハンドラIDがない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（almidで指定したアラームハンドラが登録済み：CRE_ALMの場合）

【機能】

各パラメータで指定したアラームハンドラ生成情報に従って，アラームハンドラを生成する．対象アラームハンドラは，動作していない状態に初期化される．

静的APIにおいては，almidはオブジェクト識別名，almatrは整数定数式パラメータ，exinfとalmhdrは一般定数式パラメータである．

保護機能対応カーネルにおいて，CRE_ALMは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，acre_almで，生成するアラームハンドラが属する保護ドメインとしてカーネルドメイン以外を指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでグローバルタイマ方式を用いている場合で，生成するアラームハンドラの属するクラスの割付け可能プロセッサが，システム時刻管理プロセッサのみでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CRE_ALMのみをサポートする．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_almもサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CRE_ALMのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CRE_ALMのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

almhdrのデータ型をALMHDRに変更した．

AID_ALM　　割付け可能なアラームハンドラIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_ALM(uint_t noalm)
```

【パラメータ】

uint_t	noalm	割付け可能なアラームハンドラIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

noalmで指定した数のアラームハンドラIDを，アラームハンドラを生成するサービスコールによって割付け可能なアラームハンドラIDとして確保する．

noalmは整数定数式パラメータである．

SAC_ALM　　アラームハンドラのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_alm　　アラームハンドラのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_ALM(ID almid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_alm(ID almid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	almid	対象アラームハンドラのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（almidが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_ALMの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象アラームハンドラが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象アラームハンドラに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象アラームハンドラは静的APIで生成された：sac_almの場合，対象アラームハンドラに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_ALMの場合）

【機能】

almidで指定したアラームハンドラ（対象アラームハンドラ）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，almidはオブジェクト識別名，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_ALMは，対象アラームハンドラが属する保護ドメイン（この仕様ではカーネルドメインに限られる）の囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_ALM，sac_almをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_ALM，sac_almをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_ALMのみをサポートする．

---

del_alm　　アラームハンドラの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_alm(ID almid)
```

【パラメータ】

ID	almid	対象アラームハンドラのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（almidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象アラームハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象アラームハンドラに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象アラームハンドラは静的APIで生成された）

【機能】

almidで指定したアラームハンドラ（対象アラームハンドラ）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象アラームハンドラの登録が解除され，そのアラームハンドラIDが未使用の状態に戻される．対象アラームハンドラが動作している状態であった場合には，登録解除の前に，アラームハンドラが動作していない状態となる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_almをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_almをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_almをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_almをサポートしない．

---

sta_alm　　アラームハンドラの動作開始〔T〕
ista_alm　　アラームハンドラの動作開始〔I〕

【C言語API】
```
ER ercd = sta_alm(ID almid, RELTIM almtim)
ER ercd = ista_alm(ID almid, RELTIM almtim)
```

【パラメータ】

ID	almid	対象アラームハンドラのID番号
RELTIM	almtim	アラームハンドラの起動時刻（相対時間）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：sta_almの場合，タスクコンテキストからの呼出し：ista_almの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（almidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（almtimが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象アラームハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象アラームハンドラに対する通常操作1が許可されていない：sta_almの場合）

【機能】

almidで指定したアラームハンドラ（対象アラームハンドラ）を動作開始する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象アラームハンドラが動作していない状態であれば，対象アラームハンドラは動作している状態となる．アラームハンドラを起動する時刻は，sta_almを呼び出してから，almtimで指定した相対時間後に設定される．

対象アラームハンドラが動作している状態であれば，アラームハンドラを起動する時刻の再設定のみが行われる．

almtimは，TMAX_RELTIM以下でなければならない．

---

msta_alm	割付けプロセッサ指定でのアラームハンドラの動作開始〔TM〕
imsta_alm	割付けプロセッサ指定でのアラームハンドラの動作開始〔IM〕

【C言語API】
```
ER ercd = msta_alm(ID almid, RELTIM almtim, ID prcid)
ER ercd = imsta_alm(ID almid, RELTIM almtim, ID prcid)
```

【パラメータ】

ID	almid	対象アラームハンドラのID番号
RELTIM	almtim	アラームハンドラの起動時刻（相対時間）
ID	prcid	アラームハンドラの割付け対象のプロセッサのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：msta_almの場合，タスクコンテキストからの呼出し：imsta_almの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（グローバルタイマ方式を用いている場合）
E_ID	不正ID番号（almid，prcidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（almtimが不正，対象アラームハンドラはprcidで指定したプロセッサに割り付けられない）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象アラームハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象アラームハンドラに対する通常操作1が許可されていない：msta_almの場合）

【機能】

prcidで指定したプロセッサを割付けプロセッサとして，almidで指定したアラームハンドラ（対象アラームハンドラ）を動作開始する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象アラームハンドラが動作していない状態であれば，対象アラームハンドラの割付けプロセッサがprcidで指定したプロセッサに変更された後，対象アラームハンドラは動作している状態となる．アラームハンドラを起動する時刻は，msta_almを呼び出してから，almtimで指定した相対時間後に設定される．

対象アラームハンドラが動作している状態であれば，対象アラームハンドラの割付けプロセッサがprcidで指定したプロセッサに変更された後，アラームハンドラを起動する時刻の再設定が行われる．

対象アラームハンドラが実行中である場合には，割付けプロセッサを変更しても，実行中のアラームハンドラを実行するプロセッサは変更されない．対象アラームハンドラが変更後の割付けプロセッサで実行されるのは，次に起動される時からである．

対象アラームハンドラの属するクラスの割付け可能プロセッサが，prcidで指定したプロセッサを含んでいない場合には，E_PARエラーとなる．

prcidにTPRC_INI（＝0）を指定すると，対象アラームハンドラの割付けプロセッサを，それが属するクラスの初期割付けプロセッサとする．

almtimは，TMAX_RELTIM以下でなければならない．

グローバルタイマ方式を用いている場合，msta_alm／imsta_almはE_NOSPTを返す．

【使用上の注意】

msta_alm／imsta_almで実行中のアラームハンドラの割付けプロセッサを変更した場合，同じアラームハンドラが異なるプロセッサで同時に実行される可能性

がある．特に，almtimに0を指定する場合に，注意が必要である．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

stp_alm　　アラームハンドラの動作停止〔T〕
istp_alm　　アラームハンドラの動作停止〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = stp_alm(ID almid)
ER ercd = istp_alm(ID almid)
```

【パラメータ】

ID	almid	対象アラームハンドラのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：stp_almの場合，タスクコンテキストからの呼出し：istp_almの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（almidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象アラームハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象アラームハンドラに対する通常操作2が許可されていない：stp_almの場合）

【機能】

almidで指定したアラームハンドラ（対象アラームハンドラ）を動作停止する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象アラームハンドラが動作している状態であれば，動作していない状態となる．対象アラームハンドラが動作していない状態であれば，何も行われずに正常終了する．

---

ref_alm　　アラームハンドラの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_alm(ID almid, T_RALM *pk_ralm)
```

【パラメータ】

ID	almid	対象アラームハンドラのID番号
T_RALM *	pk_ralm	アラームハンドラの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊アラームハンドラの現在状態（パケットの内容）

STAT	almstat	アラームハンドラの動作状態
RELTIM	lefttim	アラームハンドラを起動する時刻までの相対時間
ID	prcid	アラームハンドラの割付けプロセッサのID（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（almidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象アラームハンドラが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象アラームハンドラに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（pk_ralmが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

almidで指定したアラームハンドラ（対象アラームハンドラ）の現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_ralmで指定したパケットに返される．

almstatには，対象アラームハンドラの現在の動作状態を表す次のいずれかの値が返される．

TALM_STP	0x01U	アラームハンドラが動作していない状態
TALM_STA	0x02U	アラームハンドラが動作している状態

対象アラームハンドラが動作している状態である場合には，lefttimに，アラームハンドラ起動する時刻までの相対時間が返される．対象アラームハンドラが動作していない状態である場合には，lefttimの値は保証されない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，prcidに，対象アラームハンドラの割付けプロセッサのID番号が返される．

【使用上の注意】

ref_almはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_almを呼び出し，対象アラームハンドラの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_almから戻ってきた時には対象アラームハンドラの状態が変化している可能性があるためである．

【μITRON4.0仕様との関係】

TALM_STPとTALM_STAを値を変更した．

4.6.4 オーバランハンドラ

オーバランハンドラは，タスクが使用したプロセッサ時間が，指定した時間を超えた場合に起動されるタイムイベントハンドラである．オーバランハンドラ

は，システムで1つのみ登録することができる．

オーバランハンドラ機能に関連して，各タスクが持つ情報は次の通り．

・オーバランハンドラの動作状態
・残りプロセッサ時間

オーバランハンドラの動作状態は，タスク毎に，動作している状態と動作していない状態のいずれかをとる．残りプロセッサ時間は，オーバランハンドラが動作している状態の時に，タスクが使用できる残りのプロセッサ時間を表す．

オーバランハンドラの動作状態は，タスクの起動時に，動作していない状態に初期化される．

残りプロセッサ時間は，オーバランハンドラが動作している状態でタスクが実行している間，タスクが使用したプロセッサ時間の分だけ減少する．残りプロセッサ時間が0になると（これをオーバランと呼ぶ），オーバランハンドラが起動される．

タスクが使用したプロセッサ時間には，そのタスク自身とタスク例外処理ルーチン，それらから呼び出したサービルコール（拡張サービスコールを含む）の実行時間を含む．一方，タスクの実行中に起動されたカーネル管理の割込みハンドラ（割込みサービスルーチン，周期ハンドラ，アラームハンドラ，オーバランハンドラの実行時間を含む）とカーネル管理のCPU例外ハンドラの実行時間は含まないが，割込みハンドラおよびCPU例外ハンドラの呼出し／復帰にかかる時間と，それらの入口処理と出口処理の一部の実行時間は含んでしまう．また，タスクの実行中に起動されたカーネル管理外の割込みハンドラとカーネル管理外のCPU例外ハンドラの実行時間も含む．

プロセッサ時間は，符号無しの整数型であるOVRTIM型で表し，単位はマイクロ秒とする．ただし，プロセッサ時間には，OVRTIM型に格納できる任意の値を指定できるとは限らず，指定できる値にターゲット定義の上限がある場合がある．プロセッサ時間に指定できる最大値は，構成マクロTMAX_OVRTIMに定義されている．また，タスクが使用したプロセッサ時間の計測精度はターゲットに依存する．

保護機能対応カーネルにおいて，オーバランハンドラは，カーネルドメインに属する．

ターゲット定義で，オーバランハンドラ機能がサポートされていない場合がある．オーバランハンドラ機能がサポートされている場合には，TOPPERS_SUPPORT_OVRHDRがマクロ定義される．サポートされていない場合にオーバランハンドラ機能のサービスコールを呼び出すと，E_NOSPTエラーが返るか，リンク時にエラーとなる．

オーバランハンドラ機能に用いるデータ型は次の通り．

OVRTIM	プロセッサ時間（符号無し整数，単位はマイクロ秒，ulong_tに定義）

オーバランハンドラ属性に指定できる属性はない．そのためオーバランハンドラ属性には，TA_NULLを指定しなければならない．

C言語によるオーバランハンドラの記述形式は次の通り．

```
void overrun_handler(ID tskid, intptr_t exinf)
{
    オーバランハンドラ本体
}
```

tskidにはオーバランを起こしたタスクのID番号が，exinfにはそのタスクの拡張情報が，それぞれ渡される．

オーバランハンドラ機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMAX_OVRTIM	プロセッサ時間に指定できる最大値
TOPPERS_SUPPORT_OVRHDR	オーバランハンドラ機能がサポートされている

【使用上の注意】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，オーバランハンドラが異なるプロセッサで同時に実行される可能性があるので，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，オーバランハンドラをサポートしない．ただし，オーバランハンドラ機能拡張パッケージを用いると，オーバランハンドラ機能を追加することができる．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，オーバランハンドラをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，オーバランハンドラをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

OVRTIMの時間単位は，μITRON4.0仕様では実装定義としていたが，この仕様ではマイクロ秒と規定した．

TMAX_OVRTIMは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである．

DEF_OVR	オーバランハンドラの定義〔S〕
def_ovr	オーバランハンドラの定義〔TD〕

【静的API】

```
11651       DEF_OVR({ ATR ovratr, OVRHDR ovrhdr })
11652
11653   【C言語API】
11654       ER ercd = def_ovr(const T_DOVR *pk_dovr)
11655
11656   【パラメータ】
11657       T_DOVR *    pk_dovr     オーバランハンドラの定義情報を入れたパケッ
11658                               トへのポインタ（静的APIを除く）
11659
11660     *オーバランハンドラの定義情報（パケットの内容）
11661       ATR         ovratr      オーバランハンドラ属性
11662       OVRHDR      ovrhdr      オーバランハンドラの先頭番地
11663
11664   【リターンパラメータ】
11665       ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
11666
11667   【エラーコード】
11668       E_CTX〔s〕       コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
11669                       し，CPUロック状態からの呼出し）
11670       E_RSATR         予約属性（ovratrが不正または使用できない，属する保
11671                       護ドメインかクラスが不正）
11672       E_OACV〔sP〕     オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理
11673                       操作が許可されていない）
11674       E_MACV〔sP〕     メモリアクセス違反（pk_dovrが指すメモリ領域への読出
11675                       しアクセスが許可されていない）
11676       E_PAR           パラメータエラー（ovrhdrが不正）
11677       E_OBJ           オブジェクト状態エラー（条件については機能の項を参
11678                       照すること）
11679
11680   【機能】
11681
11682   各パラメータで指定したオーバランハンドラ定義情報に従って，オーバランハ
11683   ンドラを定義する．ただし，def_ovrにおいてpk_dovrをNULLにした場合には，
11684   オーバランハンドラの定義を解除する．
11685
11686   静的APIにおいては，ovratrは整数定数式パラメータ，ovrhdrは一般定数式パラ
11687   メータである．
11688
11689   オーバランハンドラを定義する場合（DEF_OVRの場合およびdef_ovrにおいて
11690   pk_dovrをNULL以外にした場合）で，すでにオーバランハンドラが定義されてい
11691   る場合には，E_OBJエラーとなる．
11692
11693   保護機能対応カーネルにおいて，DEF_OVRは，カーネルドメインの囲みの中に記
11694   述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，
11695   def_ovrでオーバランハンドラを定義する場合には，オーバランハンドラの属す
11696   る保護ドメインを設定する必要はなく，オーバランハンドラ属性に
11697   TA_DOM(domid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，
11698   TA_DOM(TDOM_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検
11699   出されない．
11700
```

マルチプロセッサ対応カーネルでは，DEF_OVRは，クラスの囲みの外に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，def_ovrでオーバランハンドラを定義する場合には，オーバランハンドラの属するクラスを設定する必要はなく，オーバランハンドラ属性にTA_CLS(clsid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_CLS(TCLS_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

オーバランハンドラの定義を解除する場合（def_ovrにおいてpk_dovrをNULLにした場合）で，オーバランハンドラが定義されていない場合には，E_OBJエラーとなる．

オーバランハンドラの定義を解除すると，オーバランハンドラの動作状態は，すべてのタスクに対して動作していない状態となる．

【使用上の注意】

def_ovrによりオーバランハンドラの定義を解除する場合，サービスコールの処理時間およびカーネル内での割込み禁止時間が，タスクの総数に比例して長くなる．特に，タスクの総数が多い場合，カーネル内での割込み禁止時間が長くなるため，注意が必要である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルのオーバランハンドラ機能拡張パッケージでは，DEF_OVRのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，DEF_OVRのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

ovrhdrのデータ型をOVRHDRに変更した．

def_ovrによって定義済みのオーバランハンドラを再定義しようとした場合に，E_OBJエラーとすることにした．オーバランハンドラの定義を変更するには，一度定義を解除してから，再度定義する必要がある．

---

sta_ovr　　オーバランハンドラの動作開始〔T〕
ista_ovr　　オーバランハンドラの動作開始〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = sta_ovr(ID tskid, OVRTIM ovrtim)
ER ercd = ista_ovr(ID tskid, OVRTIM ovrtim)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
OVRTIM	ovrtim	対象タスクの残りプロセッサ時間

【リターンパラメータ】

```
11751       ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
11752
11753    【エラーコード】
11754       E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
11755                       し：sta_ovrの場合，タスクコンテキストからの呼出し：
11756                       ista_ovrの場合，CPUロック状態からの呼出し）
11757       E_ID            不正ID番号（tskidが不正）
11758       E_NOEXS〔D〕     オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
11759       E_OACV〔P〕      オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操
11760                       作2が許可されていない：sta_ovrの場合）
11761       E_PAR           パラメータエラー（ovrtimが不正）
11762       E_OBJ           オブジェクト状態エラー（オーバランハンドラが定義さ
11763                       れていない）
11764
11765    【機能】
11766
11767    tskidで指定したタスク（対象タスク）に対して，オーバランハンドラの動作を
11768    開始する．具体的な振舞いは以下の通り．
11769
11770    対象タスクに対するオーバランハンドラの動作状態は，動作している状態とな
11771    り，残りプロセッサ時間は，ovrtimに指定した時間に設定される．対象タスク
11772    に対してオーバランハンドラが動作している状態であれば，残りプロセッサ時
11773    間の設定のみが行われる．
11774
11775    sta_ovrにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスク
11776    となる．
11777
11778    ovrtimは，0より大きく，TMAX_OVRTIM以下の値でなければならない．
11779
11780    【μITRON4.0仕様との関係】
11781
11782    ista_ovrは，μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．
11783    ------------------------------------------------------------------------
11784    stp_ovr     オーバランハンドラの動作停止〔T〕
11785    istp_ovr    オーバランハンドラの動作停止〔I〕
11786
11787    【C言語API】
11788       ER ercd = stp_ovr(ID tskid)
11789       ER ercd = istp_ovr(ID tskid)
11790
11791    【パラメータ】
11792       ID          tskid       対象タスクのID番号
11793
11794    【リターンパラメータ】
11795       ER          ercd        正常終了（E_OK）またはエラーコード
11796
11797    【エラーコード】
11798       E_CTX           コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出
11799                       し：stp_ovrの場合，タスクコンテキストからの呼出し：
11800                       istp_ovrの場合，CPUロック状態からの呼出し）
```

E_ID		不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕		オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕		オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する通常操作2が許可されていない：stp_ovrの場合）
E_OBJ		オブジェクト状態エラー（オーバランハンドラが定義されていない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対して，オーバランハンドラの動作を停止する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象タスクに対するオーバランハンドラの動作状態は，動作していない状態となる．対象タスクに対してオーバランハンドラが動作していない状態であれば，何も行われずに正常終了する．

stp_ovrにおいてtskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【μITRON4.0仕様との関係】

istp_ovrは，μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ref_ovr　　オーバランハンドラの状態参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_ovr(ID tskid, T_ROVR *pk_rovr)
```

【パラメータ】

ID	tskid	対象タスクのID番号
T_ROVR *	pk_rovr	オーバランハンドラの現在状態を入れるパケットへのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

＊タスクの現在状態（パケットの内容）

STAT	ovrstat	オーバランハンドラの動作状態
OVRTIM	leftotm	残りプロセッサ時間

【エラーコード】

E_CTX		コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID		不正ID番号（tskidが不正）
E_NOEXS〔D〕		オブジェクト未登録（対象タスクが未登録）
E_OACV〔P〕		オブジェクトアクセス違反（対象タスクに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕		メモリアクセス違反（pk_rovrが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）
E_OBJ		オブジェクト状態エラー（オーバランハンドラが定義さ

れていない）

【機能】

tskidで指定したタスク（対象タスク）に対するオーバランハンドラの現在状態を参照する．参照した現在状態は，pk_rovrで指定したメモリ領域に返される．

ovrstatには，対象タスクに対するオーバランハンドラの動作状態を表す次のいずれかの値が返される．

TOVR_STP	0x01U	オーバランハンドラが動作していない状態
TOVR_STA	0x02U	オーバランハンドラが動作している状態

対象タスクに対してオーバランハンドラが動作している状態の場合には，leftotmに，オーバランハンドラが起動されるまでの残りプロセッサ時間が返される．オーバランハンドラが起動される直前には，leftotmに0が返される可能性がある．オーバランハンドラが動作していない状態の場合には，leftotmの値は保証されない．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクが対象タスクとなる．

【使用上の注意】

ref_ovrはデバッグ時向けの機能であり，その他の目的に使用することは推奨しない．これは，ref_ovrを呼び出し，対象オーバランハンドラの現在状態を参照した直後に割込みが発生した場合，ref_ovrから戻ってきた時には対象オーバランハンドラの状態が変化している可能性があるためである．

【未決定事項】

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，対象タスクが，自タスクが割付けられたプロセッサと異なるプロセッサに割り付けられている場合に，leftotmを参照できるとするかどうかは，今後の課題である．

【μITRON4.0仕様との関係】

TOVR_STPとTOVR_STAを値を変更した．

4.7 システム状態管理機能

システム状態管理機能は，特定のオブジェクトに関連しないシステムの状態を変更／参照するための機能である．

SAC_SYS	システム状態のアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_sys	システム状態のアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_SYS({ ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_sys(const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_SYSの場合）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（カーネルドメイン以外からの呼出し）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（システム状態のアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_SYSの場合）

【機能】

システム状態のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_SYSは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_SYS，sac_sysをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_SYS，sac_sysをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_SYSのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，SAC_SYS，sac_sysをサポートしない．

---

rot_rdq	タスクの優先順位の回転〔T〕
irot_rdq	タスクの優先順位の回転〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = rot_rdq(PRI tskpri)
ER ercd = irot_rdq(PRI tskpri)
```

【パラメータ】

PRI	tskpri	回転対象の優先度（対象優先度）

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：rot_rdqの場合，タスクコンテキストからの呼出し：irot_rdqの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象優先度の最も優先順位が高いタスクが制約タスク）
E_PAR	パラメータエラー（tskpriが不正）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

tskpriで指定した優先度（対象優先度）を持つ実行できる状態のタスクの中で，最も優先順位が高いタスクを，同じ優先度のタスクの中で最も優先順位が低い状態にする．対象優先度を持つ実行できる状態のタスクが無いか1つのみの場合には，何も行われずに正常終了する．

rot_rdqにおいて，tskpriにTPRI_SELF（＝0）を指定すると，自タスクのベース優先度が対象優先度となる．

対象優先度を持つ実行できる状態のタスクの中で，最も優先順位が高いタスクが制約タスクの場合には，E_NOSPTエラーとなる．

tskpriは，TPRI_SELFであるか（rot_rdqの場合のみ），TMIN_TPRI以上，TMAX_TPRI以下でなければならない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，rot_rdq，irot_rdqをサポートしない．

---

mrot_rdq	プロセッサ指定でのタスクの優先順位の回転〔TM〕
imrot_rdq	プロセッサ指定でのタスクの優先順位の回転〔IM〕

【C言語API】

```
ER ercd = mrot_rdq(PRI tskpri, ID prcid)
ER ercd = imrot_rdq(PRI tskpri, ID prcid)
```

【パラメータ】

PRI	tskpri	回転対象の優先度（対象優先度）
ID	prcid	優先順位の回転対象とするプロセッサのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：mrot_rdqの場合，タスクコンテキストからの呼出し：imrot_rdqの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_NOSPT	未サポート機能（対象優先度の最も優先順位が高いタスクが制約タスク）
E_ID	不正ID番号（prcidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（tskpriが不正）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

prcidで指定したプロセッサに割り付けられており，tskpriで指定した優先度（対象優先度）を持つ実行できる状態のタスクの中で，最も優先順位が高いタスクを，同じ優先度のタスクの中で最も優先順位が低い状態にする．対象優先度を持つ実行できる状態のタスクが無いか1つのみの場合には，何も行われずに正常終了する．

mrot_rdqにおいて，tskpriにTPRI_SELF（＝0）を指定すると，自タスクのベース優先度が対象優先度となる．

prcidで指定したプロセッサに割り付けられており，対象優先度を持つ実行できる状態のタスクの中で，最も優先順位が高いタスクが制約タスクの場合には，E_NOSPTエラーとなる．

tskpriは，TPRI_SELFであるか（mrot_rdqの場合のみ），TMIN_TPRI以上，TMAX_TPRI以下でなければならない．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，mrot_rdq，imrot_rdqをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，mrot_rdq，imrot_rdqをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，mrot_rdq，imrot_rdqをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

get_tid　　実行状態のタスクIDの参照〔T〕
iget_tid　　実行状態のタスクIDの参照〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_tid(ID *p_tskid)
ER ercd = iget_tid(ID *p_tskid)
```

【パラメータ】

ID *	p_tskid	タスクIDを入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
ID	tskid	タスクID

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：get_tidの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iget_tidの場合，CPUロック状態からの呼出し）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_tskidが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

実行状態のタスク（get_tidの場合には自タスク）のID番号を参照する．参照したタスクIDは，p_tskidで指定したメモリ領域に返される．

igetidにおいて，実行状態のタスクがない場合には，TSK_NONE（＝0）が返される．

マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，サービスコールを呼び出した処理単位を実行しているプロセッサにおいて実行状態のタスクのID番号を参照する．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，get_tidをサポートしない．

---

get_did　　実行状態のタスクが属する保護ドメインIDの参照〔TP〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_did(ID *p_domid)
```

【パラメータ】

ID *	p_domid	保護ドメインIDを入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
ID	domid	保護ドメインID

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_MACV	メモリアクセス違反（p_domidが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

実行状態のタスク（自タスク）が属する保護ドメインのID番号を参照する．参照した保護ドメインIDは，p_domidで指定したメモリ領域に返される．

マルチプロセッサ対応カーネルにおいては，サービスコールを呼び出した処理単位を実行しているプロセッサにおいて実行状態のタスクが属する保護ドメインのID番号を参照する．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，get_didをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，get_didをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，get_didをサポートしない．

---

get_pid　割付けプロセッサのID番号の参照〔TM〕
iget_pid　割付けプロセッサのID番号の参照〔IM〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_pid(ID *p_prcid)
ER ercd = iget_pid(ID *p_prcid)
```

【パラメータ】

ID *	p_prcid	プロセッサIDを入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード
ID	prcid	プロセッサID

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：get_pidの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iget_pidの場合，CPUロック状態からの呼出し）

E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_prcidが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

サービスコールを呼び出した処理単位の割付けプロセッサのID番号を参照する．参照したプロセッサIDは，p_prcidで指定したメモリ領域に返される．

【使用上の注意】

タスクは，get_pidを用いて，自タスクの割付けプロセッサを正しく参照できるとは限らない．これは，get_pidを呼び出し，自タスクの割付けプロセッサのID番号を参照した直後に割込みが発生した場合，get_pidから戻ってきた時には割付けプロセッサが変化している可能性があるためである．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，get_pid，iget_pidをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，get_pid，iget_pidをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，get_pid，iget_pidをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

loc_cpu	CPUロック状態への遷移〔T〕
iloc_cpu	CPUロック状態への遷移〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = loc_cpu()
ER ercd = iloc_cpu()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：loc_cpuの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iloc_cpuの場合）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作2が許可されていない：loc_cpuの場合）

【機能】

CPUロックフラグをセットし，CPUロック状態へ遷移する．CPUロック状態で呼び出した場合には，何も行われずに正常終了する．

---

unl_cpu　　CPUロック状態の解除〔T〕
iunl_cpu　　CPUロック状態の解除〔I〕

【C言語API】

```
ER ercd = unl_cpu()
ER ercd = iunl_cpu()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し：unl_cpuの場合，タスクコンテキストからの呼出し：iunl_cpuの場合）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作2が許可されていない：unl_cpuの場合）

【機能】

CPUロックフラグをクリアし，CPUロック解除状態へ遷移する．CPUロック解除状態で呼び出した場合には，何も行われずに正常終了する．

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，unl_cpu／iunl_cpuを呼び出したプロセッサによって取得されている状態となっているスピンロックがある場合には，unl_cpu／iunl_cpuによってCPUロック解除状態に遷移しない（何も行われずに正常終了する）．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，CPUロック解除状態へ遷移した結果，ディスパッチ保留状態が解除され，ディスパッチが起こる可能性がある．また，保護機能対応カーネルとマルチプロセッサ対応カーネルでは，タスク例外処理ルーチンの実行が開始される可能性がある．

---

dis_dsp　　ディスパッチの禁止〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = dis_dsp()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

ディスパッチ禁止フラグをセットし，ディスパッチ禁止状態へ遷移する．ディスパッチ禁止状態で呼び出した場合には，何も行われずに正常終了する．

---

ena_dsp　ディスパッチの許可〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ena_dsp()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作1が許可されていない）

【機能】

ディスパッチ禁止フラグをクリアし，ディスパッチ許可状態へ遷移する．ディスパッチ許可状態で呼び出した場合には，何も行われずに正常終了する．

【補足説明】

ディスパッチ許可状態へ遷移した結果，ディスパッチ保留状態が解除され，ディスパッチが起こる可能性がある．

---

sns_ctx　コンテキストの参照〔TI〕

【C言語API】

```
bool_t state = sns_ctx()
```

【パラメータ】

なし

【リターンパラメータ】
　bool_t　state　　コンテキスト

【機能】

実行中のコンテキストを参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

sns_ctxを非タスクコンテキストから呼び出した場合にはtrue，タスクコンテキストから呼び出した場合にはfalseが返る．

---

sns_loc　　CPUロック状態の参照〔TI〕

【C言語API】
```
bool_t state = sns_loc()
```

【パラメータ】
　なし

【リターンパラメータ】
　bool_t　state　　CPUロックフラグ

【機能】

CPUロックフラグを参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

sns_locをCPUロック状態で呼び出した場合にはtrue，CPUロック解除状態で呼び出した場合にはfalseが返る．

---

sns_dsp　　ディスパッチ禁止状態の参照〔TI〕

【C言語API】
```
bool_t state = sns_dsp()
```

【パラメータ】
　なし

【リターンパラメータ】
　bool_t　state　　ディスパッチ禁止フラグ

【機能】

ディスパッチ禁止フラグを参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

sns_dspをディスパッチ禁止状態で呼び出した場合にはtrue，ディスパッチ許可状態で呼び出した場合にはfalseが返る．

---

sns_dpn　　ディスパッチ保留状態の参照〔TI〕

【C言語API】
```
bool_t state = sns_dpn()
```

【パラメータ】
　なし

【リターンパラメータ】
　bool_t　state　　ディスパッチ保留状態

【機能】

ディスパッチ保留状態であるか否かを参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

sns_dpnをディスパッチ保留状態で呼び出した場合にはtrue，ディスパッチ保留状態でない状態で呼び出した場合にはfalseが返る．

---

sns_ker　　カーネル非動作状態の参照〔TI〕

【C言語API】
　bool_t state = sns_ker()

【パラメータ】
　なし

【リターンパラメータ】
　bool_t　　state　　カーネル非動作状態

【機能】

カーネルが動作中であるか否かを参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

sns_kerをカーネルの初期化完了前（初期化ルーチン実行中を含む）または終了処理開始後（終了処理ルーチン実行中を含む）に呼び出した場合にはtrue，カーネルの動作中に呼び出した場合にはfalseが返る．

【使用方法】

sns_kerは，カーネルが動作している時とそうでない時で，処理内容を変えたい場合に使用する．sns_kerがtrueを返した場合，他のサービスコールを呼び出すことはできない．sns_kerがtrueを返す時に他のサービスコールを呼び出した場合の動作は保証されない．

【使用上の注意】

どちらの条件でtrueが返るか間違いやすいので注意すること．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ext_ker　　カーネルの終了〔TI〕

【C言語API】
ER ercd = ext_ker()

【パラメータ】
なし

【リターンパラメータ】

ER	ercd	エラーコード

【エラーコード】

E_SYS	システムエラー（カーネルの誤動作）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（カーネルドメイン以外からの呼出し）

【機能】

カーネルを終了する．具体的な振舞いについては，「2.9.2 システム終了手順」の節を参照すること．

ext_kerが正常に処理された場合，ext_kerからはリターンしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

ref_sys　　システムの状態参照〔T〕

【C言語API】
ER ercd = ref_sys(T_RSYS *pk_rsys)

☆未完成

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ref_sysをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ref_sysをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ref_sysをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ref_sysをサポートしない．

4.8 メモリオブジェクト管理機能

メモリオブジェクト管理機能は，保護機能対応カーネルでのみサポートされる機能である．保護機能対応でないカーネルでは，メモリオブジェクト管理機能をサポートしない．

〔メモリリージョン〕

メモリリージョンは，オブジェクトモジュールに含まれるセクションの配置対象となる同じ性質を持った連続したメモリ領域である．メモリリージョンは，メモリリージョン名によって識別する．

各メモリリージョンが持つ情報は次の通り．

- 先頭番地
- サイズ
- メモリリージョン属性

メモリリージョンの先頭番地とサイズには，ターゲット定義の制約が課せられる場合がある．

メモリリージョン属性には，次の属性を指定することができる．

TA_NOWRITE	0x01U	書込みアクセス禁止
TA_STDROM	0x02U	標準ROMリージョン
TA_STDRAM	0x04U	標準RAMリージョン

標準ROMリージョン（TA_STDROM属性が指定されたメモリリージョン）は，ATT_MOD／ATA_MODにおいて，書込みアクセスを行わない標準のセクションを配置するメモリリージョンである．また，標準RAMリージョン（TA_STDRAM属性が指定されたメモリリージョン）は，ATT_MOD／ATA_MODにおいて，書込みアクセスを行う標準のセクションを配置するメモリリージョンである．

標準ROMリージョンは，書込みアクセス禁止と扱われる．すなわち，TA_STDROM属性を指定すれば，TA_NOWRITE属性も指定したことになる（TA_NOWRITE属性を指定しても指定しなくても，同じ振舞いとなる）．

ターゲットによっては，ターゲット定義のメモリリージョン属性を指定できる場合がある．

〔メモリオブジェクト〕

メモリオブジェクトは，保護機能対応カーネルにおいてアクセス保護の対象とする連続したメモリ領域である．メモリオブジェクトは，その先頭番地によって識別する．

各メモリオブジェクトが持つ情報は次の通り．

- 先頭番地
- サイズ
- メモリオブジェクト属性

・アクセス許可ベクタ
・属する保護ドメイン
・属するクラス（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

メモリオブジェクトの先頭番地とサイズには，ターゲット定義の制約が課せられる．

メモリオブジェクト属性には，次の属性を指定することができる．

TA_NOWRITE	0x01U	書込みアクセス禁止
TA_NOREAD	0x02U	読出しアクセス禁止
TA_EXEC	0x04U	実行アクセス許可
TA_MEMINI	0x08U	メモリの初期化を行う
TA_MEMPRSV	0x10U	メモリの初期化を行わない
TA_SDATA	0x20U	ショートデータ領域に配置
TA_UNCACHE	0x40U	キャッシュ禁止
TA_IODEV	0x80U	周辺デバイスの領域

メモリオブジェクトに対して書込みアクセスできるのは，メモリオブジェクト属性に書込みアクセス禁止（TA_NOWRITE属性）が指定されておらず，アクセス許可ベクタにより書込みアクセスが許可されている場合である．また，読出しアクセスできるのは，メモリオブジェクト属性に読出しアクセス禁止（TA_NOREAD属性）が指定されておらず，アクセス許可ベクタにより読出し・実行アクセスが許可されている場合である．実行アクセスできるのは，メモリオブジェクト属性に実行アクセス許可（TA_EXEC属性）が指定されており，アクセス許可ベクタにより読出し・実行アクセスが許可されている場合である．

ただし，ターゲットハードウェアの制約によってこれらの属性を実現できない場合には，次のように扱われる．書込みアクセス禁止が実現できない場合には，TA_NOWRITEを指定しても無視される．また，読出しアクセス禁止が実現できない場合には，TA_NOREADを指定しても無視される．実行アクセス禁止が実現できない場合には，TA_EXECを指定しなくても実行アクセス許可となり，TA_EXECは無視される．どのような場合にどの属性の指定が無視されるかは，ターゲット定義である．

TA_MEMINI属性は，システム初期化時に初期化するメモリオブジェクトであることを，TA_MEMPRSV属性は，システム初期化時に初期化を行わないメモリオブジェクトであることを示す．いずれの属性も指定しない場合，そのメモリオブジェクトは，システム初期化時にクリア（言い換えると，0に初期化）される．
TA_MEMINIとTA_MEMPRSVの両方を指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

TA_NOWRITEが指定されている場合には，TA_MEMINIとTA_MEMPRSVは無視される（指定しても指定しなくても，同じ振舞いとなる）．

TA_MEMINI属性を設定したメモリオブジェクトを初期化に用いる初期化データは，標準ROMリージョンに配置され，メモリオブジェクトとしては登録されない．

TA_SDATA属性は，メモリオブジェクトをショートデータ領域に配置することを示す．具体的な扱いはターゲット定義であるが，ショートデータ領域がサポートされていないターゲットでは，この属性は無視される．また，ターゲットに

よっては，TA_NOWRITEを指定した場合に，TA_SDATAが無視される場合がある．

TA_UNCACHE属性は，メモリオブジェクトをキャッシュ禁止に設定することを，TA_IODEV属性は，メモリオブジェクトを周辺デバイスの領域として扱うことを示す．これらの属性を指定しても意味がないターゲット（例えば，キャッシュを持たないターゲットプロセッサでのTA_UNCACHE）では，これらの属性は無視される．逆に，キャッシュ禁止にできないメモリオブジェクトに対してTA_UNCACHEを指定した場合や，周辺デバイスの領域として扱うことができないメモリオブジェクトに対してTA_IODEVを指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

ターゲットによっては，ターゲット定義のメモリオブジェクト属性を指定できる場合がある．ターゲット定義のメモリオブジェクト属性として，次の属性を予約している．

TA_WTHROUGH	ライトスルーキャッシュを用いる

〔カーネル構成マクロ〕

メモリオブジェクト管理機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TOPPERS_SUPPORT_ATT_MOD	ATT_MOD／ATA_MODがサポートされている
TOPPERS_SUPPORT_ATT_PMA	ATT_PMA／ATA_PMA／att_pmaがサポートされている

ただし，att_pmaは，動的生成対応カーネルのみでサポートされるAPIであるため，サポートされているかを判定するには，TOPPERS_SUPPORT_DYNAMIC_CREとTOPPERS_SUPPORT_ATT_PMAの両方が定義されていることをチェックする必要がある．

【補足説明】

メモリオブジェクトが属するクラスは，ATT_MOD／ATA_MODにおいて，標準のセクションが配置されるメモリリージョンを決定するためのみに使用される．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，メモリオブジェクト管理機能をサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，メモリオブジェクト管理機能をサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，メモリオブジェクト管理機能をサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，メモリオブジェクト管理機能をサポートしない．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

値が0のメモリオブジェクト属性（TA_RW, TA_CACHE）は，デフォルトの扱いにして廃止した．TA_ROはTA_NOWRITEに改名し，TA_NOREAD, TA_EXEC, TA_MEMINI, TA_MEMPRSV, TA_IODEVを追加した．また，TA_UNCACHEの値を変更し，ターゲット定義のメモリオブジェクト属性としてTA_WTHROUGHを予約した．

メモリリージョンは，μITRON4.0/PX仕様にはない概念である．

【仕様決定の理由】

TA_IODEV属性を導入したのは，ターゲットプロセッサによっては，周辺デバイスの領域として扱うためには，キャッシュ禁止に加えて，メモリのアクセス順序を変更しないことを指定しなければならないためである．メモリのアクセス順序を変更しないことを指定するメモリオブジェクト属性を，ターゲット定義で用意してもよいが，それを使うとアプリケーションのポータビリティが下がるため，TA_IODEV属性を用意することにした．

ATT_REG　　メモリリージョンの登録〔SP〕

【静的API】

```
ATT_REG("メモリリージョン名", { ATR regatr, void *base, SIZE size })
```

【パラメータ】

"メモリリージョン名"		登録するメモリリージョンを指定する文字列
ATR	regatr	メモリリージョン属性
void *	base	登録するメモリリージョンの先頭番地
SIZE	size	登録するメモリリージョンのサイズ（バイト数）

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（regatrが不正または使用できない，保護ドメインの囲みの中に記述）
E_PAR	パラメータエラー（メモリリージョン名，base，sizeが不正）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（登録済みのメモリリージョンの再登録，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定したメモリリージョン登録情報に従って，指定したメモリリージョンを登録する．具体的な振舞いは以下の通り．

baseとsizeで指定したメモリ領域が，メモリリージョンとして登録される．登録されるメモリリージョンには，regatrで指定したメモリリージョン属性が設定される．

メモリリージョン名は文字列パラメータ，regatr，base，sizeは整数定数式パラメータである．

ATT_MOD／ATA_MODがサポートされているターゲットでは，標準ROMリージョンと標準RAMリージョンを，それぞれ1つ登録しなければならない．標準ROMリージョンと標準RAMリージョンを登録していない場合や，複数登録した場合には，E_OBJエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，ATT_REGをクラスの囲みの中に記述するとそのクラス専用のメモリリージョンとなり，ATT_REGをクラスの囲みの外に記述すると共通のメモリリージョンとなる．ATT_MOD／ATA_MODがサポートされているターゲットでは，共通の標準ROMリージョンと共通の標準RAMリージョンを，それぞれ1つ登録しなければならない．また，あるクラスの囲みの中でATT_MOD／ATA_MODを使用する場合には，そのクラス専用の標準ROMリージョン／標準RAMリージョンを1つ登録するか，共通の標準ROMリージョン／標準RAMリージョンを1つ登録しなければならない．これらを登録しない場合や，複数登録した場合には，E_OBJエラーとなる．

mematrに，TA_STDROMとTA_STDRAMを同時に指定することはできない．指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

ATT_REGは，保護ドメインの囲みの外に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

baseやsizeに，ターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．また，sizeが0の場合には，E_PARエラーとなる．登録しようとしたメモリリージョンが，登録済みのメモリリージョンとメモリ領域が重なる場合には，E_OBJエラーとなる．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様に定義されていない静的APIである．

ATT_SEC　　セクションの登録〔SP〕
ATA_SEC　　セクションの登録（アクセス許可ベクタ付き）〔SP〕

【静的API】

```
ATT_SEC("セクション名", { ATR mematr, "メモリリージョン名" })
ATA_SEC("セクション名", { ATR mematr, "メモリリージョン名" },
            { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【パラメータ】

"セクション名"		登録するセクションを指定する文字列
ATR	mematr	メモリオブジェクト属性
"メモリリージョン名"		セクションを配置するメモリリージョンを指定する文字列

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（mematrが不正または使用できない，属するクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（セクション名，メモリリージョン名が不正）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（登録済みのセクションの再登録）

【機能】

各パラメータで指定した情報に従って，指定したセクションをカーネルに登録する．具体的な振舞いは以下の通り．

各オブジェクトモジュールに含まれるセクション名で指定したセクションが，メモリリージョン名で指定したメモリリージョンに配置され，メモリオブジェクトとして登録される．登録されるメモリオブジェクトには，mematrで指定したメモリオブジェクト属性が設定される．ATA_SECの場合には，登録されるメモリオブジェクトのアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）が，acptn1～acptn4で指定した値に設定される．

指定したメモリリージョンがTA_NOWRITE属性である場合には，メモリオブジェクト属性にTA_NOWRITE属性を指定したことになる（TA_NOWRITE属性を指定しても指定しなくても，同じ振舞いとなる）．

mematrに，TA_MEMINIとTA_MEMPRSVを同時に指定することはできない．指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

登録されるメモリオブジェクトと同じ保護ドメインに属し，メモリオブジェクト属性とアクセス許可ベクタがすべて一致するメモリオブジェクトがある場合には，1つのメモリオブジェクトにまとめて登録される場合がある．

セクション名とメモリリージョン名は文字列パラメータ，mematr，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

ターゲット定義で，ATA_SECにより登録できるセクションが属する保護ドメインや登録できる数に制限がある場合がある．

ATT_MOD／ATA_MODがサポートされているターゲットでは，セクション名として，標準のセクションを指定することはできない．指定した場合には，E_PARエラーとなる．

保護ドメイン毎の標準セクションは，コンフィギュレータによってカーネルに登録されるため，ATT_SEC／ATA_SECで登録することはできない．セクション名として指定した場合には，E_PARエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，指定したメモリリージョンがあるクラス専用のメモリリージョンの場合で，ATT_SEC／ATA_SECをクラスの囲みの外に記述するか，他のクラスの囲みの中に記述した場合には，E_RSATRエラーとなる．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様に定義されていない静的APIである．

LNK_SEC　　セクションの配置〔SP〕

【静的API】

　　LNK_SEC(″セクション名″, { ″メモリリージョン名″ })

【パラメータ】

″セクション名″	配置するセクションを指定する文字列
″メモリリージョン名″	セクションを配置するメモリリージョンを指定する文字列

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属するクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（セクション名，メモリリージョン名が不正）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（登録済みのセクションの再登録）

【機能】

各オブジェクトモジュールに含まれるセクション名で指定したセクションを，メモリリージョン名で指定したメモリリージョンに配置する．

セクション名として，標準のセクションや保護ドメイン毎の標準セクションを指定することはできない．指定した場合には，E_PARエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，指定したメモリリージョンがあるクラス専用のメモリリージョンの場合で，LNK_SECをクラスの囲みの外に記述するか，他のクラスの囲みの中に記述した場合には，E_RSATRエラーとなる．

【使用上の注意】

LNK_SECにより配置されたセクションは，メモリオブジェクトとしてカーネルに登録されず，メモリ保護が実現できる先頭番地とサイズになるとは限らない．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様に定義されていない静的APIである．

ATT_MOD　　オブジェクトモジュールの登録〔SP〕
ATA_MOD　　オブジェクトモジュールの登録（アクセス許可ベクタ付き）〔SP〕

【静的API】

```
    ATT_MOD(″オブジェクトモジュール名″)
    ATA_MOD(″オブジェクトモジュール名″,
                { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【パラメータ】

″オブジェクトモジュール名″		登録するオブジェクトモジュールを指定する文字列

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（mematrが不正または使用できない）
E_NOSPT	未サポート機能（ATT_MOD／ATA_MODがサポートされていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（登録済みのオブジェクトモジュールの再登録）

【機能】

各パラメータで指定した情報に従って，指定したオブジェクトモジュールをカーネルに登録する．具体的な振舞いは以下の通り．

オブジェクトモジュール名で指定したオブジェクトモジュールに含まれる標準のセクションの内，書込みアクセスを行わないセクションは標準ROMリージョンに，書込みアクセスを行うセクションは標準RAMリージョンに配置され，メモリオブジェクトとして登録される．登録されるメモリオブジェクトには，ターゲット定義でセクション毎に定まるメモリオブジェクト属性が設定される．ATA_MODの場合には，登録されるメモリオブジェクトのアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）が，acptn1～acptn4で指定した値に設定される．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，ATT_MOD／ATA_MODを，クラスの囲みの外に記述することも，クラスの囲みの中に記述することもできる．ATT_MOD／ATA_MODをクラスの囲みの外に記述した場合，標準のセクションが配置されるメモリリージョンは，共通の標準ROMリージョン／標準RAMリージョンとなる．クラスの囲みの中に記述した場合，そのクラス専用の標準ROMリージョン／標準RAMリージョンが登録されていればそのリージョン，登録されていなければ共通の標準ROMリージョン／標準RAMリージョンとなる．

登録されるメモリオブジェクトと同じ保護ドメインに属し，メモリオブジェクト属性とアクセス許可ベクタがすべて一致するメモリオブジェクトがある場合には，1つのメモリオブジェクトにまとめて登録される場合がある．

オブジェクトモジュール名は文字列パラメータ，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータである．

ターゲット定義で，ATA_MODにより登録できるオブジェクトモジュールが属する保護ドメインや登録できる数に制限がある場合がある．

ターゲット定義で，ATT_MOD／ATA_MODがサポートされていない場合がある．

ATT_MOD／ATA_MODがサポートされている場合には，TOPPERS_SUPPORT_ATT_MODがマクロ定義される．サポートされていない場合にATT_MOD／ATA_MODを使用すると，コンフィギュレータがE_NOSPTエラーを報告する．

【補足説明】

各セクションが配置されるメモリリージョンとそれに設定されるメモリオブジェクト属性は，例えば，プログラムコードを含むセクションであれば，フラッシュメモリのメモリリージョンに配置し，書込みアクセス禁止のメモリオブジェクト属性が設定されるというように，ターゲットシステム毎に定められる．

ATT_MOD／ATA_MODでは，標準のセクション以外は配置・登録されない．標準のセクション以外のセクションを配置・登録するためには，ATT_SEC/ATA_SECを用いる必要がある．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

オブジェクトモジュールに含まれるセクションの配置場所が，標準ROMリージョンと標準RAMリージョンであることを明確化した．

ATT_MEM	メモリオブジェクトの登録〔SP〕
ATA_MEM	メモリオブジェクトの登録（アクセス許可ベクタ付き）〔SP〕
att_mem	メモリオブジェクトの登録〔TPD〕

【静的API】

```
ATT_MEM({ ATR mematr, void *base, SIZE size })
ATA_MEM({ ATR mematr, void *base, SIZE size },
            { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = att_mem(const T_AMEM *pk_amem)
```

【パラメータ】

T_AMEM *	pk_amem	メモリオブジェクトの登録情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊メモリオブジェクトの登録情報（パケットの内容）

ATR	mematr	メモリオブジェクト属性
void *	base	登録するメモリ領域の先頭番地
SIZE	size	登録するメモリ領域のサイズ（バイト数）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（mematrが不正または使用できない，属する保護ドメインが不正）
E_NOSPT	未サポート機能（条件はターゲット定義）
E_PAR	パラメータエラー（base，sizeが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_amemが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（登録済みのメモリオブジェクトとメモリ領域が重なる）

【機能】

各パラメータで指定したメモリオブジェクト登録情報に従って，メモリオブジェクトを登録する．具体的な振舞いは以下の通り．

baseとsizeで指定したメモリ領域が，メモリオブジェクトとして登録される．登録されるメモリオブジェクトには，mematrで指定したメモリオブジェクト属性が設定される．ATA_MEMの場合には，登録されるメモリオブジェクトのアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）が，acptn1～acptn4で指定した値に設定される．

mematrには，TA_MEMPRSVを指定しなければならず，TA_MEMINIを指定することはできない．TA_MEMPRSVを指定しない場合や，TA_MEMINIを指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

静的APIにおいては，mematr，size，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータ，baseは一般定数式パラメータである．

ターゲット定義で，ATT_MEM／ATA_MEMにより登録できるメモリオブジェクトが属する保護ドメインや登録できる数に制限がある場合がある．

baseやsizeに，ターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．また，sizeが0の場合には，E_PARエラーとなる．登録しようとしたメモリオブジェクトが，登録済みのメモリオブジェクトとメモリ領域が重なる場合には，E_OBJエラーとなる．

【使用上の注意】

ATT_MEM／ATA_MEMは，ユーザタスクからメモリ空間にマッピングされたI/O領域にアクセスできるようにするために使用することを想定した静的APIである．メモリ領域に対しては，ATT_SEC／ATA_SECかATT_MOD／ATA_MODを使用することを推奨する．

ATT_MEM／ATA_MEMで登録したメモリオブジェクトのメモリ領域が，ATT_REGで登録したメモリリージョンと重なっても，直ちにエラーとはならない．ただし，メモリリージョン内に配置されたメモリオブジェクトと，ATT_MEM／ATA_MEMで

登録したメモリオブジェクトのメモリ領域が重なった場合には，E_OBJエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ATT_MEMとATA_MEMのみをサポートする．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

アクセス許可ベクタを指定してメモリオブジェクトを登録するサービスコール（ata_mem）は廃止した．

baseやsizeがターゲット定義の制約に合致しない場合，μITRON4.0/PX仕様ではターゲット定義の制約に合致するようにメモリ領域を広げることとしていたが，この仕様ではE_PARエラーとなることとした．

ATT_PMA	物理メモリ領域の登録〔SP〕
ATA_PMA	物理メモリ領域の登録（アクセス許可ベクタ付き）〔SP〕
att_pma	物理メモリ領域の登録〔TPD〕

【静的API】

```
ATT_PMA({ ATR mematr, void *base, SIZE size, void *paddr })
ATA_PMA({ ATR mematr, void *base, SIZE size, void *paddr  },
            { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = att_pma(const T_APMA *pk_apma)
```

【パラメータ】

T_APMA *	pk_apma	物理メモリ領域の登録情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊物理メモリ領域の登録情報（パケットの内容）

ATR	mematr	メモリオブジェクト属性
void *	base	登録するメモリ領域の先頭番地
SIZE	size	登録するメモリ領域のサイズ（バイト数）
void *	paddr	登録するメモリ領域の物理アドレスの先頭番地

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）

E_RSATR	予約属性（mematrが不正または使用できない，属する保護ドメインが不正）
E_NOSPT	未サポート機能（条件はターゲット定義）
E_PAR	パラメータエラー（base，size，paddrが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_apmaが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（登録済みのメモリオブジェクトとメモリ領域が重なる）

【機能】

各パラメータで指定した物理メモリ領域の登録情報に従って，メモリオブジェクトを登録する．具体的な振舞いは以下の通り．

物理アドレス空間において先頭番地がpaddr，サイズがsizeのメモリ領域が，論理アドレス空間においてbaseで指定した番地からアクセスできるように，メモリオブジェクトとして登録される．登録されるメモリオブジェクトには，mematrで指定したメモリオブジェクト属性が設定される．ATA_PMAの場合には，登録されるメモリオブジェクトのアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）が，acptn1～acptn4で指定した値に設定される．

mematrには，TA_MEMPRSVを指定しなければならず，TA_MEMINIを指定することはできない．TA_MEMPRSVを指定しない場合や，TA_MEMINIを指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

静的APIにおいては，mematr，size，paddr，acptn1～acptn4は整数定数式パラメータ，baseは一般定数式パラメータである．

ターゲット定義で，ATT_PMA／ATA_PMAにより登録できるメモリオブジェクトが属する保護ドメインや登録できる数に制限がある場合がある．

base，size，paddrに，ターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．また，sizeが0の場合には，E_PARエラーとなる．登録しようとしたメモリオブジェクトが，登録済みのメモリオブジェクトと論理アドレス空間においてメモリ領域が重なる場合には，E_OBJエラーとなる．

ATT_PMA／ATA_PMA／att_pmaは，MMU（Memory Management Unit）を持つターゲットシステムにおいて，ターゲット定義でサポートされる機能である．ATT_PMA／ATA_PMA／att_pmaがサポートされている場合には，TOPPERS_SUPPORT_ATT_PMAがマクロ定義される．ATT_PMA／ATA_PMAがサポートされていない場合にこれらの静的APIを使用すると，コンフィギュレータがE_NOSPTエラーを報告する．また，att_pmaがサポートされていない場合にatt_pmaを呼び出すと，E_NOSPTエラーが返るか，リンク時にエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ターゲット定義で，ATT_PMAとATA_PMAのみをサポートする．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

μITRON4.0/PX仕様に定義されていない静的APIおよびサービスコールである．

---

sac_mem　　メモリオブジェクトのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【C言語API】

```
ER ercd = sac_mem(const void *base, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

void *	base	メモリオブジェクトの先頭番地
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_PAR	パラメータエラー（baseが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（baseで指定した番地を含むメモリオブジェクトが登録されていない）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象メモリオブジェクトに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象メモリオブジェクトは静的APIで登録された）

【機能】

baseで指定したメモリオブジェクト（対象メモリオブジェクト）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIによって登録したメモリオブジェクトは，アクセス許可ベクタを設定することができない．アクセス許可ベクタを設定しようとした場合には，E_OBJエラーとなる．

baseに，メモリオブジェクトの先頭番地以外を指定した場合には，E_PARエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，sac_memをサポートしない．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

静的APIによって登録したメモリオブジェクトは，アクセス許可ベクタを設定することができないこととした．

μITRON4.0/PX仕様では，baseはメモリオブジェクトに含まれる番地を指定するものとしていたが，この仕様では，メモリオブジェクトの先頭番地でなければならないものとした．

---

det_mem　　メモリオブジェクトの登録解除〔TPD〕

【C言語API】

```
ER ercd = det_mem(const void *base)
```

【パラメータ】

void *	base	メモリオブジェクトの先頭番地

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_PAR	パラメータエラー（baseが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（baseで指定される番地を含むメモリオブジェクトが登録されていない）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象メモリオブジェクトに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象メモリオブジェクトは静的APIで登録された）

【機能】

baseで指定したメモリオブジェクト（対象メモリオブジェクト）を登録解除する．

静的APIによって登録したメモリオブジェクトは，登録を解除することができない．登録を解除しようとした場合には，E_OBJエラーとなる．

baseに，メモリオブジェクトの先頭番地以外を指定した場合には，E_PARエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，det_memをサポートしない．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

静的APIによって登録したメモリオブジェクトは，登録を解除することができないこととした．

μITRON4.0/PX仕様では，baseはメモリオブジェクトに含まれる番地を指定するものとしていたが，この仕様では，メモリオブジェクトの先頭番地でなければならないものとした．

---

prb_mem　　メモリ領域に対するアクセス権のチェック〔TP〕

【C言語API】

```
ER ercd = prb_mem(const void *base, SIZE size, ID tskid, MODE pmmode)
```

【パラメータ】

void *	base	メモリ領域の先頭番地
SIZE	size	メモリ領域のサイズ（バイト数）
ID	tskid	アクセス元のタスクのID番号
MODE	pmmode	アクセスモード

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（tskidが不正）
E_PAR	パラメータエラー（base，size，pmmodeが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（baseで指定される番地を含むメモリオブジェクトが登録されていない）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象メモリ領域を含むメモリオブジェクトに対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（対象メモリ領域へのアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象メモリ領域がメモリオブジェクトの境界を越えている）

【機能】

tskidで指定したタスクから，baseとsizeで指定したメモリ領域（対象メモリ領域）に対して，pmmodeで指定した種別のアクセスが許可されているかをチェックする．アクセスが許可されている場合にE_OK，そうでない場合にE_MACVが返る．tskidで指定したタスクがカーネルドメインに属する場合，E_MACVが返ることはない．

pmmodeには，TPM_WRITE（＝0x01U），TPM_READ（＝0x02U），TPM_EXEC（＝0x04U）のいずれか，またはそれらの内のいくつかのビット毎論理和（C言語の"|"）を指定することができる．TPM_WRITE，TPM_READ，TPM_EXECを指定した場合には，それぞれ，読出しアクセス，書込みアクセス，実行アクセスが許可されているかをチェックする．また，いくつかのビット毎論理和を指定した場合

には，それらに対応した種別のアクセスがすべて許可されているかをチェックする．

tskidにTSK_SELF（＝0）を指定すると，自タスクから対象メモリ領域に対してアクセスが許可されているかをチェックする．

sizeが0の場合には，E_PARエラーとなる．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

アクセスする主体の指定方法を，保護ドメインによる指定（domid）から，タスクによる指定（tskid）に変更した．また，pmmodeに指定できるアクセス種別にTPM_EXECを追加し，TPM_WRITEとTPM_READの値を入れ換えた．

---

ref_mem　　メモリオブジェクトの状態参照〔TP〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_mem(const void *base, T_RMEM *pk_rmem)
```

☆未完成

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ref_memをサポートしない．

4.9 割込み管理機能

割込み処理のプログラムは，割込みサービスルーチン（ISR）として実現することを推奨する．割込みサービスルーチンをカーネルに登録する場合には，まず，割込みサービスルーチンの登録対象となる割込み要求ラインの属性を設定しておく必要がある．割込みサービスルーチンは，カーネル内の割込みハンドラを経由して呼び出される．

ただし，カーネルが用意する割込みハンドラで対応できないケースに対応するために，アプリケーションで割込みハンドラを用意することも可能である．この場合にも，割込みハンドラをカーネルに登録する前に，割込みハンドラの登録対象となる割込みハンドラ番号に対応する割込み要求ラインの属性を設定しておく必要がある．

割込み要求ラインの属性を設定する際に指定する割込み要求ライン属性には，次の属性を指定することができる．

TA_ENAINT	0x01U	割込み要求禁止フラグをクリア
TA_EDGE	0x02U	エッジトリガ

ターゲットによっては，ターゲット定義の割込み要求ライン属性を指定できる場合がある．ターゲット定義の割込み要求ライン属性として，次の属性を予約している．

TA_POSEDGE	ポジティブエッジトリガ
TA_NEGEDGE	ネガティブエッジトリガ
TA_BOTHEDGE	両エッジトリガ
TA_LOWLEVEL	ローレベルトリガ
TA_HIGHLEVEL	ハイレベルトリガ
TA_BROADCAST	すべてのプロセッサで割込みを処理（マルチプロセッサ対応カーネルの場合）

割込みサービスルーチンは，カーネルが実行を制御する処理単位である．割込みサービスルーチンは，割込みサービスルーチンIDと呼ぶID番号によって識別する．

1つの割込み要求ラインに対して複数の割込みサービスルーチンを登録した場合，それらの割込みサービスルーチンは，割込みサービスルーチン優先度の高い順にすべて呼び出される．割込みサービスルーチン優先度が同じ場合には，登録した順（静的APIにより登録した場合には，割込みサービスルーチンを生成するAPIをコンフィギュレーションファイル中に記述した順）で呼び出される．

保護機能対応カーネルにおいて，割込みサービスルーチンが属することのできる保護ドメインは，カーネルドメインに限られる．

割込みサービスルーチン属性に指定できる属性はない．そのため割込みサービスルーチン属性には，TA_NULLを指定しなければならない．

C言語による割込みサービスルーチンの記述形式は次の通り．

```
void interrupt_service_routine(intptr_t exinf)
{
    割込みサービスルーチン本体
}
```

exinfには，割込みサービスルーチンの拡張情報が渡される．

割込みハンドラは，カーネルが実行を制御する処理単位である．割込みハンドラは，割込みハンドラ番号と呼ぶオブジェクト番号によって識別する．

保護機能対応カーネルにおいて，割込みハンドラは，カーネルドメインに属する．

割込みハンドラを登録する際に指定する割込みハンドラ属性には，ターゲット定義で，次の属性を指定することができる．

TA_NONKERNEL	0x02U	カーネル管理外の割込み

TA_NONKERNELを指定しない場合，カーネル管理の割込みとなる．また，ターゲットによっては，その他のターゲット定義の割込みハンドラ属性を指定できる場合がある．

C言語による割込みハンドラの記述形式は次の通り．

```
    void interrupt_handler(void)
    {
        割込みハンドラ本体
    }
```

割込み管理機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMIN_INTPRI	割込み優先度の最小値（最高値）
TMAX_INTPRI	割込み優先度の最大値（最低値，＝-1）
TMIN_ISRPRI	割込みサービスルーチン優先度の最小値（＝1）
TMAX_ISRPRI	割込みサービスルーチン優先度の最大値
TOPPERS_SUPPORT_DIS_INT	dis_intがサポートされている
TOPPERS_SUPPORT_ENA_INT	ena_intがサポートされている

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，割込みサービスルーチン優先度の最大値（＝TMAX_ISRPRI）は16に固定されている．ただし，タスク優先度拡張パッケージでは，TMAX_ISRPRIを256に拡張する．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，割込みサービスルーチン優先度の最大値（＝TMAX_ISRPRI）は16に固定されている．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，割込みサービスルーチン優先度の最大値（＝TMAX_ISRPRI）は16に固定されている．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，割込みサービスルーチン優先度の最大値（＝TMAX_ISRPRI）は16に固定されている．

【μITRON4.0仕様との関係】

割込み要求ラインの属性，割込み優先度，割込みサービスルーチン優先度は，μITRON4.0仕様にない概念であり，TMIN_INTPRI，TMAX_INTPRI，TMIN_ISRPRI，TMAX_ISRPRIは，μITRON4.0仕様に定義のないカーネル構成マクロである．また，TA_NONKERNELは，μITRON4.0仕様に定義のない割込みハンドラ属性である．

CFG_INT	割込み要求ラインの属性の設定〔S〕
cfg_int	割込み要求ラインの属性の設定〔TD〕

【静的API】

```
CFG_INT(INTNO intno, { ATR intatr, PRI intpri })
```

【C言語API】

```
ER ercd = cfg_int(INTNO intno, const T_CINT *pk_cint)
```

【パラメータ】

INTNO	intno	割込み番号
T_CINT *	pk_cint	割込み要求ラインの属性の設定情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊割込み要求ラインの属性の設定情報（パケットの内容）

ATR	intatr	割込み要求ライン属性
PRI	intpri	割込み優先度

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（intatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cintが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_PAR	パラメータエラー（intno，intpriが不正）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象割込み要求ラインに対してすでに属性が設定されている：CFG_INTの場合，カーネル管理の割込みか否かとintpriの値が整合していない）

【機能】

intnoで指定した割込み要求ライン（対象割込み要求ライン）に対して，各パラメータで指定した属性を設定する．

対象割込み要求ラインの割込み要求禁止フラグは，intatrにTA_ENAINTを指定した場合にクリアされ，指定しない場合にセットされる．

静的APIにおいては，intno，intatr，intpriは整数定数式パラメータである．

cfg_intにおいて，ターゲット定義で，複数の割込み要求ラインの割込み優先度が連動して設定される場合がある．

CFG_INTにおいて，対象割込み要求ラインに対してすでに属性が設定されている場合（言い換えると，同じ割込み番号に対するCFG_INTが複数ある場合）には，E_OBJエラーとなる．

intpriに指定できる値は，基本的には，TMIN_INTPRI以上，TMAX_INTPRI以下の値である．ターゲット定義の拡張で，カーネル管理外の割込み要求ラインに対しても属性を設定できる場合には，TMIN_INTPRIよりも小さい値を指定することができる．このように拡張されている場合，カーネル管理外の割込み要求ライ

ンを対象として，intpriにTMIN_INTPRI以上の値を指定した場合には，E_OBJエラーとなる．逆に，カーネル管理の割込み要求ラインを対象として，intpriがTMIN_INTPRIよりも小さい値である場合にも，E_OBJエラーとなる．

対象割込み要求ラインに対して，設定できない割込み要求ライン属性をintatrに指定した場合にはE_RSATRエラー，設定できない割込み優先度をintpriに指定した場合にはE_PARエラーとなる．ここで，設定できない割込み要求ライン属性／割込み優先度には，ターゲット定義の制限によって設定できない値も含む．また，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，cfg_intを呼び出したタスクが割り付けられているプロセッサから，対象割込み要求ラインの属性を設定できない場合も，これに該当する．

保護機能対応カーネルにおいて，CFG_INTは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，cfg_intはカーネルオブジェクトを登録するサービスコールではないため，割込み要求ライン属性にTA_DOM(domid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_DOM(TDOM_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

マルチプロセッサ対応カーネルで，CFG_INTの記述が，対象割込み要求ラインに対して登録された割込みサービスルーチン（または対象割込み番号に対応する割込みハンドラ番号に対して登録された割込みハンドラ）と異なるクラスの囲み中にある場合には，E_RSATRエラーとなる．

【補足説明】

ターゲット定義の制限によって設定できない割込み要求ライン属性／割込み優先度は，主にターゲットハードウェアの制限から来るものである．例えば，対象割込み要求ラインに対して，トリガモードや割込み優先度が固定されていて，変更できないケースが考えられる．

cfg_intにおいて，ターゲット定義で，複数の割込み要求ラインの割込み優先度が連動して設定されるのは，ターゲットハードウェアの制限により，異なる割込み要求ラインに対して，同一の割込み優先度しか設定できないケースに対応するための仕様である．この場合，CFG_INTにおいては，同一の割込み優先度しか設定できない割込み要求ラインに対して異なる割込み優先度を設定した場合には，E_PARエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，CFG_INTのみをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，CFG_INTのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，CFG_INTのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，CFG_INTのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていない静的APIおよびサービスコールである．

CRE_ISR	割込みサービスルーチンの生成〔S〕
ATT_ISR	割込みサービスルーチンの追加〔S〕
acre_isr	割込みサービスルーチンの生成〔TD〕

【静的API】

```
CRE_ISR(ID isrid, { ATR isratr, intptr_t exinf,
                                        INTNO intno, ISR isr, PRI isrpri })
ATT_ISR({ ATR isratr, intptr_t exinf, INTNO intno, ISR isr, PRI isrpri })
```

【C言語API】

```
ER_ID isrid = acre_isr(const T_CISR *pk_cisr)
```

【パラメータ】

ID	isrid	対象割込みサービスルーチンのID番号（CRE_ISRの場合）
T_CISR *	pk_cisr	割込みサービスルーチンの生成情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊割込みサービスルーチンの生成情報（パケットの内容）

ATR	isratr	割込みサービスルーチン属性
intptr_t	exinf	割込みサービスルーチンの拡張情報
INTNO	intno	割込みサービスルーチンを登録する割込み番号
ISR	isr	割込みサービスルーチンの先頭番地
PRI	isrpri	割込みサービスルーチン優先度

【リターンパラメータ】

ER_ID	isrid	生成された割込みサービスルーチンのID番号（正の値）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（isratrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（intno，isr，isrpriが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_cisrが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_NOID〔sD〕	ID番号不足（割り付けられる割込みサービスルーチンIDがない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（isridで指定した割込みサービ

スルーチンが登録済み：CRE_ISRの場合，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定した割込みサービスルーチン生成情報に従って，割込みサービスルーチンを生成する．

ATT_ISRによって生成された割込みサービスルーチンは，ID番号を持たない．

intnoで指定した割込み要求ラインの属性が設定されていない場合には，E_OBJエラーとなる．また，intnoで指定した割込み番号に対応する割込みハンドラ番号に対して，割込みハンドラを定義する機能（DEF_INH，def_inh）によって割込みハンドラが定義されている場合にも，E_OBJエラーとなる．さらに，intnoでカーネル管理外の割込みを指定した場合にも，E_OBJエラーとなる．

静的APIにおいては，isridはオブジェクト識別名，isratr，intno，isrpriは整数定数式パラメータ，exinfとisrは一般定数式パラメータである．

保護機能対応カーネルにおいて，CRE_ISRおよびATT_ISRは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，acre_isrで，生成する割込みサービスルーチンが属する保護ドメインとしてカーネルドメイン以外を指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

マルチプロセッサ対応カーネルで，生成する割込みサービスルーチンの属するクラスの割付け可能プロセッサが，intnoで指定した割込み要求ラインが接続されたプロセッサの集合に含まれていない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，intnoで指定した割込み要求ラインに対して登録済みの割込みサービスルーチンがある場合に，生成する割込みサービスルーチンがそれと異なるクラスに属する場合にも，E_RSATRエラーとなる．さらに，ターゲット定義で，割込みサービスルーチンが属することができるクラスに制限がある場合がある．生成する割込みサービスルーチンの属するクラスが，ターゲット定義の制限に合致しない場合にも，E_RSATRエラーとなる．

isrpriは，TMIN_ISRPRI以上，TMAX_ISRPRI以下でなければならない．

静的APIにおいて，isrが不正である場合にE_PARエラーが検出されるか否かは，ターゲット定義である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ATT_ISRのみをサポートする．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，acre_isrもサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ATT_ISRのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ATT_ISRのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ATT_ISRのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

割込みサービスルーチンの生成情報に，isrpri（割込みサービスルーチンの割込み優先度）を追加した．CRE_ISRは，μITRON4.0仕様に定義されていない静的APIである．

AID_ISR　　割付け可能な割込みサービスルーチンIDの数の指定〔SD〕

【静的API】

```
AID_ISR(uint_t noisr)
```

【パラメータ】

uint_t	noisr	割付け可能な割込みサービスルーチンIDの数

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインまたはクラスが不正）

【機能】

noisrで指定した数の割込みサービスルーチンIDを，割込みサービスルーチンを生成するサービスコールによって割付け可能な割込みサービスルーチンIDとして確保する．

noisrは整数定数式パラメータである．

SAC_ISR　　割込みサービスルーチンのアクセス許可ベクタの設定〔SP〕
sac_isr　　割込みサービスルーチンのアクセス許可ベクタの設定〔TPD〕

【静的API】

```
SAC_ISR(ID isrid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,
                                    ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

【C言語API】

```
ER ercd = sac_isr(ID isrid, const ACVCT *p_acvct)
```

【パラメータ】

ID	isrid	対象割込みサービスルーチンのID番号
ACVCT *	p_acvct	アクセス許可ベクタを入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊アクセス許可ベクタ（パケットの内容）

ACPTN	acptn1	通常操作1のアクセス許可パターン
ACPTN	acptn2	通常操作2のアクセス許可パターン

	ACPTN	acptn3	管理操作のアクセス許可パターン
	ACPTN	acptn4	参照操作のアクセス許可パターン

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（isridが不正）
E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正：SAC_ISRの場合）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象割込みサービスルーチンが未登録）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（対象割込みサービスルーチンに対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（p_acvctが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象割込みサービスルーチンは静的APIで生成された：sac_isrの場合，対象割込みサービスルーチンに対してアクセス許可ベクタが設定済み：SAC_ISRの場合）

【機能】

isridで指定した割込みサービスルーチン（対象割込みサービスルーチン）のアクセス許可ベクタ（4つのアクセス許可パターンの組）を，各パラメータで指定した値に設定する．

静的APIにおいては，isridはオブジェクト識別名，acptn1〜acptn4は整数定数式パラメータである．

SAC_ISRは，対象割込みサービスルーチンが属する保護ドメイン（この仕様ではカーネルドメインに限られる）の囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，SAC_ISR，sac_isrをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，SAC_ISR，sac_isrをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，SAC_ISR，sac_isrをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，SAC_ISR，sac_isrをサポートしない．

【未決定事項】

割込みサービスルーチンのアクセス許可ベクタを設けず，システム状態のアクセス許可ベクタでアクセス保護する方法も考えられる．

---

del_isr　　割込みサービスルーチンの削除〔TD〕

【C言語API】

```
ER ercd = del_isr(ID isrid)
```

【パラメータ】

ID	isrid	対象割込みサービスルーチンのID番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_ID	不正ID番号（cycidが不正）
E_NOEXS〔D〕	オブジェクト未登録（対象割込みサービスルーチンが未登録）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（対象割込みサービスルーチンに対する管理操作が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（対象割込みサービスルーチンは静的APIで生成された）

【機能】

isridで指定した割込みサービスルーチン（対象割込みサービスルーチン）を削除する．具体的な振舞いは以下の通り．

対象割込みサービスルーチンの登録が解除され，その割込みサービスルーチンIDが未使用の状態に戻される．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，del_isrをサポートしない．ただし，動的生成機能拡張パッケージでは，del_isrをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，del_isrをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，del_isrをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，del_isrをサポートしない．

---

ref_isr　　割込みサービスルーチンの状態参照〔T〕

【C言語API】
　ER ercd = ref_isr(ID isrid, T_RISR *pk_risr)

☆未完成

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ref_isrをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ref_isrをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ref_isrをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ref_isrをサポートしない．

DEF_INH　　割込みハンドラの定義〔S〕
def_inh　　割込みハンドラの定義〔TD〕

【静的API】
　DEF_INH(INHNO inhno, { ATR inhatr, INTHDR inthdr })

【C言語API】
　ER ercd = def_inh(INHNO inhno, const T_DINH *pk_dinh)

【パラメータ】

INHNO	inhno	割込みハンドラ番号
T_DINH *	pk_dinh	割込みハンドラの定義情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊割込みハンドラの定義情報（パケットの内容）

ATR	inhatr	割込みハンドラ属性
INTHDR	inthdr	割込みハンドラの先頭番地

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出

		し，CPUロック状態からの呼出し）
	E_RSATR	予約属性（inhatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
	E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
	E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_dinhが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
	E_PAR	パラメータエラー（inhno，inthdrが不正）
	E_OBJ	オブジェクト状態エラー（条件については機能の項を参照すること）

【機能】

inhnoで指定した割込みハンドラ番号（対象割込みハンドラ番号）に対して，各パラメータで指定した割込みハンドラ定義情報に従って，割込みハンドラを定義する．ただし，def_inhにおいてpk_dinhをNULLにした場合には，対象割込みハンドラ番号に対する割込みハンドラの定義を解除する．

静的APIにおいては，inhnoとinhatrは整数定数式パラメータ，inthdrは一般定数式パラメータである．

割込みハンドラを定義する場合（DEF_INHの場合およびdef_inhにおいてpk_dinhをNULL以外にした場合）には，次のエラーが検出される．

対象割込みハンドラ番号に対応する割込み要求ラインの属性が設定されていない場合には，E_OBJエラーとなる．また，対象割込みハンドラ番号に対してすでに割込みハンドラが定義されている場合と，対象割込みハンドラ番号に対応する割込み番号を対象に割込みサービスルーチンが登録されている場合にも，E_OBJエラーとなる．

ターゲット定義の拡張で，カーネル管理外の割込みに対しても割込みハンドラを定義できる場合には，次のエラーが検出される．カーネル管理外の割込みハンドラを対象として，inhatrにTA_NONKERNELを指定しない場合には，E_OBJエラーとなる．逆に，カーネル管理の割込みハンドラを対象として，inhatrにTA_NONKERNELを指定した場合にも，E_OBJエラーとなる．また，ターゲット定義でカーネル管理外に固定されている割込みハンドラがある場合には，それを対象割込みハンドラに指定して，inhatrにTA_NONKERNELを指定しない場合には，E_RSATRエラーとなる．逆に，ターゲット定義でカーネル管理に固定されている割込みハンドラがある場合には，それを対象割込みハンドラに指定して，inhatrにTA_NONKERNELを指定した場合には，E_RSATRエラーとなる．

保護機能対応カーネルにおいて，DEF_INHは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，def_inhで割込みハンドラを定義する場合には，割込みハンドラの属する保護ドメインを設定する必要はなく，割込みハンドラ属性にTA_DOM(domid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_DOM(TDOM_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

マルチプロセッサ対応カーネルで，登録する割込みハンドラの属するクラスの初期割付けプロセッサが，その割込みが要求されるプロセッサでない場合には，

E_RSATRエラーとなる．また，ターゲット定義で，割込みハンドラが属することができるクラスに制限がある場合がある．登録する割込みハンドラの属するクラスが，ターゲット定義の制限に合致しない場合にも，E_RSATRエラーとなる．

割込みハンドラの定義を解除する場合（def_inhにおいてpk_dinhをNULLにした場合）で，対象割込みハンドラ番号に対して割込みハンドラが定義されていない場合には，E_OBJエラーとなる．また，対象割込みハンドラ番号に対して定義された割込みハンドラが，静的APIで定義されたものである場合には，ターゲット定義でE_OBJエラーとなる場合がある．

ターゲット定義で，対象割込みハンドラを定義（または定義解除）できない場合には，E_PARエラーとなる．具体的には，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，def_inhを呼び出したタスクが割り付けられているプロセッサから，対象割込みハンドラを定義（または定義解除）できない場合が，これに該当する．

静的APIにおいて，inthdrが不正である場合にE_PARエラーが検出されるか否かは，ターゲット定義である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，DEF_INHのみをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，DEF_INHのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，DEF_INHのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，DEF_INHのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

inthdrのデータ型をINTHDRに変更した．

def_inhによって定義済みの割込みハンドラを再定義しようとした場合に，E_OBJエラーとすることにした．割込みハンドラの定義を変更するには，一度定義を解除してから，再度定義する必要がある．

---

dis_int　　割込みの禁止〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = dis_int(INTNO intno)
```

【パラメータ】

INTNO	intno	割込み番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し）
E_NOSPT	未サポートエラー（dis_intがサポートされていない）
E_PAR	パラメータエラー（intnoが不正，その他の条件については機能の項を参照すること）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作2が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（intnoで指定した割込み要求ラインに対して割込み要求ライン属性が設定されていない）

【機能】

intnoで指定した割込み要求ライン（対象割込み要求ライン）の割込み要求禁止フラグをセットする．

ターゲット定義で，対象割込み要求ラインの割込み要求禁止フラグをセットできない場合には，E_PARエラーとなる．具体的には，対象割込み要求ラインに対して割込み要求禁止フラグがサポートされていない場合や，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，dis_intを呼び出したタスクが割り付けられているプロセッサから，対象割込み要求ラインの割込み要求禁止フラグが操作できない場合が，これに該当する．

ターゲット定義で，割込み要求禁止フラグの振舞いが，この仕様の規定と異なる場合がある．特にマルチプロセッサ対応カーネルでは，あるプロセッサからdis_intを呼び出して割込み要求禁止フラグをセットしても，他のプロセッサに対しては割込みがマスクされない場合がある．

ターゲット定義で，dis_intがサポートされていない場合がある．dis_intがサポートされている場合には，TOPPERS_SUPPORT_DIS_INTがマクロ定義される．サポートされていない場合にdis_intを呼び出すと，E_NOSPTエラーが返るか，リンク時にエラーとなる．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様で実装定義としていたintnoの意味を標準化した．

CPUロック状態でも呼び出せるものとした．

---

ena_int　割込みの許可〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ena_int(INTNO intno)
```

【パラメータ】

INTNO	intno	割込み番号

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し）
E_NOSPT	未サポートエラー（ena_intがサポートされていない）
E_PAR	パラメータエラー（intnoが不正，その他の条件については機能の項を参照すること）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作2が許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（intnoで指定した割込み要求ラインに対して割込み要求ライン属性が設定されていない）

【機能】

intnoで指定した割込み要求ライン（対象割込み要求ライン）の割込み要求禁止フラグをクリアする．

ターゲット定義で，対象割込み要求ラインの割込み要求禁止フラグをクリアできない場合には，E_PARエラーとなる．具体的には，対象割込み要求ラインに対して割込み要求禁止フラグがサポートされていない場合や，マルチプロセッサ対応カーネルにおいて，ena_intを呼び出したタスクが割り付けられているプロセッサから，対象割込み要求ラインの割込み要求禁止フラグが操作できない場合が，これに該当する．

ターゲット定義で，割込み要求禁止フラグの振舞いが，この仕様の規定と異なる場合がある．特にマルチプロセッサ対応カーネルでは，あるプロセッサからena_intを呼び出して割込み要求禁止フラグをクリアしても，他のプロセッサに対しては割込みがマスク解除されない場合がある．

ターゲット定義で，ena_intがサポートされていない場合がある．ena_intがサポートされている場合には，TOPPERS_SUPPORT_ENA_INTがマクロ定義される．サポートされていない場合にena_intを呼び出すと，E_NOSPTエラーが返るか，リンク時にエラーとなる．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様で実装定義としていたintnoの意味を標準化した．

CPUロック状態でも呼び出せるものとした．

---

ref_int　割込み要求ラインの参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = ref_int(INTNO intno, T_RINT *pk_rint)
```

☆未完成

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，ref_intをサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，ref_intをサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，ref_intをサポートしない．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，ref_intをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

---

chg_ipm　　割込み優先度マスクの変更〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = chg_ipm(PRI intpri)
```

【パラメータ】

PRI	intpri	割込み優先度マスク

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_PAR	パラメータエラー（intpriが不正）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する通常操作2が許可されていない）

【機能】

割込み優先度マスクを，intpriで指定した値に変更する．

intpriは，TMIN_INTPRI以上，TIPM_ENAALL以下でなければならない．ただし，ターゲット定義の拡張として，TMIN_INTPRIよりも小さい値を指定できる場合がある．

【補足説明】

割込み優先度マスクをTIPM_ENAALLに変更した場合，ディスパッチ保留状態が解除され，ディスパッチが起こる可能性がある．また，タスク例外処理ルーチンの実行が開始される可能性がある．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，chg_ipmをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，サービスコールの名称およびパラメータの名称が実装定義となっているサービスコールである．

---

get_ipm　　割込み優先度マスクの参照〔T〕

【C言語API】

```
ER ercd = get_ipm(PRI *p_intpri)
```

【パラメータ】

PRI *	p_intpri	割込み優先度マスクを入れるメモリ領域へのポインタ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	エラーコード
PRI	intpri	割込み優先度マスク

【エラーコード】

E_CTX	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_OACV〔P〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する参照操作が許可されていない）
E_MACV〔P〕	メモリアクセス違反（p_intpriが指すメモリ領域への書込みアクセスが許可されていない）

【機能】

割込み優先度マスクの現在値を参照する．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，get_ipmをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，サービスコールの名称およびパラメータの名称が実装定義となっているサービスコールである．

4.10 CPU例外管理機能

CPU例外ハンドラは，カーネルが実行を制御する処理単位である．CPU例外ハンドラは，CPU例外ハンドラ番号と呼ぶオブジェクト番号によって識別する．

保護機能対応カーネルにおいて，CPU例外ハンドラは，カーネルドメインに属する．

CPU例外ハンドラ属性に標準で指定できる属性はないが，ターゲットによっては，ターゲット定義のCPU例外ハンドラ属性を指定できる場合がある．ターゲット定義のCPU例外ハンドラ属性として，次の属性を予約している．

```
    TA_DIRECT           CPU例外ハンドラを直接呼び出す
```

C言語によるCPU例外ハンドラの記述形式は次の通り．

```
    void cpu_exception_handler(void *p_excinf)
    {
        CPU例外ハンドラ本体
    }
```

p_excinfには，CPU例外の情報を記憶しているメモリ領域の先頭番地が渡される．これは，CPU例外ハンドラ内で，CPU例外発生時の状態を参照する際に必要となる．

DEF_EXC　　CPU例外ハンドラの定義〔S〕
def_exc　　CPU例外ハンドラの定義〔TD〕

【静的API】

```
   DEF_EXC(EXCNO excno, { ATR excatr, EXCHDR exchdr })
```

【C言語API】

```
   ER ercd = def_exc(EXCNO excno, const T_DEXC *pk_dexc)
```

【パラメータ】

EXCNO	excno	CPU例外ハンドラ番号
T_DEXC *	pk_dexc	CPU例外ハンドラの定義情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊CPU例外ハンドラの定義情報（パケットの内容）

ATR	excatr	CPU例外ハンドラ属性
EXCHDR	exchdr	CPU例外ハンドラの先頭番地

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（excatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（excno，exchdrが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_dexcが指すメモリ領域への読出

		しアクセスが許可されていない)
	E_OBJ	オブジェクト状態エラー（定義済みのCPU例外ハンドラ番号に対する再定義，未定義のCPU例外ハンドラ番号に対する定義解除)

【機能】

excnoで指定したCPU例外ハンドラ番号（対象CPU例外ハンドラ番号）に対して，各パラメータで指定したCPU例外ハンドラ定義情報に従って，CPU例外ハンドラを定義する．ただし，def_excにおいてpk_dexcをNULLにした場合には，対象CPU例外ハンドラ番号に対するCPU例外ハンドラの定義を解除する．

静的APIにおいては，excnoとexcatrは整数定数式パラメータ，exchdrは一般定数式パラメータである．

CPU例外ハンドラを定義する場合（DEF_EXCの場合およびdef_excにおいてpk_dexcをNULL以外にした場合）で，対象CPU例外ハンドラ番号に対してすでにCPU例外ハンドラが定義されている場合には，E_OBJエラーとなる．

保護機能対応カーネルにおいて，DEF_EXCは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，def_excでCPU例外ハンドラを定義する場合には，CPU例外ハンドラの属する保護ドメインを設定する必要はなく，CPU例外ハンドラ属性にTA_DOM(domid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_DOM(TDOM_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

マルチプロセッサ対応カーネルで，登録するCPU例外ハンドラの属するクラスの初期割付けプロセッサが，そのCPU例外が発生するプロセッサでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

CPU例外ハンドラの定義を解除する場合（def_excにおいてpk_dexcをNULLにした場合）で，対象CPU例外ハンドラ番号に対してCPU例外ハンドラが定義されていない場合には，E_OBJエラーとなる．また，対象CPU例外ハンドラ番号に対して定義されたCPU例外ハンドラが，静的APIで定義されたものである場合には，ターゲット定義でE_OBJエラーとなる場合がある．

静的APIにおいて，exchdrが不正である場合にE_PARエラーが検出されるか否かは，ターゲット定義である．

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，DEF_EXCのみをサポートする．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，DEF_EXCのみをサポートする．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，DEF_EXCのみをサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，DEF_EXCのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

def_excによって，定義済みのCPU例外ハンドラを再定義しようとした場合に，E_OBJエラーとすることにした．

---

xsns_dpn　CPU例外発生時のディスパッチ保留状態の参照〔TI〕

【C言語API】

```
bool_t stat = xsns_dpn(void *p_excinf)
```

【パラメータ】

void *	p_excinf	CPU例外の情報を記憶しているメモリ領域の先頭番地

【リターンパラメータ】

bool_t	state	ディスパッチ保留状態

【機能】

CPU例外発生時のディスパッチ保留状態を参照する．具体的な振舞いは以下の通り．

実行中のCPU例外ハンドラの起動原因となったCPU例外が，カーネル管理外のCPU例外でなく，タスクコンテキストで発生し，そのタスクがディスパッチ保留状態でなかった場合にfalse，そうでない場合にtrueが返る．

保護機能対応のカーネルにおいて，xsns_dpnをタスクコンテキストから呼び出した場合には，trueが返る．

p_excinfには，CPU例外ハンドラに渡されるp_excinfパラメータをそのまま渡す．

【使用方法】

xsns_dpnは，CPU例外ハンドラの中で，どのようなリカバリ処理が可能かを判別したい場合に使用する．xsns_dpnがfalseを返した場合（trueを返した場合ではないので注意すること），非タスクコンテキスト用のサービスコールを用いてCPU例外を起こしたタスクよりも優先度の高いタスクを起動または待ち解除し，そのタスクでリカバリ処理を行うことができる．ただし，CPU例外を起こしたタスクが最高優先度の場合には，この方法でリカバリ処理を行うことはできない．

【使用上の注意】

xsns_dpnは，E_CTXエラーを返すことがないために〔TI〕となっているが，CPU例外ハンドラから呼び出すためのものである．CPU例外ハンドラ以外から呼び出した場合や，p_excinfに正しい値を渡さなかった場合，xsns_dpnが返す値は意

味を持たない.

どちらの条件でtrueが返るか間違いやすいので注意すること.

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，xsns_dpnをサポートしない.

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである.

【仕様決定の理由】

保護機能対応のカーネルにおいては，xsns_dpnをユーザドメインから呼び出すことは禁止すべきである．ユーザドメインの実行中は，必ずタスクコンテキストであるため，xsns_dpnをタスクコンテキストから呼び出した場合に必ずtrueを返す仕様とすることで，xsns_dpnをユーザドメインから呼び出すことを実質的に禁止している.

---

xsns_xpn　CPU例外発生時のタスク例外処理保留状態の参照〔TI〕

【C言語API】

```
bool_t stat = xsns_xpn(void *p_excinf)
```

【パラメータ】

void *	p_excinf	CPU例外の情報を記憶しているメモリ領域の先頭番地

【リターンパラメータ】

bool_t	state	タスク例外処理保留状態

【機能】

CPU例外発生時にタスク例外処理ルーチンを実行開始できない状態であったかを参照する．具体的な振舞いは以下の通り.

実行中のCPU例外ハンドラの起動原因となったCPU例外が，カーネル管理外のCPU例外でなく，タスクコンテキストで発生し，そのタスクがタスク例外処理ルーチンを実行開始できる状態であった場合にfalse，そうでない場合にtrueが返る.

保護機能対応カーネルにおいて，CPU例外が発生したタスクがユーザタスクの場合には，ユーザスタック領域の残りが少なく，タスク例外処理ルーチンを実行開始できない（タスク例外処理ルーチンを実行開始しようとすると，タスク例外実行開始時スタック不正例外が発生する）場合にも，trueを返す.

保護機能対応のカーネルにおいて，xsns_xpnをタスクコンテキストから呼び出した場合には，trueが返る.

p_excinfには，CPU例外ハンドラに渡されるp_excinfパラメータをそのまま渡す.

【使用方法】

xsns_xpnは，CPU例外ハンドラの中で，どのようなリカバリ処理が可能かを判別したい場合に使用する．xsns_xpnがfalseを返した場合（trueを返した場合ではないので注意すること），非タスクコンテキスト用のサービスコールを用いてCPU例外を起こしたタスクにタスク例外を要求し，タスク例外処理ルーチンでリカバリ処理を行うことができる．

【使用上の注意】

xsns_xpnは，E_CTXエラーを返すことがないために〔TI〕となっているが，CPU例外ハンドラから呼び出すためのものである．CPU例外ハンドラ以外から呼び出した場合や，p_excinfに正しい値を渡さなかった場合，xsns_xpnが返す値は意味を持たない．

どちらの条件でtrueが返るか間違いやすいので注意すること．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，xsns_xpnをサポートしない．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていないサービスコールである．

【仕様決定の理由】

保護機能対応のカーネルにおいては，xsns_xpnをユーザドメインから呼び出すことは禁止すべきである．ユーザドメインの実行中は，必ずタスクコンテキストであるため，xsns_xpnをタスクコンテキストから呼び出した場合に必ずtrueを返す仕様とすることで，xsns_xpnをユーザドメインから呼び出すことを実質的に禁止している．

4.11 拡張サービスコール管理機能

拡張サービスコールは，非特権モードで実行される処理単位から，特権モードで実行すべきルーチンを呼び出すための機能である．特権モードで実行するルーチンを，拡張サービスコールと呼ぶ．拡張サービスコールは，特権モードで実行される処理単位からも呼び出すことができる．

保護機能対応カーネルにおいて，拡張サービスコールは，カーネルドメインに属する．拡張サービスコールは，それを呼び出す処理単位とは別の処理単位であり，拡張サービスコールからカーネルオブジェクトをアクセスする場合には，拡張サービスコールがアクセスの主体となる．そのため，拡張サービスコールからは，すべてのカーネルオブジェクトに対して，すべての種別のアクセスを行うことが許可される．

保護機能対応でないカーネルでは，非特権モードと特権モードの区別がないた

め，拡張サービスコール管理機能をサポートしない．

C言語による拡張サービスコールの記述形式は次の通り．

```
ER_UINT extended_svc(intptr_t par1, intptr_t par2, intptr_t par3,
                             intptr_t par4, intptr_t par5, ID cdmid)
{
    拡張サービスコール本体
}
```

cdmidには，拡張サービスコールを呼び出した処理単位が属する保護ドメインのID番号が渡される．すなわち，拡張サービスコールから呼び出した場合にはTDOM_KERNEL（＝-1）が，タスク本体（拡張サービスコールを除く）から呼び出した場合にはそのタスク（自タスク）の属する保護ドメインIDが渡される．

par1～par5には，拡張サービスコールに対するパラメータが渡される．

拡張サービスコール管理機能に関連するカーネル構成マクロは次の通り．

TMAX_FNCD	拡張サービスコールの機能番号の最大値（動的生成対応カーネルでは，登録できる拡張サービスコールの数に一致）

【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】

ASPカーネルでは，拡張サービスコール管理機能をサポートしない．

【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】

FMPカーネルでは，拡張サービスコール管理機能をサポートしない．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，拡張サービスコール管理機能をサポートする．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，拡張サービスコール管理機能をサポートしない．

【未決定事項】

動的生成対応カーネルにおいてTMAX_FNCDを設定する方法については，現時点では未決定である．

【μITRON4.0仕様との関係】

この仕様では，拡張サービスコールに対するパラメータを，intptr_t型のパラメータ5個に固定した．

拡張サービスコールに，それを呼び出した処理単位が属する保護ドメインのID

番号を渡す機能を追加した.

TMAX_FNCDは，μITRON4.0仕様に規定されていないカーネル構成マクロである.

DEF_SVC　　拡張サービスコールの定義〔SP〕
def_svc　　拡張サービスコールの定義〔TPD〕

【静的API】

```
DEF_SVC(FN fncd, { ATR svcatr, EXTSVC extsvc, SIZE stksz })
```

【C言語API】

```
ER ercd = def_svc(FN fncd, const T_DSVC *pk_dsvc)
```

【パラメータ】

FN	fncd	拡張サービスコールの機能コード
T_DSVC *	pk_dsvc	拡張サービスコールの定義情報を入れたパケットへのポインタ（静的APIを除く）

＊拡張サービスコールの定義情報（パケットの内容）

ATR	svcatr	拡張サービスコール属性
EXTSVC	extsvc	拡張サービスコールの先頭番地
SIZE	stksz	拡張サービスコールで使用するスタックサイズ

【リターンパラメータ】

ER	ercd	正常終了（E_OK）またはエラーコード

【エラーコード】

E_CTX〔s〕	コンテキストエラー（非タスクコンテキストからの呼出し，CPUロック状態からの呼出し）
E_RSATR	予約属性（svcatrが不正または使用できない，属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（fncd，extsvcが不正）
E_OACV〔sP〕	オブジェクトアクセス違反（システム状態に対する管理操作が許可されていない）
E_MACV〔sP〕	メモリアクセス違反（pk_dsvcが指すメモリ領域への読出しアクセスが許可されていない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（定義済みの機能コードに対する再定義，未定義の機能コードに対する定義解除）

【機能】

fncdで指定した機能コード（対象機能コード）に対して，各パラメータで指定した拡張サービスコール定義情報に従って，拡張サービスコールを定義する.
ただし，def_svcにおいてpk_dsvcをNULLにした場合には，対象機能コードに対する拡張サービスコールの定義を解除する.

静的APIにおいては，fncd，svcatr，stkszは整数定数式パラメータ，svchdrは一般定数式パラメータである.

拡張サービスコールを定義する場合（DEF_SVCの場合およびdef_svcにおいて

pk_dsvcをNULL以外にした場合）で，対象機能コードに対してすでに拡張サービスコールが定義されている場合には，E_OBJエラーとなる．

DEF_SVCは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，def_svcで拡張サービスコールを定義する場合には，拡張サービスコールの属する保護ドメインを設定する必要はなく，拡張サービスコール属性にTA_DOM(domid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_DOM(TDOM_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，DEF_SVCは，クラスの囲みの外に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．また，def_svcで拡張サービスコールを定義する場合には，拡張サービスコールの属するクラスを設定する必要はなく，拡張サービスコール属性にTA_CLS(clsid)を指定した場合にはE_RSATRエラーとなる．ただし，TA_CLS(TCLS_SELF)を指定した場合には，指定が無視され，E_RSATRエラーは検出されない．

拡張サービスコールの定義を解除する場合（def_svcにおいてpk_dsvcをNULLにした場合）で，対象機能コードに対して拡張サービスコールが定義されていない場合には，E_OBJエラーとなる．

拡張サービスコールの機能コードには，正の値を用いる．fncdが0または負の値の場合には，E_PARエラーとなる．また，fncdがTMAX_FNCDよりも大きい場合にも，E_PARエラーとなる．

【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】

HRP2カーネルでは，DEF_SVCのみをサポートする．

【μITRON4.0仕様との関係】

拡張サービスコールの定義情報に，stksz（拡張サービスコールで使用するスタックサイズ）を追加した．

extsvcのデータ型を，EXTSVCに変更した．

---

cal_svc　　拡張サービスコールの呼出し〔TIP〕

【C言語API】

```
ER_UINT ercd = cal_svc(FN fcnd, intptr_t par1, intptr_t par2,
                       intptr_t par3, intptr_t par4, intptr_t par5)
```

【パラメータ】

FN	fncd	呼び出す拡張サービスコールの機能コード
intptr_t	par1	拡張サービスコールへの第1パラメータ
intptr_t	par2	拡張サービスコールへの第2パラメータ
intptr_t	par3	拡張サービスコールへの第3パラメータ
intptr_t	par4	拡張サービスコールへの第4パラメータ
intptr_t	par5	拡張サービスコールへの第5パラメータ

【リターンパラメータ】
　ER_UINT　　ercd　　正常終了（正の値または0）またはエラーコード

【エラーコード】
　E_SYS　　システムエラー（拡張サービスコールのネストレベルが上限を超える）
　E_RSFN　　予約機能コード（fncdが不正．fncdに対して拡張サービスコールが定義されていない）
　E_NOMEM　　メモリ不足（スタックの残り領域が不足）
＊その他，拡張サービスコールが返すエラーコードがそのまま返る．

【機能】

fncdで指定した機能コードの拡張サービスコールを，par1，par2，…，par5をパラメータとして呼び出し，拡張サービスコールの返値を返す．

fncdが不正な値である場合や，fncdで指定した機能コードに対して拡張サービスコールが定義されていない場合には，E_RSFNエラーとなる．

また，タスクコンテキストから呼び出した場合には，次のエラーが検出される．スタックの残り領域が，拡張サービスコールで使用するスタックサイズよりも小さい場合には，E_NOMEMエラーとなる．また，拡張サービスコールのネストレベルが上限（255）を超える場合には，E_SYSエラーが返る．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様では，cal_svcでカーネルのサービスコールを呼び出せるかどうかは実装定義としているが，この仕様では，カーネルのサービスコールを呼び出せないこととした．

拡張サービスコールが呼び出される時に，スタックの残り領域のサイズをチェックする機能を追加した．

拡張サービスコールに対するパラメータを，intptr_t型のパラメータ5個に固定し，cal_svcから返るエラー（E_SYS，E_RSFN，E_NOMEM）について規定した．

【仕様決定の理由】

パラメータの型と数を固定したのは，型チェックを厳密にできるようにし，パラメータをコンパイラやコーリングコンベンションによらずに正しく渡せるようにするためである．

4.12 システム構成管理機能

システム構成管理機能には，非タスクコンテキスト用スタック領域を設定する機能，初期化ルーチンと終了処理ルーチンを登録する機能，カーネルのコンフィギュレーション情報やバージョン情報を参照する機能が含まれる．

非タスクコンテキスト用スタック領域は，非タスクコンテキストで実行される

処理単位が用いるスタック領域である．

保護機能対応カーネルにおいて，非タスクコンテキスト用のスタック領域は，カーネルの用いるオブジェクト管理領域と同様に扱われる．

初期化ルーチンは，カーネルが実行を制御する処理単位で，カーネルの動作開始の直前に，カーネル非動作状態で実行される．

保護機能対応カーネルにおいて，初期化ルーチンは，カーネルドメインに属する．

初期化ルーチン属性に指定できる属性はない．そのため初期化ルーチン属性には，TA_NULLを指定しなければならない．

C言語による初期化ルーチンの記述形式は次の通り．

```
void initialization_routine(intptr_t exinf)
{
    初期化ルーチン本体
}
```

exinfには，初期化ルーチンの拡張情報が渡される．

終了処理ルーチンは，カーネルが実行を制御する処理単位で，カーネルの動作終了の直後に，カーネル非動作状態で実行される．

保護機能対応カーネルにおいて，終了処理ルーチンは，カーネルドメインに属する．

終了処理ルーチン属性に指定できる属性はない．そのため終了処理ルーチン属性には，TA_NULLを指定しなければならない．

C言語による終了処理ルーチンの記述形式は次の通り．

```
void termination_routine(intptr_t exinf)
{
    終了処理ルーチン本体
}
```

exinfには，終了処理ルーチンの拡張情報が渡される．

【μITRON4.0仕様との関係】

非タスクコンテキスト用スタック領域の設定と，終了処理ルーチンは，μITRON4.0仕様に規定されていない機能である．

DEF_ICS　　非タスクコンテキスト用スタック領域の設定〔S〕

【静的API】

```
DEF_ICS({ SIZE istksz, STK_T *istk })
```

【パラメータ】

＊非タスクコンテキスト用スタック領域の設定情報

SIZE	istksz	非タスクコンテキスト用スタック領域のサイズ（バイト数）
STK_T	istk	非タスクコンテキスト用スタック領域の先頭番地

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（istksz，istkが不正）
E_NOMEM	メモリ不足（非タスクコンテキスト用スタック領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（非タスクコンテキスト用スタック領域がすでに設定されている，その他の条件については機能の項を参照すること）

【機能】

各パラメータで指定した非タスクコンテキスト用スタック領域の設定情報に従って，非タスクコンテキスト用スタック領域を設定する．

istkszは整数定数式パラメータ，istkは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

istkをNULLとした場合，istkszで指定したサイズのスタック領域を，コンフィギュレータが確保する．istkszにターゲット定義の制約に合致しないサイズを指定した時には，ターゲット定義の制約に合致するようにサイズを大きい方に丸めて確保する．

istkにNULL以外を指定した場合，istkとistkszで指定したスタック領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．スタック領域をアプリケーションで確保する方法については，「2.15.3 カーネル共通マクロ」の節を参照すること．その方法に従わず，istkやistkszにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．

保護機能対応カーネルでは，istkとistkszで指定した非タスクコンテキスト用のスタック領域がカーネル専用のメモリオブジェクトに含まれない場合，E_OBJエラーとなる．

DEF_ICSにより非タスクコンテキスト用スタック領域を設定しない場合，ターゲット定義のデフォルトのサイズのスタック領域を，コンフィギュレータが確保する．

マルチプロセッサ対応カーネルでは，非タスクコンテキスト用スタック領域はプロセッサ毎に確保する必要がある．DEF_ICSにより設定する非タスクコンテキスト用スタック領域は，DEF_ICSの記述をその囲みの中に含むクラスの初期割付けプロセッサが使用する．そのプロセッサに対してすでに非タスクコンテキスト用スタック領域が設定されている場合には，E_OBJエラーとなる．

保護機能対応カーネルにおいて，DEF_ICSは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】

SSPカーネルでは，istkにはNULLを指定しなくてはならず，その場合でも，コンフィギュレータは非タスクコンテキスト用のスタック領域を確保しない．これは，SSPカーネルでは，すべての処理単位が共有スタック領域を使用し，非タスクコンテキストのみが用いるスタック領域を持たないためである．そのため，DEF_ICSの役割は，非タスクコンテキストが用いるスタック領域のサイズを指定することのみとなる．itskにNULL以外を指定した場合には，E_PARエラーとなる．

共有スタック領域の設定方法については，DEF_STKの項を参照すること．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていない静的APIである．

DEF_STK　　共有スタック領域の設定〔S〕

【静的API】

```
DEF_STK({ SIZE stksz, STK_T *stk })
```

【パラメータ】

＊共有スタック領域の設定情報

SIZE	stksz	共有スタック領域のサイズ（バイト数）
STK_T	stk	共有スタック領域の先頭番地

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（属する保護ドメインかクラスが不正）
E_PAR	パラメータエラー（stksz，stkが不正）
E_NOMEM	メモリ不足（共有スタック領域が確保できない）
E_OBJ	オブジェクト状態エラー（共有スタック領域がすでに設定されている，その他の条件については機能の項を参照すること）

【サポートするカーネル】

DEF_STKは，TOPPERS/SSPカーネルのみがサポートする静的APIである．他のカーネルは，DEF_STKをサポートしない．

【機能】

各パラメータで指定した共有スタック領域の設定情報に従って，共有スタック領域を設定する．

stkszは整数定数式パラメータ，stkは一般定数式パラメータである．コンフィギュレータは，静的APIのメモリ不足（E_NOMEM）エラーを検出することができない．

stkをNULLとした場合，stkszで指定したサイズのスタック領域を，コンフィギュレータが確保する．stkszにターゲット定義の制約に合致しないサイズを指定した時には，ターゲット定義の制約に合致するようにサイズを大きい方に丸めて確保する．

stkにNULL以外を指定した場合，stkとstkszで指定したスタック領域は，アプリケーションで確保しておく必要がある．スタック領域をアプリケーションで確保する方法については，「2.15.3 カーネル共通マクロ」の節を参照すること．その方法に従わず，stkやstkszにターゲット定義の制約に合致しない先頭番地やサイズを指定した時には，E_PARエラーとなる．

コンフィギュレータは，各タスクのスタック領域のサイズと，非タスクコンテキスト用のスタック領域のサイズから，共有スタック領域に必要なサイズを計算する．DEF_STKにより共有スタック領域を設定しない場合，必要なサイズの共有スタック領域を，コンフィギュレータが確保する．

stkszに指定したスタック領域のサイズが，共有スタック領域に必要なサイズよりも小さい場合，コンフィギュレータは警告メッセージを出力する．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていない静的APIである．

ATT_INI　　初期化ルーチンの追加〔S〕

【静的API】

```
ATT_INI({ ATR iniatr, intptr_t exinf, INIRTN inirtn })
```

【パラメータ】

＊初期化ルーチンの追加情報

ATR	iniatr	初期化ルーチン属性
intptr_t	exinf	初期化ルーチンの拡張情報
INIRTN	inirtn	初期化ルーチンの先頭番地

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（iniatrが不正または使用できない，属する保護ドメインが不正）
E_PAR	パラメータエラー（inirtnが不正）

【機能】

各パラメータで指定した初期化ルーチン追加情報に従って，初期化ルーチンを追加する．

iniatrは整数定数式パラメータ，exinfとinirtnは一般定数式パラメータである．

保護機能対応カーネルにおいて，ATT_INIは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

inirtnが不正である場合にE_PARエラーが検出されるか否かは，ターゲット定義

である．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，クラスに属さないグローバル初期化ルーチンはマスタプロセッサで実行され，クラスに属するローカル初期化ルーチンはそのクラスの初期割付けプロセッサにより実行される．

ATT_TER　　終了処理ルーチンの追加〔S〕

【静的API】

```
ATT_TER({ ATR teratr, intptr_t exinf, TERRTN terrtn })
```

【パラメータ】

＊終了処理ルーチンの追加情報

ATR	teratr	終了処理ルーチン属性
intptr_t	exinf	終了処理ルーチンの拡張情報
TERRTN	terrtn	終了処理ルーチンの先頭番地

【エラーコード】

E_RSATR	予約属性（teratrが不正または使用できない，属する保護ドメインが不正）
E_PAR	パラメータエラー（terrtnが不正）

【機能】

各パラメータで指定した終了処理ルーチン追加情報に従って，終了処理ルーチンを追加する．

teratrは整数定数式パラメータ，exinfとterrtnは一般定数式パラメータである．

保護機能対応カーネルにおいて，ATT_TERは，カーネルドメインの囲みの中に記述しなければならない．そうでない場合には，E_RSATRエラーとなる．

terrtnが不正である場合にE_PARエラーが検出されるか否かは，ターゲット定義である．

【補足説明】

マルチプロセッサ対応カーネルでは，クラスに属さないグローバル終了処理ルーチンはマスタプロセッサで実行され，クラスに属するローカル終了処理ルーチンはそのクラスの初期割付けプロセッサにより実行される．

【μITRON4.0仕様との関係】

μITRON4.0仕様に定義されていない静的APIである．

---

ref_cfg　　コンフィギュレーション情報の参照〔T〕

【C言語API】

```
14751         ER ercd = ref_cfg(T_RCFG *pk_rcfg)
14752
14753     ☆未完成
14754
14755     【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】
14756
14757     ASPカーネルでは，ref_cfgをサポートしない．
14758
14759     【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】
14760
14761     FMPカーネルでは，ref_cfgをサポートしない．
14762
14763     【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】
14764
14765     HRP2カーネルでは，ref_cfgをサポートしない．
14766
14767     【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】
14768
14769     SSPカーネルでは，ref_cfgをサポートしない．
14770     ----------------------------------------------------------------------
14771     ref_ver      バージョン情報の参照〔T〕
14772
14773     【C言語API】
14774         ER ercd = ref_ver(T_RVER *pk_rver)
14775
14776     ☆未完成
14777
14778     【TOPPERS/ASPカーネルにおける規定】
14779
14780     ASPカーネルでは，ref_verをサポートしない．
14781
14782     【TOPPERS/FMPカーネルにおける規定】
14783
14784     FMPカーネルでは，ref_verをサポートしない．
14785
14786     【TOPPERS/HRP2カーネルにおける規定】
14787
14788     HRP2カーネルでは，ref_verをサポートしない．
14789
14790     【TOPPERS/SSPカーネルにおける規定】
14791
14792     SSPカーネルでは，ref_verをサポートしない．
14793     ----------------------------------------------------------------------
14794
14795
14796     第５章　リファレンス
14797
14798     5.1 サービスコール一覧
14799
14800     (1) タスク管理機能
```

```
14801
14802       ER_ID tskid = acre_tsk(const T_CTSK *pk_ctsk)                  〔TD〕
14803       ER ercd = sac_tsk(ID tskid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
14804       ER ercd = del_tsk(ID tskid)                                    〔TD〕
14805       ER ercd = act_tsk(ID tskid)                                    〔T〕
14806       ER ercd = iact_tsk(ID tskid)                                   〔I〕
14807       ER ercd = mact_tsk(ID tskid, ID prcid)                         〔TM〕
14808       ER ercd = imact_tsk(ID tskid, ID prcid)                        〔IM〕
14809       ER_UINT actcnt = can_act(ID tskid)                             〔T〕
14810       ER ercd = mig_tsk(ID tskid, ID prcid)                          〔TM〕
14811       ER ercd = ext_tsk()                                            〔T〕
14812       ER ercd = ter_tsk(ID tskid)                                    〔T〕
14813       ER ercd = chg_pri(ID tskid, PRI tskpri)                        〔T〕
14814       ER ercd = get_pri(ID tskid, PRI *p_tskpri)                     〔T〕
14815       ER ercd = get_inf(intptr_t *p_exinf)                           〔T〕
14816       ER ercd = ref_tsk(ID tskid, T_RTSK *pk_rtsk)                   〔T〕
14817
14818   (2) タスク付属同期機能
14819
14820       ER ercd = slp_tsk()                                            〔T〕
14821       ER ercd = tslp_tsk(TMO tmout)                                  〔T〕
14822       ER ercd = wup_tsk(ID tskid)                                    〔T〕
14823       ER ercd = iwup_tsk(ID tskid)                                   〔I〕
14824       ER_UINT wupcnt = can_wup(ID tskid)                             〔T〕
14825       ER ercd = rel_wai(ID tskid)                                    〔T〕
14826       ER ercd = irel_wai(ID tskid)                                   〔I〕
14827       ER ercd = sus_tsk(ID tskid)                                    〔T〕
14828       ER ercd = rsm_tsk(ID tskid)                                    〔T〕
14829       ER ercd = dis_wai(ID tskid)                                    〔TP〕
14830       ER ercd = idis_wai(ID tskid)                                   〔IP〕
14831       ER ercd = ena_wai(ID tskid)                                    〔TP〕
14832       ER ercd = iena_wai(ID tskid)                                   〔IP〕
14833       ER ercd = dly_tsk(RELTIM dlytim)                               〔T〕
14834
14835   (3) タスク例外処理機能
14836
14837       ER ercd = def_tex(ID tskid, const T_DTEX *pk_dtex)             〔TD〕
14838       ER ercd = ras_tex(ID tskid, TEXPTN rasptn)                     〔T〕
14839       ER ercd = iras_tex(ID tskid, TEXPTN rasptn)                    〔I〕
14840       ER ercd = dis_tex()                                            〔T〕
14841       ER ercd = ena_tex()                                            〔T〕
14842       bool_t state = sns_tex()                                       〔TI〕
14843       ER ercd = ref_tex(ID tskid, T_RTEX *pk_rtex)                   〔T〕
14844
14845   (4) 同期・通信機能
14846
14847   セマフォ
14848
14849       ER_ID semid = acre_sem(const T_CSEM *pk_csem)                  〔TD〕
14850       ER ercd = sac_sem(ID semid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
```

```
14851       ER ercd = del_sem(ID semid)                                    〔TD〕
14852       ER ercd = sig_sem(ID semid)                                    〔T〕
14853       ER ercd = isig_sem(ID semid)                                   〔I〕
14854       ER ercd = wai_sem(ID semid)                                    〔T〕
14855       ER ercd = pol_sem(ID semid)                                    〔T〕
14856       ER ercd = twai_sem(ID semid, TMO tmout)                        〔T〕
14857       ER ercd = ini_sem(ID semid)                                    〔T〕
14858       ER ercd = ref_sem(ID semid, T_RSEM *pk_rsem)                   〔T〕
14859
14860   イベントフラグ
14861
14862       ER_ID flgid = acre_flg(const T_CFLG *pk_cflg)                  〔TD〕
14863       ER ercd = sac_flg(ID flgid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
14864       ER ercd = del_flg(ID flgid)                                    〔TD〕
14865       ER ercd = set_flg(ID flgid, FLGPTN setptn)                     〔T〕
14866       ER ercd = iset_flg(ID flgid, FLGPTN setptn)                    〔I〕
14867       ER ercd = clr_flg(ID flgid, FLGPTN clrptn)                     〔T〕
14868       ER ercd = wai_flg(ID flgid, FLGPTN waiptn,                     〔T〕
14869                                   MODE wfmode, FLGPTN *p_flgptn)
14870       ER ercd = pol_flg(ID flgid, FLGPTN waiptn,                     〔T〕
14871                                   MODE wfmode, FLGPTN *p_flgptn)
14872       ER ercd = twai_flg(ID flgid, FLGPTN waiptn,                    〔T〕
14873                           MODE wfmode, FLGPTN *p_flgptn, TMO tmout)
14874       ER ercd = ini_flg(ID flgid)                                    〔T〕
14875       ER ercd = ref_flg(ID flgid, T_RFLG *pk_rflg)                   〔T〕
14876
14877   データキュー
14878
14879       ER_ID dtqid = acre_dtq(const T_CDTQ *pk_cdtq)                  〔TD〕
14880       ER ercd = sac_dtq(ID dtqid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
14881       ER ercd = del_dtq(ID dtqid)                                    〔TD〕
14882       ER ercd = snd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)                     〔T〕
14883       ER ercd = psnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)                    〔T〕
14884       ER ercd = ipsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)                   〔I〕
14885       ER ercd = tsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data, TMO tmout)         〔T〕
14886       ER ercd = fsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)                    〔T〕
14887       ER ercd = ifsnd_dtq(ID dtqid, intptr_t data)                   〔I〕
14888       ER ercd = rcv_dtq(ID dtqid, intptr_t *p_data)                  〔T〕
14889       ER ercd = prcv_dtq(ID dtqid, intptr_t *p_data)                 〔T〕
14890       ER ercd = trcv_dtq(ID dtqid, intptr_t *p_data, TMO tmout)      〔T〕
14891       ER ercd = ini_dtq(ID dtqid)                                    〔T〕
14892       ER ercd = ref_dtq(ID dtqid, T_RDTQ *pk_rdtq)                   〔T〕
14893
14894   優先度データキュー
14895
14896       ER_ID pdqid = acre_pdq(const T_CPDQ *pk_cpdq)                  〔TD〕
14897       ER ercd = sac_pdq(ID pdqid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
14898       ER ercd = del_pdq(ID pdqid)                                    〔TD〕
14899       ER ercd = snd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri)        〔T〕
14900       ER ercd = psnd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri)       〔T〕
```

```
14901       ER ercd = ipsnd_pdq(ID pdqid, intptr_t data, PRI datapri)        〔I〕
14902       ER ercd = tsnd_pdq(ID pdqid, intptr_t data,                      〔T〕
14903                                           PRI datapri, TMO tmout)
14904       ER ercd = rcv_pdq(ID pdqid, intptr_t *p_data, PRI *p_datapri)    〔T〕
14905       ER ercd = prcv_pdq(ID pdqid, intptr_t *p_data, PRI *p_datapri)   〔T〕
14906       ER ercd = trcv_pdq(ID pdqid, intptr_t *p_data,                   〔T〕
14907                                         PRI *p_datapri, TMO tmout)
14908       ER ercd = ini_pdq(ID pdqid)                                      〔T〕
14909       ER ercd = ref_pdq(ID pdqid, T_RPDQ *pk_rpdq)                     〔T〕
14910
14911   メールボックス
14912
14913       ER_ID mbxid = acre_mbx(const T_CMBX *pk_cmbx)                    〔TDp〕
14914       ER ercd = del_mbx(ID mbxid)                                      〔TDp〕
14915       ER ercd = snd_mbx(ID mbxid, T_MSG *pk_msg)                       〔Tp〕
14916       ER ercd = rcv_mbx(ID mbxid, T_MSG **ppk_msg)                     〔Tp〕
14917       ER ercd = prcv_mbx(ID mbxid, T_MSG **ppk_msg)                    〔Tp〕
14918       ER ercd = trcv_mbx(ID mbxid, T_MSG **ppk_msg, TMO tmout)         〔Tp〕
14919       ER ercd = ini_mbx(ID mbxid)                                      〔Tp〕
14920       ER ercd = ref_mbx(ID mbxid, T_RMBX *pk_rmbx)                     〔Tp〕
14921
14922   ミューテックス
14923
14924       ER_ID mtxid = acre_mtx(const T_CMTX *pk_cmtx)                    〔TD〕
14925       ER ercd = sac_mtx(ID mtxid, const ACVCT *p_acvct)                〔TPD〕
14926       ER ercd = del_mtx(ID mtxid)                                      〔TD〕
14927       ER ercd = loc_mtx(ID mtxid)                                      〔T〕
14928       ER ercd = ploc_mtx(ID mtxid)                                     〔T〕
14929       ER ercd = tloc_mtx(ID mtxid, TMO tmout)                          〔T〕
14930       ER ercd = unl_mtx(ID mtxid)                                      〔T〕
14931       ER ercd = ini_mtx(ID mtxid)                                      〔T〕
14932       ER ercd = ref_mtx(ID mtxid, T_RMTX *pk_rmtx)                     〔T〕
14933
14934   メッセージバッファ
14935
14936   ☆未完成
14937
14938   スピンロック
14939
14940       ER_ID spnid = acre_spn(const T_CSPN *pk_cspn)                    〔TMD〕
14941       ER ercd = sac_spn(ID spnid, const ACVCT *p_acvct)                〔TPMD〕
14942       ER ercd = del_spn(ID spnid)                                      〔TMD〕
14943       ER ercd = loc_spn(ID spnid)                                      〔TM〕
14944       ER ercd = iloc_spn(ID spnid)                                     〔IM〕
14945       ER ercd = try_spn(ID spnid)                                      〔TM〕
14946       ER ercd = itry_spn(ID spnid)                                     〔IM〕
14947       ER ercd = unl_spn(ID spnid)                                      〔TM〕
14948       ER ercd = iunl_spn(ID spnid)                                     〔IM〕
14949       ER ercd = ref_spn(ID spnid, T_RSPN *pk_rspn)                     〔TM〕
14950
```

(5) メモリプール管理機能

固定長メモリプール

```
    ER_ID mpfid = acre_mpf(const T_CMPF *pk_cmpf)                  〔TD〕
    ER ercd = sac_mpf(ID mpfid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
    ER ercd = del_mpf(ID mpfid)                                    〔TD〕
    ER ercd = get_mpf(ID mpfid, void **p_blk)                      〔T〕
    ER ercd = pget_mpf(ID mpfid, void **p_blk)                     〔T〕
    ER ercd = tget_mpf(ID mpfid, void **p_blk, TMO tmout)          〔T〕
    ER ercd = rel_mpf(ID mpfid, void *blk)                         〔T〕
    ER ercd = ini_mpf(ID mpfid)                                    〔T〕
    ER ercd = ref_mpf(ID mpfid, T_RMPF *pk_rmpf)                   〔T〕
```

(6) 時間管理機能

システム時刻管理

```
    ER ercd = get_tim(SYSTIM *p_systim)                            〔T〕
    ER ercd = get_utm(SYSUTM *p_sysutm)                            〔TI〕
```

周期ハンドラ

```
    ER_ID cycid = acre_cyc(const T_CCYC *pk_ccyc)                  〔TD〕
    ER ercd = sac_cyc(ID cycid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
    ER ercd = del_cyc(ID cycid)                                    〔TD〕
    ER ercd = sta_cyc(ID cycid)                                    〔T〕
    ER ercd = msta_cyc(ID cycid, ID prcid)                         〔TM〕
    ER ercd = stp_cyc(ID cycid)                                    〔T〕
    ER ercd = ref_cyc(ID cycid, T_RCYC *pk_rcyc)                   〔T〕
```

アラームハンドラ

```
    ER_ID almid = acre_alm(const T_CALM *pk_calm)                  〔TD〕
    ER ercd = sac_alm(ID almid, const ACVCT *p_acvct)              〔TPD〕
    ER ercd = del_alm(ID almid)                                    〔TD〕
    ER ercd = sta_alm(ID almid, RELTIM almtim)                     〔T〕
    ER ercd = ista_alm(ID almid, RELTIM almtim)                    〔I〕
    ER ercd = msta_alm(ID almid, RELTIM almtim, ID prcid)          〔TM〕
    ER ercd = imsta_alm(ID almid, RELTIM almtim, ID prcid)         〔IM〕
    ER ercd = stp_alm(ID almid)                                    〔T〕
    ER ercd = istp_alm(ID almid)                                   〔I〕
    ER ercd = ref_alm(ID almid, T_RALM *pk_ralm)                   〔T〕
```

オーバランハンドラ

```
    ER ercd = def_ovr(const T_DOVR *pk_dovr)                       〔TD〕
    ER ercd = sta_ovr(ID tskid, OVRTIM ovrtim)                     〔T〕
    ER ercd = ista_ovr(ID tskid, OVRTIM ovrtim)                    〔I〕
    ER ercd = stp_ovr(ID tskid)                                    〔T〕
```

```
15001       ER ercd = istp_ovr(ID tskid)                                    〔I〕
15002       ER ercd = ref_ovr(ID tskid, T_ROVR *pk_rovr)                    〔T〕
15003
15004   (7) システム状態管理機能
15005
15006       ER ercd = sac_sys(const ACVCT *p_acvct)                         〔TPD〕
15007       ER ercd = rot_rdq(PRI tskpri)                                   〔T〕
15008       ER ercd = irot_rdq(PRI tskpri)                                  〔I〕
15009       ER ercd = mrot_rdq(PRI tskpri, ID prcid)                        〔TM〕
15010       ER ercd = imrot_rdq(PRI tskpri, ID prcid)                       〔IM〕
15011       ER ercd = get_tid(ID *p_tskid)                                  〔T〕
15012       ER ercd = iget_tid(ID *p_tskid)                                 〔I〕
15013       ER ercd = get_did(ID *p_domid)                                  〔TP〕
15014       ER ercd = get_pid(ID *p_prcid)                                  〔TM〕
15015       ER ercd = iget_pid(ID *p_prcid)                                 〔IM〕
15016       ER ercd = loc_cpu()                                             〔T〕
15017       ER ercd = iloc_cpu()                                            〔I〕
15018       ER ercd = unl_cpu()                                             〔T〕
15019       ER ercd = iunl_cpu()                                            〔I〕
15020       ER ercd = dis_dsp()                                             〔T〕
15021       ER ercd = ena_dsp()                                             〔T〕
15022       bool_t state = sns_ctx()                                        〔TI〕
15023       bool_t state = sns_loc()                                        〔TI〕
15024       bool_t state = sns_dsp()                                        〔TI〕
15025       bool_t state = sns_dpn()                                        〔TI〕
15026       bool_t state = sns_ker()                                        〔TI〕
15027       ER ercd = ext_ker()                                             〔TI〕
15028       ER ercd = ref_sys(T_RSYS *pk_rsys)                              〔T〕
15029
15030   (8) メモリオブジェクト管理機能
15031
15032       ER ercd = att_mem(const T_AMEM *pk_amem)                        〔TPD〕
15033       ER ercd = att_pma(const T_AMEM *pk_apma)                        〔TPD〕
15034       ER ercd = sac_mem(const void *base, const ACVCT *p_acvct)       〔TPD〕
15035       ER ercd = det_mem(const void *base)                             〔TPD〕
15036       ER ercd = prb_mem(const void *base, SIZE size,                  〔TP〕
15037                                           ID tskid, MODE pmmode)
15038       ER ercd = ref_mem(const void *base, T_RMEM *pk_rmem)            〔TP〕
15039
15040   (9) 割込み管理機能
15041
15042       ER ercd = cfg_int(INTNO intno, const T_CINT *pk_cint)           〔TD〕
15043       ER_ID isrid = acre_isr(const T_CISR *pk_cisr)                   〔TD〕
15044       ER ercd = sac_isr(ID isrid, const ACVCT *p_acvct)               〔TPD〕
15045       ER ercd = del_isr(ID isrid)                                     〔TD〕
15046       ER ercd = ref_isr(ID isrid, T_RISR *pk_risr)                    〔T〕
15047       ER ercd = def_inh(INHNO inhno, const T_DINH *pk_dinh)           〔TD〕
15048       ER ercd = dis_int(INTNO intno)                                  〔T〕
15049       ER ercd = ena_int(INTNO intno)                                  〔T〕
15050       ER ercd = ref_int(INTNO intno, T_RINT *pk_rint)                 〔T〕
```

```
15051       ER ercd = chg_ipm(PRI intpri)                                   〔T〕
15052       ER ercd = get_ipm(PRI *p_intpri)                                〔T〕
15053
15054   (10) CPU例外管理機能
15055
15056       ER ercd = def_exc(EXCNO excno, const T_DEXC *pk_dexc)           〔TD〕
15057       bool_t stat = xsns_dpn(void *p_excinf)                          〔TI〕
15058       bool_t stat = xsns_xpn(void *p_excinf)                          〔TI〕
15059
15060   (11) 拡張サービスコール管理機能
15061
15062       ER ercd = def_svc(FN fncd, const T_DSVC *pk_dsvc)               〔TPD〕
15063       ER_UINT ercd = cal_svc(FN fcnd, intptr_t par1, intptr_t par2,   〔TIP〕
15064                           intptr_t par3, intptr_t par4, intptr_t par5)
15065
15066   (12) システム構成管理機能
15067
15068       ER ercd = ref_cfg(T_RCFG *pk_rcfg)                              〔T〕
15069       ER ercd = ref_ver(T_RVER *pk_rver)                              〔T〕
15070
15071   5.2 静的API一覧
15072
15073   (1) タスク管理機能
15074
15075     ＊保護機能対応でないカーネルの場合
15076       CRE_TSK(ID tskid, { ATR tskatr, intptr_t exinf, TASK task,      〔S〕
15077                           PRI itskpri, SIZE stksz, STK_T *stk })
15078
15079     ＊保護機能対応カーネルの場合
15080       CRE_TSK(ID tskid, { ATR tskatr, intptr_t exinf, TASK task,      〔SP〕
15081                           PRI itskpri, SIZE stksz, STK_T *stk,
15082                           SIZE sstksz, STK_T *sstk })
15083       ※ sstkszおよびsstkの記述は省略することができる.
15084
15085       AID_TSK(uint_t notsk)                                           〔SD〕
15086       SAC_TSK(ID tskid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SP〕
15087                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15088       DEF_EPR(ID tskid, { PRI exepri })                               〔S〕
15089
15090   (2) タスク付属同期機能
15091
15092       なし
15093
15094   (3) タスク例外処理機能
15095
15096       DEF_TEX(ID tskid, { ATR texatr, TEXRTN texrtn })                〔S〕
15097
15098   (4) 同期・通信機能
15099
15100   セマフォ
```

```
15101
15102       CRE_SEM(ID semid, { ATR sematr, uint_t isemcnt, uint_t maxsem }) 〔S〕
15103       AID_SEM(uint_t nosem)                                           〔SD〕
15104       SAC_SEM(ID semid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SP〕
15105                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15106
15107   イベントフラグ
15108
15109       CRE_FLG(ID flgid, { ATR flgatr, FLGPTN iflgptn })               〔S〕
15110       AID_FLG(uint_t noflg)                                           〔SD〕
15111       SAC_FLG(ID flgid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SP〕
15112                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15113
15114   データキュー
15115
15116       CRE_DTQ(ID dtqid, { ATR dtqatr, uint_t dtqcnt, void *dtqmb })   〔S〕
15117       AID_DTQ(uint_t nodtq)                                           〔SD〕
15118       SAC_DTQ(ID dtqid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SP〕
15119                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15120
15121   優先度データキュー
15122
15123       CRE_PDQ(ID pdqid, { ATR pdqatr, uint_t pdqcnt,                  〔S〕
15124                                       PRI maxdpri, void *pdqmb })
15125       AID_PDQ(uint_t nopdq)                                           〔SD〕
15126       SAC_PDQ(ID pdqid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SP〕
15127                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15128
15129   メールボックス
15130
15131       CRE_MBX(ID mbxid, { ATR mbxatr, PRI maxmpri, void *mprihd })    〔Sp〕
15132       AID_MBX(uint_t nombx)                                           〔SpD〕
15133
15134   ミューテックス
15135
15136       CRE_MTX(ID mtxid, { ATR mtxatr, PRI ceilpri })                  〔S〕
15137       AID_MTX(uint_t nomtx)                                           〔SD〕
15138       SAC_MTX(ID mtxid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SP〕
15139                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15140
15141   メッセージバッファ
15142
15143   ☆未完成
15144
15145   スピンロック
15146
15147       CRE_SPN(ID spnid, { ATR spnatr })                               〔SM〕
15148       AID_SPN(uint_t nospn)                                           〔SMD〕
15149       SAC_SPN(ID spnid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                 〔SPM〕
15150                                   ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
```

15151
15152 (5) メモリプール管理機能
15153
15154 固定長メモリプール
15155
15156 CRE_MPF(ID mpfid, { ATR mpfatr, uint_t blkcnt, uint_t blksz, 〔S〕
15157 MPF_T *mpf, void *mpfmb })
15158 AID_MPF(uint_t nompf) 〔SD〕
15159 SAC_MPF(ID mpfid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, 〔SP〕
15160 ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15161
15162 (6) 時間管理機能
15163
15164 周期ハンドラ
15165
15166 CRE_CYC(ID cycid, { ATR cycatr, intptr_t exinf, CYCHDR cychdr, 〔S〕
15167 RELTIM cyctim, RELTIM cycphs })
15168 AID_CYC(uint_t nocyc) 〔SD〕
15169 SAC_CYC(ID cycid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, 〔SP〕
15170 ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15171
15172 アラームハンドラ
15173
15174 CRE_ALM(ID almid, { ATR almatr, intptr_t exinf, ALMHDR almhdr }) 〔S〕
15175 AID_ALM(uint_t noalm) 〔SD〕
15176 SAC_ALM(ID almid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, 〔SP〕
15177 ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15178
15179 オーバランハンドラ
15180
15181 DEF_OVR({ ATR ovratr, OVRHDR ovrhdr }) 〔S〕
15182
15183 (7) システム状態管理機能
15184
15185 SAC_SYS({ ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, 〔SP〕
15186 ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15187
15188 (8) メモリオブジェクト管理機能
15189
15190 ATT_REG("メモリリージョン名", 〔SP〕
15191 { ATR regatr, void *base, SIZE size })
15192 ATT_SEC("セクション名", { ATR rematr, "メモリリージョン名" }) 〔SP〕
15193 ATA_SEC("セクション名", { ATR rematr, "メモリリージョン名" }, 〔SP〕
15194 { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15195 LNK_SEC("セクション名", { "メモリリージョン名" }) 〔SP〕
15196 ATT_MOD("オブジェクトモジュール名") 〔SP〕
15197 ATA_MOD("オブジェクトモジュール名", 〔SP〕
15198 { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15199 ATT_MEM({ ATR rematr, void *base, SIZE size }) 〔SP〕
15200 ATA_MEM({ ATR rematr, void *base, SIZE size }, 〔SP〕

```
15201           { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15202       ATT_PMA({ ATR mematr, void *base, SIZE size, void *paddr })      〔SP〕
15203       ATA_PMA({ ATR mematr, void *base, SIZE size, void *paddr  },     〔SP〕
15204           { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2, ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15205
15206   (9) 割込み管理機能
15207
15208       CFG_INT(INTNO intno, { ATR intatr, PRI intpri })                  〔S〕
15209       CRE_ISR(ID isrid, { ATR isratr, intptr_t exinf,                   〔S〕
15210                                   INTNO intno, ISR isr, PRI isrpri })
15211       ATT_ISR({ ATR isratr, intptr_t exinf,                             〔S〕
15212                                   INTNO intno, ISR isr, PRI isrpri })
15213       AID_ISR(uint_t noisr)                                             〔SD〕
15214       SAC_ISR(ID isrid, { ACPTN acptn1, ACPTN acptn2,                   〔SP〕
15215                                       ACPTN acptn3, ACPTN acptn4 })
15216       DEF_INH(INHNO inhno, { ATR inhatr, INTHDR inthdr })               〔S〕
15217
15218   (10) CPU例外管理機能
15219
15220       DEF_EXC(EXCNO excno, { ATR excatr, EXCHDR exchdr })               〔S〕
15221
15222   (11) 拡張サービスコール管理機能
15223
15224       DEF_SVC(FN fncd, { ATR svcatr, EXTSVC svcrtn, SIZE stksz })       〔SP〕
15225
15226   (12) システム構成管理機能
15227
15228       DEF_ICS({ SIZE istksz, STK_T *istk })                             〔S〕
15229       DEF_STK({ SIZE stksz, STK_T *stk })                               〔S〕
15230       ATT_INI({ ATR iniatr, intptr_t exinf, INIRTN inirtn })            〔S〕
15231       ATT_TER({ ATR teratr, intptr_t exinf, TERRTN terrtn })            〔S〕
15232
15233   5.3 データ型
15234
15235   5.3.1 TOPPERS共通データ型
15236
15237       int8_t      符号付き8ビット整数（オプション，C99準拠）
15238       uint8_t     符号無し8ビット整数（オプション，C99準拠）
15239       int16_t     符号付き16ビット整数（C99準拠）
15240       uint16_t    符号無し16ビット整数（C99準拠）
15241       int32_t     符号付き32ビット整数（C99準拠）
15242       uint32_t    符号無し32ビット整数（C99準拠）
15243       int64_t     符号付き64ビット整数（オプション，C99準拠）
15244       uint64_t    符号無し64ビット整数（オプション，C99準拠）
15245       int128_t    符号付き128ビット整数（オプション，C99準拠）
15246       uint128_t   符号無し128ビット整数（オプション，C99準拠）
15247
15248       int_least8_t    8ビット以上の符号付き整数（C99準拠）
15249       uint_least8_t   int_least8_t型と同じサイズの符号無し整数（C99準拠）
15250
```

float32_t	IEEE754準拠の32ビット単精度浮動小数点数（オプション）
double64_t	IEEE754準拠の64ビット倍精度浮動小数点数（オプション）
bool_t	真偽値（trueまたはfalse）
int_t	16ビット以上の符号付き整数
uint_t	int_t型と同じサイズの符号無し整数
long_t	32ビット以上かつint_t型以上のサイズの符号付き整数
ulong_t	long_t型と同じサイズの符号無し整数
intptr_t	ポインタを格納できるサイズの符号付き整数（C99準拠）
uintptr_t	intptr_t型と同じサイズの符号無し整数（C99準拠）
FN	機能コード（符号付き整数，int_tに定義）
ER	エラーコード（符号付き整数，int_tに定義）
ID	オブジェクトのID番号（符号付き整数，int_tに定義）
ATR	オブジェクト属性（符号無し整数，uint_tに定義）
STAT	オブジェクトの状態（符号無し整数，uint_tに定義）
MODE	サービスコールの動作モード（符号無し整数，uint_tに定義）
PRI	優先度（符号付き整数，int_tに定義）
SIZE	メモリ領域のサイズ（符号無し整数，ポインタを格納できる サイズの符号無し整数型に定義）
TMO	タイムアウト指定（符号付き整数，単位はミリ秒，int_tに定義）
RELTIM	相対時間（符号無し整数，単位はミリ秒，uint_tに定義）
SYSTIM	システム時刻（符号無し整数，単位はミリ秒，ulong_tに定義）
SYSUTM	性能評価用システム時刻（符号無し整数，単位はマイクロ秒， ulong_tに定義）
FP	プログラムの起動番地（型の定まらない関数ポインタ）
ER_BOOL	エラーコードまたは真偽値（符号付き整数，int_tに定義）
ER_ID	エラーコードまたはID番号（符号付き整数，int_tに定義， 負のID番号は格納できない）
ER_UINT	エラーコードまたは符号無し整数（符号付き整数，int_tに 定義，符号無し整数を格納する場合の有効ビット数はuint_t より1ビット短い）
MB_T	オブジェクト管理領域を確保するためのデータ型
ACPTN	アクセス許可パターン（符号無し32ビット整数，uint32_tに 定義）

```
typedef struct acvct {      /* アクセス許可ベクタ */
    ACPTN   acptn1;         /* 通常操作1のアクセス許可パターン */
    ACPTN   acptn2;         /* 通常操作2のアクセス許可パターン */
    ACPTN   acptn3;         /* 管理操作のアクセス許可パターン */
    ACPTN   acptn4;         /* 参照操作のアクセス許可パターン */
} ACVCT;
```

5.3.2 カーネルの使用するデータ型

15301
15302 TEXPTN タスク例外要因のビットパターン（符号無し整数，uint_tに定義）
15303 FLGPTN イベントフラグのビットパターン（符号無し整数，uint_tに定義）
15304 OVRTIM プロセッサ時間（符号無し整数，単位はマイクロ秒，ulong_tに定義）
15305 INTNO 割込み番号（符号無し整数，uint_tに定義）
15306 INHNO 割込みハンドラ番号（符号無し整数，uint_tに定義）
15307 EXCNO CPU例外ハンドラ番号（符号無し整数，uint_tに定義）
15308
15309 TASK タスクのメインルーチン（関数ポインタ）
15310 TEXRTN タスク例外処理ルーチン（関数ポインタ）
15311 CYCHDR 周期ハンドラ（関数ポインタ）
15312 ALMHDR アラームハンドラ（関数ポインタ）
15313 OVRHDR オーバランハンドラ（関数ポインタ）
15314 ISR 割込みサービスルーチン（関数ポインタ）
15315 INTHDR 割込みハンドラ（関数ポインタ）
15316 EXCHDR CPU例外ハンドラ（関数ポインタ）
15317 EXTSVC 拡張サービスコール（関数ポインタ）
15318 INIRTN 初期化ルーチン（関数ポインタ）
15319 TERRTN 終了処理ルーチン（関数ポインタ）
15320
15321 STK_T スタック領域を確保するためのデータ型
15322 MPF_T 固定長メモリプール領域を確保するためのデータ型
15323
15324 typedef struct t_msg { /* メールボックスのメッセージヘッダ */
15325 struct t_msg *pk_next;
15326 } T_MSG;
15327
15328 typedef struct t_msg_pri { /* 優先度付きメッセージヘッダ */
15329 T_MSG msgque; /* メッセージヘッダ */
15330 PRI msgpri; /* メッセージ優先度 */
15331 } T_MSG_PRI;
15332
15333 5.3.3 カーネルの使用するパケット形式
15334
15335 (1) タスク管理機能
15336
15337 タスクの生成情報のパケット形式
15338
15339 typedef struct t_ctsk {
15340 ATR tskatr; /* タスク属性 */
15341 intptr_t exinf; /* タスクの拡張情報 */
15342 TASK task; /* タスクのメインルーチンの先頭番地 */
15343 PRI itskpri; /* タスクの起動時優先度 */
15344 SIZE stksz; /* タスクのスタック領域のサイズ */
15345 STK_T * stk; /* タスクのスタック領域の先頭番地 */
15346 /* 以下は，保護機能対応カーネルの場合 */
15347 SIZE sstksz; /* タスクのシステムスタック領域のサイズ */
15348 STK_T * sstk; /* タスクのシステムスタック領域の先頭番地 */
15349 } T_CTSK;
15350

タスクの現在状態のパケット形式

```
    typedef struct t_rtsk {
        STAT        tskstat;    /* タスク状態 */
        PRI         tskpri;     /* タスクの現在優先度 */
        PRI         tskbpri;    /* タスクのベース優先度 */
        STAT        tskwait;    /* 待ち要因 */
        ID          wobjid;     /* 待ち対象のオブジェクトのID */
        TMO         lefttmo;    /* タイムアウトするまでの時間 */
        uint_t      actcnt;     /* 起動要求キューイング数 */
        uint_t      wupcnt;     /* 起床要求キューイング数 */
        /* 以下は，保護機能対応カーネルの場合 */
        bool_t      texmsk;     /* タスク例外マスク状態か否か */
        bool_t      waifbd;     /* 待ち禁止状態か否か */
        uint_t      svclevel;   /* 拡張サービスコールのネストレベル */
        /* 以下は，マルチプロセッサ対応カーネルの場合 */
        ID          prcid;      /* 割付けプロセッサのID */
        ID          actprc      /* 次の起動時の割付けプロセッサのID */
    } T_RTSK;
```

(2) タスク付属同期機能

なし

(3) タスク例外処理機能

タスク例外処理ルーチンの定義情報のパケット形式

```
    typedef struct t_dtex {
        ATR         texatr;     /* タスク例外処理ルーチン属性 */
        TEXRTN      texrtn;     /* タスク例外処理ルーチンの先頭番地 */
    } T_DTEX;
```

タスク例外処理の現在状態のパケット形式

```
    typedef struct t_rtex {
        STAT        texstat;    /* タスク例外処理の状態 */
        TEXPTN      pndptn;     /* 保留例外要因 */
    } T_RTEX;
```

(4) 同期・通信機能

セマフォの生成情報のパケット形式

```
    typedef struct t_csem {
        ATR         sematr;     /* セマフォ属性 */
        uint_t      isemcnt;    /* セマフォの初期資源数 */
        uint_t      maxsem;     /* セマフォの最大資源数 */
    } T_CSEM;
```

15401 セマフォの現在状態のパケット形式
15402
15403 ```
typedef struct t_rsem {
    ID   wtskid;   /* セマフォの待ち行列の先頭のタスクのID番号 */
    uint_t   semcnt;   /* セマフォの資源数 */
} T_RSEM;
```
15407
15408 イベントフラグの生成情報のパケット形式
15409
15410 ```
typedef struct t_cflg {
    ATR         flgatr;     /* イベントフラグ属性 */
    FLGPTN      iflgptn;    /* イベントフラグの初期ビットパターン */
} T_CFLG;
```
15414
15415 イベントフラグの現在状態のパケット形式
15416
15417 ```
typedef struct t_rflg {
    ID   wtskid;   /* イベントフラグの待ち行列の先頭のタス
                               クのID番号 */
    FLGPTN   flgptn;   /* イベントフラグのビットパターン */
} T_RFLG;
```
15422
15423 データキューの生成情報のパケット形式
15424
15425 ```
typedef struct t_cdtq {
    ATR         dtqatr;     /* データキュー属性 */
    uint_t      dtqcnt;     /* データキュー管理領域に格納できるデータ数 */
    void *      dtqmb;      /* データキュー管理領域の先頭番地 */
} T_CDTQ;
```
15430
15431 データキューの現在状態のパケット形式
15432
15433 ```
typedef struct t_rdtq {
    ID   stskid;   /* データキューの送信待ち行列の先頭のタ
                               スクのID番号 */
    ID   rtskid;   /* データキューの受信待ち行列の先頭のタ
                               スクのID番号 */
    uint_t   sdtqcnt;   /* データキュー管理領域に格納されている
                               データの数 */
} T_RDTQ;
```
15441
15442 優先度データキューの生成情報のパケット形式
15443
15444 ```
typedef struct t_cpdq {
    ATR         pdqatr;     /* 優先度データキュー属性 */
    uint_t      pdqcnt;     /* 優先度データキュー管理領域に格納でき
                               るデータ数 */
    PRI         maxdpri;    /* 優先度データキューに送信できるデータ
                               優先度の最大値 */
    void *      pdqmb;      /* 優先度データキュー管理領域の先頭番地 */
```

```
15451       } T_CPDQ;
15452
15453   優先度データキューの現在状態のパケット形式
15454
15455       typedef struct t_rpdq {
15456           ID          stskid;     /* 優先度データキューの送信待ち行列の先
15457                                      頭のタスクのID番号 */
15458           ID          rtskid;     /* 優先度データキューの受信待ち行列の先
15459                                      頭のタスクのID番号 */
15460           uint_t      spdqcnt;    /* 優先度データキュー管理領域に格納され
15461                                      ているデータの数 */
15462       } T_RPDQ;
15463
15464   メールボックスの生成情報のパケット形式
15465
15466       typedef struct t_cmbx {
15467           ATR         mbxatr;     /* メールボックス属性 */
15468           PRI         maxmpri;    /* 優先度メールボックスに送信できるメッ
15469                                      セージ優先度の最大値 */
15470           void *      mprihd;     /* 優先度別のメッセージキューヘッダ領域
15471                                      の先頭番地 */
15472       } T_CMBX;
15473
15474   メールボックスの現在状態のパケット形式
15475
15476       typedef struct t_rmbx {
15477           ID          wtskid;     /* メールボックスの待ち行列の先頭のタスク
15478                                      のID番号 */
15479           T_MSG       *pk_msg;    /* メッセージキューの先頭につながれたメッ
15480                                      セージの先頭番地 */
15481       } T_RMBX;
15482
15483   ミューテックスの生成情報のパケット形式
15484
15485       typedef struct t_cmtx {
15486           ATR         mtxatr;     /* ミューテックス属性 */
15487           PRI         ceilpri;    /* ミューテックスの上限優先度 */
15488       } T_CMTX;
15489
15490   ミューテックスの現在状態のパケット形式
15491
15492       typedef struct t_rmtx {
15493           ID          htskid;     /* ミューテックスをロックしているタス
15494                                      クのID番号 */
15495           ID          wtskid;     /* ミューテックスの待ち行列の先頭のタ
15496                                      スクのID番号 */
15497       } T_RMTX;
15498
15499   メッセージバッファの生成情報のパケット形式
15500
```

☆未完成

メッセージバッファの現在状態のパケット形式

☆未完成

スピンロックの生成情報のパケット形式

```
typedef struct t_cspn {
    ATR         spnatr;     /* スピンロック属性 */
} T_CSPN;
```

スピンロックの現在状態のパケット形式

```
typedef struct t_rspn {
    STAT        spnstat     /* スピンロックのロック状態 */
} T_RSPN;
```

(5) メモリプール管理機能

固定長メモリプールの生成情報のパケット形式

```
typedef struct t_cmpf {
    ATR         mpfatr;     /* 固定長メモリプール属性 */
    uint_t      blkcnt;     /* 獲得できる固定長メモリブロックの数 */
    uint_t      blksz;      /* 固定長メモリブロックのサイズ */
    MPF_T *     mpf;        /* 固定長メモリプール領域の先頭番地 */
    void *      mpfmb;      /* 固定長メモリプール管理領域の先頭番地 */
} T_CMPF;
```

固定長メモリプールの現在状態のパケット形式

```
typedef struct t_rmpf {
    ID          wtskid;     /* 固定長メモリプールの待ち行列の先頭の
                               タスクのID番号 */
    uint_t      fblkcnt;    /* 固定長メモリプール領域の空きメモリ領
                               域に割り付けることができる固定長メモ
                               リブロックの数 */
} T_RMPF;
```

(6) 時間管理機能

周期ハンドラの生成情報のパケット形式

```
typedef struct t_ccyc {
    ATR         cycatr;     /* 周期ハンドラ属性 */
    intptr_t    exinf;      /* 周期ハンドラの拡張情報 */
    CYCHDR      cychdr;     /* 周期ハンドラの先頭番地 */
    RELTIM      cyctim;     /* 周期ハンドラの起動周期 */
    RELTIM      cycphs;     /* 周期ハンドラの起動位相 */
```

```
15551       } T_CCYC;
15552
15553   周期ハンドラの現在状態のパケット形式
15554
15555       typedef struct t_rcyc {
15556           STAT        cycstat;    /* 周期ハンドラの動作状態 */
15557           RELTIM      lefttim;    /* 次に周期ハンドラを起動する時刻までの
15558                                      相対時間 */
15559           /* 以下は，マルチプロセッサ対応カーネルの場合 */
15560           ID          prcid;      /* 割付けプロセッサのID */
15561       } T_RCYC;
15562
15563   アラームハンドラの生成情報のパケット形式
15564
15565       typedef struct t_calm {
15566           ATR         almatr;     /* アラームハンドラ属性 */
15567           intptr_t    exinf;      /* アラームハンドラの拡張情報 */
15568           ALMHDR      almhdr;     /* アラームハンドラの先頭番地 */
15569       } T_CALM;
15570
15571   アラームハンドラの現在状態のパケット形式
15572
15573       typedef struct t_ralm {
15574           STAT        almstat;    /* アラームハンドラの動作状態 */
15575           RELTIM      lefttim;    /* アラームハンドラを起動する時刻までの
15576                                      相対時間 */
15577           /* 以下は，マルチプロセッサ対応カーネルの場合 */
15578           ID          prcid;      /* 割付けプロセッサのID */
15579       } T_RALM;
15580
15581   オーバランハンドラの定義情報のパケット形式
15582
15583       typedef struct t_dovr {
15584           ATR         ovratr;     /* オーバランハンドラ属性 */
15585           OVRHDR      ovrhdr;     /* オーバランハンドラの先頭番地 */
15586       } T_DOVR;
15587
15588   オーバランハンドラの現在状態のパケット形式
15589
15590       typedef struct t_rovr {
15591           STAT    ovrstat;        /* オーバランハンドラの動作状態 */
15592           OVRTIM  leftotm;        /* 残りプロセッサ時間 */
15593       } T_ROVR;
15594
15595   (7) システム状態管理機能
15596
15597   システムの現在状態のパケット形式
15598
15599   ☆未完成
15600
```

(8) メモリオブジェクト管理機能

メモリオブジェクトの登録情報のパケット形式

```
    typedef struct t_amem {
        ATR         mematr      /* メモリオブジェクト属性 */
        void *      base        /* 登録するメモリ領域の先頭番地 */
        SIZE        size        /* 登録するメモリ領域のサイズ（バイト数）*/
    } T_AMEM;
```

物理メモリ領域の登録情報のパケット形式

```
    typedef struct t_apma {
        ATR         mematr      /* メモリオブジェクト属性 */
        void *      base        /* 登録するメモリ領域の先頭番地 */
        SIZE        size        /* 登録するメモリ領域のサイズ（バイト数）*/
        void *      paddr       /* 登録するメモリ領域の物理アドレスの先頭
                                   番地 */
    } T_APMA;
```

メモリオブジェクトの現在状態のパケット形式

☆未完成

(9) 割込み管理機能

割込み要求ラインの属性の設定情報のパケット形式

```
    typedef struct t_cint {
        ATR         intatr;     /* 割込み要求ライン属性 */
        PRI         intpri;     /* 割込み優先度 */
    } T_CINT;
```

割込みサービスルーチンの生成情報のパケット形式

```
    typedef struct t_cisr {
        ATR         isratr;     /* 割込みサービスルーチン属性 */
        intptr_t    exinf;      /* 割込みサービスルーチンの拡張情報 */
        INTNO       intno;      /* 割込みサービスルーチンを登録する割込
                                   み番号 */
        ISR         isr;        /* 割込みサービスルーチンの先頭番地 */
        PRI         isrpri;     /* 割込みサービスルーチン優先度 */
    } T_CISR;
```

割込みサービスルーチンの現在状態のパケット形式

☆未完成

割込みハンドラの定義情報のパケット形式

```
    typedef struct t_dinh {
        ATR         inhatr;     /* 割込みハンドラ属性 */
        INTHDR      inthdr;     /* 割込みハンドラの先頭番地 */
    } T_DINH;
```

割込み要求ラインの現在状態のパケット形式

☆未完成

(10) CPU例外管理機能

CPU例外ハンドラの定義情報のパケット形式

```
    typedef struct t_dexc {
        ATR         excatr;     /* CPU例外ハンドラ属性 */
        EXCHDR      exchdr;     /* CPU例外ハンドラの先頭番地 */
    } T_DEXC;
```

(11) 拡張サービスコール管理機能

拡張サービスコールの定義情報のパケット形式

```
    typedef struct t_dsvc {
        ATR         svcatr      /* 拡張サービスコール属性 */
        EXTSVC      svcrtn      /* 拡張サービスコールの先頭番地 */
        SIZE        stksz       /* 拡張サービスコールで使用するスタック
                                   サイズ */
    } T_DSVC;
```

(12) システム構成管理機能

コンフィギュレーション情報のパケット形式

☆未完成

バージョン情報のパケット形式

☆未完成

5.4 定数とマクロ

5.4.1 TOPPERS共通定数

(1) 一般定数

NULL		無効ポインタ
true	1	真
false	0	偽

E_OK	0	正常終了

(2) 整数型に格納できる最大値と最小値

INT8_MAX	int8_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT8_MIN	int8_tに格納できる最小値（オプション，C99準拠）
UINT8_MAX	uint8_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT16_MAX	int16_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT16_MIN	int16_tに格納できる最小値（C99準拠）
UINT16_MAX	uint16_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT32_MAX	int32_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT32_MIN	int32_tに格納できる最小値（C99準拠）
UINT32_MAX	uint32_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT64_MAX	int64_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT64_MIN	int64_tに格納できる最小値（オプション，C99準拠）
UINT64_MAX	uint64_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT128_MAX	int128_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT128_MIN	int128_tに格納できる最小値（オプション，C99準拠）
UINT128_MAX	uint128_tに格納できる最大値（オプション，C99準拠）
INT_LEAST8_MAX	int_least8_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT_LEAST8_MIN	int_least8_tに格納できる最小値（C99準拠）
UINT_LEAST8_MAX	uint_least8_tに格納できる最大値（C99準拠）
INT_MAX	int_tに格納できる最大値（C90準拠）
INT_MIN	int_tに格納できる最小値（C90準拠）
UINT_MAX	uint_tに格納できる最大値（C90準拠）
LONG_MAX	long_tに格納できる最大値（C90準拠）
LONG_MIN	long_tに格納できる最小値（C90準拠）
ULONG_MAX	ulong_tに格納できる最大値（C90準拠）
FLOAT32_MIN	float32_tに格納できる最小の正規化された正の浮動小数点数（オプション）
FLOAT32_MAX	float32_tに格納できる表現可能な最大の有限浮動小数点数（オプション）
DOUBLE64_MIN	double64_tに格納できる最小の正規化された正の浮動小数点数（オプション）
DOUBLE64_MAX	double64_tに格納できる表現可能な最大の有限浮動小数点数（オプション）

(3) 整数型のビット数

CHAR_BIT	char型のビット数（C90準拠）

(4) オブジェクト属性

TA_NULL	0U	オブジェクト属性を指定しない

(5) タイムアウト指定

TMO_POL	0	ポーリング

```
15751       TMO_FEVR    -1      永久待ち
15752       TMO_NBLK    -2      ノンブロッキング
15753
15754   (6) アクセス許可パターン
15755
15756       TACP_KERNEL     0U      カーネルドメインのみにアクセスを許可
15757       TACP_SHARED     ~0U     すべての保護ドメインにアクセスを許可
15758
15759   5.4.2 TOPPERS共通マクロ
15760
15761   (1) 整数定数を作るマクロ
15762
15763       INT8_C(val)         int_least8_t型の定数を作るマクロ（C99準拠）
15764       UINT8_C(val)        uint_least8_t型の定数を作るマクロ（C99準拠）
15765       INT16_C(val)        int16_t型の定数を作るマクロ（C99準拠）
15766       UINT16_C(val)       uint16_t型の定数を作るマクロ（C99準拠）
15767       INT32_C(val)        int32_t型の定数を作るマクロ（C99準拠）
15768       UINT32_C(val)       uint32_t型の定数を作るマクロ（C99準拠）
15769       INT64_C(val)        int64_t型の定数を作るマクロ（オプション，C99準拠）
15770       UINT64_C(val)       uint64_t型の定数を作るマクロ（オプション，C99準拠）
15771       INT128_C(val)       int128_t型の定数を作るマクロ（オプション，C99準拠）
15772       UINT128_C(val)      uint128_t型の定数を作るマクロ（オプション，C99準拠）
15773
15774       UINT_C(val)         uint_t型の定数を作るマクロ
15775       ULONG_C(val)        ulong_t型の定数を作るマクロ
15776
15777   (2) 型に関する情報を取り出すためのマクロ
15778
15779       offsetof(structure, field)  構造体structure中のフィールドfieldの
15780                                   バイト位置を返すマクロ（C90準拠）
15781
15782       alignof(type)               型typeのアラインメント単位を返すマクロ
15783
15784       ALIGN_TYPE(addr, type)      番地addrが型typeに対してアラインしてい
15785                                   るかどうかを返すマクロ
15786
15787   (3) assertマクロ
15788
15789       assert(exp)         expが成立しているかを検査するマクロ（C90準拠）
15790
15791   (4) コンパイラの拡張機能のためのマクロ
15792
15793       inline              インライン関数
15794       Inline              ファイルローカルなインライン関数
15795       asm                 インラインアセンブラ
15796       Asm                 インラインアセンブラ（最適化抑止）
15797       throw()             例外を発生しない関数
15798       NoReturn            リターンしない関数
15799
15800   (5) エラーコード生成・分解マクロ
```

15801
15802 ERCD(mercd, sercd) メインエラーコードmercdとサブエラーコードsercdか
15803 ら，エラーコードを生成するためのマクロ
15804
15805 MERCD(ercd) エラーコードercdからメインエラーコードを抽出する
15806 ためのマクロ
15807 SERCD(ercd) エラーコードercdからサブエラーコードを抽出するた
15808 めのマクロ
15809
15810 (6) アクセス許可パターン生成マクロ
15811
15812 TACP(domid) domidで指定される保護ドメインに属する処理単位の
15813 みにアクセスを許可するアクセス許可パターン
15814
15815 5.4.3 カーネル共通定数
15816
15817 (1) オブジェクト属性
15818
15819 TA_TPRI 0x01U タスクの待ち行列をタスクの優先度順に
15820
15821 (2) 保護ドメインID
15822
15823 TDOM_SELF 0 自タスクの属する保護ドメイン
15824 TDOM_KERNEL -1 カーネルドメイン
15825 TDOM_NONE -2 無所属（保護ドメインに属さない）
15826
15827 (3) その他のカーネル共通定数
15828
15829 TCLS_SELF 0 自タスクの属するクラス
15830
15831 TPRC_NONE 0 割付けプロセッサの指定がない
15832 TPRC_INI 0 初期割付けプロセッサ
15833
15834 TSK_SELF 0 自タスク指定
15835 TSK_NONE 0 該当するタスクがない
15836
15837 TPRI_SELF 0 自タスクのベース優先度の指定
15838 TPRI_INI 0 タスクの起動時優先度の指定
15839
15840 TIPM_ENAALL 0 割込み優先度マスク全解除
15841
15842 5.4.4 カーネル共通マクロ
15843
15844 (1) オブジェクト属性を作るマクロ
15845
15846 TA_DOM(domid) domidで指定される保護ドメインに属する
15847 TA_CLS(clsid) clsidで指定されるクラスに属する
15848
15849 (2) サービスコールの呼出し方法を指定するマクロ
15850

SVC_CALL(svc)		svcで指定されるサービスコールを関数呼出しによって呼び出すための名称

5.4.5 カーネルの機能毎の定数

(1) タスク管理機能

TA_ACT	0x02U	タスクの生成時にタスクを起動する
TA_RSTR	0x04U	生成するタスクを制約タスクとする
TA_FPU		FPUレジスタをコンテキストに含める

TTS_RUN	0x01U	実行状態
TTS_RDY	0x02U	実行可能状態
TTS_WAI	0x04U	待ち状態
TTS_SUS	0x08U	強制待ち状態
TTS_WAS	0x0cU	二重待ち状態
TTS_DMT	0x10U	休止状態

TTW_SLP	0x0001U	起床待ち
TTW_DLY	0x0002U	時間経過待ち
TTW_SEM	0x0004U	セマフォの資源獲得待ち
TTW_FLG	0x0008U	イベントフラグ待ち
TTW_SDTQ	0x0010U	データキューへの送信待ち
TTW_RDTQ	0x0020U	データキューからの受信待ち
TTW_SPDQ	0x0100U	優先度データキューへの送信待ち
TTW_RPDQ	0x0200U	優先度データキューからの受信待ち
TTW_MBX	0x0040U	メールボックスからの受信待ち
TTW_MTX	0x0080U	ミューテックスのロック待ち状態
TTW_MPF	0x2000U	固定長メモリブロックの獲得待ち

TA_FPUの値は，ターゲット定義とする．

(3) タスク例外処理機能

TTEX_ENA	0x01U	タスク例外処理許可状態
TTEX_DIS	0x02U	タスク例外処理禁止状態

(4) 同期・通信機能

イベントフラグ

TA_WMUL	0x02U	複数のタスクが待つのを許す
TA_CLR	0x04U	タスクの待ち解除時にイベントフラグをクリアする

TWF_ORW	0x01U	イベントフラグのOR待ちモード
TWF_ANDW	0x02U	イベントフラグのAND待ちモード

メールボックス

TA_MPRI	0x02U	メッセージキューをメッセージの優先度順にする

スピンロック

TSPN_UNL	0x01U	取得されていない状態
TSPN_LOC	0x02U	取得されている状態

(6) 時間管理機能

周期ハンドラ

TA_STA	0x02U	周期ハンドラの生成時に周期ハンドラを動作開始する
TA_PHS	0x04U	周期ハンドラを生成した時刻を基準時刻とする
TCYC_STP	0x01U	周期ハンドラが動作していない状態
TCYC_STA	0x02U	周期ハンドラが動作している状態

アラームハンドラ

TALM_STP	0x01U	アラームハンドラが動作していない状態
TALM_STA	0x02U	アラームハンドラが動作している状態

オーバランハンドラ

TOVR_STP	0x01U	オーバランハンドラが動作していない状態
TOVR_STA	0x02U	オーバランハンドラが動作している状態

(8) メモリオブジェクト管理機能

TA_NOWRITE	0x01U	書込みアクセス禁止
TA_NOREAD	0x02U	読出しアクセス禁止
TA_EXEC	0x04U	実行アクセス許可
TA_MEMINI	0x08U	メモリの初期化を行う
TA_MEMPRSV	0x10U	メモリの初期化を行わない
TA_SDATA	0x20U	ショートデータ領域に配置
TA_UNCACHE	0x40U	キャッシュ禁止
TA_IODEV	0x80U	周辺デバイスの領域
TA_WTHROUGH		ライトスルーキャッシュを用いる
TA_STDROM	0x02U	標準ROMリージョン
TA_STDRAM	0x04U	標準RAMリージョン
TPM_WRITE	0x01U	書込みアクセス権のチェック
TPM_READ	0x02U	読出しアクセス権のチェック
TPM_EXEC	0x04U	実行アクセス権のチェック

TA_WTHROUGHの値は，ターゲット定義とする．

(9) 割込み管理機能

TA_ENAINT	0x01U	割込み要求禁止フラグをクリア

	TA_EDGE	0x02U	エッジトリガ
	TA_POSEDGE		ポジティブエッジトリガ
	TA_NEGEDGE		ネガティブエッジトリガ
	TA_BOTHEDGE		両エッジトリガ
	TA_LOWLEVEL		ローレベルトリガ
	TA_HIGHLEVEL		ハイレベルトリガ
	TA_NONKERNEL	0x02U	カーネル管理外の割込み

TA_POSEDGE, TA_NEGEDGE, TA_BOTHEDGE, TA_LOWLEVEL, TA_HIGHLEVELの値は，ターゲット定義とする．

(10) CPU例外管理機能

TA_DIRECT	CPU例外ハンドラを直接呼び出す

TA_DIRECTの値は，ターゲット定義とする．

5.4.6 カーネルの機能毎のマクロ

(1) タスク管理機能

COUNT_STK_T(sz)	サイズszのスタック領域を確保するために必要なSTK_T型の配列の要素数
ROUND_STK_T(sz)	要素数COUNT_STK_T(sz)のSTK_T型の配列のサイズ（szを，STK_T型のサイズの倍数になるように大きい方に丸めた値）

(4) 同期・通信機能

TSZ_DTQMB(dtqcnt)	dtqcntで指定した数のデータを格納できるデータキュー管理領域のサイズ（バイト数）
TCNT_DTQMB(dtqcnt)	dtqcntで指定した数のデータを格納できるデータキュー管理領域を確保するために必要なMB_T型の配列の要素数
TSZ_PDQMB(pdqcnt)	pdqcntで指定した数のデータを格納できる優先度データキュー管理領域のサイズ（バイト数）
TCNT_PDQMB(pdqcnt)	pdqcntで指定した数のデータを格納できる優先度データキュー管理領域を確保するために必要なMB_T型の配列の要素数

(5) メモリプール管理機能

COUNT_MPF_T(blksz)	固定長メモリブロックのサイズがblkszの固定長メモリプール領域を確保するために，固定長メモリブロック1つあたりに必要なMPF_T型の配列の要素数を求めるマクロ
ROUND_MPF_T(blksz)	要素数COUNT_MPF_T(blksz)のMPF_T型の配列のサイズ（blkszを，MPF_T型のサイズの倍数になるように大き

い方に丸めた値）

TSZ_MPFMB(blkcnt)	blkcntで指定した数の固定長メモリブロックを管理することができる固定長メモリプール管理領域のサイズ（バイト数）
TCNT_MPFMB(blkcnt)	blkcntで指定した数の固定長メモリブロックを管理することができる固定長メモリプール管理領域を確保するために必要なMB_T型の配列の要素数

5.5 構成マクロ

5.5.1 TOPPERS共通構成マクロ

(1) 相対時間の範囲

TMAX_RELTIM	相対時間に指定できる最大値

5.5.2 カーネル共通構成マクロ

(1) サポートする機能

TOPPERS_SUPPORT_PROTECT	保護機能対応のカーネル
TOPPERS_SUPPORT_MULTI_PRC	マルチプロセッサ対応のカーネル
TOPPERS_SUPPORT_DYNAMIC_CRE	動的生成対応のカーネル

(2) 優先度の範囲

TMIN_TPRI	タスク優先度の最小値（＝1）
TMAX_TPRI	タスク優先度の最大値

(3) プロセッサの数

TNUM_PRCID	プロセッサの数

(4) 特殊な役割を持ったプロセッサ

TOPPERS_MASTER_PRCID	マスタプロセッサのID番号
TOPPERS_SYSTIM_PRCID	システム時刻管理プロセッサのID番号

(5) タイマ方式

TOPPERS_SYSTIM_LOCAL	ローカルタイマ方式の場合にマクロ定義
TOPPERS_SYSTIM_GLOBAL	グローバルタイマ方式の場合にマクロ定義

(6) バージョン情報

TKERNEL_MAKER	カーネルのメーカコード（＝0x0118）
TKERNEL_PRID	カーネルの識別番号
TKERNEL_SPVER	カーネル仕様のバージョン番号
TKERNEL_PRVER	カーネルのバージョン番号

5.5.3 カーネルの機能毎の構成マクロ

(1) タスク管理機能

TMAX_ACTCNT	タスクの起動要求キューイング数の最大値
TNUM_TSKID	登録できるタスクの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたタスクの数に一致）

(2) タスク付属同期機能

TMAX_WUPCNT	タスクの起床要求キューイング数の最大値

(3) タスク例外処理機能

TBIT_TEXPTN	タスク例外要因のビット数（TEXPTNの有効ビット数）

(4) 同期・通信機能

セマフォ

TMAX_MAXSEM	セマフォの最大資源数の最大値
TNUM_SEMID	登録できるセマフォの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたセマフォの数に一致）

イベントフラグ

TBIT_FLGPTN	イベントフラグのビット数（FLGPTNの有効ビット数）
TNUM_FLGID	登録できるイベントフラグの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたイベントフラグの数に一致）

データキュー

TNUM_DTQID	登録できるデータキューの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたデータキューの数に一致）

優先度データキュー

TMIN_DPRI	データ優先度の最小値（＝1）
TMAX_DPRI	データ優先度の最大値
TNUM_PDQID	登録できる優先度データキューの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された優先度データキューの数に一致）

メールボックス

TMIN_MPRI　　メッセージ優先度の最小値（＝1）
TMAX_MPRI　　メッセージ優先度の最大値

TNUM_MBXID　　登録できるメールボックスの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたメールボックスの数に一致）

ミューテックス

TNUM_MTXID　　登録できるミューテックスの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたミューテックスの数に一致）

スピンロック

TNUM_SPNID　　登録できるスピンロックの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたミューテックスの数に一致）

(5) メモリプール管理機能

固定長メモリプール

TNUM_MPFID　　登録できる固定長メモリプールの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された固定長メモリプールの数に一致）

(6) 時間管理機能

システム時刻管理

TIC_NUME　タイムティックの周期（単位はミリ秒）の分子
TIC_DENO　タイムティックの周期（単位はミリ秒）の分母

TOPPERS_SUPPORT_GET_UTM　　get_utmがサポートされている

周期ハンドラ

TNUM_CYCID　　登録できる周期ハンドラの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された周期ハンドラの数に一致）

アラームハンドラ

TNUM_ALMID　　登録できるアラームハンドラの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録されたアラームハンドラの数に一致）

オーバランハンドラ

TMAX_OVRTIM	プロセッサ時間に指定できる最大値
TOPPERS_SUPPORT_OVRHDR	オーバランハンドラ機能がサポートされている

(7) システム状態管理機能

なし

(8) メモリオブジェクト管理機能

TOPPERS_SUPPORT_ATT_MOD	ATT_MOD／ATA_MODがサポートされている
TOPPERS_SUPPORT_ATT_PMA	ATT_PMA／ATA_PMA／att_pmaがサポートされている

(9) 割込み管理機能

TMIN_INTPRI	割込み優先度の最小値（最高値）
TMAX_INTPRI	割込み優先度の最大値（最低値，＝-1）
TMIN_ISRPRI	割込みサービスルーチン優先度の最小値（＝1）
TMAX_ISRPRI	割込みサービスルーチン優先度の最大値
TOPPERS_SUPPORT_DIS_INT	dis_intがサポートされている
TOPPERS_SUPPORT_ENA_INT	ena_intがサポートされている

(10) CPU例外管理機能

なし

(11) 拡張サービスコール管理機能

TNUM_FNCD	登録できる拡張サービスコールの数（動的生成対応でないカーネルでは，静的APIによって登録された拡張サービスコールの数に一致）

(12) システム構成管理機能

なし

5.6 エラーコード一覧

(1) メインエラーコード

E_SYS	-5	システムエラー
E_NOSPT	-9	未サポート機能
E_RSFN	-10	予約機能コード
E_RSATR	-11	予約属性

E_PAR	-17	パラメータエラー
E_ID	-18	不正ID番号
E_CTX	-25	コンテキストエラー
E_MACV	-26	メモリアクセス違反
E_OACV	-27	オブジェクトアクセス違反
E_ILUSE	-28	サービスコール不正使用
E_NOMEM	-33	メモリ不足
E_NOID	-34	ID番号不足
E_NORES	-35	資源不足
E_OBJ	-41	オブジェクト状態エラー
E_NOEXS	-42	オブジェクト未登録
E_QOVR	-43	キューイングオーバフロー
E_RLWAI	-49	待ち禁止状態または待ち状態の強制解除
E_TMOUT	-50	ポーリング失敗またはタイムアウト
E_DLT	-51	待ちオブジェクトの削除または再初期化
E_CLS	-52	待ちオブジェクトの状態変化
E_WBLK	-57	ノンブロッキング受付け
E_BOVR	-58	バッファオーバフロー

5.7 機能コード一覧

	-0	-1	-2	-3
-0x01	予約	予約	予約	予約
-0x05	act_tsk	iact_tsk	can_act	ext_tsk
-0x09	ter_tsk	chg_pri	get_pri	get_inf
-0x0d	slp_tsk	tslp_tsk	wup_tsk	iwup_tsk
-0x11	can_wup	rel_wai	irel_wai	予約
-0x15	dis_wai	idis_wai	ena_wai	iena_wai
-0x19	sus_tsk	rsm_tsk	dly_tsk	予約
-0x1d	ras_tex	iras_tex	dis_tex	ena_tex
-0x21	sns_tex	ref_tex	予約	予約
-0x25	sig_sem	isig_sem	wai_sem	pol_sem
-0x29	twai_sem	予約	予約	予約
-0x2d	set_flg	iset_flg	clr_flg	wai_flg
-0x31	pol_flg	twai_flg	予約	予約
-0x35	snd_dtq	psnd_dtq	ipsnd_dtq	tsnd_dtq
-0x39	fsnd_dtq	ifsnd_dtq	rcv_dtq	prcv_dtq
-0x3d	trcv_dtq	予約	予約	予約
-0x41	snd_pdq	psnd_pdq	ipsnd_pdq	tsnd_pdq
-0x45	rcv_pdq	prcv_pdq	trcv_pdq	予約
-0x49	snd_mbx	rcv_mbx	prcv_mbx	trcv_mbx
-0x4d	loc_mtx	ploc_mtx	tloc_mtx	unl_mtx
-0x51	snd_mbf	psnd_mbf	tsnd_mbf	rcv_mbf
-0x55	prcv_mbf	trcv_mbf	予約	予約
-0x59	get_mpf	pget_mpf	tget_mpf	rel_mpf
-0x5d	get_tim	get_utm	予約	ref_ovr
-0x61	sta_cyc	stp_cyc	予約	予約
-0x65	sta_alm	ista_alm	stp_alm	istp_alm

-0x69	sta_ovr	ista_ovr	stp_ovr	istp_ovr
-0x6d	sac_sys	ref_sys	rot_rdq	irot_rdq
-0x71	get_did	予約	get_tid	iget_tid
-0x75	loc_cpu	iloc_cpu	unl_cpu	iunl_cpu
-0x79	dis_dsp	ena_dsp	sns_ctx	sns_loc
-0x7d	sns_dsp	sns_dpn	sns_ker	ext_ker
-0x81	att_mem	det_mem	sac_mem	prb_mem
-0x85	ref_mem	予約	att_pma	予約
-0x89	cfg_int	dis_int	ena_int	ref_int
-0x8d	chg_ipm	get_ipm	予約	予約
-0x91	xsns_dpn	xsns_xpn	予約	予約
-0x95	ref_cfg	ref_ver	予約	予約
-0x99	予約	予約	予約	予約
-0x9d	予約	予約	予約	予約
-0xa1	予約	ini_sem	ini_flg	ini_dtq
-0xa5	ini_pdq	ini_mbx	ini_mtx	ini_mbf
-0xa9	ini_mpf	予約	予約	予約
-0xad	予約	予約	予約	予約
-0xb1	ref_tsk	ref_sem	ref_flg	ref_dtq
-0xb5	ref_pdq	ref_mbx	ref_mtx	ref_mbf
-0xb9	ref_mpf	ref_cyc	ref_alm	ref_isr
-0xbd	ref_spn	予約	予約	予約
-0xc1	acre_tsk	acre_sem	acre_flg	acre_dtq
-0xc5	acre_pdq	acre_mbx	acre_mtx	acre_mbf
-0xc9	acre_mpf	acre_cyc	acre_alm	acre_isr
-0xcd	acre_spn	予約	予約	予約
-0xd1	del_tsk	del_sem	del_flg	del_dtq
-0xd5	del_pdq	del_mbx	del_mtx	del_mbf
-0xd9	del_mpf	del_cyc	del_alm	del_isr
-0xdd	del_spn	予約	予約	予約
-0xe1	sac_tsk	sac_sem	sac_flg	sac_dtq
-0xe5	sac_pdq	予約	sac_mtx	sac_mbf
-0xe9	sac_mpf	sac_cyc	sac_alm	sac_isr
-0xed	sac_spn	予約	予約	予約
-0xf1	def_tex	def_ovr	def_inh	def_exc
-0xf5	def_svc	予約	予約	予約
-0xf9	予約	予約	予約	予約
-0xfd	予約	予約	予約	予約
-0x101	mact_tsk	imact_tsk	mig_tsk	予約
-0x105	msta_cyc	予約	msta_alm	imsta_alm
-0x109	mrot_rdq	imrot_rdq	get_pid	iget_pid
-0x10d	予約	予約	予約	予約
-0x111	loc_spn	iloc_spn	try_spn	itry_spn
-0x115	unl_spn	iunl_spn	予約	予約
-0x119	予約	予約	予約	予約
-0x11d	予約	予約	予約	予約

【μITRON4.0仕様との関係】

サービスコールの機能コードを割り当てなおした.

5.8 カーネルオブジェクトに対するアクセスの種別

オブジェクトの種類	通常操作1	通常操作2	管理操作	参照操作
メモリオブジェクト	書込み	読出し	det_mem	ref_mem
		実行	sac_mem	prb_mem
タスク	act_tsk	ter_tsk	del_tsk	get_pri
	mact_tsk	chg_pri	sac_tsk	ref_tsk
	can_act	rel_wai	def_tex	ref_tex
	mig_tsk	sus_tsk		ref_ovr
	wup_tsk	rsm_tsk		
	can_wup	dis_wai		
		ena_wai		
		ras_tex		
		sta_ovr		
		stp_ovr		
セマフォ	sig_sem	wai_sem	del_sem	ref_sem
		pol_sem	ini_sem	
		twai_sem	sac_sem	
イベントフラグ	set_flg	wai_flg	del_flg	ref_flg
	clr_flg	pol_flg	ini_flg	
		twai_flg	sac_flg	
データキュー	snd_dtq	rcv_dtq	del_dtq	ref_dtq
	psnd_dtq	prcv_dtq	ini_dtq	
	tsnd_dtq	trcv_dtq	sac_dtq	
	fsnd_dtq			
優先度データキュー	snd_pdq	rcv_pdq	del_pdq	ref_pdq
	psnd_pdq	prcv_pdq	ini_pdq	
	tsnd_pdq	trcv_pdq	sac_pdq	
ミューテックス	loc_mtx	-	del_mtx	ref_mtx
	ploc_mtx		ini_mtx	
	tloc_mtx		sac_mtx	
スピンロック	loc_spn	-	del_spn	ref_spn
	try_spn		sac_spn	
	unl_spn			
固定長メモリプール	get_mpf	rel_mpf	del_mpf	ref_mpf
	pget_mpf		ini_mpf	
	tget_mpf		sac_mpf	

周期ハンドラ	sta_cyc	stp_cyc	del_cyc	ref_cyc
	msta_cyc		sac_cyc	
アラームハンドラ	sta_alm	stp_alm	del_alm	ref_alm
	msta_alm		sac_alm	
割込みサービスルーチン	-	-	del_isr	ref_isr
			sac_isr	
システム状態	rot_rdq	loc_cpu	acre_yyy	get_tim
	mrot_rdq	unl_cpu	att_mem	get_ipm
	dis_dsp	dis_int	att_pma	ref_sys
	ena_dsp	ena_int	cfg_int	ref_int
		chg_ipm	def_inh	ref_cfg
			def_exc	ref_ver
			def_svc	
			def_ovr	

すべての保護ドメインから呼び出すことができるサービスコール：

- 自タスクへの操作（ext_tsk，get_inf，slp_tsk，tslp_tsk，dly_tsk，dis_tex，ena_tex）
- タスク例外状態参照（sns_tex）
- 性能評価用システム時刻の参照（get_utm）
- システム状態参照（get_tid，get_did，get_pid，sns_ctx，sns_loc，sns_dsp，sns_dpn，sns_ker）
- CPU例外発生時の状態参照（xsns_dpn，xsns_xpn）
- 拡張サービスコールの呼出し（cal_svc）

カーネルドメインのみから呼び出すことができるサービスコール：

- システム状態のアクセス許可ベクタの設定（sac_sys）
- カーネルの終了（ext_ker）
- 非タスクコンテキスト専用のサービスコール

アクセス許可ベクタによるアクセス保護を行わないサービスコール：

- ミューテックスのロック解除（unl_mtx）

【補足説明】

xsns_dpnとxsns_xpnは，エラーコードを返さないために，すべての保護ドメインから呼び出すことができるサービスコールとしているが，タスクコンテキストから呼び出した場合には必ずtrueが返ることとしており，実質的にはカーネルドメインのみから呼び出すことができる．

unl_mtxは，アクセス許可ベクタによるアクセス保護を行わないサービスコールとしているが，ミューテックスをロックしたタスク以外が呼び出すとE_ILUSEエラーとなるため，実質的には対象ミューテックスの通常操作1としてアクセス保

護されているとみなすことができる（ミューテックスのロック中にアクセス許可ベクタを変更した場合の振舞いは異なる）．

【μITRON4.0/PX仕様との関係】

get_priは，μITRON4.0/PX仕様ではタスクに対する通常操作1としていたのを，タスクに対する参照操作に変更した．また，get_ipm（μITRON4.0/PX仕様ではget_ixx）をシステム状態に対する通常操作2から参照操作に，sac_sysをシステム状態に対する管理操作からカーネルドメインのみから呼び出すことができるサービスコールに変更した．システム時刻に対するアクセス許可ベクタは廃止し，get_timはシステム状態に対する参照操作とした．

5.9 省略名の元になった英語

5.9.1 サービスコールと静的APIの名称の中のxxxの元になった英語

xxx	元になった英語
act	activate
aid	automatically assigned ID
ata	attach with access control vector
att	attach
cal	call
can	cancel
cfg	configure
chg	change
clr	clear
cre	create
def	define
del	delete
det	detach
dis	disable
dly	delay
ena	enable
epr	execution priority
ext	exit
get	get
ini	initialize
lnk	link
loc	lock
mig	migrate
pol	poll
prb	probe
ras	raise
rcv	receive
ref	reference
rel	release
rot	rotate
rsm	resume
sac	set access control vector

set	set
sig	signal
slp	sleep
snd	send
sns	sense
sta	start
stp	stop
sus	suspend
ter	terminate
try	try
unl	unlock
wai	wait
wup	wake up

5.9.2 サービスコールと静的APIの名称の中のyyyの元になった英語

yyy	元になった英語
act	activation
alm	alarm handler
cfg	configuration
cpu	CPU
ctx	context
cyc	cyclic handler
did	domain ID
dpn	dispatch pending
dsp	dispatch
dtq	data queue
exc	exception
flg	eventflag
ics	interrupt context stack
inf	information
inh	interrupt handler
ini	initilization
int	interrupt
ipm	interrupt priority mask
isr	interrupt service routine
ker	kernel
loc	lock
mbf	message buffer
mbx	mailbox
mpf	fixed-sized memory pool
mem	memory
mod	module
mtx	mutex
ovr	overrun handler
pdq	priority data queue
pid	processor ID
pma	physical memory area
pri	priority

rdq	ready queue
reg	region
sec	section
sem	semaphore
spn	spin lock
stk	stack
sys	system
svc	service call
ter	termination
tex	task exception
tid	task ID
tim	time
tsk	task
utm	time in micro second
ver	version
wai	wait
wup	wake up
xpn	exception pending

5.9.3 サービスコールの名称の中のzの元になった英語

z	元になった英語
a	automatic ID assignment
f	force
i	interrupt
m	multiprocessor
p	poll
t	timeout
x	exception

5.10 バージョン履歴

2008年11月19日	Release 1.0.0	最初のリリース
2009年5月8日	Release 1.1.0	FMPカーネルに関する記述が完成
2010年5月10日	Release 1.2.0	
2011年5月5日	Release 1.3.0	HRP2カーネルに関する記述が完成

以上

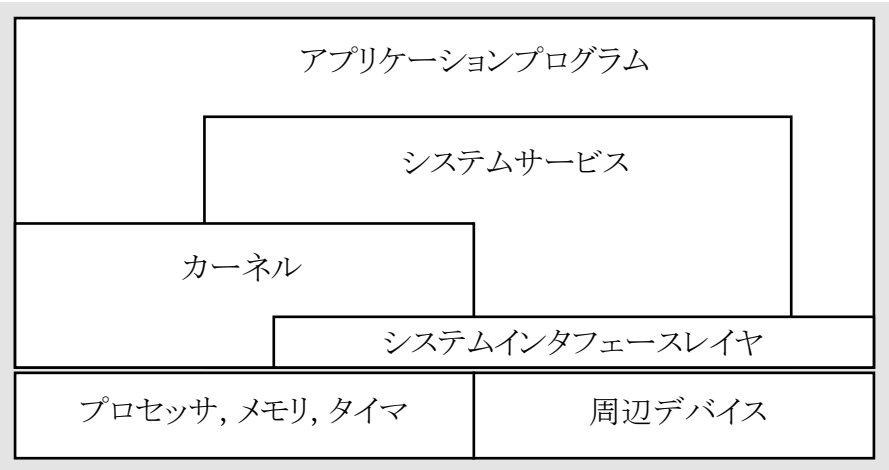


図2-1. 想定するソフトウェア構成

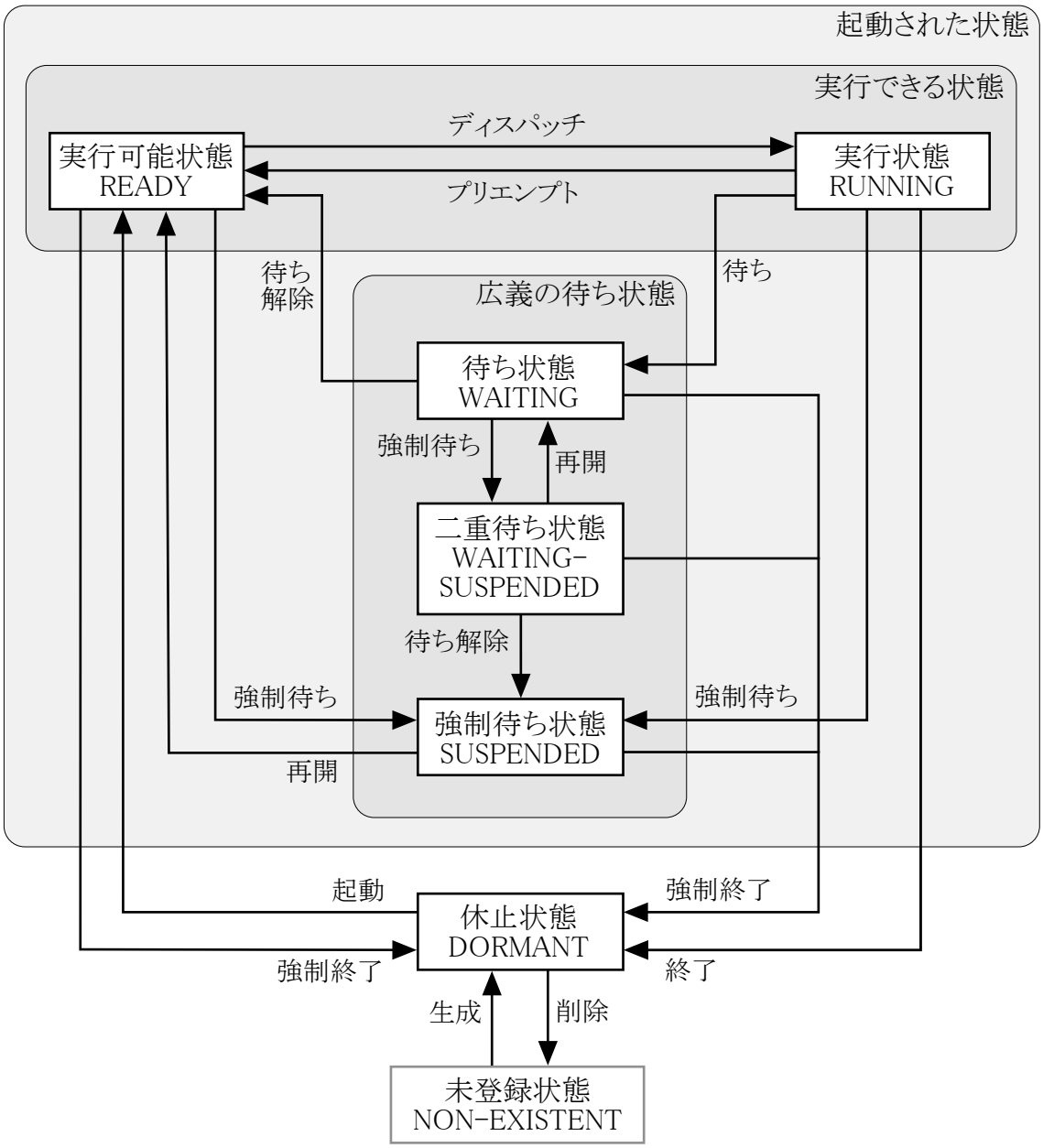


図2-2. タスクの状態遷移

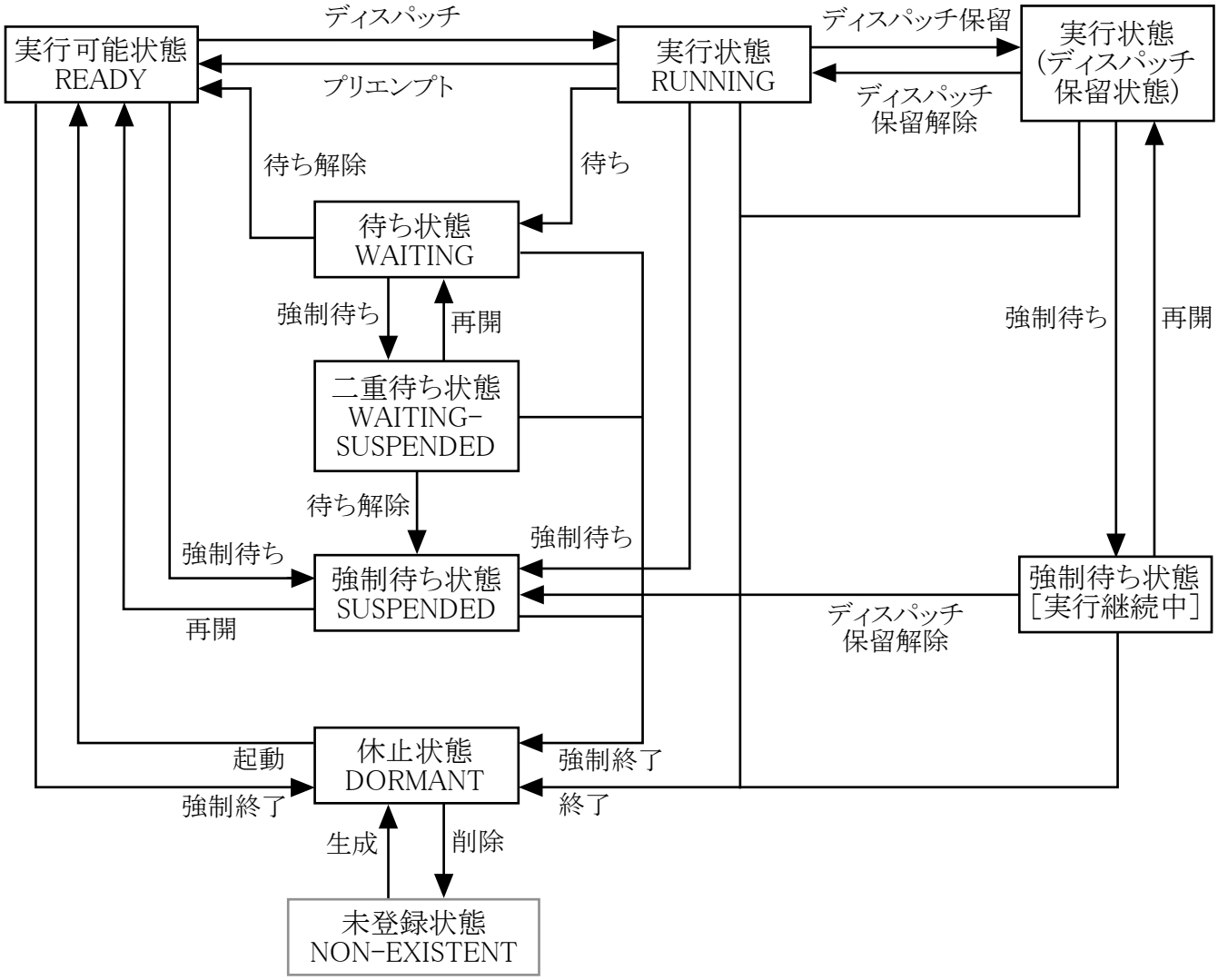


図2-3. 過渡的な状態も含めたタスクの状態遷移

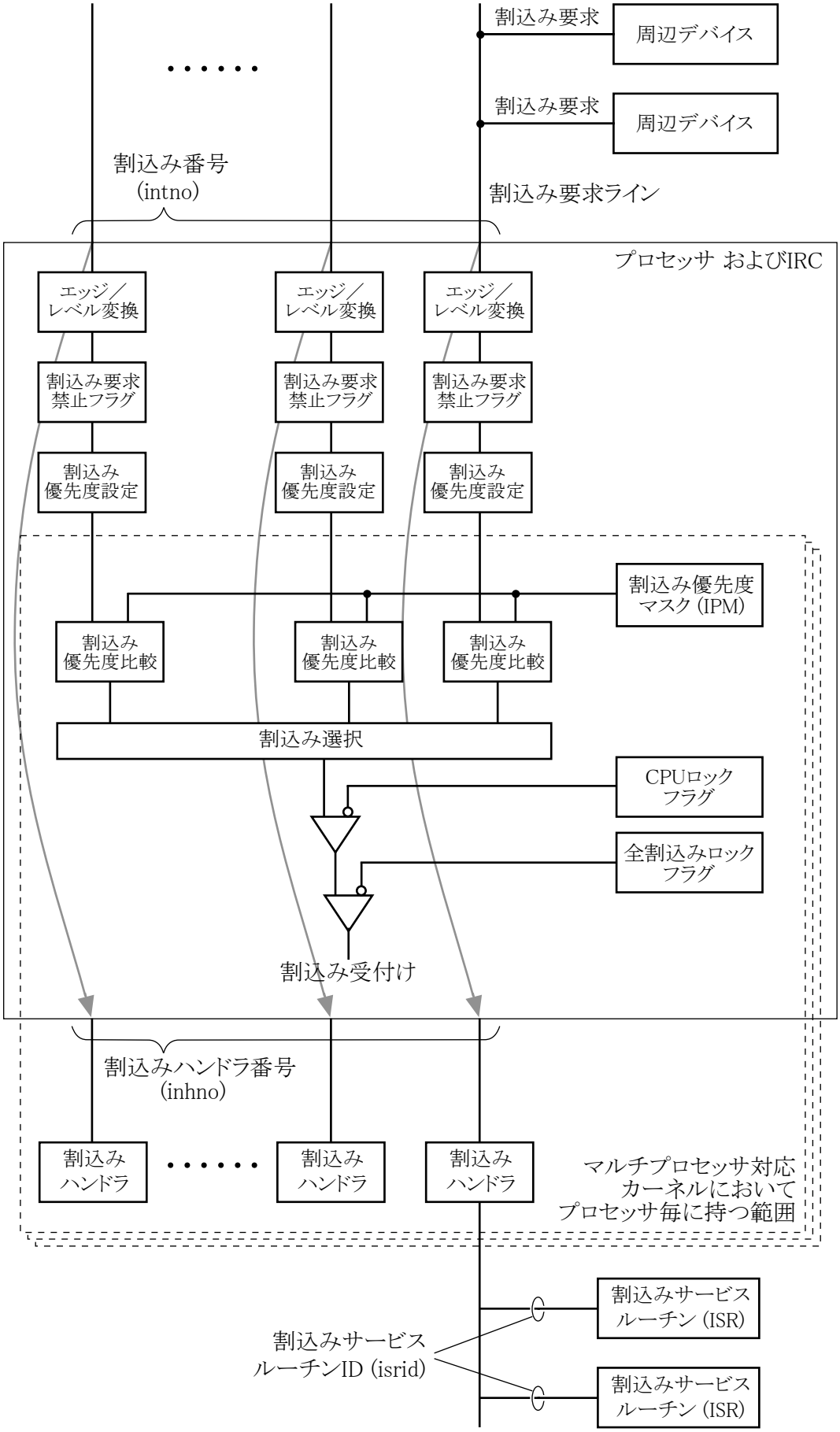


図2-4. TOPPERS標準割込み処理モデルの概念図

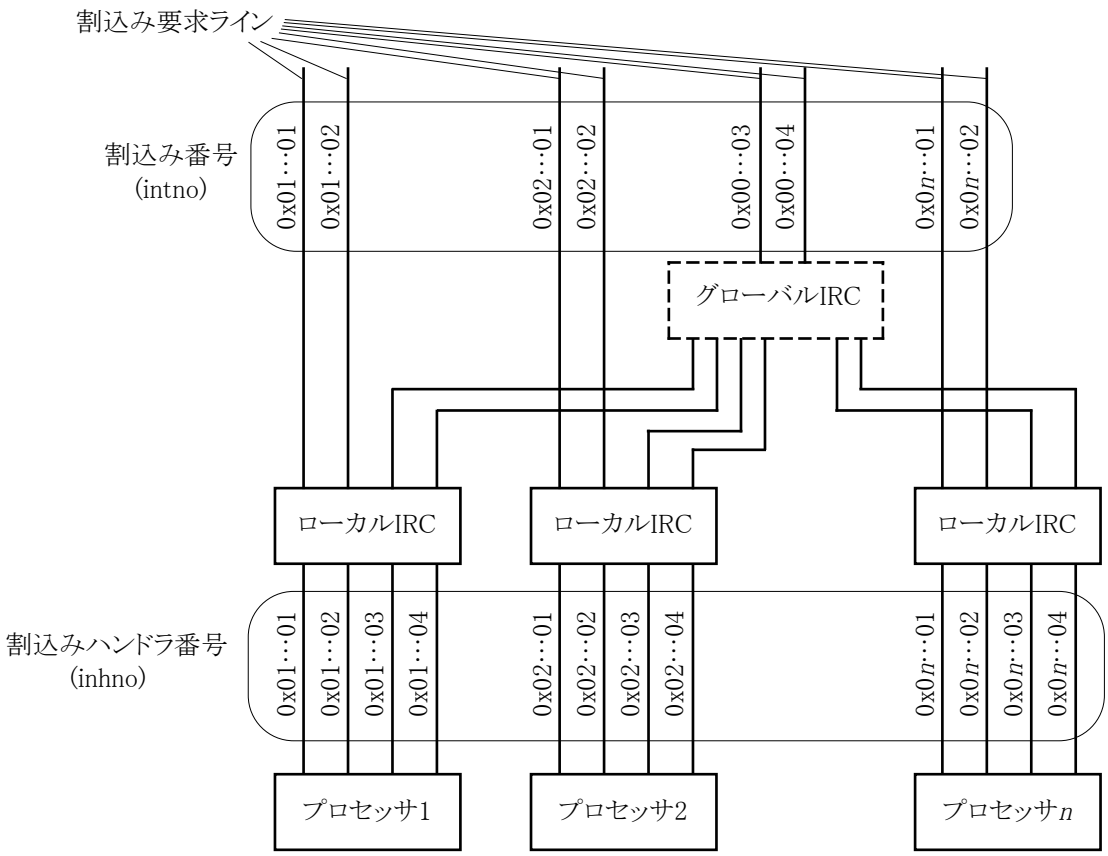


図2-5. マルチプロセッサ対応カーネルにおける割込み番号と割込みハンドラ番号

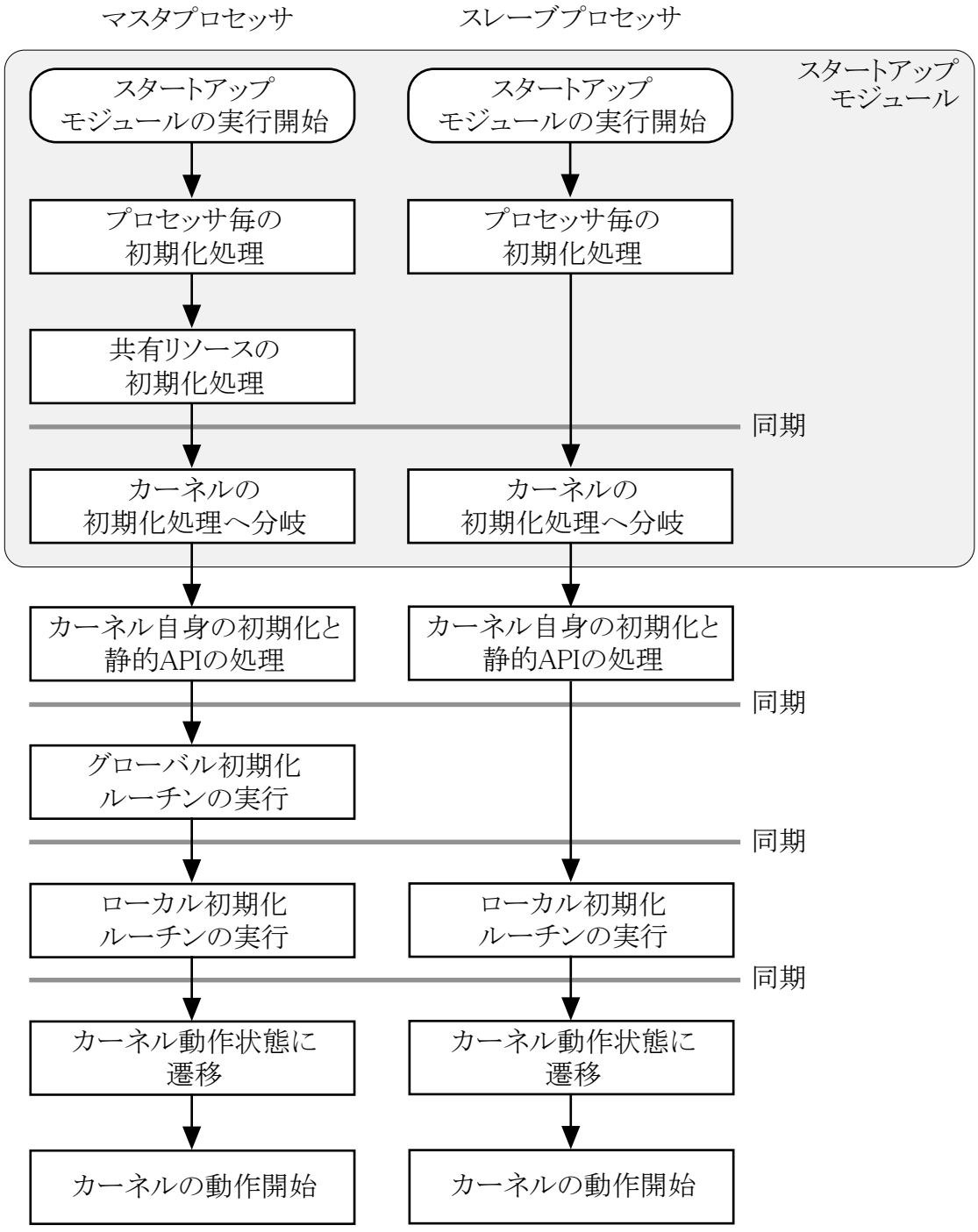


図2-6. マルチプロセッサ対応カーネルにおけるシステム初期化の流れ

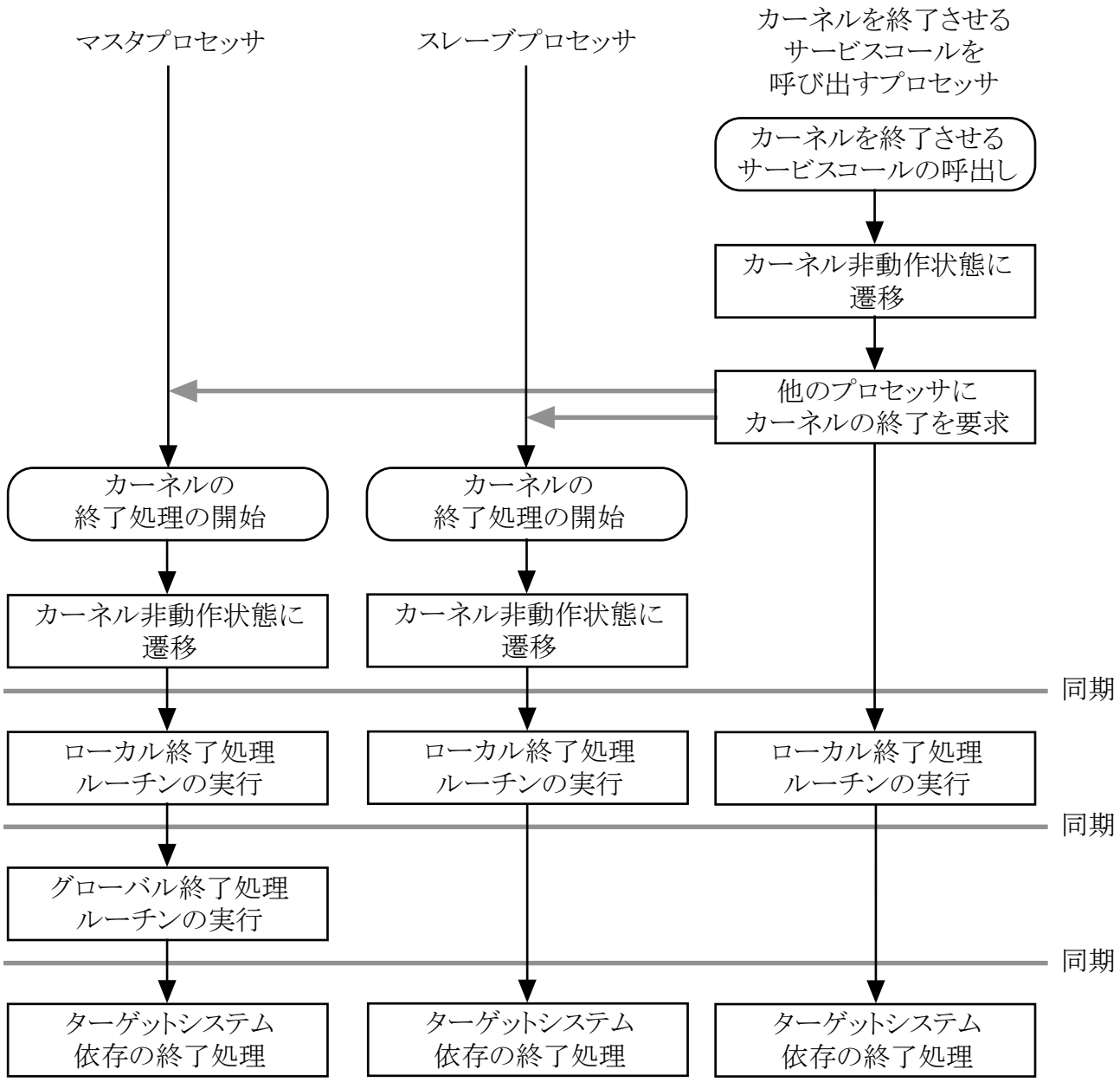


図2-7. マルチプロセッサ対応カーネルにおけるシステム終了処理の流れ

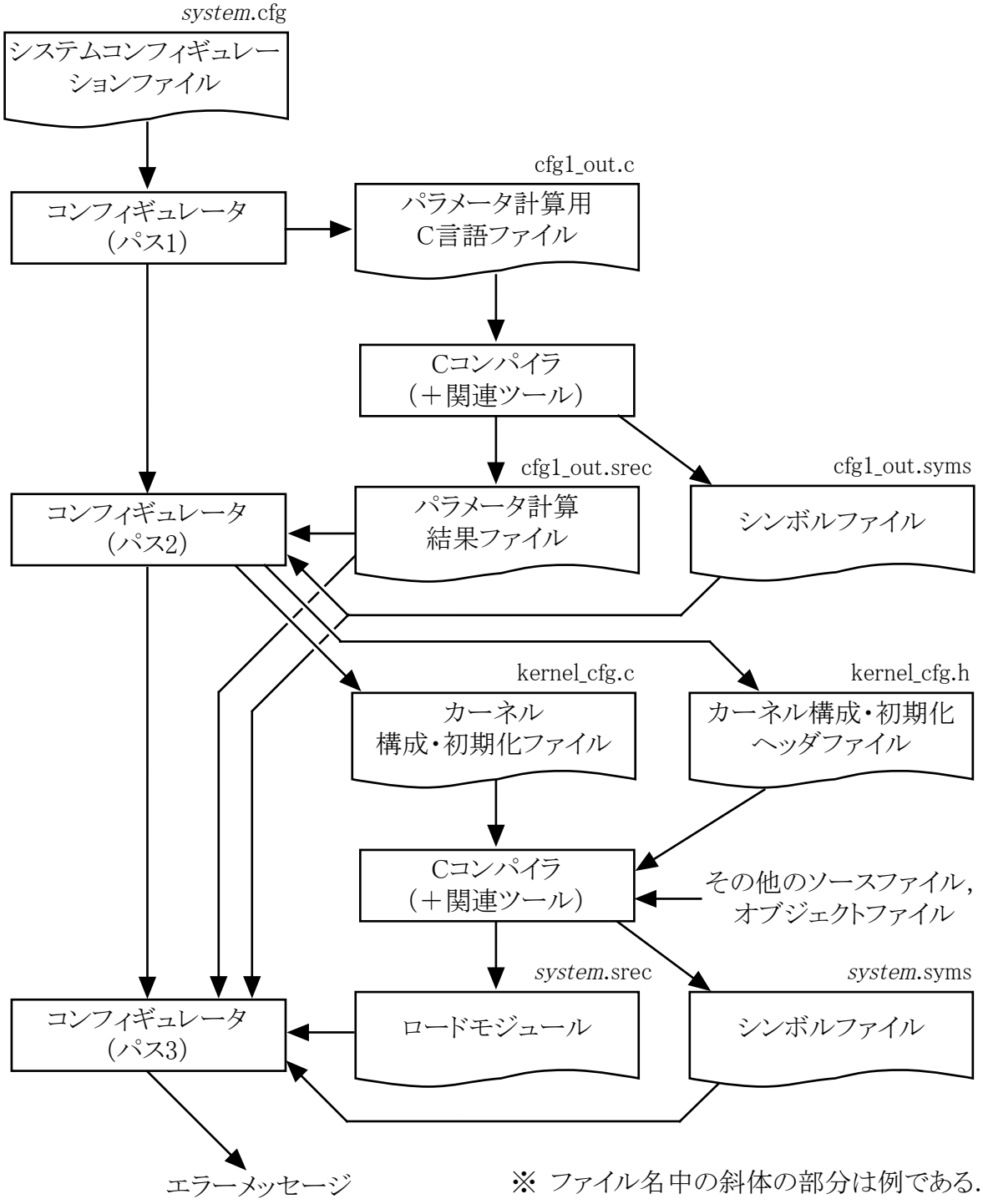
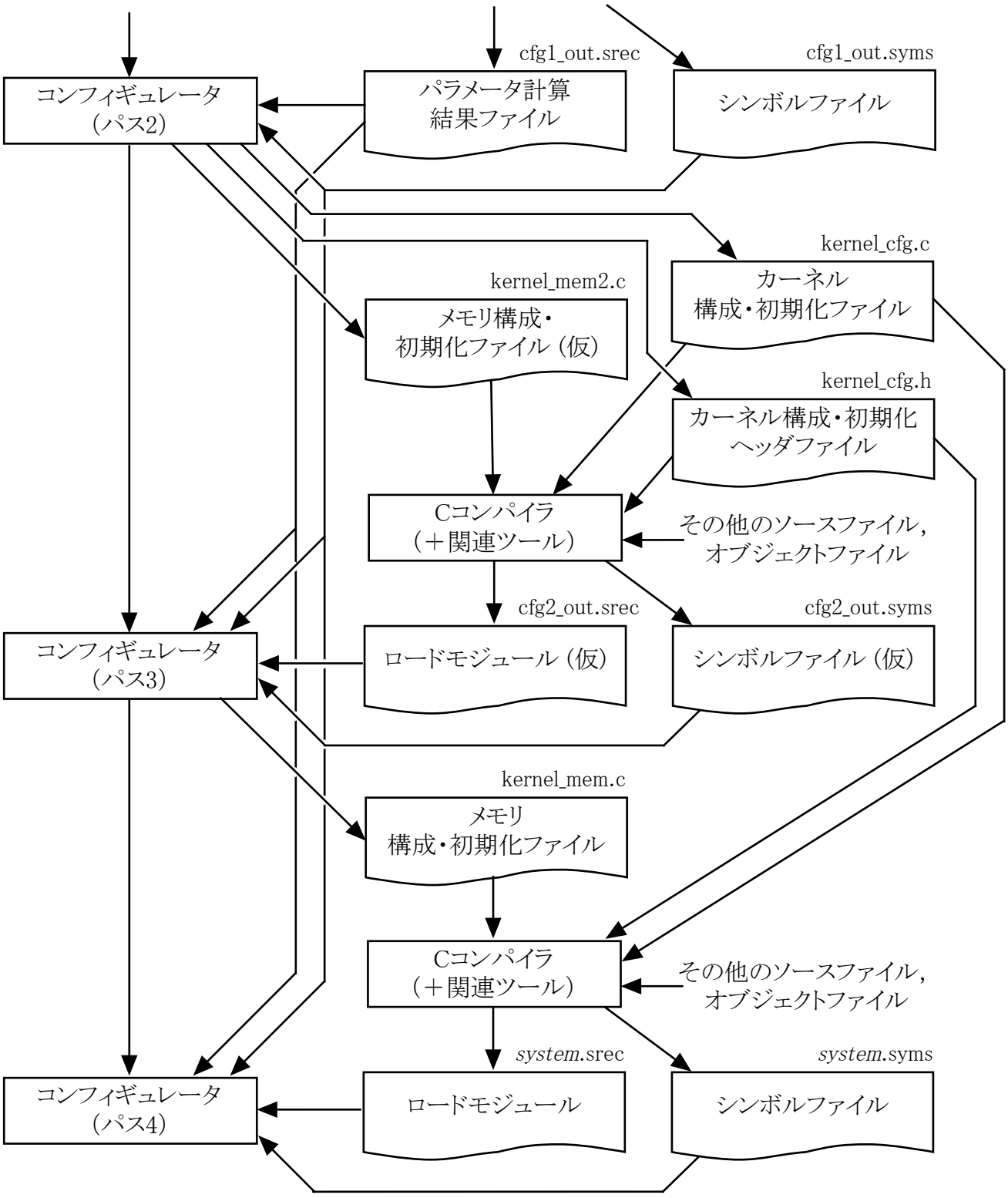


図2-8. コンフィギュレータの処理モデル



※ ファイル名中の斜体の部分は例である.

図2-9. 最終的なロードモジュールのパス3での生成